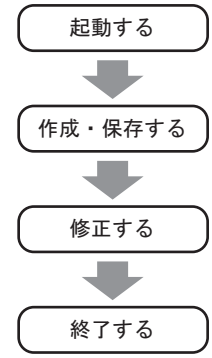
5 起動から終了まで

この章では、GP-Pro EX の「起動から終了まで」についての基本的な説明と、プロジェクトファイルのバックアップなどのファイル管理やアドレス一括変換などの基本操作について説明します。
まず「5.1 設定メニュー」（5-2 ページ）をお読みいただき、目的に合った説明ページへ読み進んでください。

5.1 **設定メニュー** 5-2
5.2 **起動・作成・保存・終了したい** 5-8
5.3 **プロジェクトファイルをバックアップしたい** 5-21
5.4 **プロジェクトファイルや作成したデータにパスワードをかけたい** 5-25
5.5 **プロジェクト内で使用中のアドレスを一覧で確認したい** 5-36
5.6 **プロジェクトファイル内のアドレスを一括変換したい** 5-45
5.7 **プロジェクト情報を見たい** 5-49
5.8 **ほかのプロジェクトから画面をコピーしたい** 5-53
5.9 **アドレスをわかりやすい名前で登録したい** 5-57
5.10 **画面にヘッダー / フッターを付けたい** 5-66
5.11 **画面番号 / タイトル / 画面の色を変更したい** 5-72
5.12 **画面をコピー / 削除したい** 5-75
5.13 **部品のアドレスや銘板、コメントなどを検索 / 置換したい** 5-79
5.14 **部品の属性をまとめて変更したい** 5-83
5.15 **部品形状をまとめて変更したい** 5-89
5.16 **配置した部品や図形を既定値に設定したい** 5-92
5.17 **設定ガイド** 5-95
5.18 **制限事項** 5-200

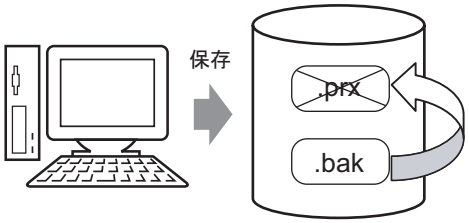
5.1 設定メニュー

起動・作成・保存・終了したい



☞ 設定手順（5-9 ページ）
☞ 詳細（5-8 ページ）

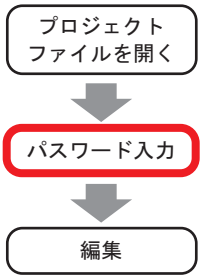
プロジェクトファイルをバックアップしたい



prx ファイルが壊れた場合、bak ファイルを使用できます。

☞ 設定手順（5-22 ページ）
☞ 詳細（5-21 ページ）

プロジェクトファイルや作成したデータにパスワードをかけたい



パスワードを入力しないとプロジェクトファイルが編集できないようにします。

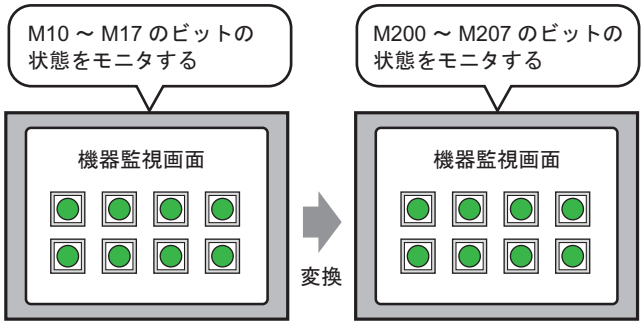
☞ 設定手順（5-26 ページ）
☞ 詳細（5-25 ページ）

プロジェクト内で使用中のアドレスを一覧で確認したい

プロジェクトファイルで設定しているアドレスをマップ方式またはリスト方式で確認できます。

☞ 設定手順（5-37 ページ）
☞ 詳細（5-36 ページ）

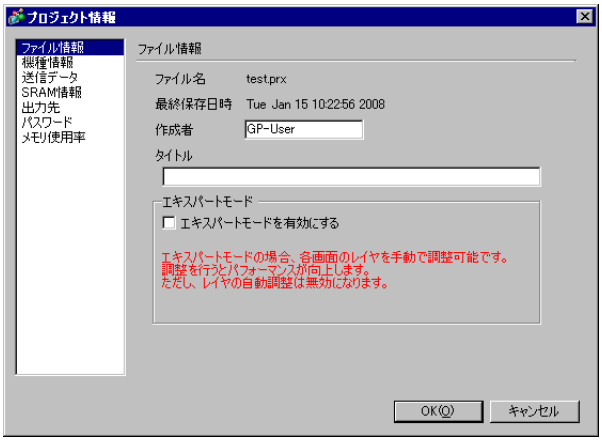
プロジェクトファイル内のアドレスを一括変換したい



変換前の先頭 / 終了アドレスと、変換後の先頭アドレスを指定することで、アドレスを置き換えることができます。

☞ 設定手順（5-46 ページ）
☞ 詳細（5-45 ページ）

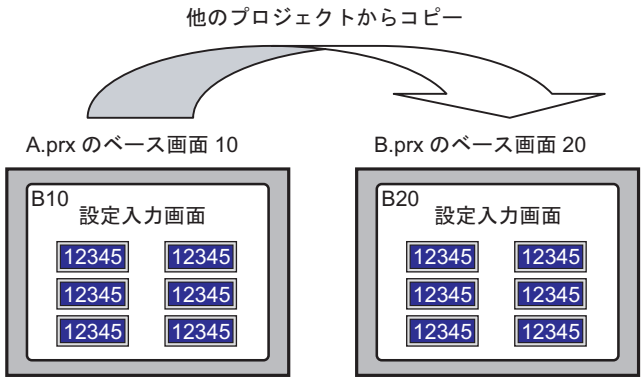
プロジェクト情報を見たい



ファイル・機種・送信データ・SRAM・メモリ使用率の各情報を確認できます。

☞ 設定手順（5-50 ページ）
☞ 詳細（5-49 ページ）

ほかのプロジェクトから画面をコピーしたい

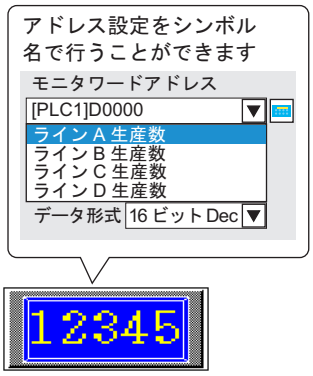


☞ 設定手順（5-54 ページ）
☞ 詳細（5-53 ページ）

アドレスをわかりやすい名前で登録したい

各アドレスに名前を付けます

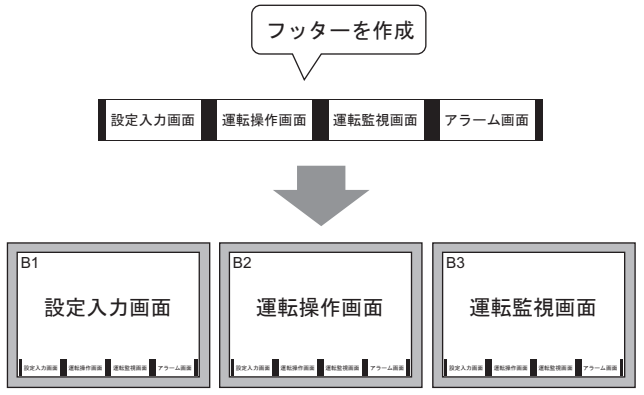
アドレス	シンボル名
D100	ライン A 生産数
D101	ライン B 生産数
D102	ライン C 生産数
D103	ライン D 生産数



シンボルとして登録すると、アドレスに自由な名前が付けられます。

☞ 設定手順（5-58 ページ）
☞ 詳細（5-57 ページ）

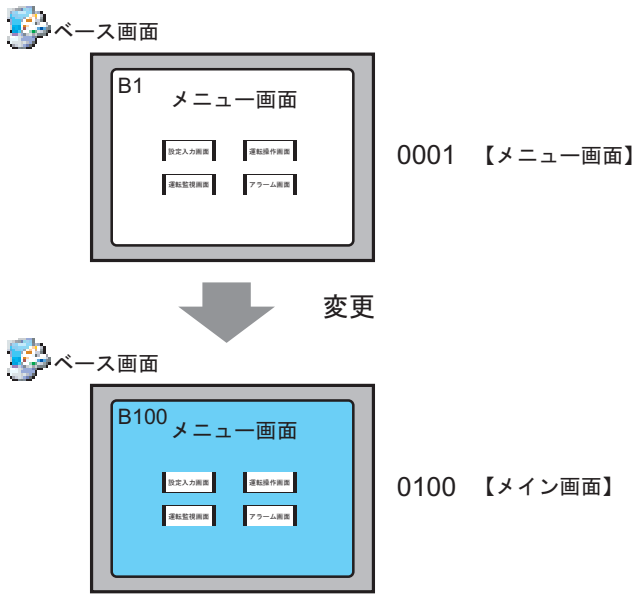
画面にヘッダー/フッターを付けたい



画面を切り替えても同じフッターを表示できます。

☞ 設定手順（5-67 ページ）
☞ 詳細（5-66 ページ）

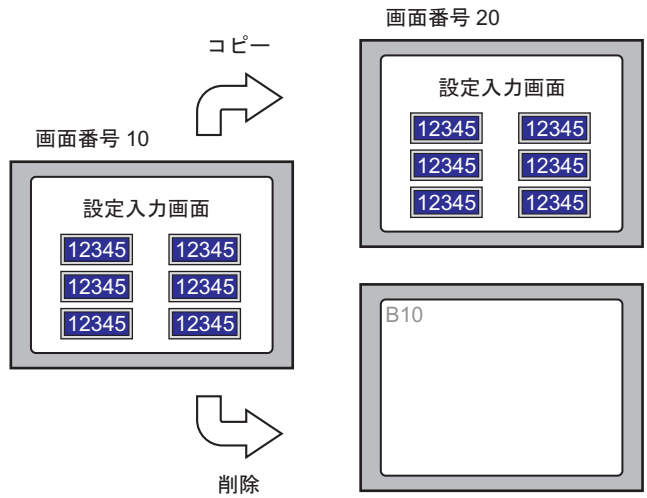
画面番号/タイトル/画面の色を変更したい



設定した画面番号とタイトル、画面の色を変更できます。

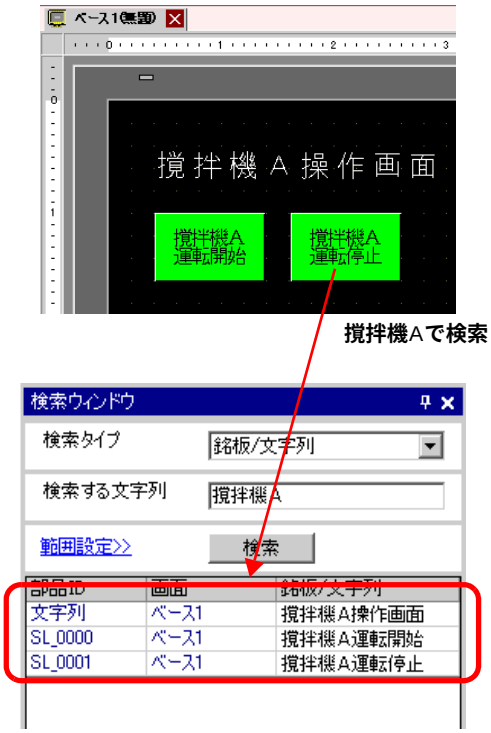
☞ 設定手順（5-73 ページ）
☞ 詳細（5-72 ページ）

画面をコピー/削除したい



☞ 設定手順（5-76 ページ）
☞ 詳細（5-75 ページ）

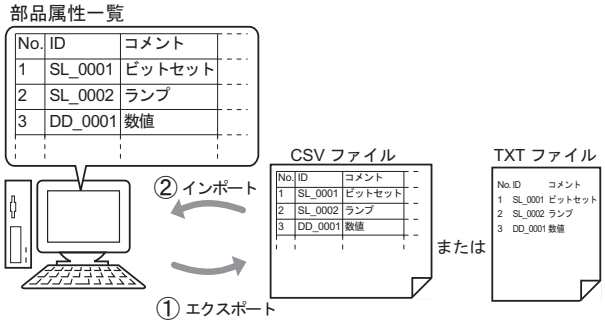
部品のアドレスや銘板、コメントなどを検索/置換したい



☞ 設定手順（5-80 ページ）
☞ 詳細（5-79 ページ）

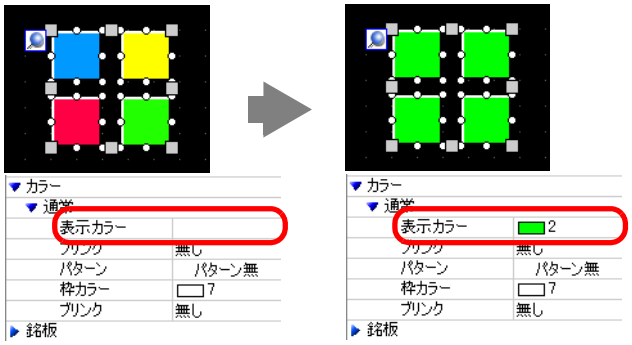
部品の属性をまとめて変更したい

部品の属性一覧をファイルに出力して属性を編集し、変更したデータを元のファイルにインポートします。



☞ 設定手順（5-84 ページ）
☞ 詳細（5-83 ページ）

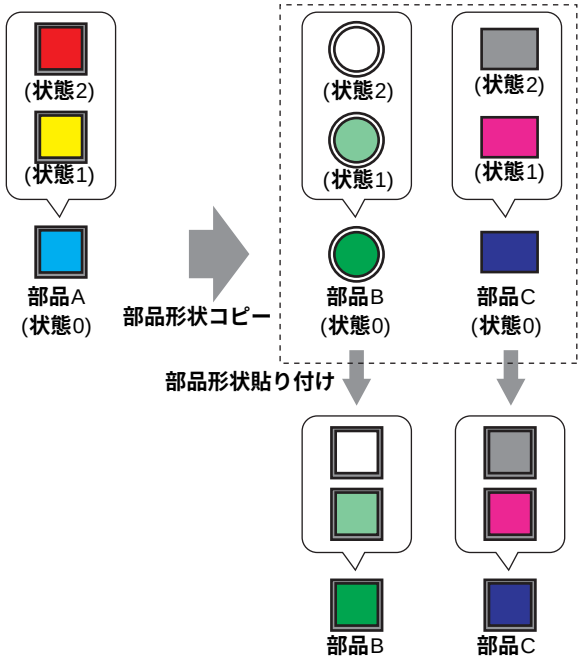
同じ種類の部品をまとめて選択し、属性を一括で変更します。



☞ 設定手順（5-87 ページ）
☞ 詳細（5-83 ページ）

部品形状をまとめて変更したい

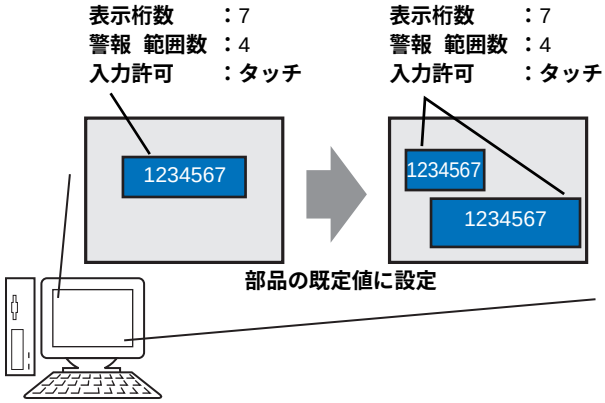
部品の各状態の形状を別の部品に一括でコピーします。



☞ 設定手順（5-90 ページ）
☞ 詳細（5-89 ページ）

配置した部品や図形を既定値に設定したい

配置した部品や図形の属性を既定値として設定しておくと、異なる画面でも部品や図形を配置したときに、同じ属性になります。

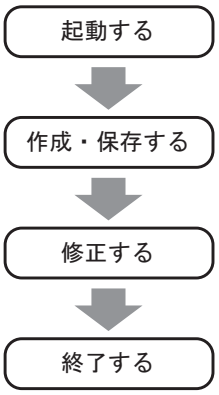


☞ 設定手順（5-93 ページ）
☞ 詳細（5-92 ページ）

5.2 起動・作成・保存・終了したい

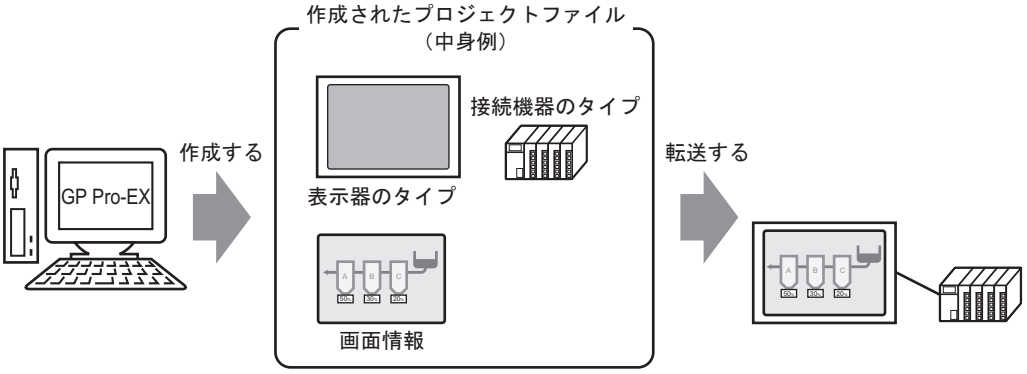
5.2.1 詳細

GP-Pro EX の起動から、プロジェクトファイルの作成・保存・編集の流れについてご説明します。



プロジェクトファイルとは

GP-Pro EX で作成したファイルのことを「プロジェクトファイル」と呼びます。
プロジェクトファイル（*.prx）は作成した画面などのデータのかたまりです。プロジェクトファイルを表示器に転送することで、表示器が接続機器と通信し表示や操作が行えます。



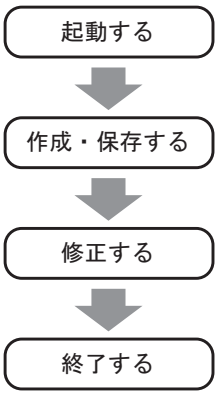
5.2.2 設定手順

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「5.17.2 [新規作成] の設定ガイド」（5-99 ページ）

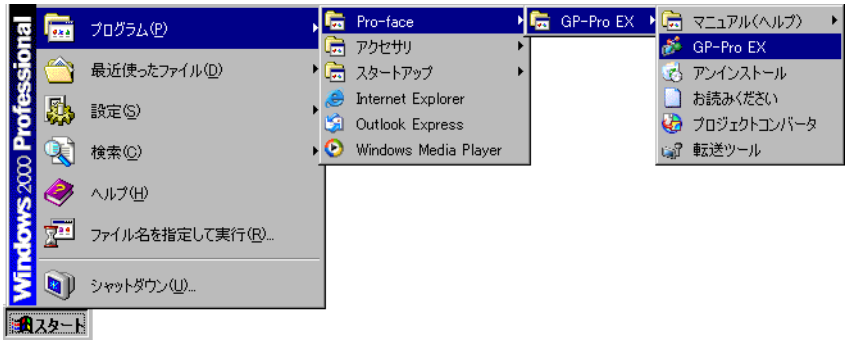
☞「5.17.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド」（5-142 ページ）



■ 起動する

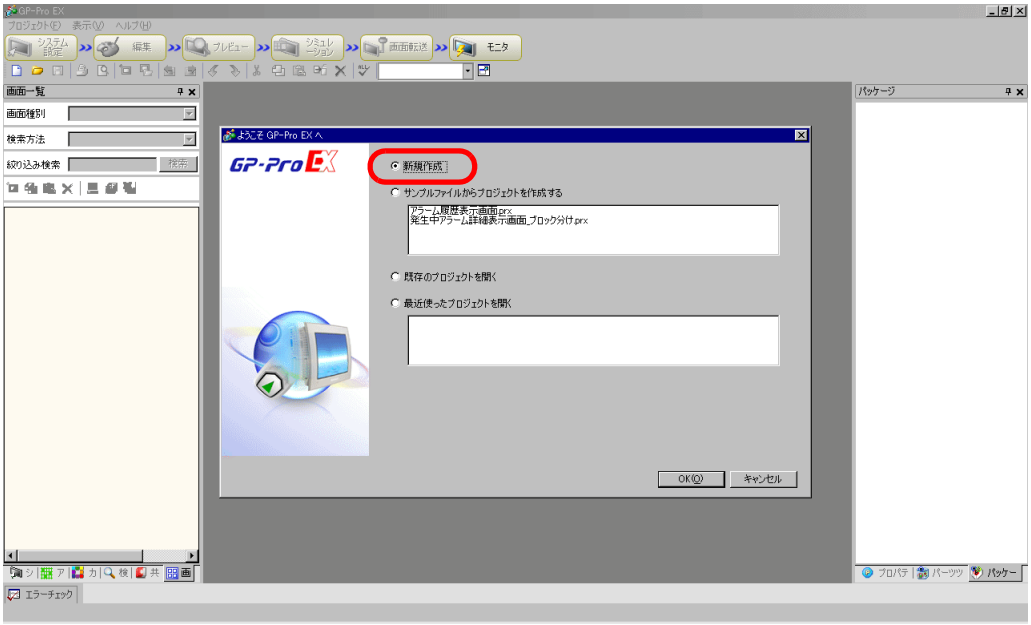
1 デスクトップ画面上のショートカット

をダブルクリックするか、[スタート] メニューから [プログラム (P)] ― [Pro-face] ― [GP-Pro EX *.**]（** にはバージョンが表示されます）の順に選択し、[GP-Pro EX] をクリックします。



2 GP-Pro EX が起動して、以下のような画面が表示されます。

3 メインウィンドウと [ようこそ GP-Pro EX へ] ダイアログボックスが表示されます。[新規作成] を選択し、[OK] をクリックします。

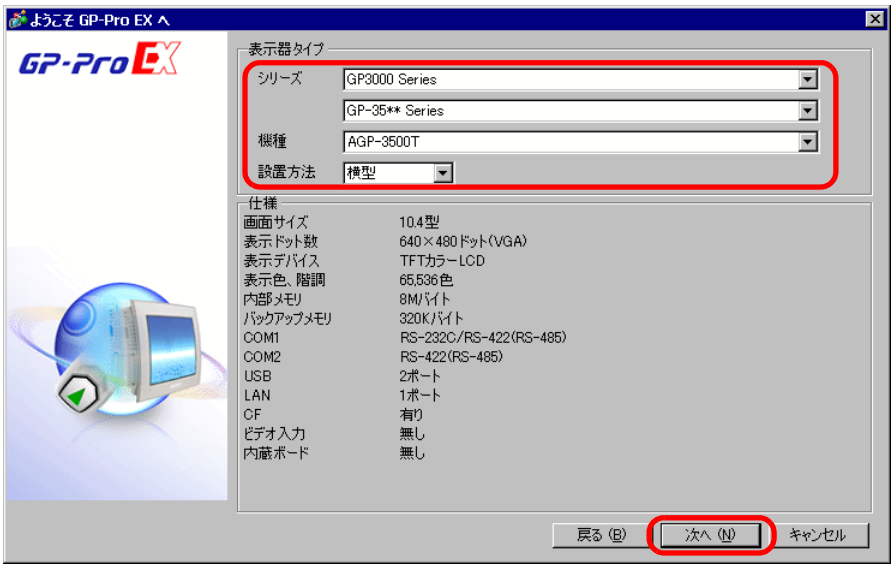


MEMO

- メインウィンドウの [プロジェクト (F)] メニューから [新規作成 (N)] を選択するか、 をクリックして新規プロジェクトファイルを作成することもできます。[プロジェクトファイルの新規作成] ダイアログボックスが表示されます。
- [サンプルファイルからプロジェクトを作成する] を選択して、[sample] フォルダに用意されたサンプルファイルを参考にプロジェクトファイルを作成することもできます。サンプルファイルは読み取り専用のファイルですが、[プロジェクト (F)] メニューから [名前を付けて保存 (A)] を選択し、保存することができます。

4 次の画面が表示されるので [シリーズ] から [GP3000 Series] を選択し、画面サイズのシリーズ、[機種]、[設置方法] を選択して [次へ] をクリックします。

☞「3.3 対応機種一覧」(3-6 ページ)



MEMO

- [仕様] には選択された表示器機種の詳細の仕様が表示されます。
- [GP2000 シリーズ] を選択した場合は GP-Pro EX を終了し、GP-PRO/PB III for Windows を起動します。ただし、GP-PRO/PB III for Windows がインストールされていない場合は起動しません。
- [IPC Series (PC/AT)] を選択した場合は [設置方法] の設定はありません。[画面サイズ] で画面データの表示サイズを指定します。

5 次の画面が表示されます。接続機器の [メーカー]、[シリーズ]、[ポート] を選択して、[通信設定] をクリックします。

MEMO

- 接続機器の通信設定を行わずに、画面を作成する場合は、[ベース画面作成] をクリックします。作画画面 [ベース 1] が表示されます。
  ロジックプログラムを作成する場合は、[ロジック画面作成] をクリックすると、ロジック作成画面 [MAIN] が表示されます。

  ☞「29 章　ロジックプログラムの作成」(29-1 ページ)

- [システムエリアを使用する] を設定すると、接続機器に GP 内部のシステムデータエリアを割り付けることができます。

  ☞「5.17.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ◆ システムエリア設定」(5-168 ページ)

6 [プロジェクトファイルの新規作成] ダイアログボックスが閉じ、メインウィンドウに [周辺機器一覧] が表示されます。[接続機器１] をクリックします。

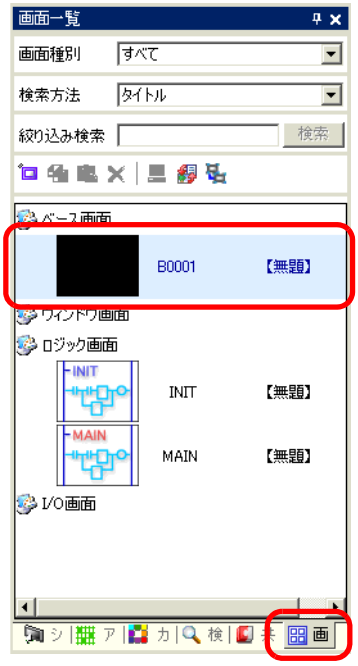
7 [接続機器設定] が表示されるので、通信設定を行います。

MEMO

- [通信設定] の設定内容は各接続機器シリーズにより異なります。ご使用になる接続機器の「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。
  ただし、[受信タイムアウト]、[リトライ]、[送信ウェイト] は初期設定の状態でご使用になることをおすすめします。

■ 作成・保存する

8 [画面一覧] ウィンドウを開き、表示されているベース画面をダブルクリックします。

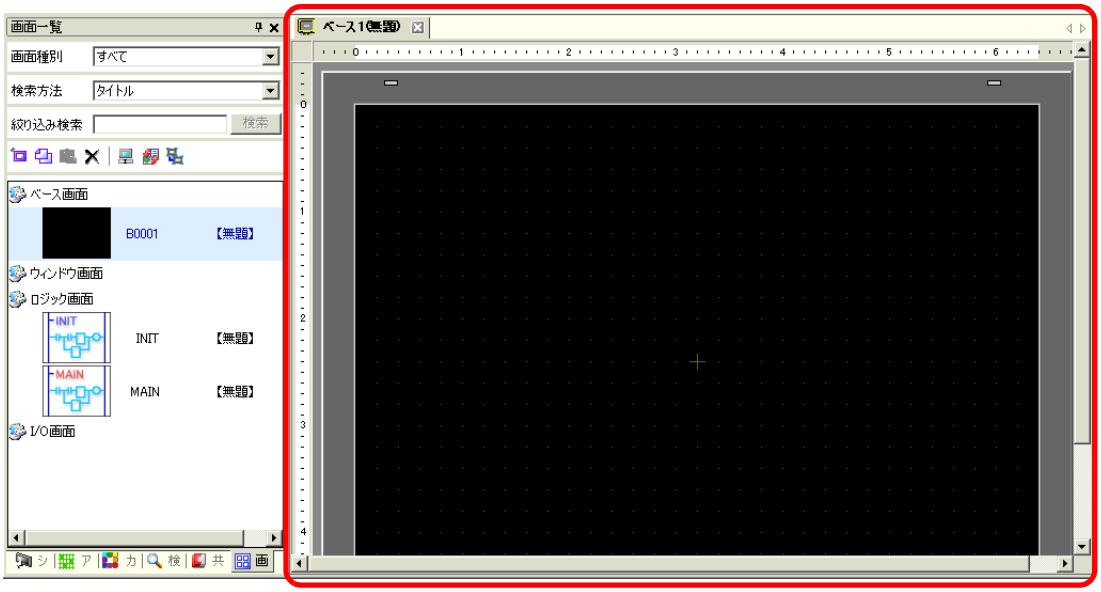


MEMO

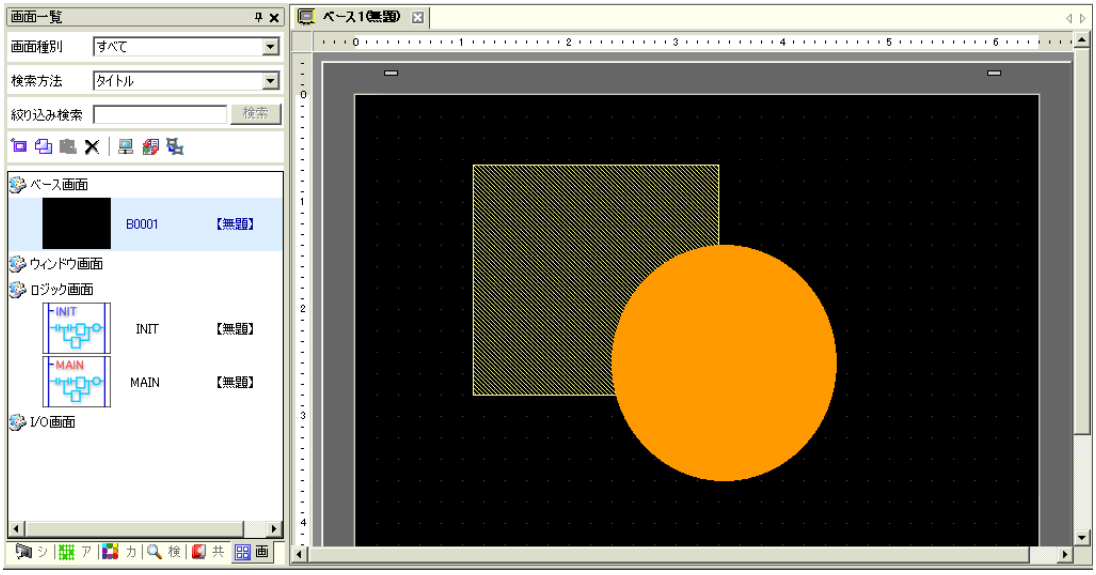
- ワークスペースに [画面一覧] タブが表示されていない場合は、[表示 (V)] メニューから [ワークスペース (W)] ー [画面一覧ウィンドウ (G)] を選択します。
- ロジックプログラムを作成する場合は、表示されているロジック画面をダブルクリックします。表示器タイプにロジック機能未対応機種を選択しているときは、ロジックプログラムの作成はできますが、表示器上では動作しません。

☞「29 章　ロジックプログラムの作成」(29-1 ページ)

9 次のような [ベース画面] が表示されます。

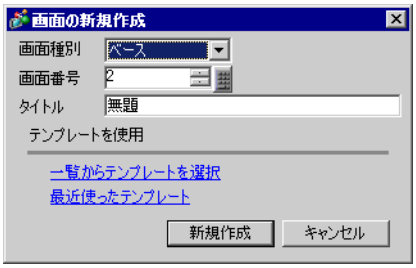


10 画面を作成します。

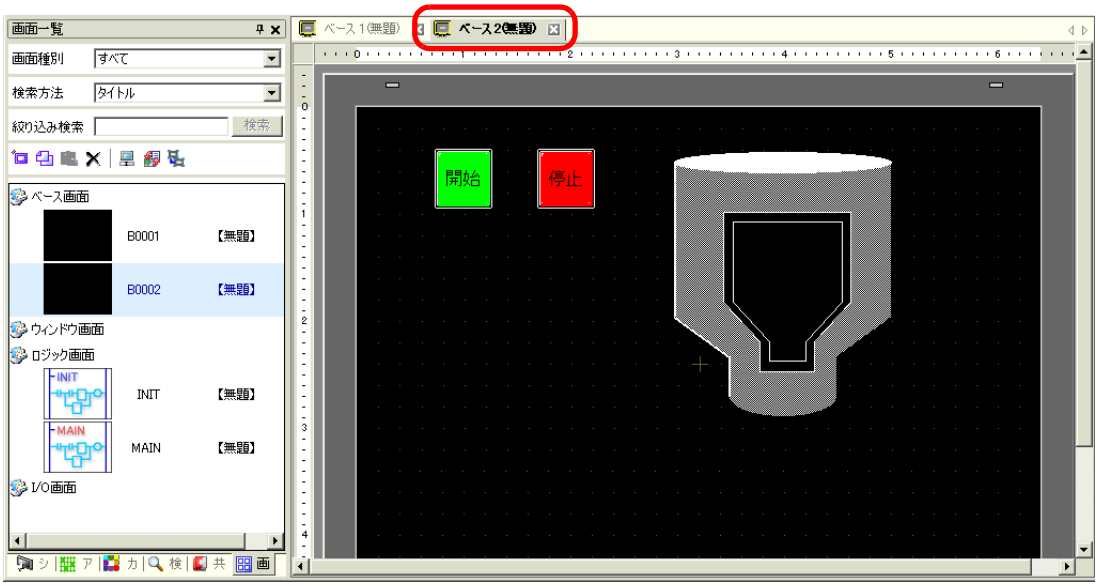


11 新しい画面を追加します。

[画面 (S)] メニューの [画面の新規作成 (N)] を選択するか、 をクリックすると、次のダイアログボックスが開きます。[画面種別] を選択し、[画面番号] と [タイトル] を設定して [新規作成] をクリックします。

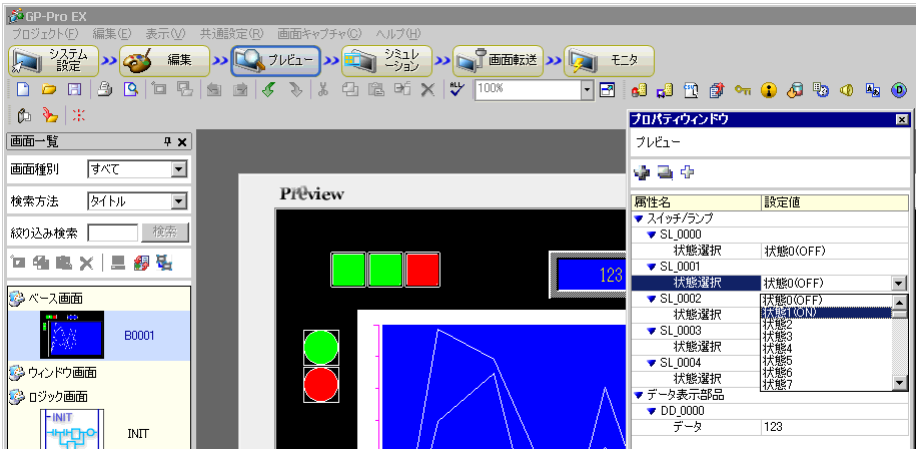


12 [ベース 2] の画面が表示されますので、画面を作成します。



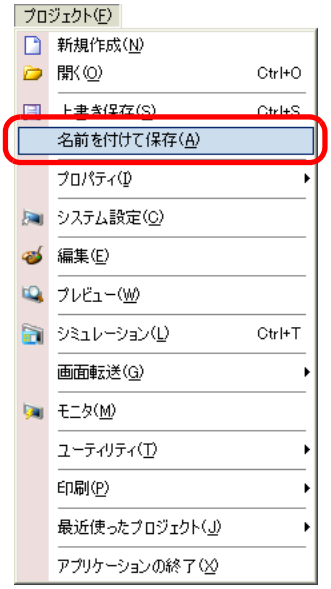
MEMO

- 状態バーの [プレビュー] アイコン プレビュー をクリックしてプレビュー画面に切り替えると、作画中でも本体での表示状態を確認できます。（本体機種に応じた色で表示されます。）プレビューできるのはベース画面とウィンドウ画面のみです。
[表示 (V)] メニューから [ワークスペース (W)] ー [プロパティウィンドウ (P)] を開き、ウィンドウ部品の表示 / 非表示を切り替えたり、スイッチランプの状態を個々に変更したり、データ表示器に仮の値を表示させるなどして、簡単な動作状態の確認もできます。

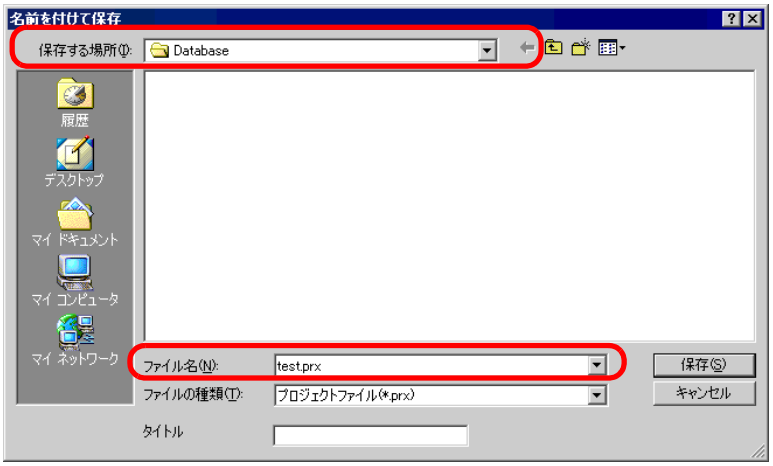


また、[画面キャプチャ (C)] メニューから [ファイルに出力 (F)] をクリックすると、現在表示しているプレビュー画面を JPEG ファイル形式で保存することができます。
表示確認後は状態バーの [編集] アイコン 編集 をクリックして編集画面に戻ってください。

13 [プロジェクト (F)] メニューから [名前を付けて保存 (A)] を選択します。



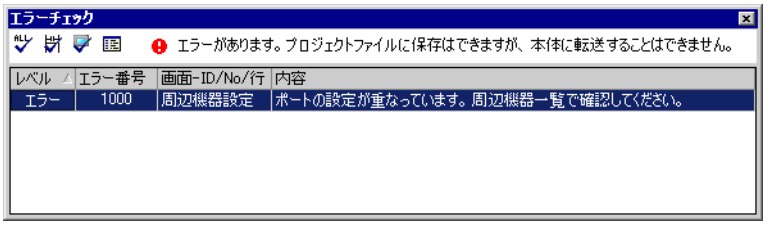
14 [名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。ファイルの保存場所とファイル名を設定し、[保存] をクリックします。



MEMO

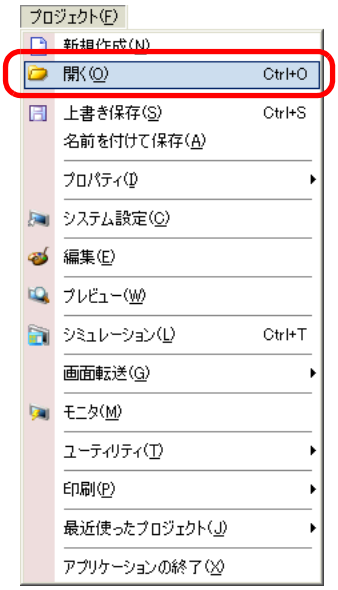
- ファイル名はパスと拡張子を含めて半角 255 文字以内で入力します。
  初期設定でのファイルの保存場所は \Program Files\Pro-face\GP-Pro EX\Database です。
- 保存すると問題がある場合のみ、[エラーチェック] ウィンドウに次のようなエラー内容が表示されます。

  ☞「33.9 エラーをチェックしたい」(33-54 ページ)



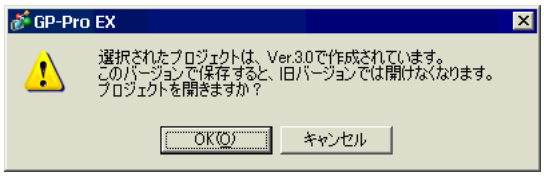
■ 修正する

15 [プロジェクト (F)] メニューから [開く (O)] を選択するか、 をクリックします。



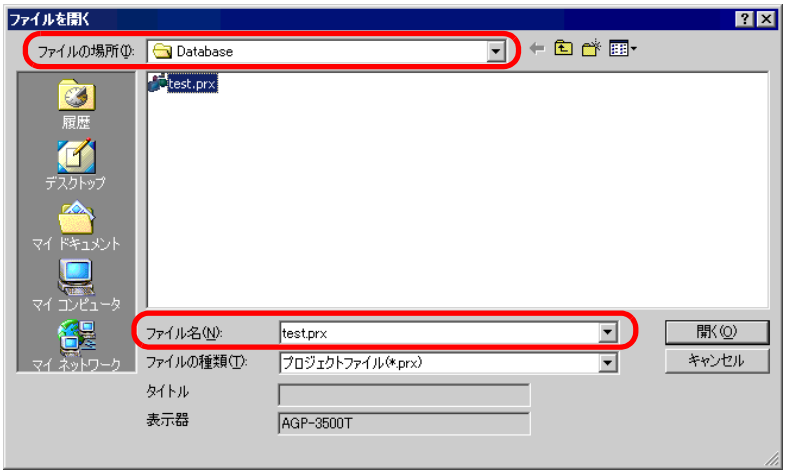
MEMO

- 以前のバージョンで作成したプロジェクトファイルを開こうとすると次の警告メッセージが表示されます。



- 一度 CD-ROM にコピーまたは移動したプロジェクトファイルは、読み取り専用ファイルとして開きます。上書き保存すると、[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されるので、ファイル名を入力して保存します。

16 [ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されるので、ファイルが保存されている場所を指定し、開きたいプロジェクトファイル（*.prx）を選択して [開く] をクリックします。

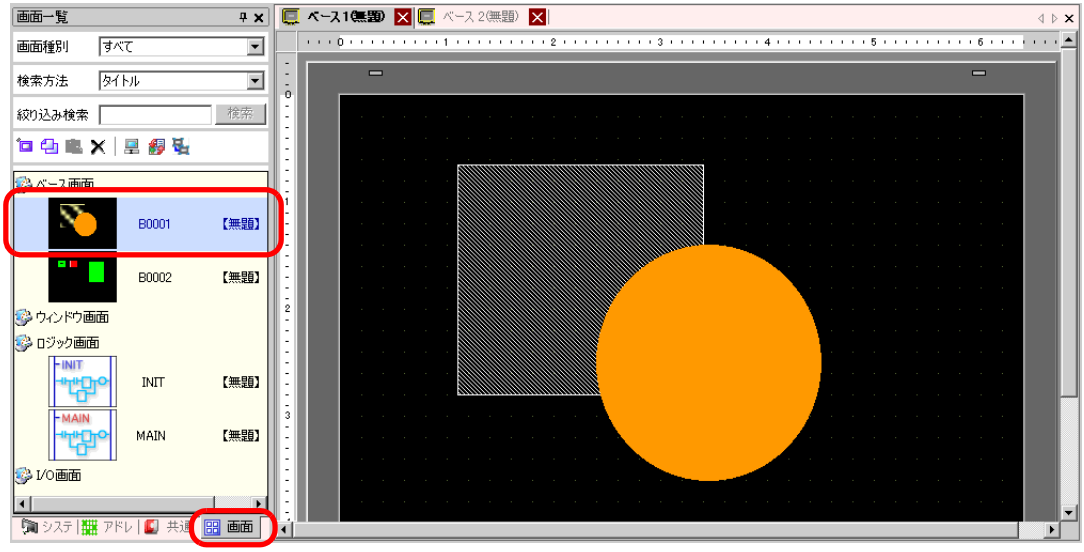


17 既存のプロジェクトファイルのメインウィンドウが表示されます。

MEMO

- プロジェクトファイル (*.prx) 自身をダブルクリックして簡単に既存のファイルを開くこともできます。
- 異なる 2 つのプロジェクトファイルを同時に起動できます。

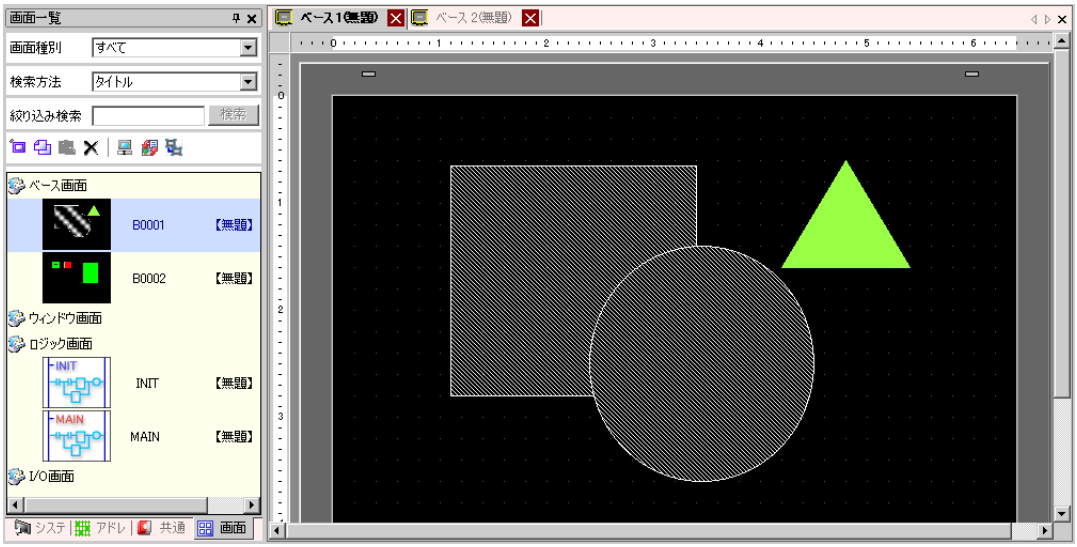
18 [画面一覧] ウィンドウの画面リストから修正する [ベース画面] をダブルクリックすると編集領域にベース画面が表示されます。



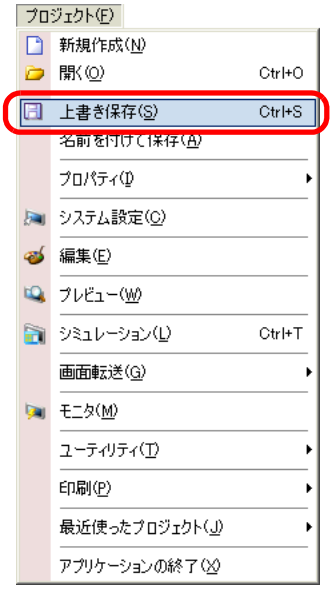
MEMO

- ロジック画面を修正する場合は、画面リストから修正する [ロジック画面] をダブルクリックすると編集領域にロジック画面が表示されます。

19 画面を修正します。

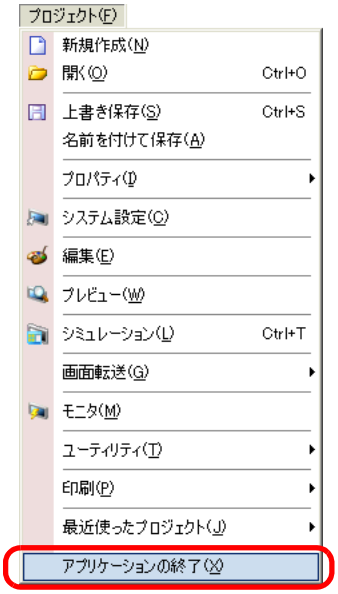


20 [プロジェクト (F)] メニューから [上書き保存 (S)] を選択するか、 をクリックして修正したファイルを上書き保存します。



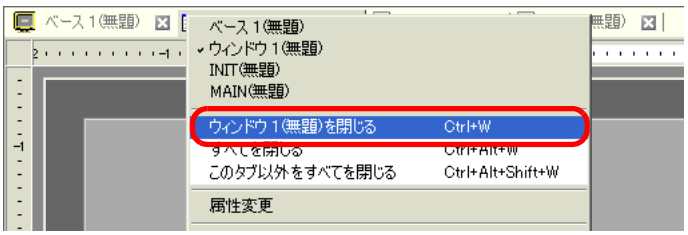
■ 終了する

21 [プロジェクト (F)] メニューから [アプリケーションの終了 (X)] を選択するか、または画面右上の ✕ をクリックします。



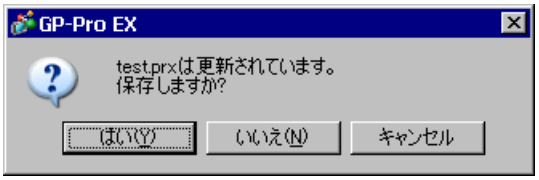
MEMO

- 開いている画面を閉じるには、画面タブ右端の ✕ をクリックするか、またはタブを右クリックして表示されるメニューから [(画面番号) を閉じる] を選択します。
ショートカットキーを使って閉じることもできます。



画面を閉じた状態でプロジェクトファイルを保存して終了した場合、次回そのファイルを開いたときも、画面は閉じたままファイルが開きます。

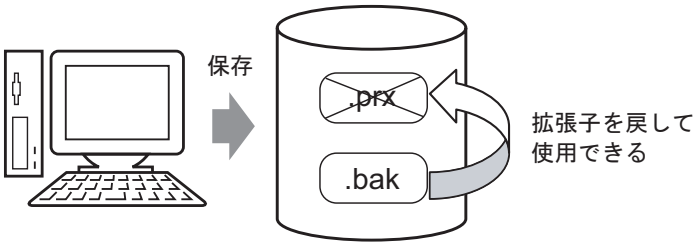
22 プロジェクトファイルに変更を加え、保存していない状態でアプリケーションの終了を行うと [プロジェクトファイルの保存の確認] ダイアログボックスが表示されます。



[はい] をクリックすると現在の状態でプロジェクトを保存して閉じます。
[いいえ] をクリックするとプロジェクトは最後に保存された情報で終了します。
[キャンセル] をクリックするとプロジェクトは閉じずに、操作の前の状態に戻ります。

5.3 プロジェクトファイルをバックアップしたい

5.3.1 詳細



プロジェクトファイルの破壊や誤った更新に備え、ファイルの上書き保存の際にバックアップファイル (*.bak) を自動的に作成させることができます。前回の履歴として利用できます。プロジェクトファイルを復元するには、バックアップファイルの拡張子を「.prx」に変更します。

MEMO

- プロジェクトの異常終了が発生する場合には、「backup」フォルダ内にプロジェクトファイル (*.prx) が自動的にコピーされ、ファイルの損失を防ぎます。

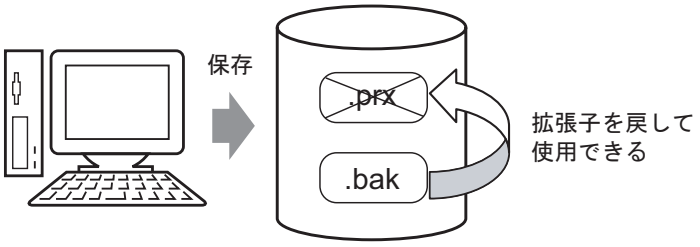
5.3.2 設定手順

■ 履歴としてのバックアップ手順

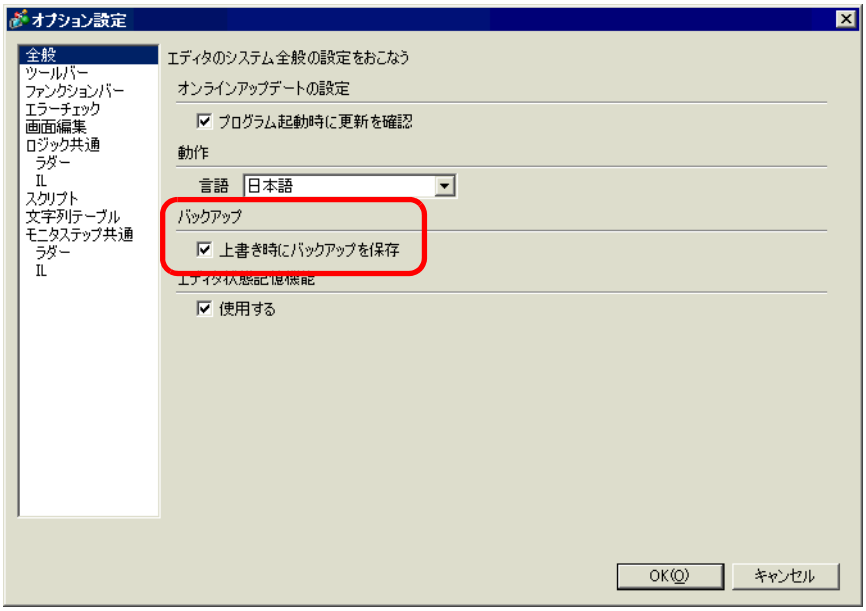
MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「5.17.7 [**オプション設定**] **の設定ガイド ■ 全般**」(5-180 **ページ**)



1 [表示 (V)] メニューから [オプション設定 (O)] を選択すると次のような [オプション設定] ダイアログボックスが表示されます。[上書き時にバックアップを保存] にチェックを入れます。



MEMO

- バックアップファイル名は「元のプロジェクトファイル名 .bak」で保存されます。
- バックアップファイルの保存場所は、元ファイルの保存場所と同じ所です。

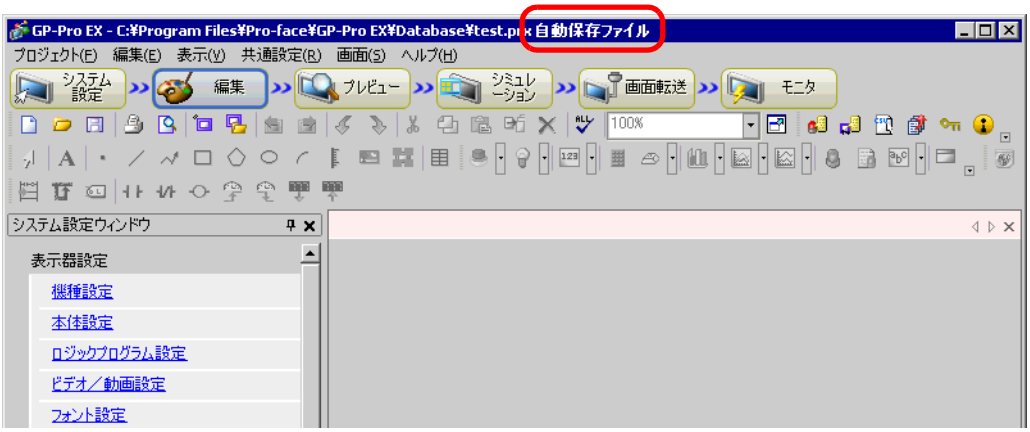
■ 異常終了時のバックアップとファイルの起動

処理が多くメモリ不足によって異常終了が発生した場合、プロジェクトファイルが「backup」フォルダに自動的にコピー（バックアップ）されています。再度 GP-Pro EX を起動した際に「backup」フォルダ内に修復が必要なファイルが存在した場合、次のようなダイアログボックスが開きます。

◆異常終了したプロジェクトファイルを修復して起動する場合

1 修復したいファイルを選択し、[選択したファイルを修復して起動する] にチェックを入れて [次へ] をクリックします。

2 ファイルが自動的に修復され、「自動保存ファイル」として起動します。（起動すると backup フォルダ内のファイルは自動的に消えます。）



3 [プロジェクト (F)] メニューから [名前を付けて保存 (A)] を選択し、ファイル名・保存場所を指定して保存します。

◆異常終了したプロジェクトファイルを修復せずに GP-Pro EX を起動する場合

1 修復する必要のないファイルを選択し [削除] をクリックします。「backup」フォルダ内に自動保存されたファイルが削除されます。

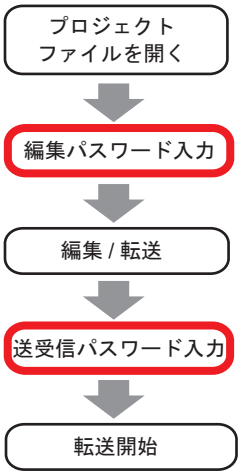
2 [次へ] をクリックしてプロジェクトファイルを通常起動します。前回異常終了したプロジェクトファイルは、最終保存したときの状態で起動します。

MEMO

- 削除を行わずに [次へ] をクリックして GP-Pro EX を通常起動した場合は、次回 GP-Pro EX を起動する際、再度ダイアログボックスが表示されます。

5.4 プロジェクトファイルや作成したデータにパスワードをかけたい

5.4.1 詳細



プロジェクトファイルの編集や転送にパスワードを設定し、プロテクトをかけることができます。
プロジェクトファイルの編集や転送を行う際に、パスワードを確認するウィンドウが表示されます。
パスワードを入力し、許可されるとプロジェクトファイルを編集、または転送できます。

MEMO

- パスワードを忘れると編集や転送できなくなりますのでご注意ください。
- 転送用パスワードの設定については、以下を参照してください。

☞「33.6 **パスワードで転送を許可したい**」(33-31 **ページ**)

5.4.2 設定手順

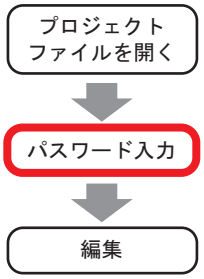
MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

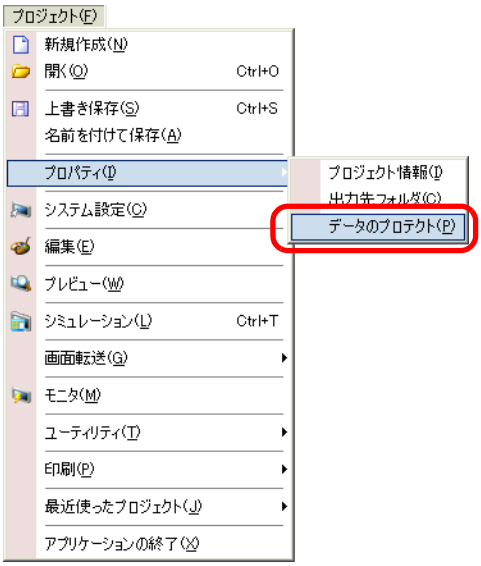
☞「5.17.3 [プロパティ] の設定ガイド ◆ パスワード」(5-106 ページ)

■ プロジェクトファイル編集用パスワードの設定

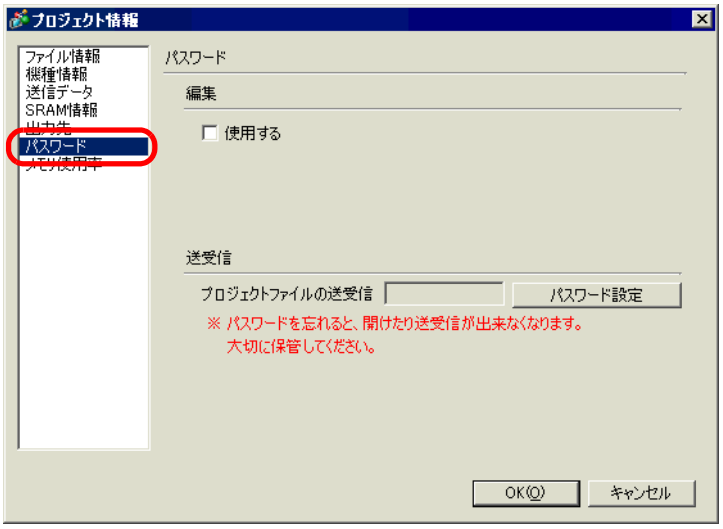
プロジェクトファイルを開こうとすると、パスワード入力用ダイアログボックスが開きます。



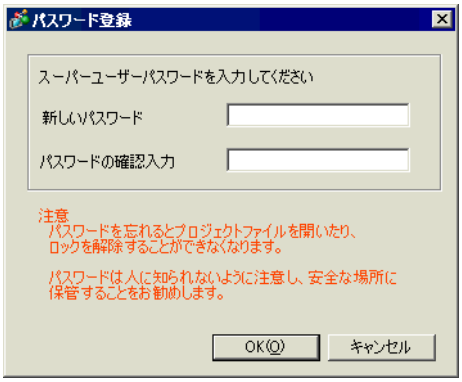
1 [プロジェクト (F)] メニューから [プロパティ (I)] ― [データのプロテクト (P)] を選択します。



2 [プロジェクト情報] ダイアログボックスの [パスワード] 設定画面が表示されます。



3 [編集] の [使用する] にチェックを入れると、次のダイアログボックスが開きます。

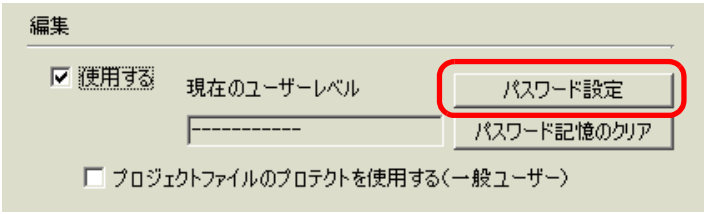


4 [新しいパスワード] に半角英数 10 文字以内でパスワードを入力します。[パスワードの確認入力] にも同じパスワードを入力します。

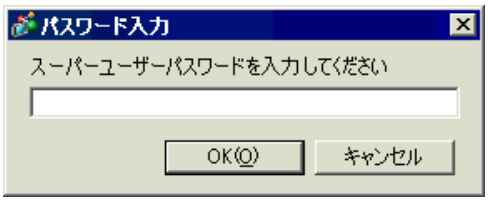
MEMO

- パスワードを設定するには、[スーパーユーザーパスワード] を設定しておく必要があります。

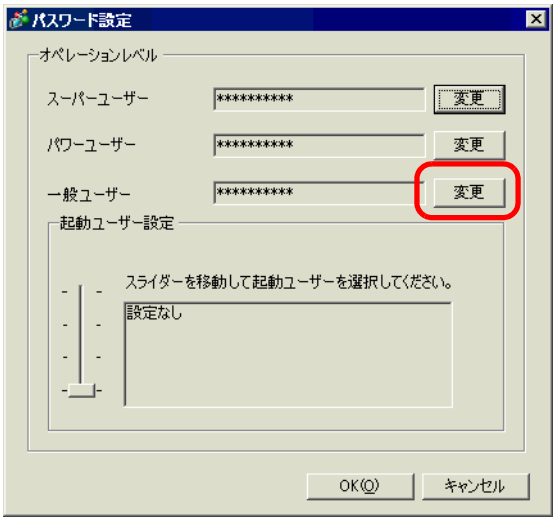
5 [OK] をクリックして [パスワード] 設定画面に戻ります。[パスワード設定] が有効になり、ユーザーレベル別のパスワード設定ができるようになります。



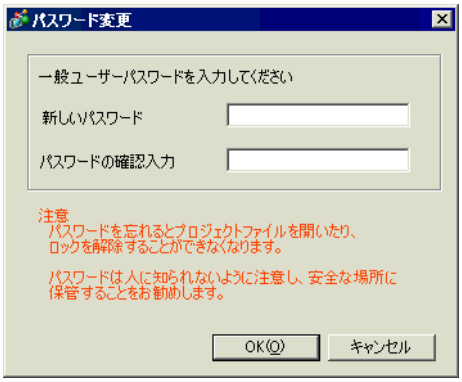
6 [パスワード設定] をクリックすると、次のダイアログボックスが表示されます。
手順 4 で設定したスーパーユーザーパスワードを入力して [OK] をクリックします。



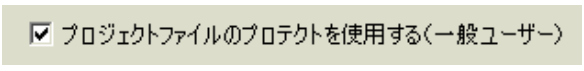
7 一般ユーザーの [変更] をクリックします。



8 [新しいパスワード] に半角英数 10 文字以内でパスワードを入力します。[パスワードの確認入力] にも同じパスワードを入力し、[OK] をクリックします。



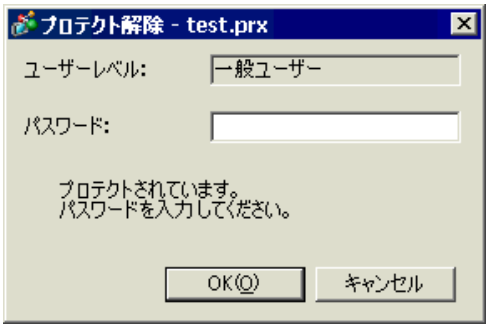
9 [OK] をクリックして [パスワード設定] ダイアログボックスを閉じ、[プロジェクト情報] ダイアログボックスの [パスワード] 設定画面で [プロジェクトファイルのプロテクトを使用する] にチェックを入れ、プロジェクトファイルを開くときは、パスワード入力ダイアログボックスが表示されるように設定します。



10 [OK] をクリックしてパスワードの設定完了です。

MEMO

- パスワードを設定したプロジェクトファイルを開く際、[プロテクト解除] ダイアログボックスが表示されます。設定したパスワードを入力して [OK] をクリックすると、プロテクトが解除されプロジェクトファイルが編集可能になります。

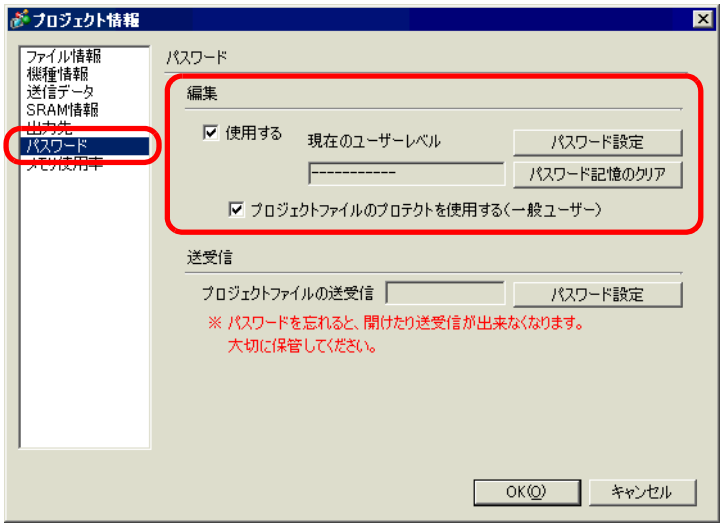


- プロジェクトファイルを開く際のユーザーレベルの変更は、[パスワード設定] ー [起動ユーザー設定] で行ってください。
  [プロジェクト情報] ー [パスワード] で [プロジェクトファイルのプロテクトを使用する (一般ユーザー)] にチェックを入れると、そのプロジェクトを起動時に必要なユーザーレベルが一般レベルに設定されます。

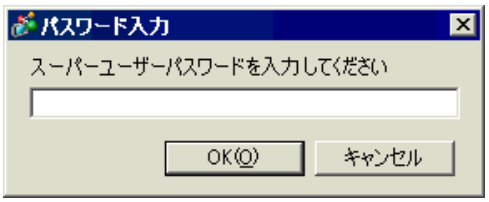
■ プロジェクトファイル編集用パスワードの変更

すでに設定しているパスワードを変更する場合も、[プロジェクト情報] ダイアログボックスで行います。

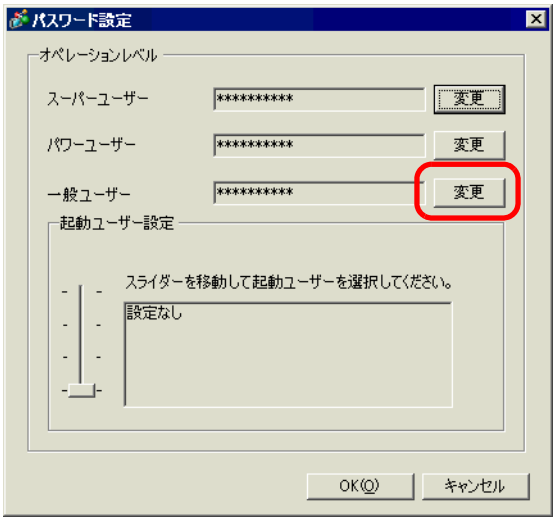
1 [プロジェクト (F)] メニューから [プロパティ (I)] ― [データのプロテクト (P)] を選択します。
[プロジェクト情報] ダイアログボックスが開きます。



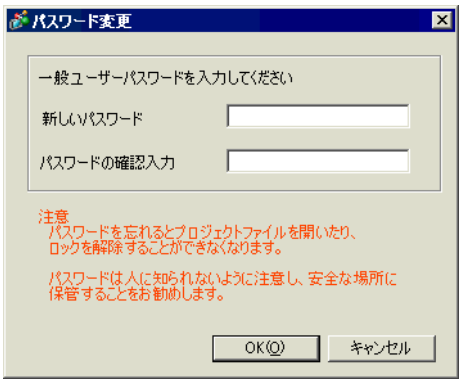
2 [編集] の [パスワード設定] をクリックします。次のダイアログボックスが表示されるので、スーパーユーザーパスワードを入力して [OK] をクリックします。



3 パスワードを変更したいユーザーレベルの [変更] ボタンをクリックします。



4 パスワードを変更する場合は、[新しいパスワード] に半角英数 10 文字以内で入力し、[パスワードの確認入力] にも同じパスワードを入力して [OK] をクリックします。

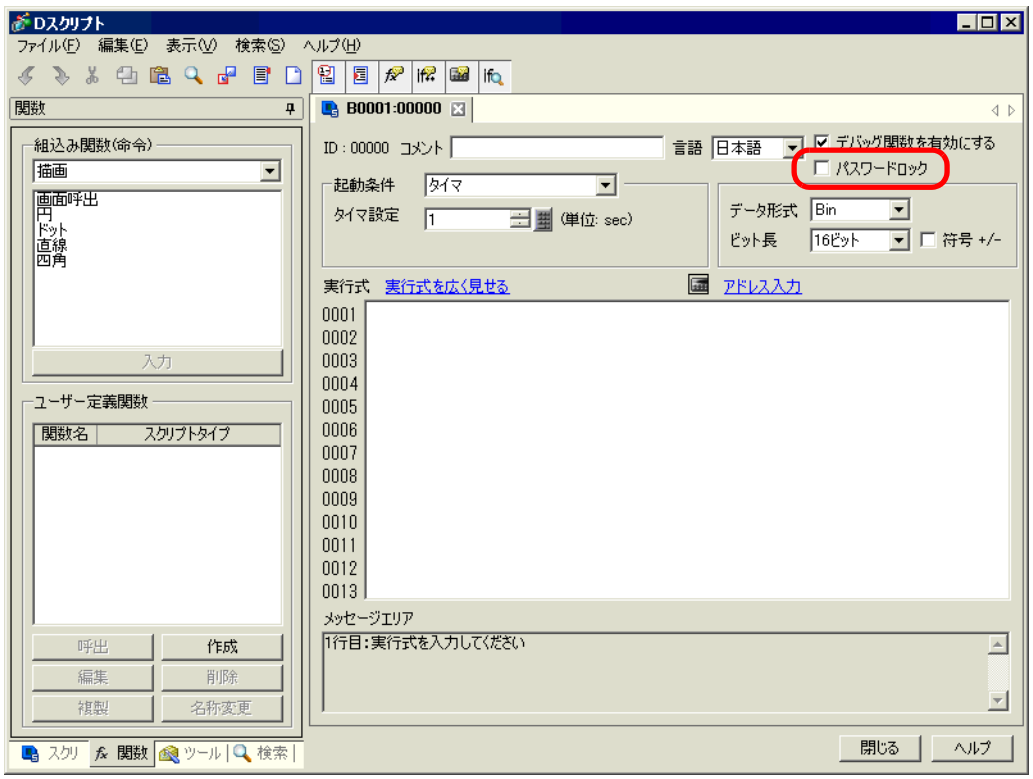


■ パスワードロックの設定

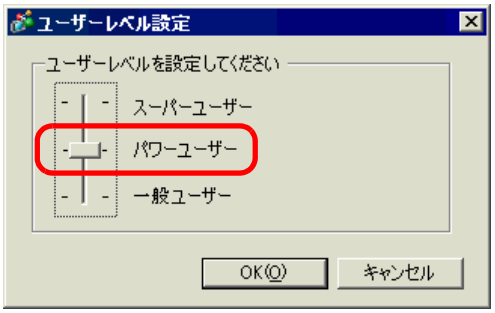
パスワードを設定すると、スクリプト、作成した画面、グループ化した部品にパスワードロックの設定ができます。パスワードロックを設定した部品やデータを編集したり、パスワードロックを解除したりするには、設定したユーザーレベルのパスワード入力が必要になります。

◆スクリプト (D スクリプト、グローバル D スクリプト) の場合

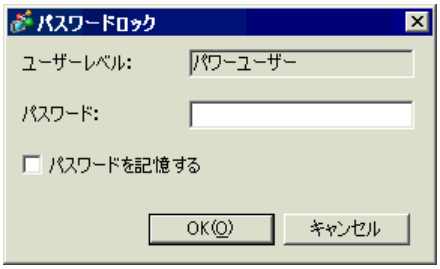
1 D スクリプトまたはグローバル D スクリプトの画面を開いて、[パスワードロック] にチェックを入れます。



2 次のダイアログボックスが表示されるので、パスワードを設定したいユーザーレベルにスライダーを合わせ、[OK] をクリックします。



3 選択したユーザーレベルのパスワードを入力します。

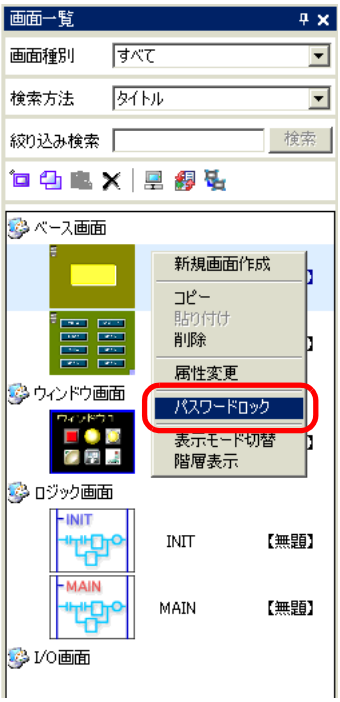


MEMO
- [パスワードを記憶する] にチェックを入れておくと、同じプロジェクトファイル内で同じユーザーレベルの作業をするときに、パスワード入力の必要がありません。

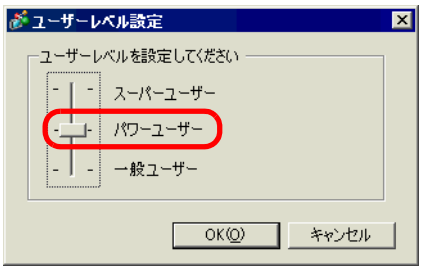
4 [OK] をクリックして設定は完了です。

◆画面（ベース画面、ウィンドウ画面、ロジック画面、I/O 画面）の場合

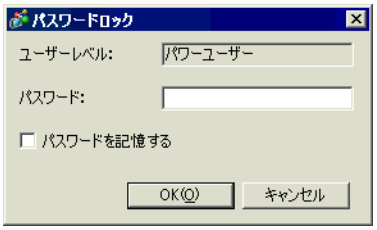
1 [画面一覧] ウィンドウでパスワード設定したい画面を右クリックし、メニューから [パスワードロック] をクリックします。



2 次のダイアログボックスが表示されるので、パスワードを設定したいユーザーレベルにスライダーを合わせ、[OK] をクリックします。



3 選択したユーザーレベルのパスワードを入力します。



MEMO

- [パスワードを記憶する] にチェックを入れておくと、同じプロジェクトファイル内で同じユーザーレベルの作業をするときに、パスワード入力の必要がありません。

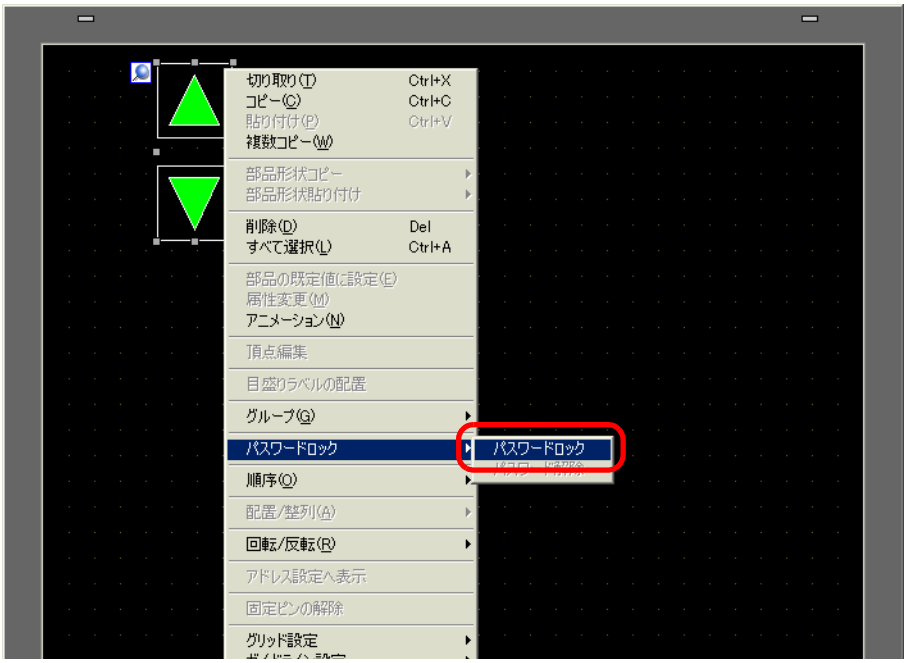
4 [OK] をクリックして設定は完了です。

MEMO

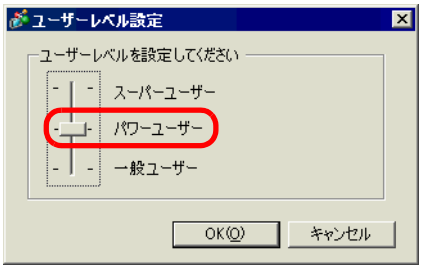
- 画面の用途に合わせてユーザーレベル単位でパスワードを設定しておくと、プロジェクトファイルを開いたときに、画面表示に必要なユーザーレベルの [パスワードロック解除] ダイアログボックスが表示されます。正しいパスワードを入力しないと画面一覧には表示されますが編集画面としては表示されません。

◆グループ化した部品の場合

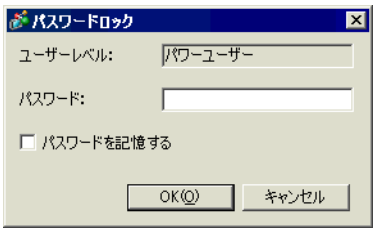
1 グループ化した部品を選択し、右クリックで表示されるメニューから [パスワードロック] ー [パスワードロック] をクリックします。



2 次のダイアログボックスが表示されるので、パスワードを設定したいユーザーレベルにスライダーを合わせ、[OK] をクリックします。



3 選択したユーザーレベルのパスワードを入力します。



MEMO
- [パスワードを記憶する] にチェックを入れておくと、同じプロジェクトファイル内で同じユーザーレベルの作業をするときに、パスワード入力の必要がありません。

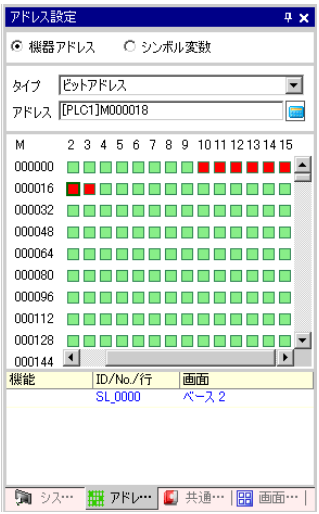
4 [OK] をクリックして設定は完了です。

5.5 プロジェクト内で使用中のアドレスを一覧で確認したい

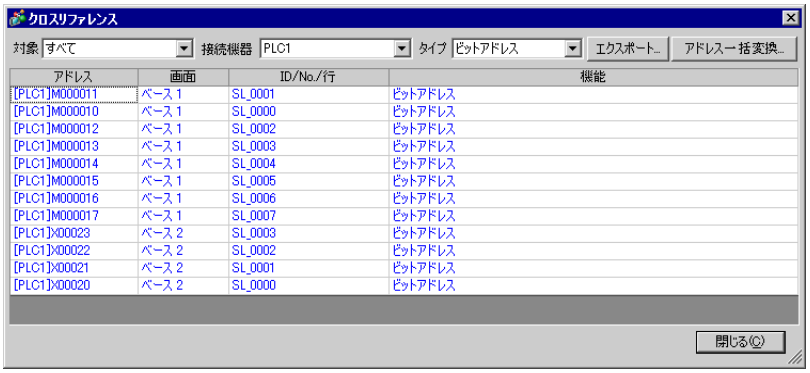
5.5.1 詳細

プロジェクトファイルで設定しているアドレスを以下の 2 つの方法で確認できます。

マップ方式



リスト方式



5.5.2 設定手順

MEMO

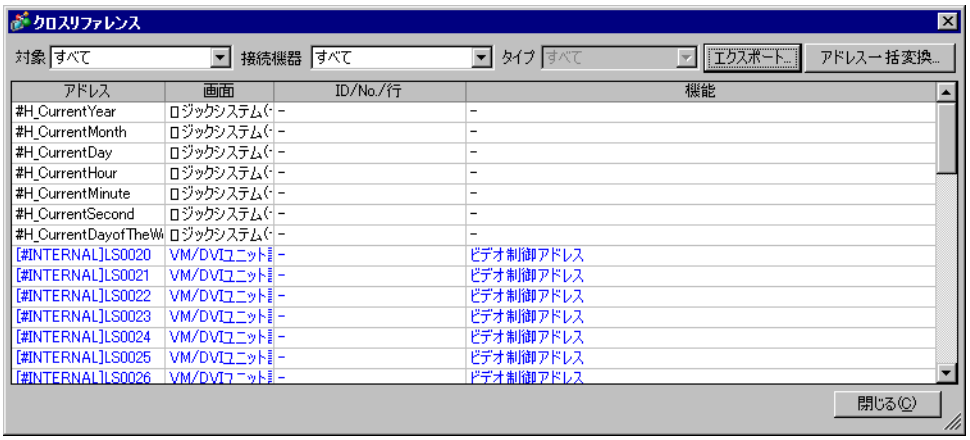
- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「5.17.4 [ユーティリティ] の設定ガイド ■ クロスリファレンス」(5-116 ページ)

■ 使用中のアドレスをリストで表示する

プロジェクトファイルで設定しているアドレスをリストで一覧表示します。

1 [プロジェクト (F)] メニューから [ユーティリティ (T)] を選択し、[クロスリファレンス (R)] を選択します。次のような [クロスリファレンス] ダイアログボックスが表示されます。

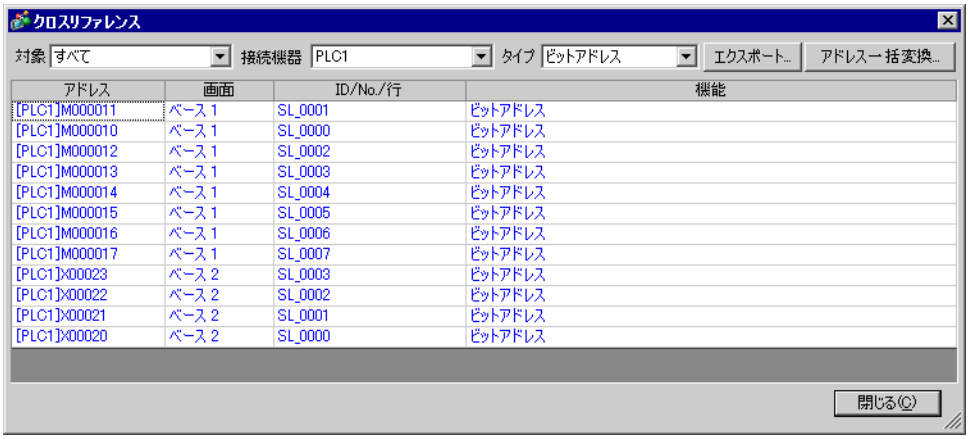


2 [対象] から表示する画面または設定を選択します。

3 表示する対象の接続機器を選択します。

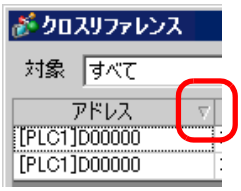
4 表示するアドレスの [タイプ] を選択します。

5 使用アドレスの一覧を表示します。



MEMO

- 各項目の内容の表示を昇順、降順で切り替える場合は各項目のセルをクリックし、矢印を表示します。矢印をクリックするたびに、昇順、降順が切り替わります。



- 一覧表示したアドレスを一括変換する場合は [アドレス一括変換] をクリックします。

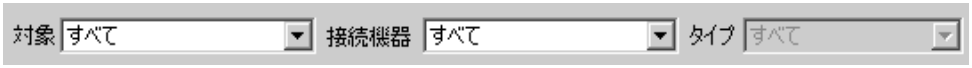
☞「5.6 プロジェクトファイル内のアドレスを一括変換したい」(5-45 ページ)

- クロスリファレンスの [対象] を [すべて] に設定した場合、全画面のアドレスの情報を取得するため表示に時間がかかる場合があります。
- [対象] が [ベース画面]、[ウィンドウ画面] の場合は、セルをダブルクリックすると、その画面の編集領域が表示されます。

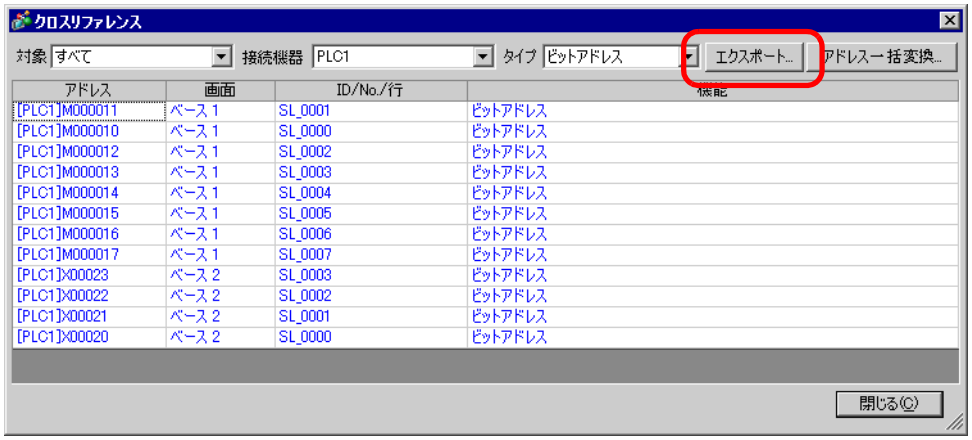
◆アドレス一覧のエクスポート

クロスリファレンスに表示中のアドレス一覧は、CSV 形式またはテキスト形式で保存（エクスポート）することができます。

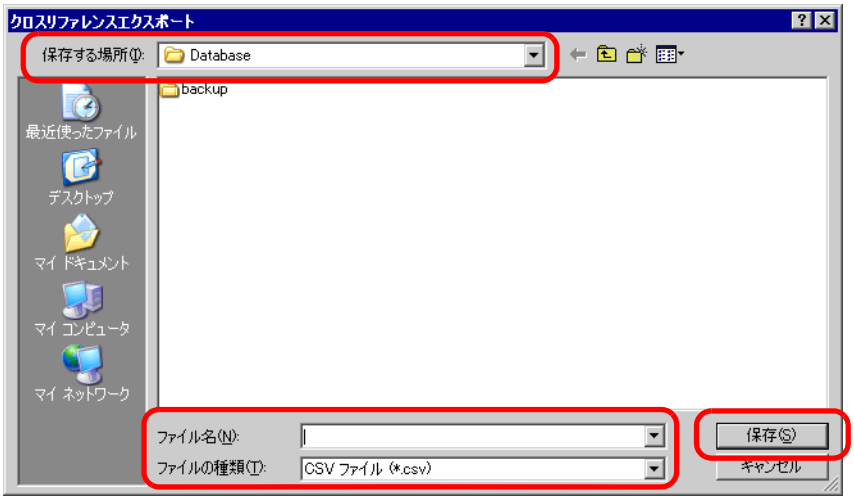
1 [クロスリファレンス] ダイアログボックスに保存（エクスポート）したいアドレスの一覧を表示します。
表示する画面または設定、接続機器、アドレスのタイプをそれぞれ選択します。



2 [エクスポート] をクリックします。



3 次のダイアログボックスで [保存する場所 (I)] を選択し、[ファイル名 (N)]、[ファイルの種類 (T)] を設定し、[保存] をクリックします。



4 保存（エクスポート）したファイルは、Microsoft Excel やメモ帳などで開いて設定内容を確認します。

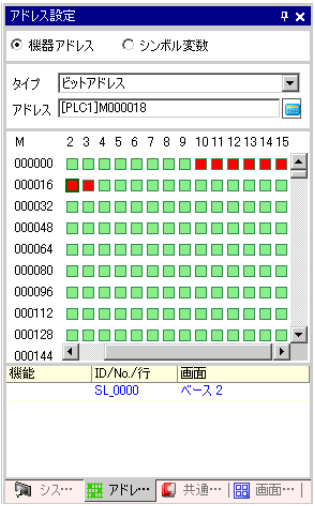
■ 使用中のアドレスをマップで表示する

MEMO

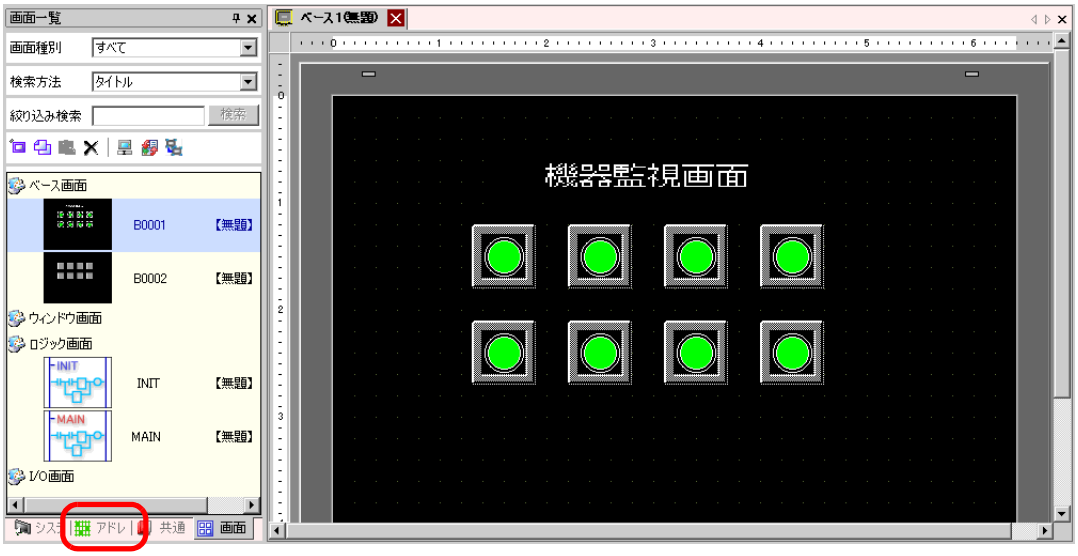
- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「5.17.5 [ワークスペース] の設定ガイド ■ アドレス設定ウィンドウ」(5-125 ページ)

プロジェクトファイルで設定しているアドレスをマップで一覧表示します。



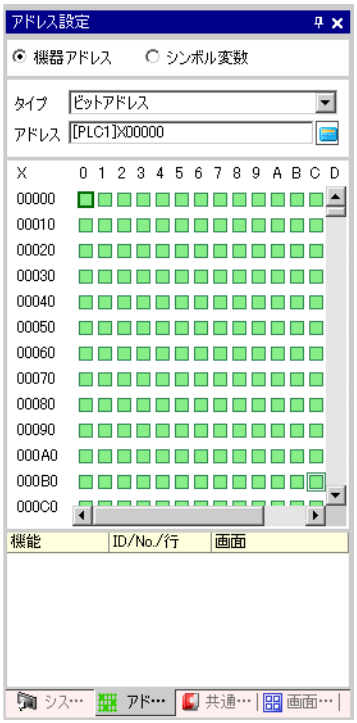
1 ワークスペースの [アドレス設定] タブを開きます。



MEMO

- ワークスペースに [アドレス設定] タブが表示されていない場合は、[表示 (V)] メニューから [ワークスペース (W)] ― [アドレス設定ウィンドウ (A)] を選択します。

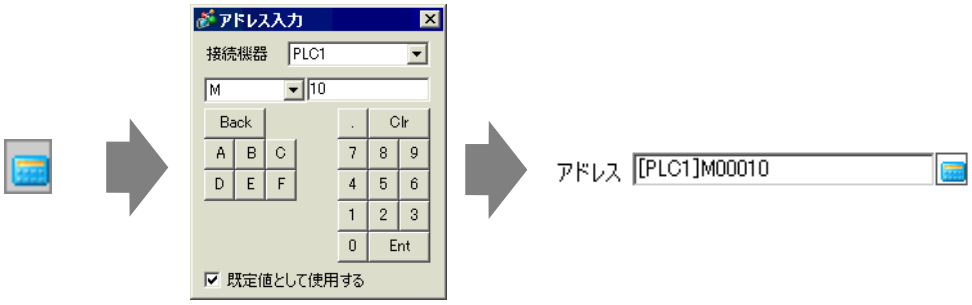
2 次のような [アドレス設定] ウィンドウが表示されます。



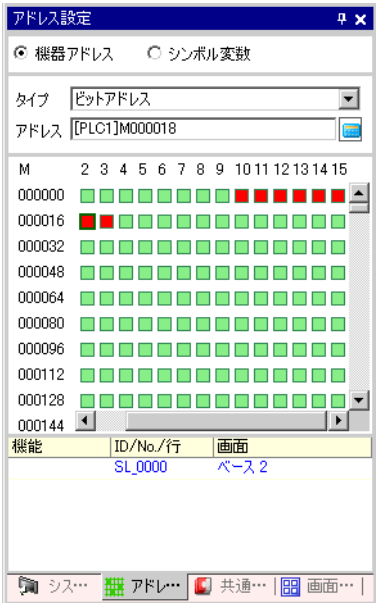
3 表示する対象を [機器アドレス]、[シンボル変数] から選択します。

4 [タイプ] で表示するアドレスを [ビットアドレス]、[ワードアドレス] から選択します。

5 表示する対象のアドレスを選択します。（例：M10）

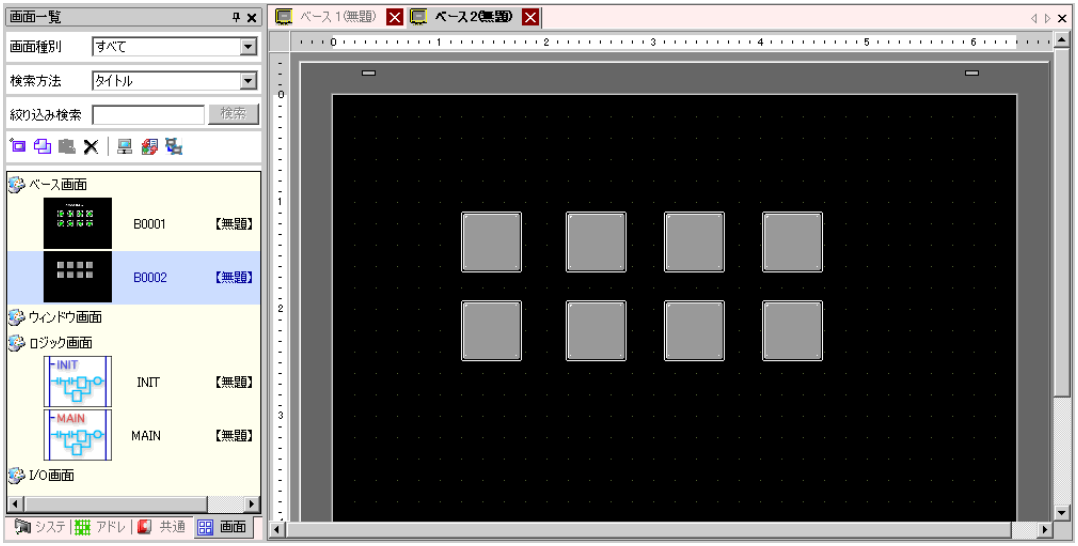


6 アドレスの使用状態がマップで確認できます。

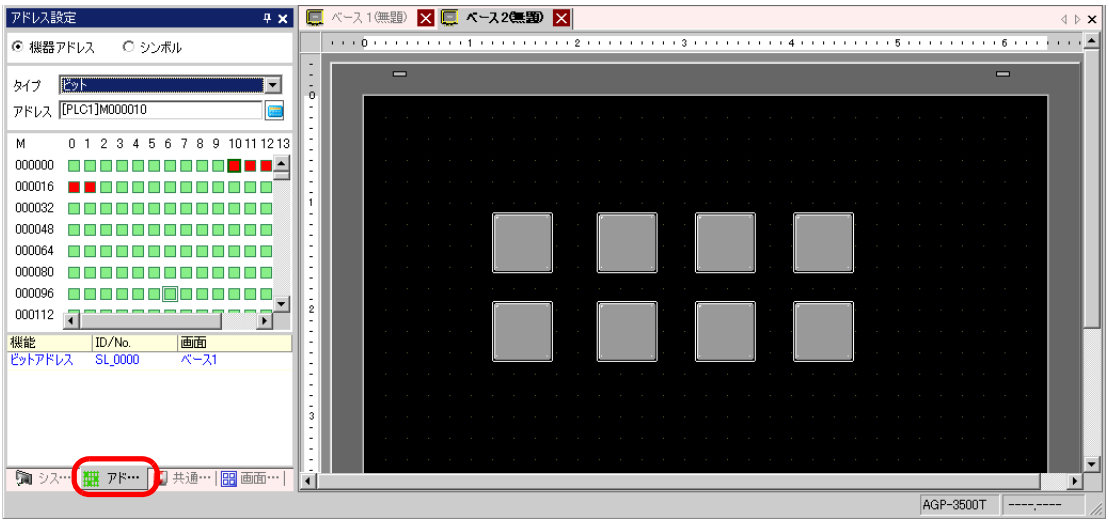


■ アドレスマップから編集部品の画面のアドレスを変更する

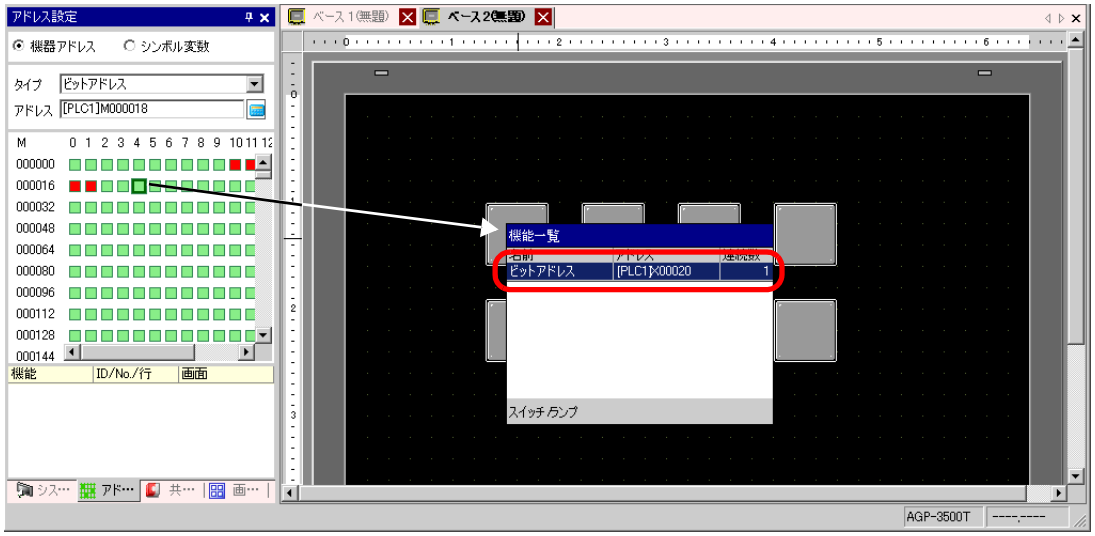
1 アドレスを変更したい部品が配置されている画面を開きます。



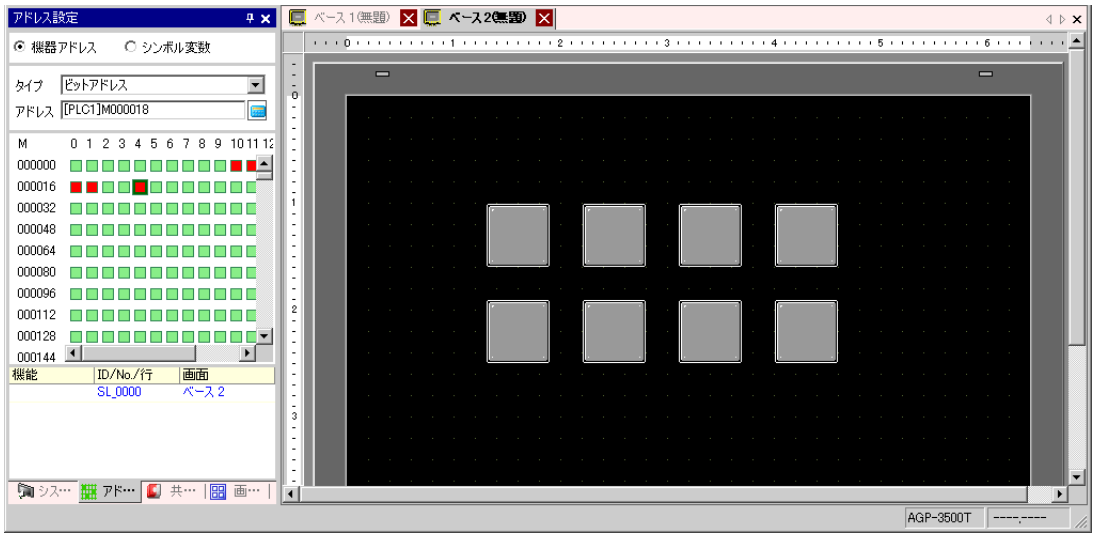
2 ウィンドウの [アドレス設定] タブをクリックし、参照するアドレスマップを開きます。



3 アドレスマップから割り付けたいアドレスを作画画面上の部品にドラッグすると、[機能一覧] ウィンドウが表示されます。[機能一覧] に表示されているアドレス行を選択します。

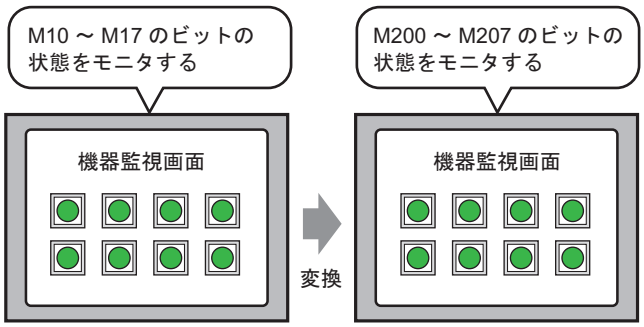


4 ドラッグした指を離すと、部品にアドレスが割り付けられます。



5.6 プロジェクトファイル内のアドレスを一括変換したい

5.6.1 詳細



変換前の先頭/終了アドレスと、変換後の先頭アドレスを指定することで、アドレスを置き換えることができます。

プロジェクトファイルで設定しているアドレスを一括で別のアドレスに変換します。変換方法にはプロジェクトファイル全体のアドレスを一括変換する [プロジェクト全体] と、変換対象となる画面などを個別に設定して変換する [個別設定] の 2 つの方法があります。

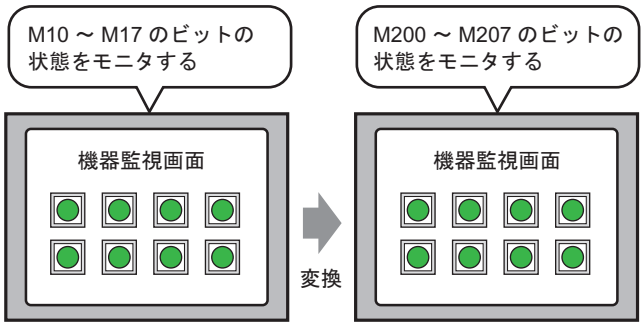
5.6.2 設定手順

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

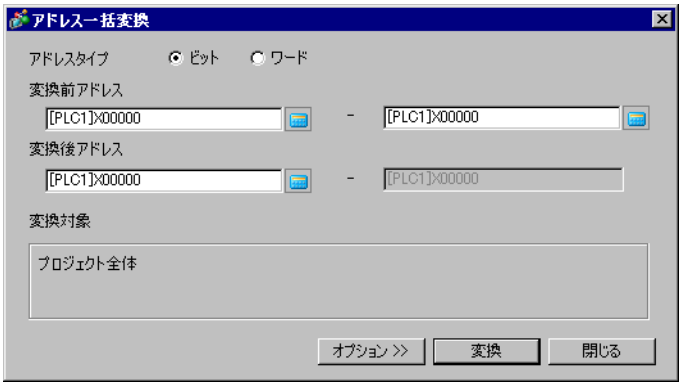
☞「5.17.4 [ユーティリティ] の設定ガイド ■ アドレス一括変換」(5-113 ページ)

指定した画面に設定されているアドレスを一括変換します。

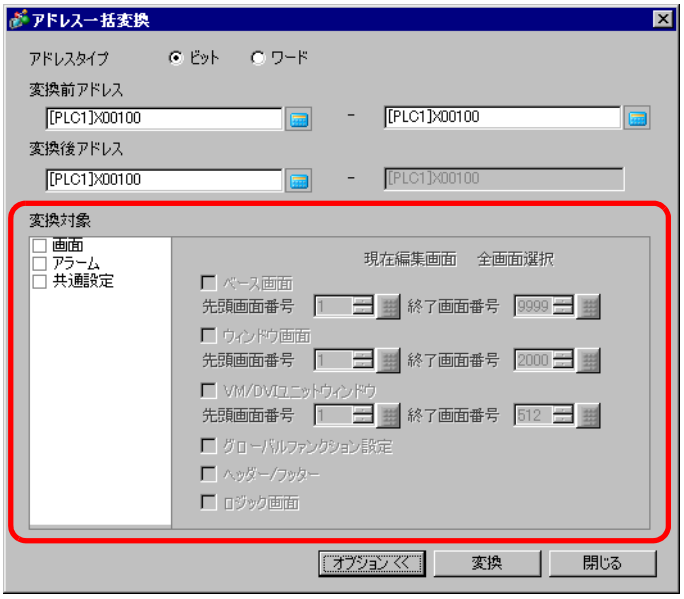


変換前の先頭/終了アドレスと、変換後の先頭アドレスを指定することで、アドレスを置き換えることができます。

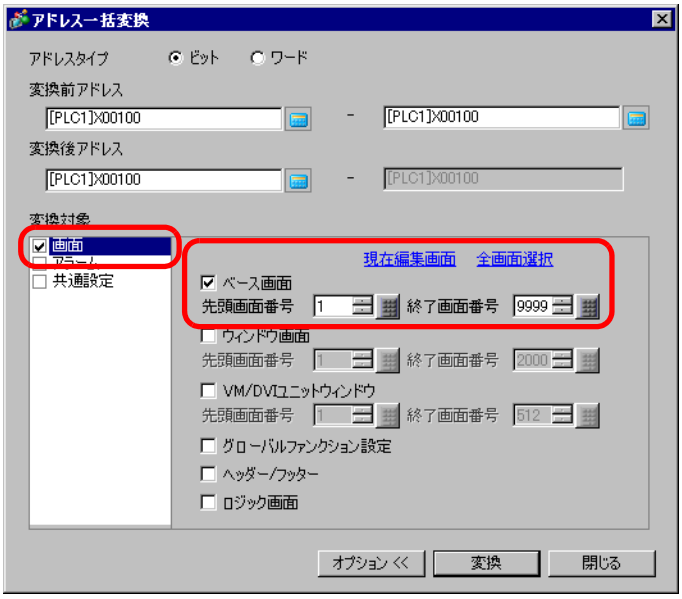
1 [プロジェクト (F)] メニューから [ユーティリティ (T)] ー [アドレス一括変換 (A)] を選択すると、次のような [アドレス一括変換] ダイアログボックスが表示されます。



2 [個別設定] をクリックすると変換対象を個別に設定する項目が表示されます。



3 変換対象の [画面] にチェックを入れ、変換したい画面と画面番号を設定します。



4 [アドレスタイプ] を [ビット]、[ワード] から選択します。(例：ビット)

5 [変換前アドレス] の先頭アドレス (例：M10) と終了アドレス (例：M17) を設定します。

MEMO ・ [変換前アドレス] の先頭と終了に異なるデバイスアドレスは設定できません。

6 [変換後アドレス] の先頭アドレス (例：M200) を設定します。

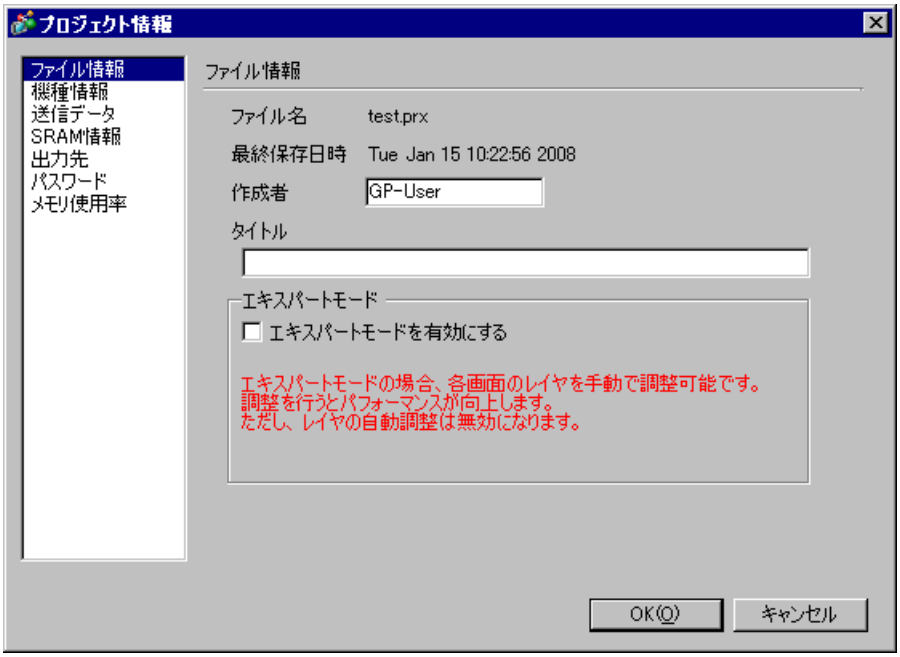
7 [変換] をクリックします。処理完了メッセージが表示されるので [OK] をクリックします。

MEMO

- アドレスに [シンボル変数] を使用している場合は、[アドレス一括変換] は正しく動作しません。
- アドレス変換前の総アドレス数（終了アドレス－先頭アドレス）が、アドレス変換後の総アドレス数（終了アドレス－先頭アドレス）より大きくなる場合、あふれたアドレスにはすべてそのデバイスの最終アドレスが割り付けられます。

5.7 プロジェクト情報を見たい

5.7.1 詳細



ファイルの作成者や最終保存日、機種や接続機器の情報、プロジェクト転送で送信されるデータ、バックアップ SRAM の使用量、作成中のロジックプログラムや登録変数の容量などの各情報が確認できます。

また出力先フォルダの設定やパスワードの設定ができます。

5.7.2 設定手順

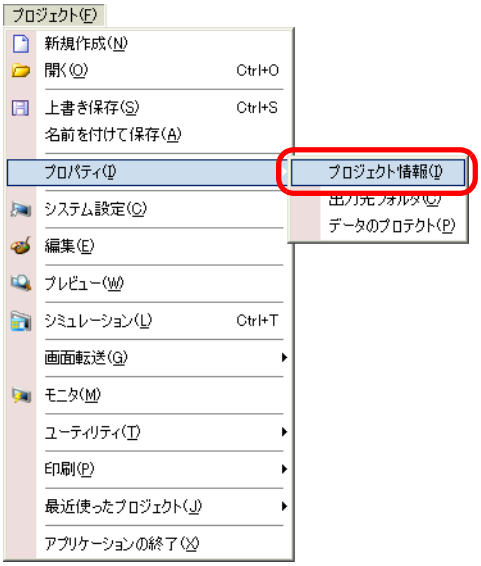
MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

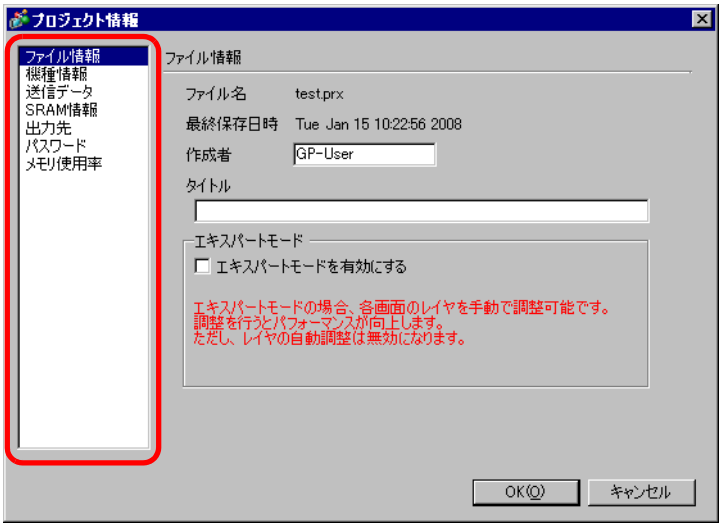
☞「5.17.3 [プロパティ] の設定ガイド ■ プロジェクト情報」(5-101 ページ)

■ [プロジェクト情報] の確認

1 [プロジェクト (F)] メニューから [プロパティ (I)] ― [プロジェクト情報 (I)] を選択します。



2 [プロジェクト情報] ダイアログボックスが表示されます。左の各項目をクリックすると、表示される情報が切り替わります。

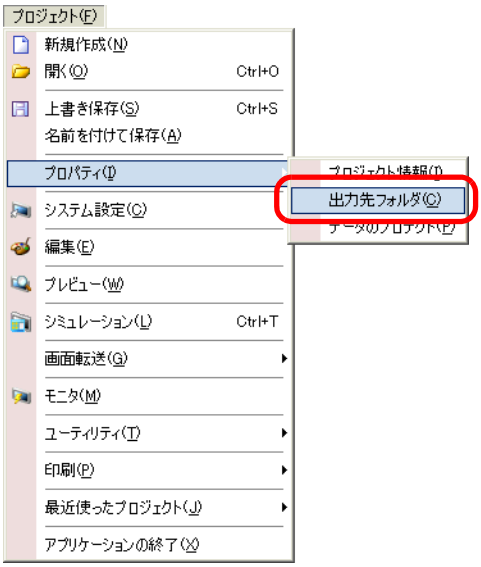


3 確認後は [OK] で [プロジェクト情報] ダイアログボックスを閉じます。

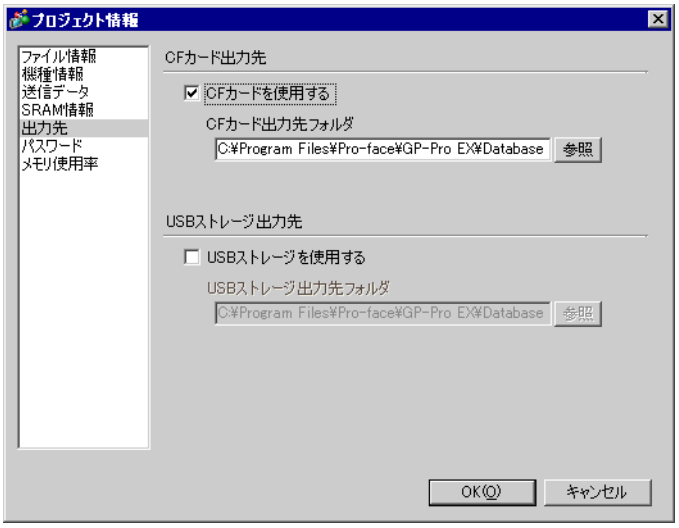
■ 出力先フォルダの設定手順

CF カードまたは USB ストレージに保存するデータを一時的に格納する場所を設定します。

1 [プロジェクト (F)] メニューから [プロパティ (I)] を選択し、[出力先フォルダ (C)] を選択します。



2 [プロジェクト情報] ダイアログボックスが表示されます。[出力先] を選択し、[CF カード出力先] または [USB ストレージ出力先] にチェックを入れます。



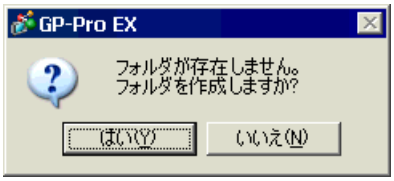
3 [参照] をクリックして出力先フォルダを指定します。

MEMO

- 初期設定では ¥Program Files¥Pro-face¥GP-Pro EX *.**（*.** はバージョン）¥Database¥（プロジェクトファイル名と同じ名前のフォルダ）が出力先フォルダとして自動的に設定されています。

[OK] をクリックすると、[プロジェクト情報] ダイアログボックスに戻ります。

4 [OK] をクリックします。初めて出力先フォルダを設定した場合は、次の確認メッセージが表示されますので [はい] をクリックします。



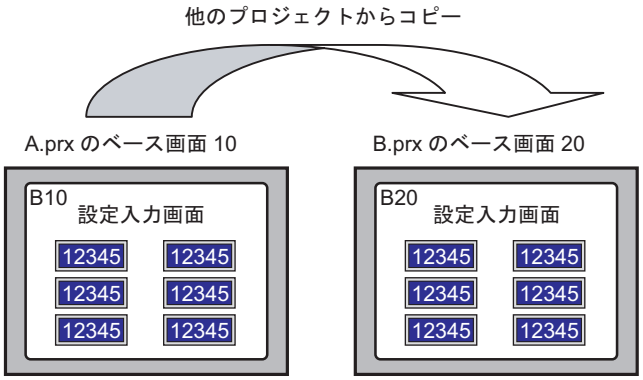
CF カードまたは USB ストレージに保存するためのデータを格納するフォルダ（[data]、[file] など）が自動的に作成されます。

5.8 ほかのプロジェクトから画面をコピーしたい

5.8.1 詳細

ほかのプロジェクトで作成した画面を現在編集中のプロジェクトにコピーできます。
別のプロジェクトファイルを指定し、必要な画面を指定してコピーする方法と、別プロジェクトのすべての画面をコピーする方法の 2 つの方法があります。

＜ほかのプロジェクトの指定した画面をコピーする＞



＜ほかのプロジェクトからすべての画面をコピーする＞

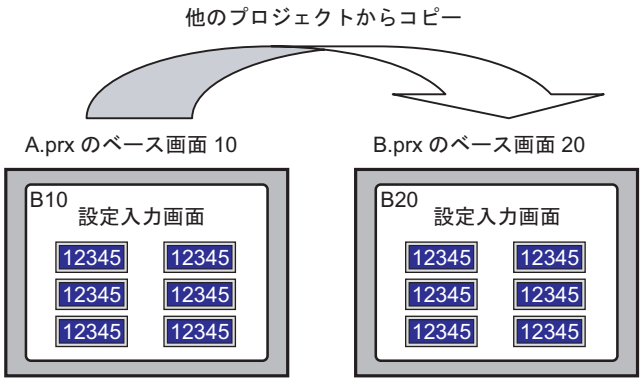
5.8.2 設定手順

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

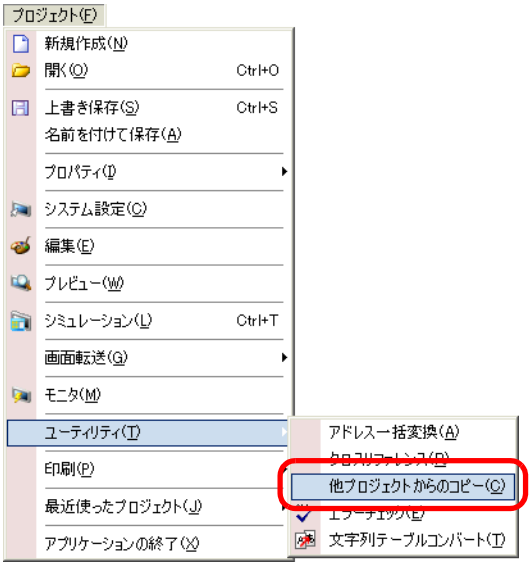
☞「5.17.4 [ユーティリティ] の設定ガイド ■ 他プロジェクトファイルからのコピー」(5-117 ページ)

プロジェクト「B.prx」に、プロジェクト「A.prx」のベース画面 (例：10) をコピーします。

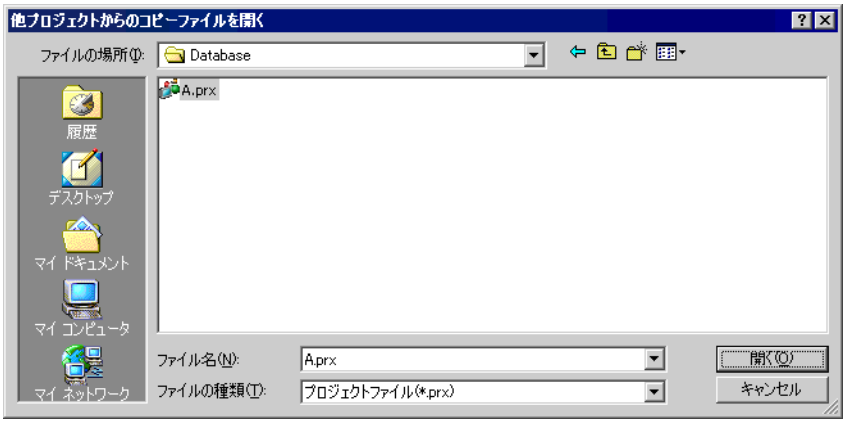


1 コピー先のプロジェクトファイルを開きます。

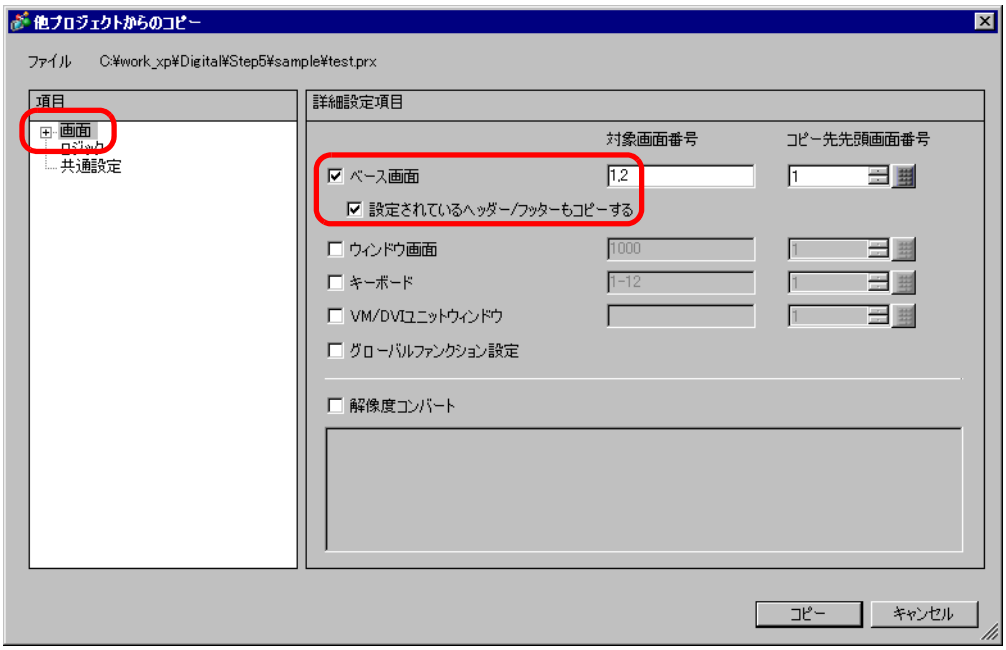
2 [プロジェクト (F)] メニューから [ユーティリティ (T)] ー [他プロジェクトからのコピー (C)] を選択します。



3 次のダイアログボックスが表示されるので、[ファイルの場所 (I)]、[ファイル名 (N)] を指定し、[開く (O)] をクリックします。



4 [他プロジェクトからのコピー] ダイアログボックスが表示されます。
項目欄で [画面] が選択されていることを確認し、[ベース画面] と [設定されているヘッダー / フッターもコピーする] のみチェックが付いていることを確認します。

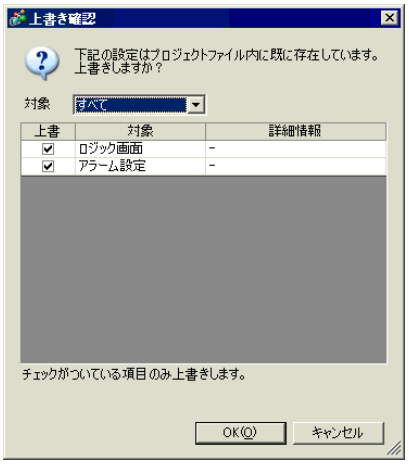


5 [ベース画面] の対象画面番号にコピー元のベース画面番号 (例：1) を入力し、コピー先先頭画面番号にコピーした後のベース画面先頭番号 (例：10) を設定します。

6 [コピー] をクリックします。

MEMO

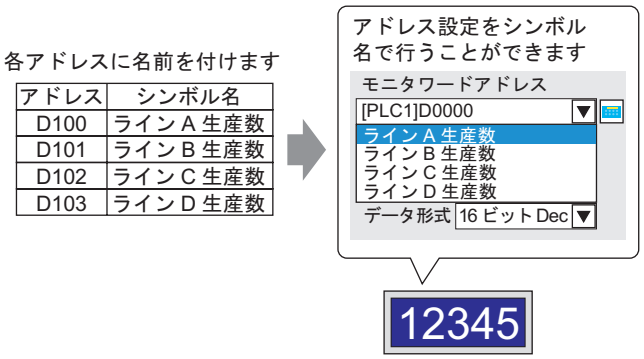
- コピー先に同じ番号の画面があった場合は、次の確認ダイアログボックスが開きます。



7 コピーが完了すると次のメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

5.9 アドレスをわかりやすい名前で登録したい

5.9.1 詳細



各アドレスに自由な名前を付けて管理することができます。(この名前を「シンボル」と呼びます。)部品などのアドレスをシンボルで設定することができます。それぞれのシンボルに対するアドレスを変更すると、部品を設定し直すことなく、アドレスの変更が一括で行えます。

5.9.2 設定手順

MEMO

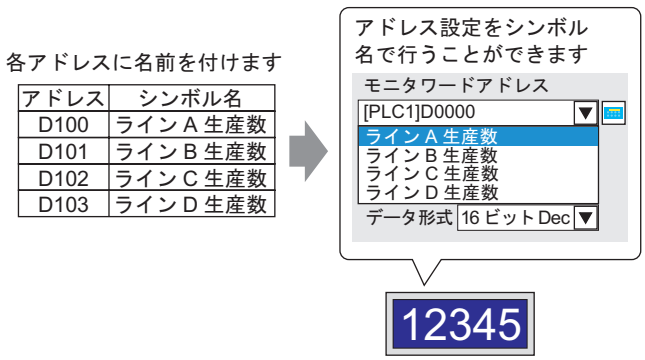
- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

  ☞「5.17.5 [ワークスペース] の設定ガイド ■ アドレス設定ウィンドウ」(5-125 ページ)

  ☞「5.17.8 [共通設定] の設定ガイド ■ シンボル変数設定」(5-194 ページ)

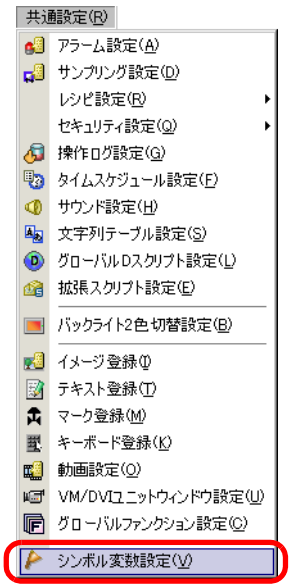
- ロジック機能で使用できるアドレスについては次を参照してください。

  ☞「29.3 ロジックプログラムで使用できるアドレスとは」(29-8 ページ)



■ [シンボル変数設定] の登録

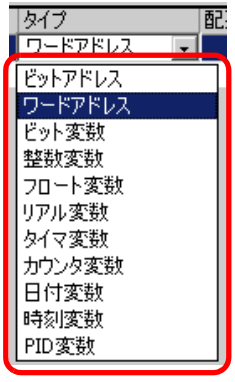
1 [共通設定 (R)] から [シンボル変数設定 (V)] を選択します。



2 次の画面が表示されます。

3 [名前] の列でセルをクリックし、シンボル変数の名前を設定します。

4 [タイプ] の列で各セルをクリックし、シンボルのアドレスタイプを次から選択します。



5 [アドレス] の列で各セルをクリックすると、 が表示されるのでシンボルのアドレスをそれぞれ設定します。

（例　ライン A 生産数：D100、ライン B 生産数：D101、ライン C 生産数：D102、
ライン D 生産数：D103）

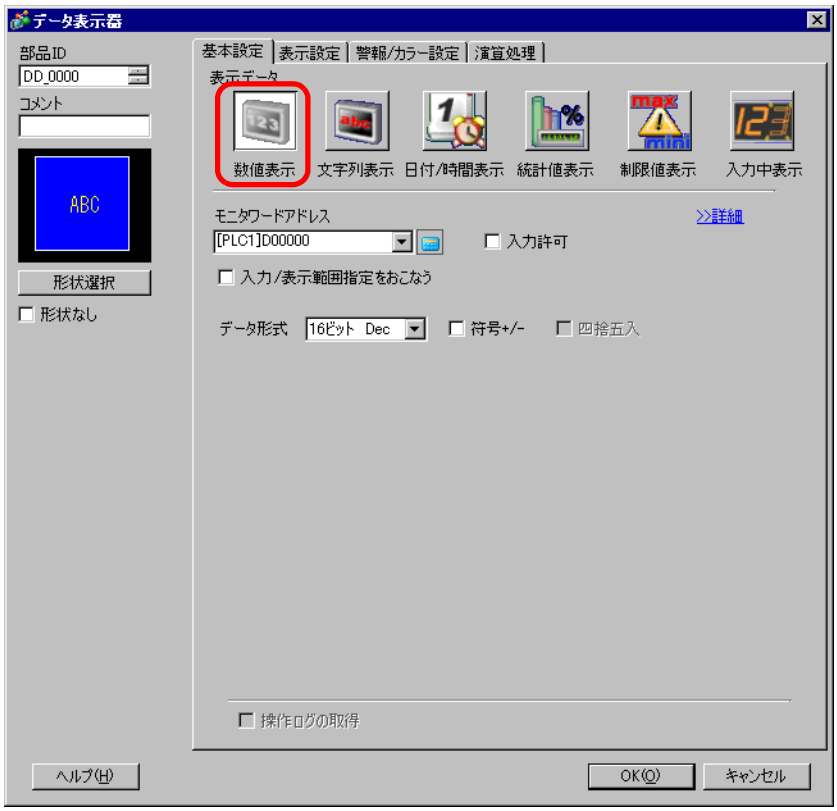
アイコンをクリックすると、アドレス入力用キーボードが表示されます。

デバイス「D」を選択し、アドレスに「100」を入力して「Ent」キーを押します。

6 アドレスをシンボルとして登録する設定が完了しました。

7 続いてデータ表示器に登録したシンボルを設定します。[部品 (P)] メニューの [データ表示器 (D)] から [数値表示 (N)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

8 配置したデータ表示器をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。



9 [形状選択] でデータ表示器の形状を選択します。

10 [モニタワードアドレス] に、数値表示したい値が格納されるアドレスのシンボル（例：ライン A 生産数 =D100）を設定します。

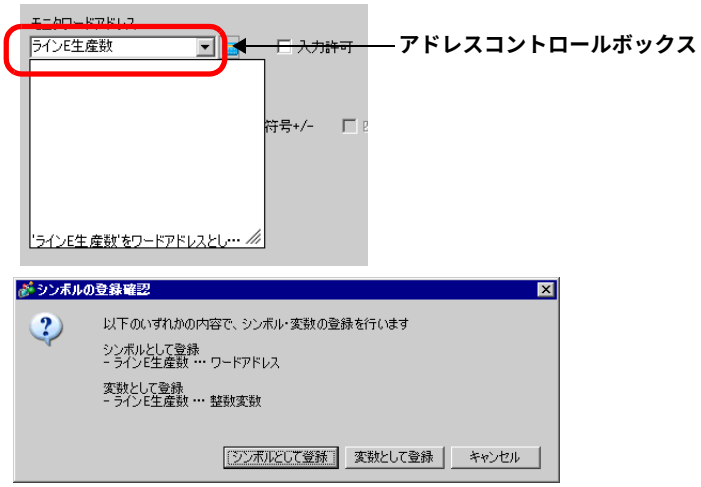
11 [データ形式] で表示するデータの形式（例：16 ビット Dec）を設定します。

12 必要に応じて [警報 / カラー設定] タブ、[表示設定] タブで、データ表示器の色や表示させる文字を設定し、[OK] をクリックします。

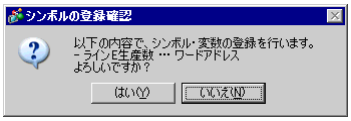
13 同じように、「ライン B 生産数」、「ライン C 生産数」、「ライン D 生産数」のシンボルについてもデータ表示器を設定します。

MEMO

- シンボルを先に登録しておかなくても、アドレスを指定する際に、アドレスコントロールボックスに直接シンボル名を入力することもできます。入力後、[Enter] キーを押すと次のメッセージが表示されますので、[シンボルとして登録] をクリックします。登録したシンボルは、共通設定 [シンボル変数設定] で確認できます。

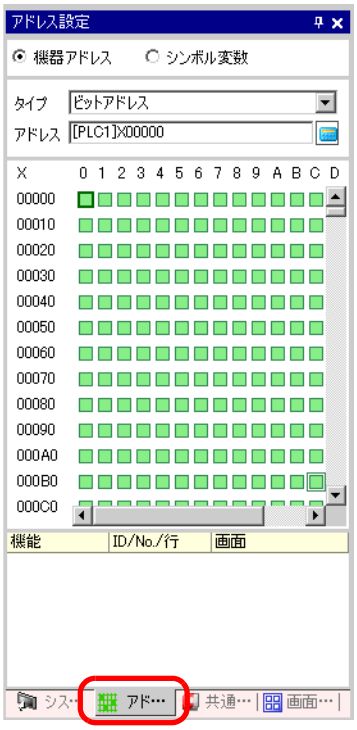


- [システム設定ウィンドウ] の [ロジックプログラム設定] ー [変数登録] で、[変数方式] を選択している場合は、[シンボルとして登録] をクリックすると、タイプ「ワードアドレス」のシンボルとして登録され、[変数として登録] をクリックすると、タイプ「整数変数」の変数として登録されます。
  また、[アドレス方式] を選択している場合は、次のメッセージが表示されます。[はい] をクリックすると、タイプ「ワードアドレス」のシンボルとして登録されます。



■ シンボル登録の状況をリスト表示で確認する

1 ワークスペースの [アドレス設定] タブをクリックします。



MEMO

- ワークスペースに [アドレス設定] タブが表示されていない場合は、[表示 (V)] メニューから [ワークスペース (W)] ― [アドレス設定ウィンドウ (A)] を選択します。

2 [シンボル変数] を選択します。

3 [タイプ] で表示するシンボルのアドレスタイプを一覧から選択します。

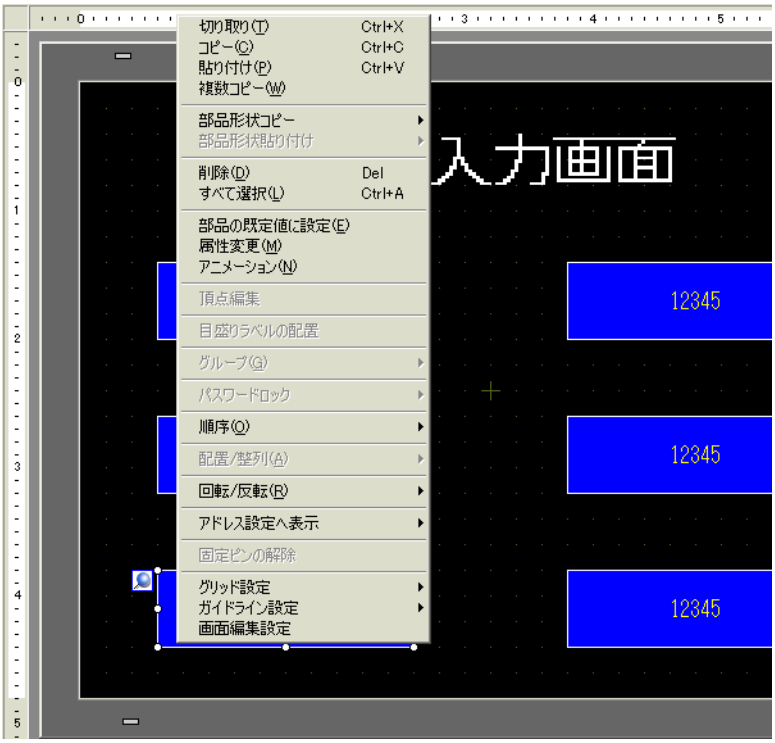
4 [属性] で表示するシンボル変数の接続機器を選択します。シンボル変数のアドレス一覧が表示されます。

MEMO

- 一覧で選択したアドレスはドラッグして作画画面に配置されている部品と関連づけることができます。
- 一覧で選択したアドレスをダブルクリックすると、[シンボル変数設定] 画面を開くことができます。
- アイコンをクリックすると、[未使用シンボル変数一覧] ダイアログボックスが表示され、未使用のシンボル変数が確認できます。一覧に表示されるシンボル変数は一括削除できます。

■ 使用しているアドレスを個別に確認する

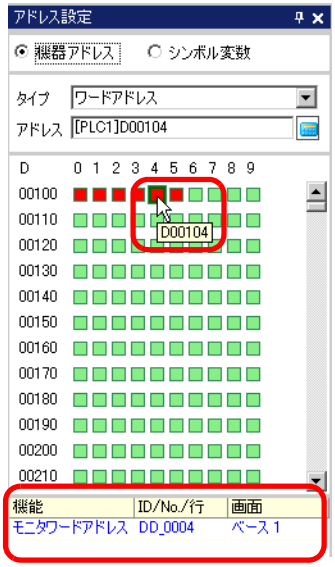
1 アドレス確認をしたい部品を選択し、マウスの右ボタンをクリックしてメニューを表示します。



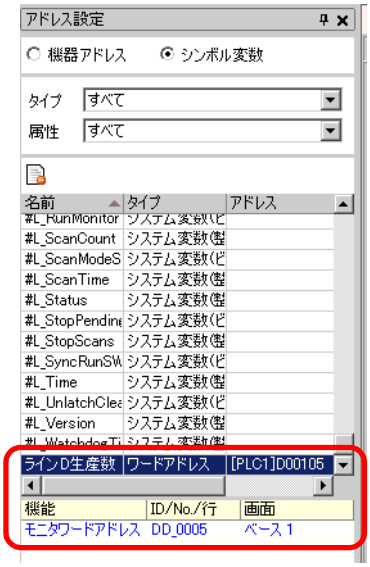
2 [アドレス設定へ表示] にカーソルを合わせると、部品に設定したアドレスが表示されます。

3 表示中のアドレスをクリックすると、[アドレス設定] ウィンドウ上の該当アドレスが自動的に選択されます。

- ビットアドレスまたはワードアドレスを設定している場合は、機器アドレスのアドレス一覧が表示されます。



- シンボル変数を設定している場合は、シンボル変数のアドレス一覧が表示されます。

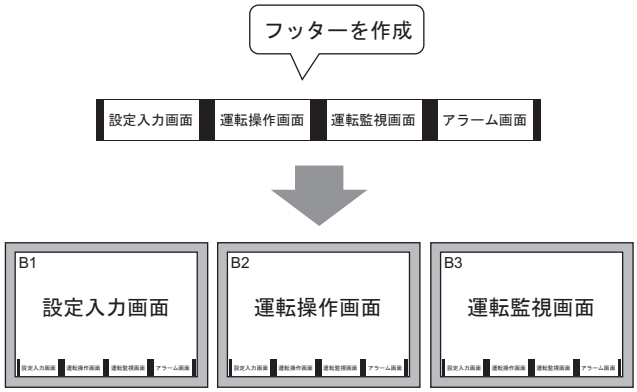


MEMO

- アイコンをクリックすると、[未使用シンボル変数一覧] ダイアログボックスが表示され、未使用のシンボル変数が確認できます。一覧に表示されるシンボル変数は一括削除できます。

5.10 画面にヘッダー / フッターを付けたい

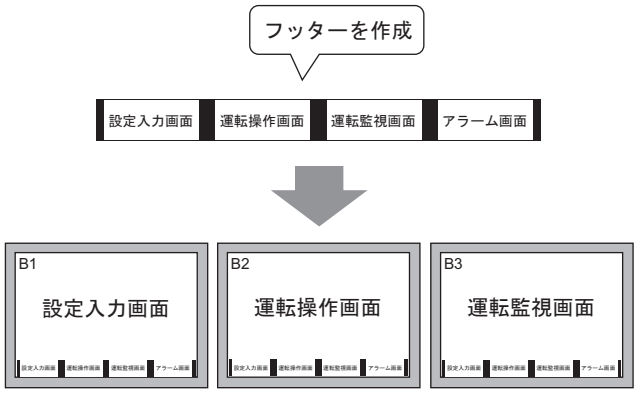
5.10.1 詳細



それぞれの画面にフッターを表示することができます

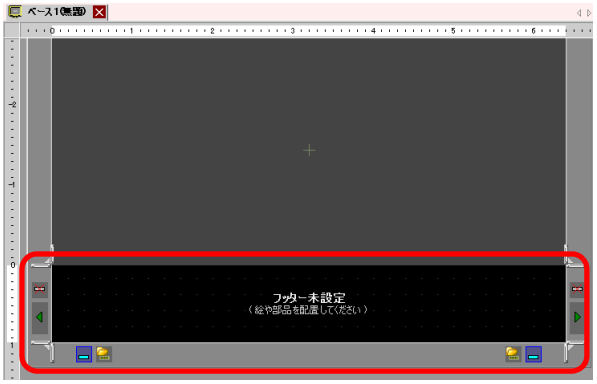
複数の画面でヘッダー / フッターを共有して表示できます。
ヘッダー / フッターは各 20 個まで登録できます。

5.10.2 設定手順



それぞれの画面にフッターを表示することができます

1 [表示 (V)] メニューから [フッター (F)] を選択するか、作画画面下部の [フッターの編集] ボタン をクリックすると、フッター画面エリアが表示されます。



MEMO

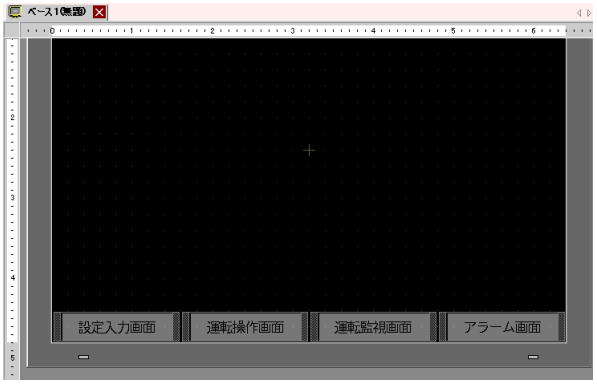
- ヘッダーを設定する場合は、[表示 (V)] メニューから [ヘッダー (H)] を選択するか、作画画面上部の [ヘッダーの編集] ボタン をクリックすると、ヘッダー画面エリアが表示されます。

2 フッター編集領域に画面を作成します。

MEMO

- 作成したフッター領域を削除する場合は、 をクリックします。
- 別のフッターを作成する場合は [次のフッター] ボタン をクリックするか、[フッター選択] ボタン をクリックして [新規作成] を選択します。

3 フッター編集領域の [フッターの編集終了] ボタン をクリックするとフッター編集領域が解除されます。



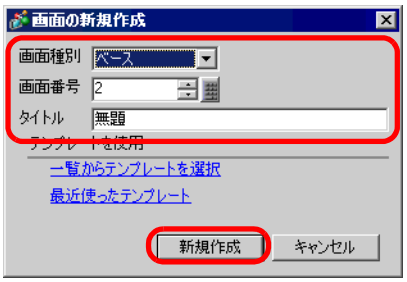
MEMO

- ヘッダー / フッターは各 20 個まで登録できます。
- ヘッダー / フッターにはそれぞれコメントを設定できます。コメントはヘッダー / フッターどちらも右下の位置に表示されます。コメントの設定は、ヘッダー / フッター編集中に [表示 (V)] メニューから [ワークスペース (W)] ー [プロパティウィンドウ (P)] を選択してプロパティウィンドウが表示されたら [コメント] に設定します。
- 解像度の大きい GP 本体の機種から解像度の小さい機種に変更した場合、変更によりはみ出したヘッダー / フッターは表示されません。表示器機種変更後はヘッダー・フッターのサイズや位置を調整する必要があります。

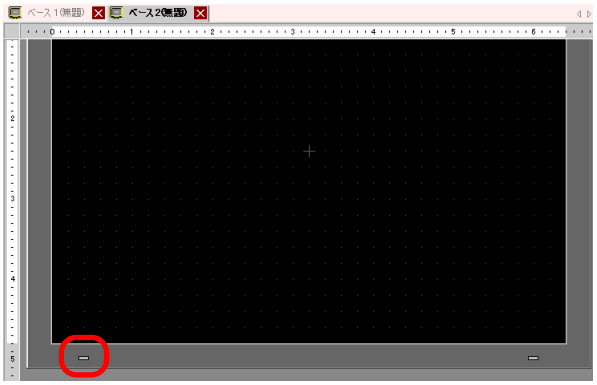
■ ヘッダー / フッターを呼び出す

1 [画面 (S)] メニューから [画面の新規作成] を選択するか、[新規画面作成] ボタン をクリックします。

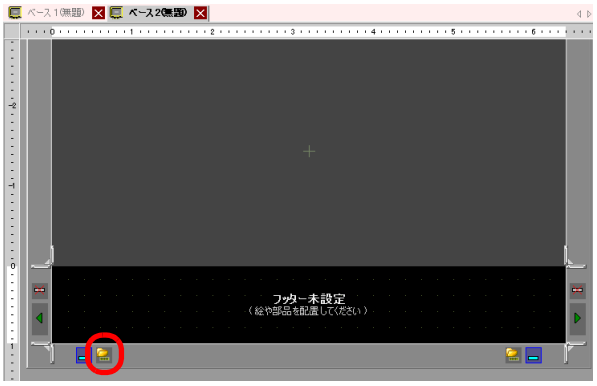
2 [画面の新規作成] ダイアログボックスが表示されるので、[画面種別]、[画面番号]、[タイトル] を設定し、[新規作成] をクリックします。



3 新規ベース画面が表示されます。[表示 (V)] メニューから [フッター (F)] を選択するか、作画画面上部の [フッターの編集] ボタン をクリックします。

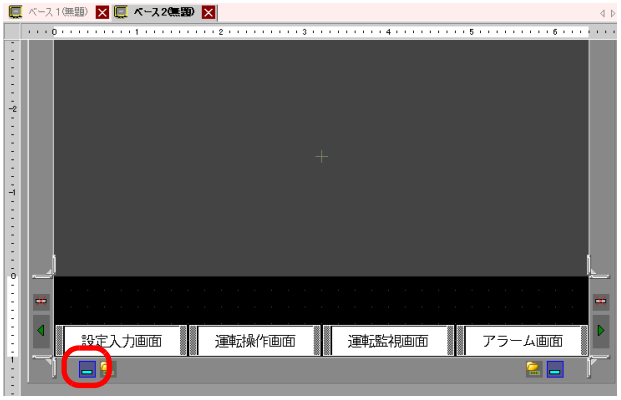


4 フッター画面編集領域が表示されます。[フッター選択] ボタン をクリックします。



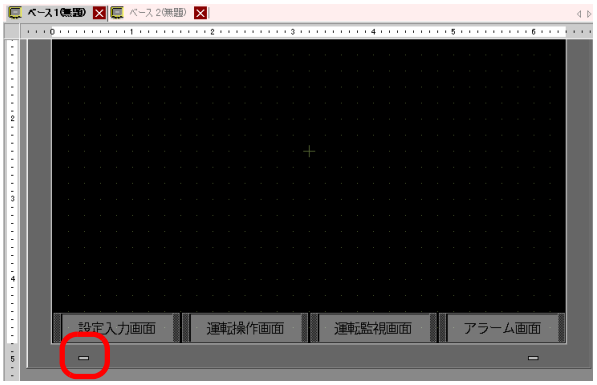
5 登録されているフッターの一覧が表示されます。使用したいフッターを選択し、[OK] をクリックします。

6 選択したフッターが表示されます。編集領域の [フッターの編集終了] ボタン をクリックすると編集領域が解除されます。



■ ヘッダー / フッターを解除する

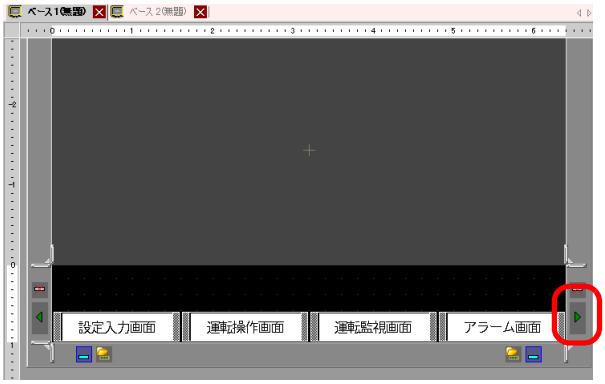
1 フッターを解除したい画面を表示し、[フッターの編集] ボタン をクリックします。



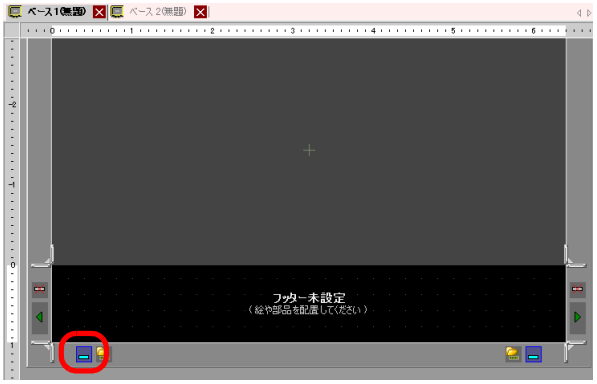
MEMO

- ヘッダーを解除する場合は、[表示 (V)] メニューから [ヘッダー (H)] を選択するか、作画画面上部の [ヘッダーの編集] ボタン をクリックすると、ヘッダー画面エリアが表示されます。

2 フッター画面エリアが表示されたら、[次のフッター] ボタン または [フッター選択] ボタン で、空白フッターを選択します。

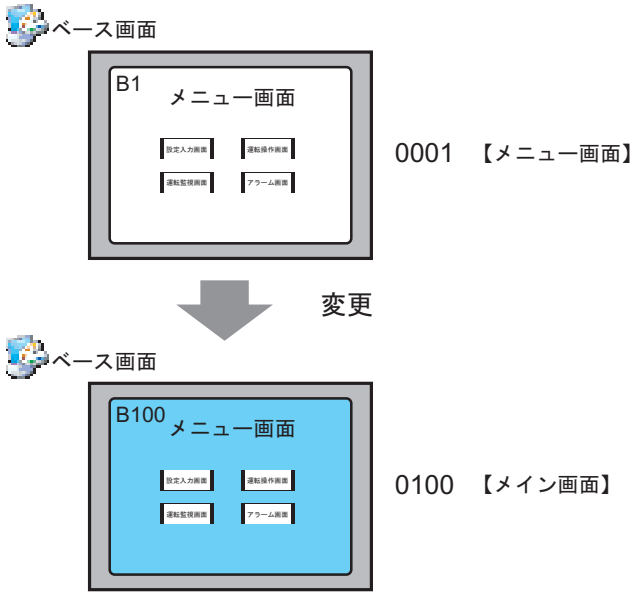


3 編集領域の [フッターの編集終了] ボタン をクリックすると編集領域が解除されます。



5.11 画面番号 / タイトル / 画面の色を変更したい

5.11.1 詳細



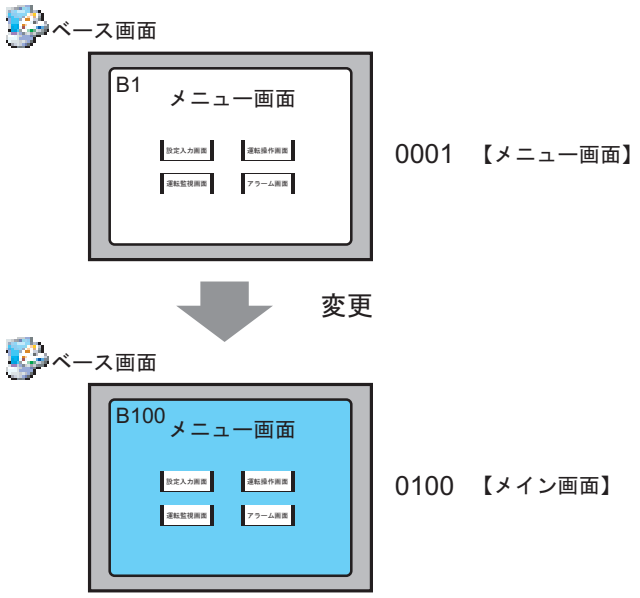
プロジェクトファイル内の画面番号や画面のタイトル、画面の背景色などを変更できます。

5.11.2 設定手順

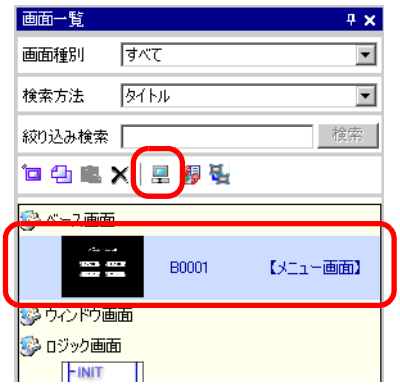
MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「5.17.5 [ワークスペース] の設定ガイド ■ 画面一覧ウィンドウ」(5-130 ページ)



1 [画面一覧ウィンドウ] で属性を変更したい画面を選択し、[属性変更] アイコン をクリックします。



2 [画面属性の変更] ダイアログボックスが表示されます。

MEMO

- 作画画面タブをダブルクリックしても [画面属性の変更] ダイアログボックスが表示されます。

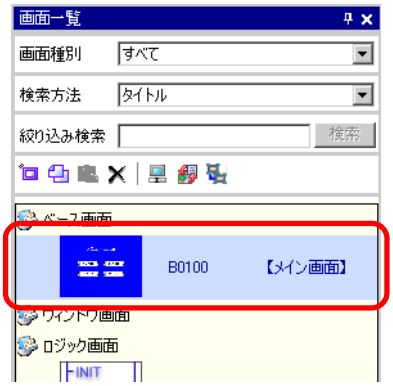
3 [画面番号]、[タイトル]、[背景カラー] を変更します。（例：画面番号「100」、タイトル「メイン画面」）

MEMO

- [背景イメージ] の [参照] をクリックして画像ファイルを選択すると、画面背景に画像が表示できます。
- [セキュリティレベル] を設定するには以下を参照してください。

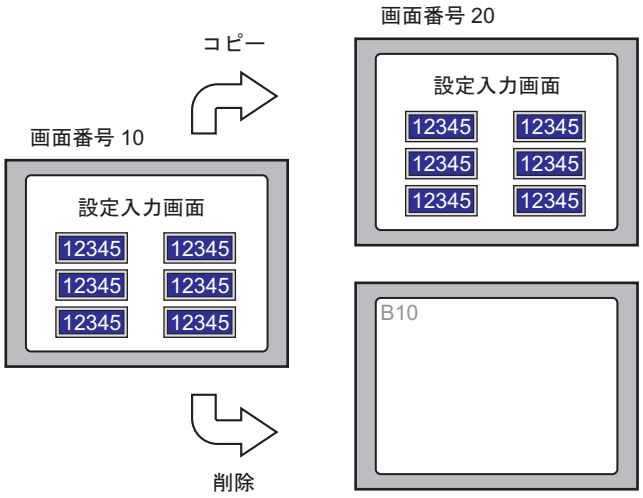
☞「22.2 特定の人だけ使える画面を作りたい」（22-4 ページ）

4 変更した画面の属性が表示されます。



5.12 画面をコピー / 削除したい

5.12.1 詳細



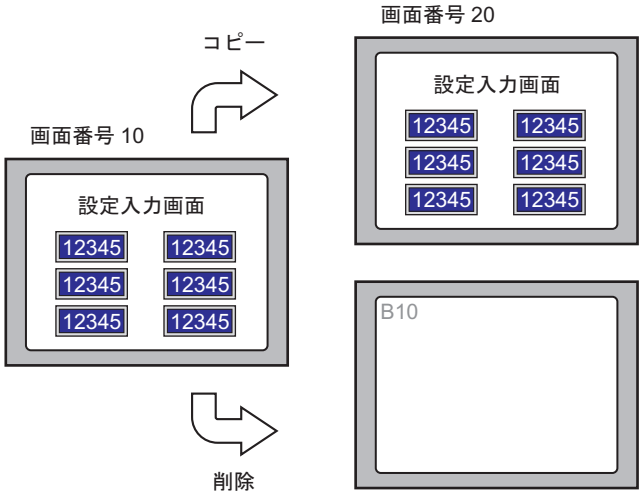
画面のコピーや削除が簡単に行えます。

5.12.2 設定手順

MEMO

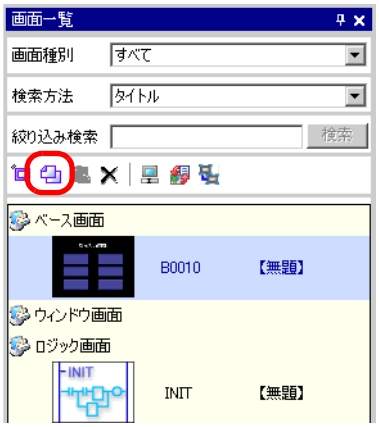
- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「5.17.5 [ワークスペース] の設定ガイド ■ 画面一覧ウィンドウ」(5-130 ページ)



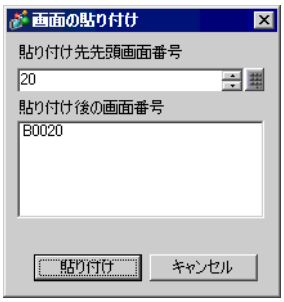
■ 画面をコピーする

1 [画面一覧ウィンドウ] でコピーしたい画面を選択し、[コピー] アイコン をクリックします。

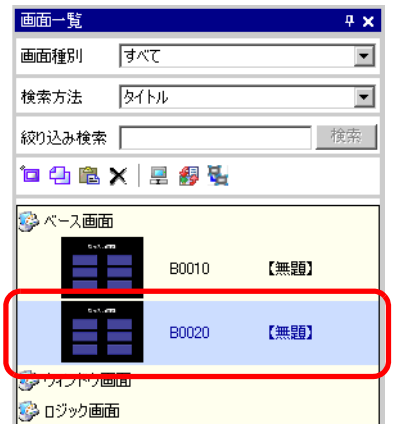


2 続いて、[貼り付け] アイコン をクリックします。

3 [画面の貼り付け] ダイアログボックスが表示されるので、[貼り付け先先頭画面番号]、[貼り付け後の画面番号] を設定し、[貼り付け] をクリックします。（例：[貼り付け先先頭画面番号]20）



4 貼り付けられた画面が [画面一覧ウィンドウ] のリストに縮小で表示されます。

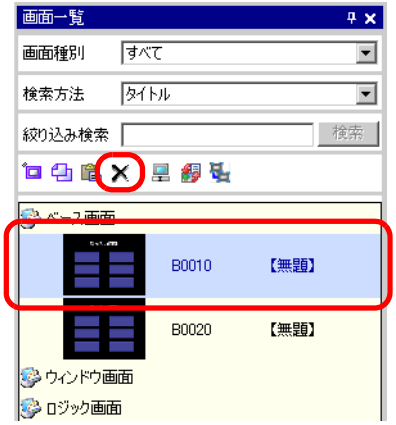


MEMO

- 複数の画面を一度に選択する場合は、[画面一覧ウィンドウ] のリスト上で対象となる画面を [Shift] キー + クリック、または [Ctrl] キー + クリックで選択します。

■ 画面を削除する

1 [画面一覧ウィンドウ] から削除したい画面の縮小画面表示を選択し、[削除] アイコン をクリックします。



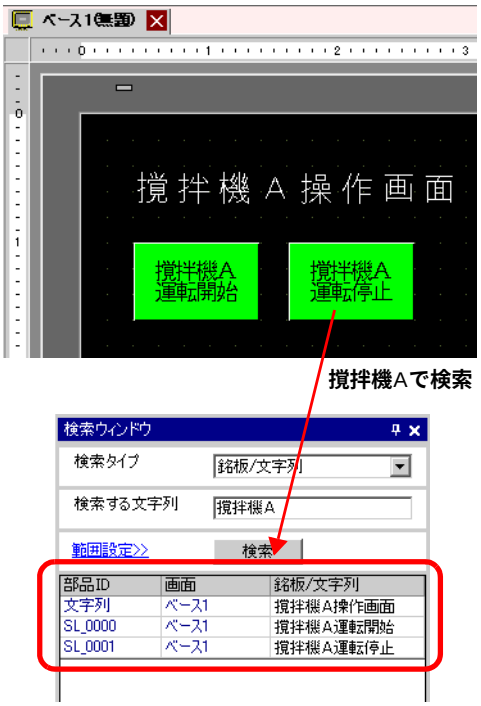
2 [画面一覧ウィンドウ] より画面が削除されます。

MEMO

- 複数の画面を一度に選択する場合は、[画面一覧ウィンドウ] のリスト上で対象となる画面を [Shift] キー + クリック、または [Ctrl] キー + クリックで選択します。

5.13 部品のアドレスや銘板、コメントなどを検索 / 置換したい

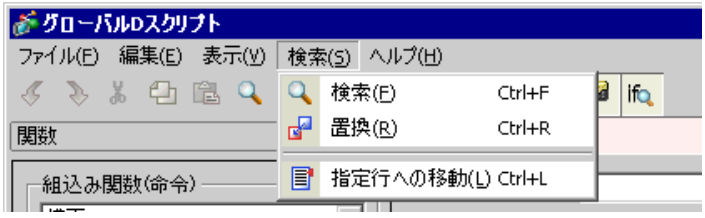
5.13.1 詳細



画面上で使われている部品のアドレスや銘板、コメントなどを検索したり置き換えることができます。

MEMO

- [共通設定] で使用されているアドレス、文字列は検索できません。ベース画面、ウィンドウ画面、ビデオ画面、ヘッダー / フッター上の部品、描画のみ検索できます。
- スクリプトで使用しているアドレスやコメントなどは検索できません。スクリプト内の文字列を検索したい場合は、設定ダイアログボックスの [検索] メニューで実行できます。
  例）グローバル D スクリプト



- ロジック画面では、[検索]、[置換] はできません。

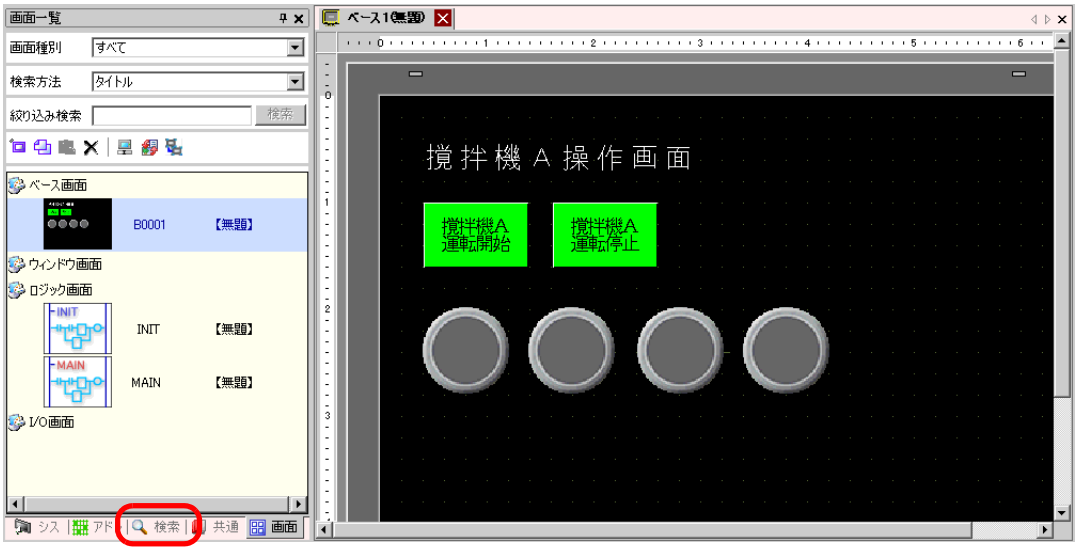
5.13.2 設定手順

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「5.17.5 [ワークスペース] の設定ガイド ■ 検索ウィンドウ」(5-135 ページ)

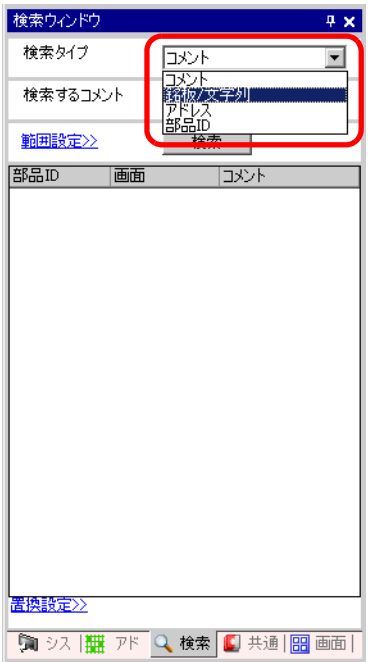
1 ワークスペースの [検索ウィンドウ] タブをクリックします。



MEMO

- ワークスペースに [検索ウィンドウ] タブが表示されていない場合は [表示 (V)] メニューから [ワークスペース (W)] ― [検索ウィンドウ (F)] を選択します。

2 次のような [検索ウィンドウ] が表示されます。検索する対象を [検索タイプ] から選択します。(例 : [銘板 / 文字列])

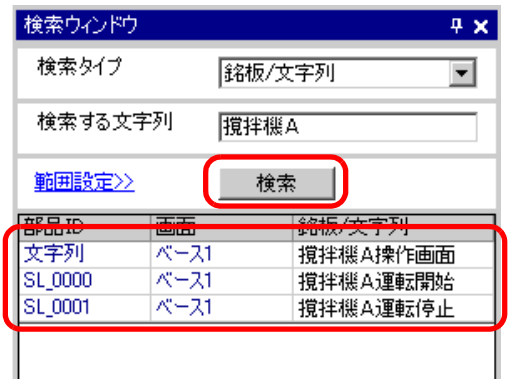


3 検索する文字列（例：撹拌機 A）を入力します。

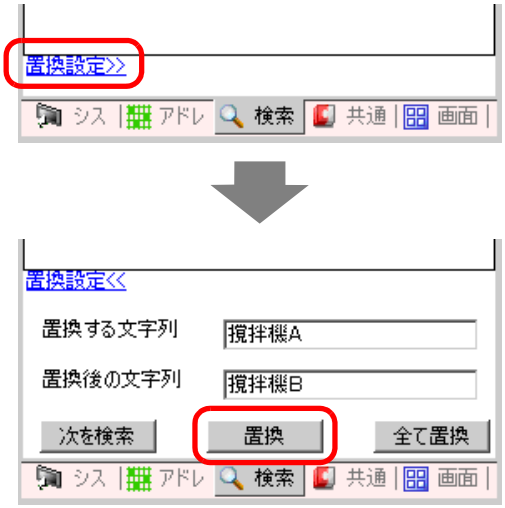
MEMO

- [コメント] や [銘板 / 文字列] で検索する場合は、次のような検索もできます。
  例 1) [検索するコメント] に [アラーム？] と入力
  → [アラーム A] は検索できますが、[アラーム AB] のように文字数が異なるものは検索できません。
  例 2) [検索するコメント] に [アラーム＊] と入力
  → [アラーム A]、[アラーム AB] の両方が検索できます。

4 [検索] をクリックします。検索結果が表示されます。



5 検索した文字列を別の文字列に置換したい場合は、[置換設定] をクリックします。検索結果の中で置換したい部品の行を選択してから、変更したい文字列を入力して [置換] をクリックします。

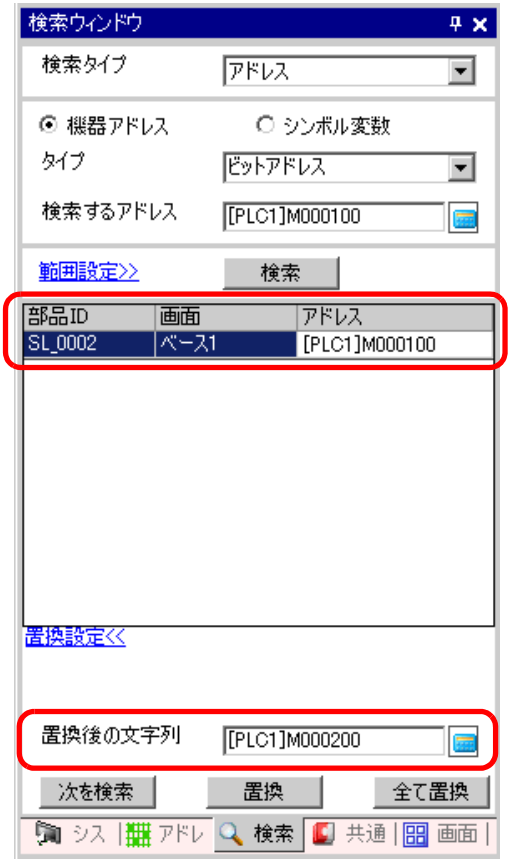


MEMO

- 検索結果のうち複数の部品の文字列を一括で置換したい場合は、CTRL キーを押しながら該当する行を選択します。SHIFT キーを使って連続する複数行を選択することもできます。

MEMO

- [コメント]、[銘板 / 文字列] および [アドレス] のみ置換できます。[部品 ID] の置換はできません。
- [アドレス] を置換する場合は、検索結果より置換するアドレスを選択し、[置換後の文字列] を入力後、[置換] または [全て置換] をクリックします。



5.14 部品の属性をまとめて変更したい

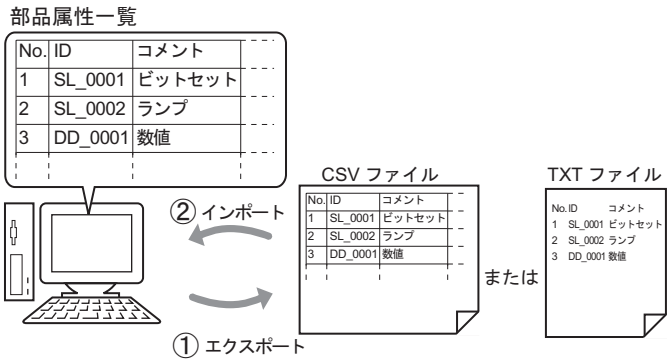
5.14.1 詳細

プロジェクトで使用している部品の属性は、CSV 形式またはテキスト形式の一覧ファイルとして保存（エクスポート）できます。保存したファイルは、Microsoft Excel やメモ帳などを利用して編集することができます。編集した属性一覧のファイルをプロジェクトファイルにインポートすれば、設定値が一括で変更できます。

また、同じ種類の部品であれば、作画画面上でまとめて選択し、設定を一括で変更することができます。

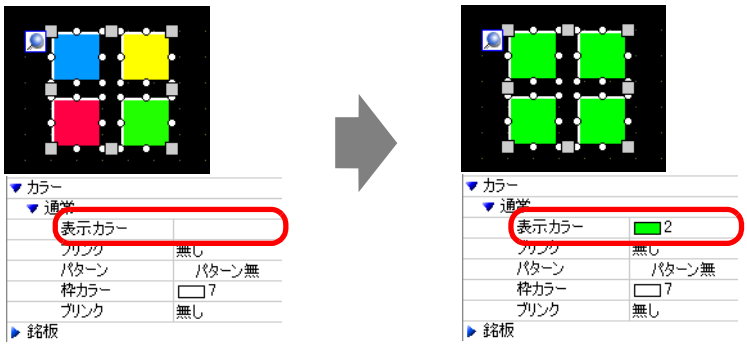
■ ファイルに出力して一括で変更する

プロジェクトファイルに登録されている部品の属性一覧を CSV 形式またはテキスト形式のファイルに保存（エクスポート）します。Microsoft Excel やメモ帳などを利用して保存したファイルの設定値を編集し、元のプロジェクトファイルにインポートすれば、部品の属性が一括で変更できます。



■ 作画画面上で共通属性を一括で変更する

同じ機能を持つ、同じ種類の部品をまとめて複数選択すると、属性が一括で変更できます。



5.14.2 設定手順

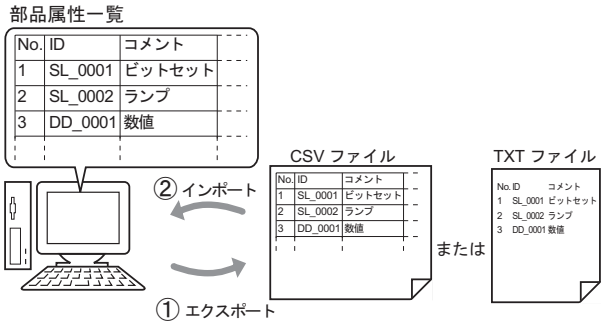
MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「5.17.9 [画面] の設定ガイド ■ 画面表示切替」(5-198 ページ)
☞「5.17.5 [ワークスペース] の設定ガイド ■ プロパティウィンドウ」(5-132 ページ)

■ ファイルに出力して一括で変更する

部品の属性一覧を CSV 形式（またはテキスト形式）でエクスポートし、設定値を編集して元のプロジェクトファイルにインポートすれば属性の一括変更ができます。

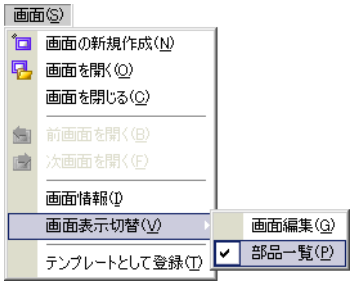


MEMO

- インポートしたときに属性が更新できるのは、[スイッチ / ランプ] と [データ表示器] のアドレスと銘板のみです。

◆エクスポート

1 [画面 (S)] メニューから [画面表示切替 (V)] ― [部品一覧 (P)] をクリックします。



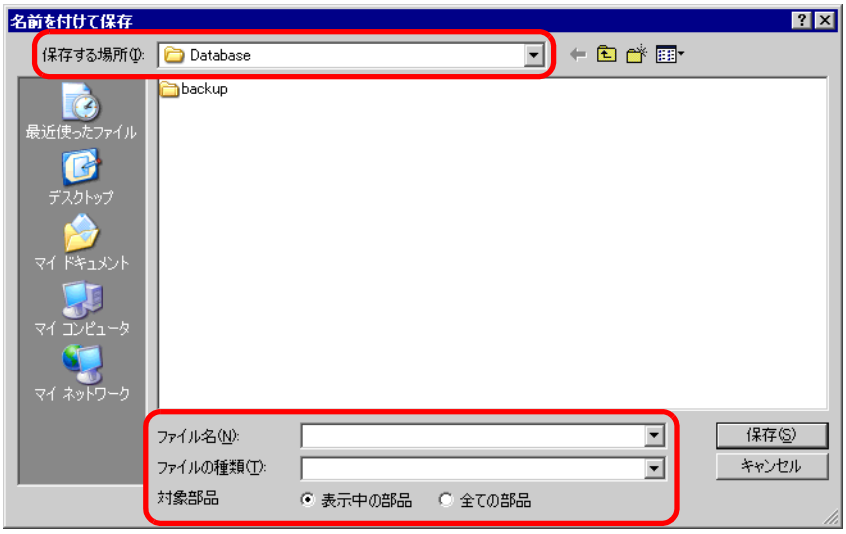
作画画面から部品一覧画面に切り替わります。

2 [部品] で選択されている部品の属性が一覧表示されます。

MEMO

- [描画]、[トリガアクション]、[D スクリプト] は一覧表示されません。

3 [エクスポート] をクリックし、次のダイアログボックスで [保存する場所 (I)]、[ファイル名 (N)]、[ファイルの種類 (T)]、[対象部品] を設定し、[保存 (S)] をクリックします。



指定した形式で属性一覧のファイルが出力され、エクスポートは完了です。

◆編集

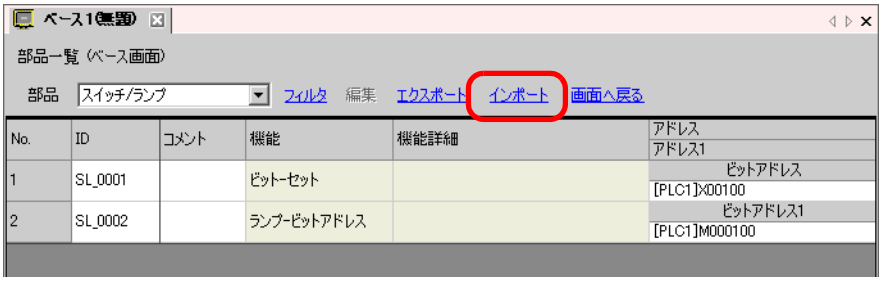
4 エクスポートしたファイルのアドレスと銘板を Microsoft Excel やメモ帳などで編集します。
編集したファイルは、エクスポートのときと同様に CSV 形式またはテキスト形式で上書き保存します。

MEMO

- 編集は [スイッチ / ランプ] と [データ表示器] のアドレスと銘板のみ有効です。それ以外の項目を編集しても属性の更新はされません。

◆インポート

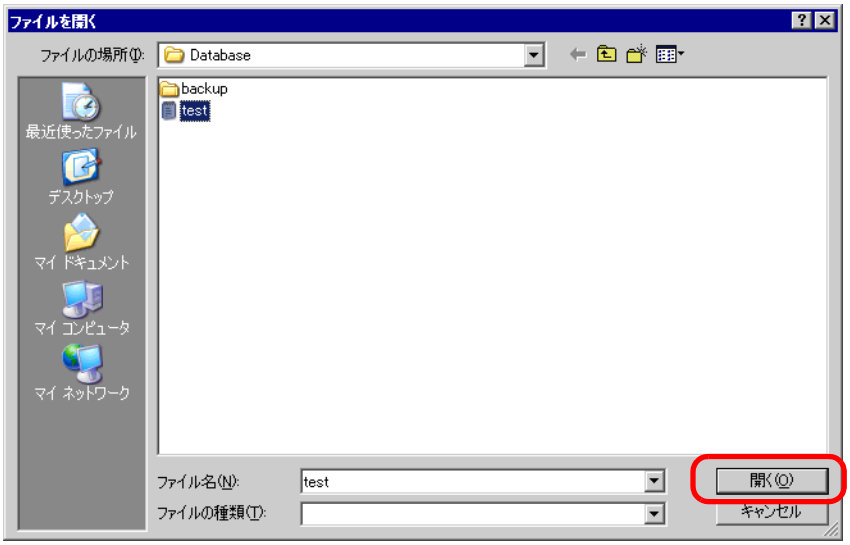
5 部品一覧画面で [インポート] をクリックします。



MEMO

- インポートの際には、プロジェクトファイル内の部品の機能とファイルに記述されている機能がすべて一致する場合のみ属性が更新されます。1 つでも機能が異なる場合、その部品の更新は行われません。

6 次のダイアログボックスが表示されるので、インポートするファイルを指定して [開く] をクリックします。



7 インポートが完了すると、次のメッセージが表示されます。
インポート結果を確認する場合は、[はい] をクリックするとログファイルが表示されます。

MEMO

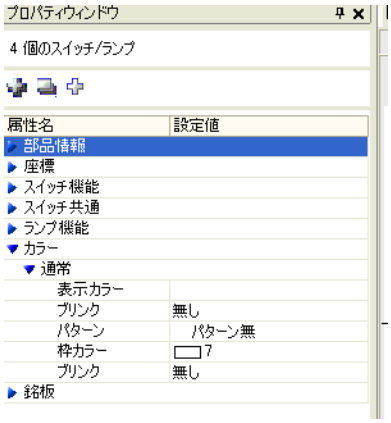
- インポートログファイルには、更新が成功した部品のみ、種別ごとに作画画面上の順で表示されます。

```
部品一覧インポート

Date   :2007/07/02 10:42:47
File   :test.csv
Project:abc.prx

[スイッチ/ランプ]
editor No.1   <-- file No.1
       No.2   <-- file No.2

[データ表示部品]
editor No.1   <-- file No.1
```

■ 作画画面上で共通属性を一括で変更する

同じ機能を持つ、同じ種類の部品をまとめて選択し、属性を一括変更します。

1 ワークスペースの [プロパティウィンドウ] タブをクリックします。



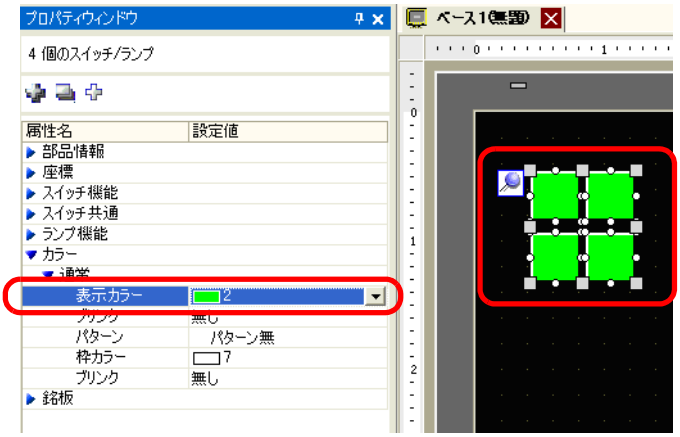
MEMO

- ワークスペースに [プロパティウィンドウ] タブが表示されていない場合は、[表示 (V)] メニューから [ワークスペース (W)] ー [プロパティウィンドウ (P)] を選択します。

2 [Shift] キーを押しながら、属性を変更したい部品をマウスで選択します。

3 設定値が同じ項目は設定内容が表示されます。設定値の異なる項目は空白で表示されます。

4 空白の項目に設定値を入力すると、選択しているすべての部品の属性が変更されます。

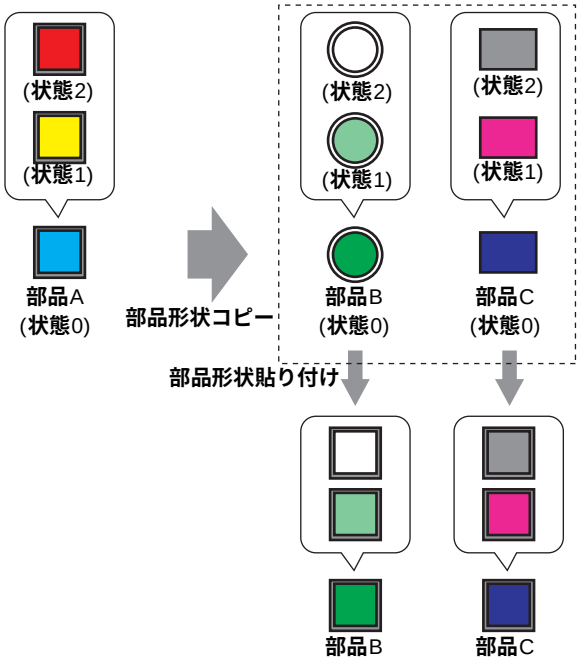


MEMO

- 複数の機能を持つ部品は、複数選択してもその機能はプロパティウィンドウに表示されません。

5.15 部品形状をまとめて変更したい

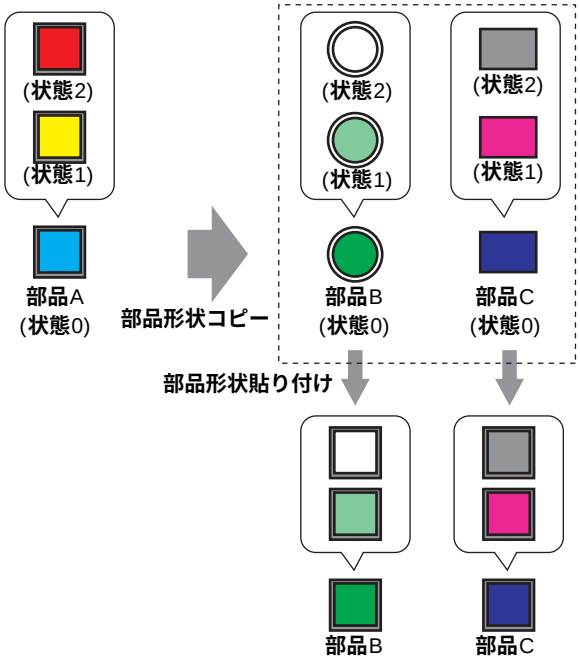
5.15.1 詳細



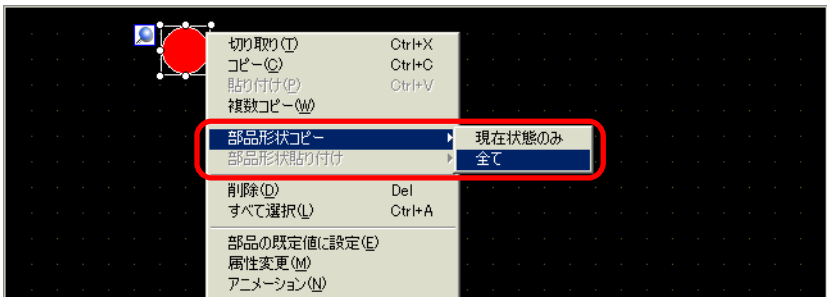
配置した部品の 1 つを元にして部品形状をコピーし、別の部品の形状をまとめて変更することができます。表示している状態の形状だけでなく、部品に登録しているすべての状態の形状をコピーしてまとめて貼り付けることもできます。

5.15.2 設定手順

部品の各状態の形状を別の部品に一括でコピーします。



1 形状をコピーする部品を右クリックして表示されたメニューから [部品形状コピー] ー [全て] をクリックします。

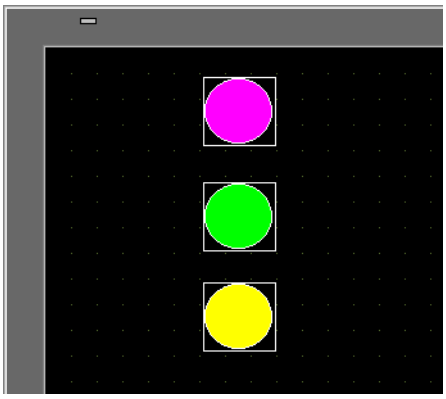


MEMO

- [編集 (E)] メニューから [部品形状コピー] を選択することもできます。
- [現在状態のみ] を選択した場合は、画面に表示されている形状のみコピーされます。

2 [Shift] キーを押しながら形状を貼り付けたい部品を選択し、右クリックして表示されたメニューから [部品形状貼り付け] ー [全て] をクリックします。

3 部品形状が変更されます。

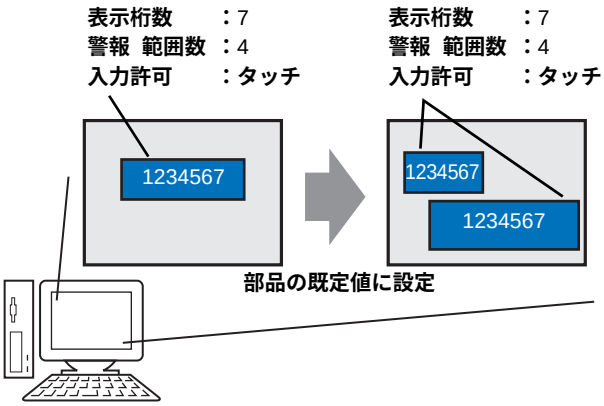


MEMO

- コピー先に設定されている状態数がコピー元よりも少ないときは、該当状態数分の形状のみ変更されます。多いときは、該当しない状態数には最初に配置した形状が残ります。

5.16 配置した部品や図形を既定値に設定したい

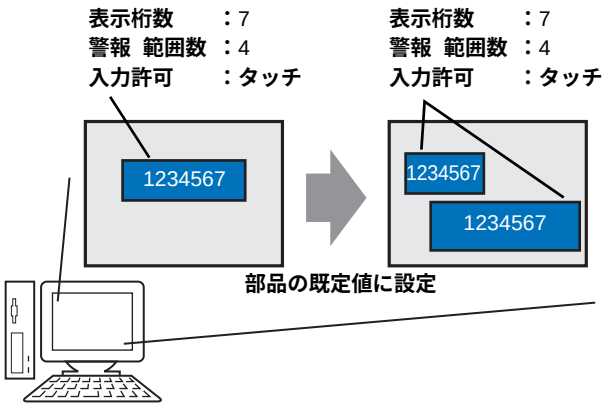
5.16.1 詳細



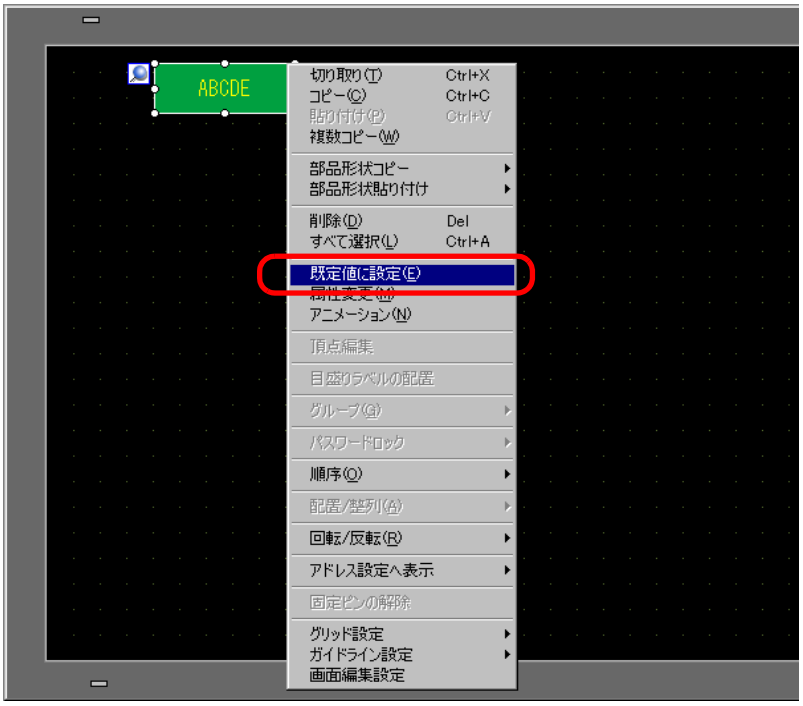
配置した部品や図形の属性を既定値として設定しておくと、異なる画面でも部品や図形を配置したときに、同じ属性になります。

アプリケーションを終了するまで既定値の設定は記憶されるので、異なるプロジェクトや画面間での部品や図形のコピー・貼り付け作業をする必要がなく、作画工数の削減に役立ちます。

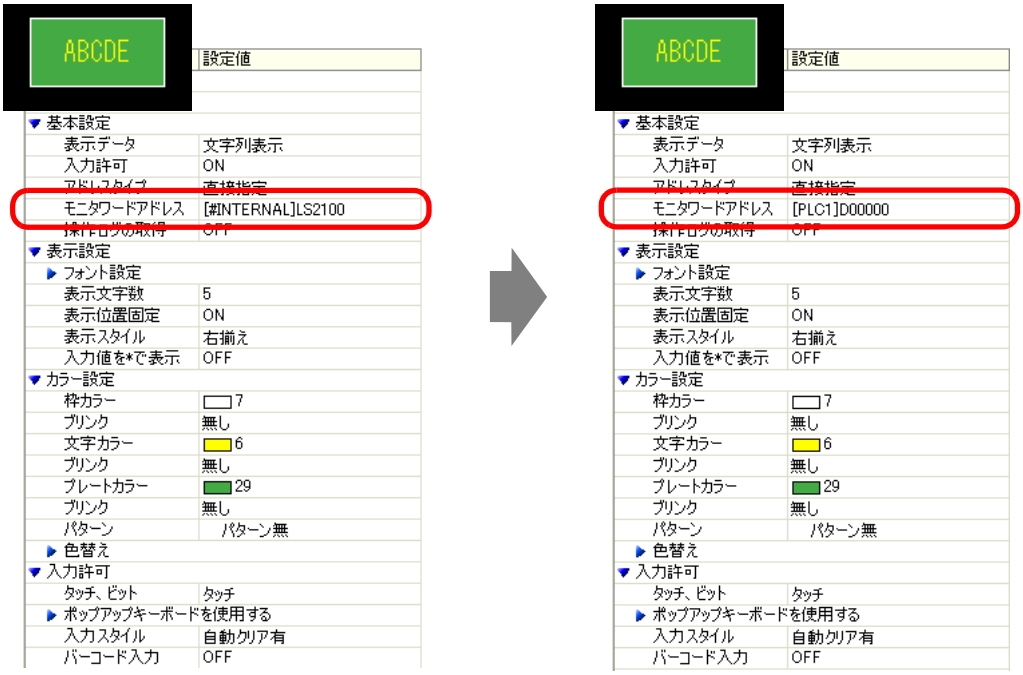
5.16.2 設定手順



1 既定値として設定したい部品を選択し、マウスの右ボタンをクリックして表示されるメニューから [既定値に設定 (E)] を選択します。



2 よく使う部品を既定値として設定しておくと、接続機器属性とアドレスの設定を使用画面に合わせて変更するだけで部品の配置は完了です。



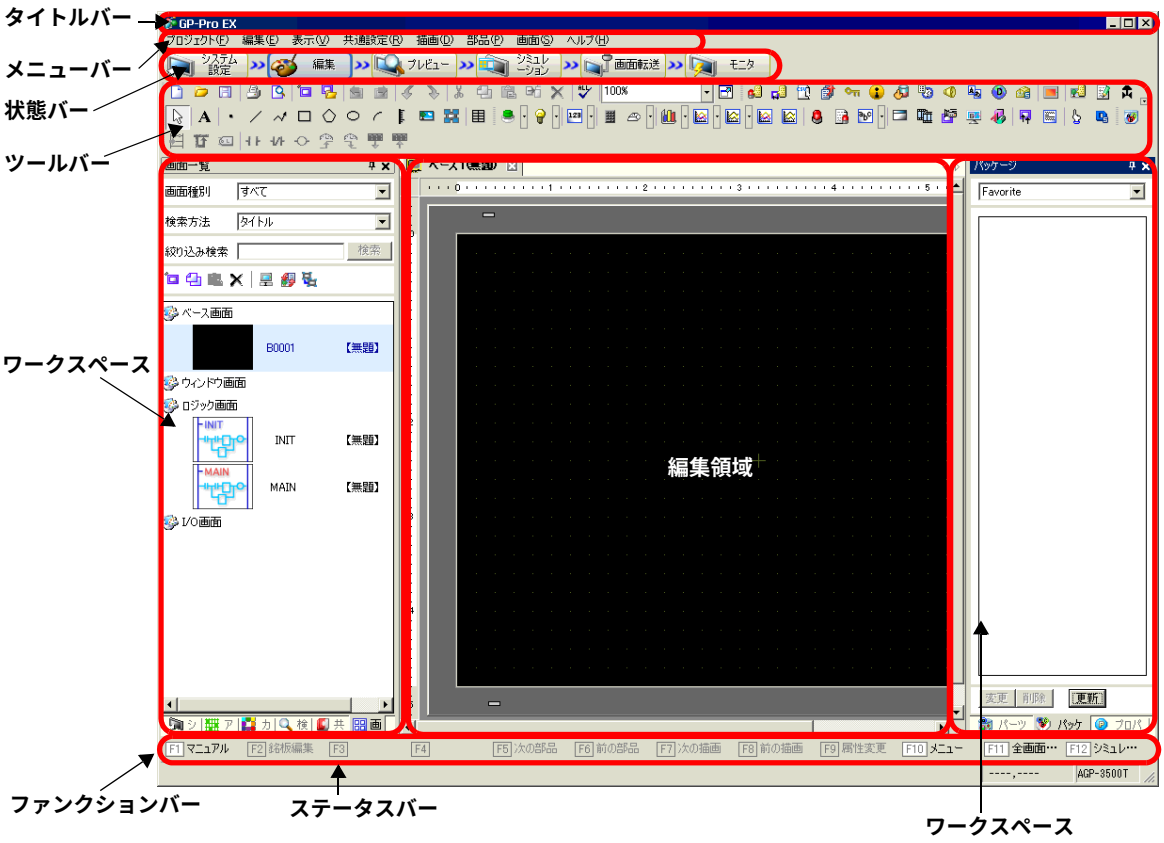
MEMO

- 既定値の設定を解除するには、[表示 (V)] メニューの [オプション設定 (O)] ー [画面編集] の [既定値をクリア] をクリックするか、GP-Pro EX を終了すると、初期設定に戻ります。

5.17 設定ガイド

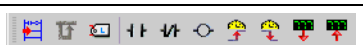
5.17.1 メインウィンドウの各部名称

GP-Pro EX の基本的な画面の各部名称と役割を説明します。



設定項目	設定内容
タイトルバー	プロジェクトファイル名や画面のタイトルを表示します。
メニューバー	GP-Pro EX を操作するためのメニューが表示されています。これらを選択するとプルダウンメニューが表示されます。

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="2">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td colspan="2">状態バー</td><td>作業の状態を [システム設定]、[編集]、[プレビュー]、[画面転送]、[モニタ] から選択し、それぞれの画面に切り替えます。
• システム設定
システム設定画面を表示します。最後にシステム設定ウィンドウで選択した項目の設定画面が表示されます。
☞「5.17.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド」(5-142 ページ)
• 編集
編集画面に切り替えます。作画や共通設定を行います。
• プレビュー
プレビュー画面に切り替えます。作成した画面の表示状態を確認できます。またプレビュー表示した画面をクリップボードへコピーしたり JPEG ファイル形式で保存することができます。
• シミュレーション
シミュレーションを開始します。プロジェクトファイル転送前に、PLC などに接続することなく動作の確認ができます。
• 画面転送
転送ツールが起動します。
☞「33.10 転送ツールの設定ガイド」(33-57 ページ)
• モニタ
表示器と接続している場合、表示器に転送したロジックプログラムの動作状況をパソコン上で見ることができます。
☞「29.11 パソコン上でロジックプログラムをモニタしたい（オンラインモニタ）」(29-73 ページ)</td></tr>
<tr><td colspan="2">ツールバー</td><td>部品、描画、編集など、コマンドを表すアイコンが表示されています。これらのアイコンをクリックすると、その操作を実行します。
ツールバーは [表示 (V)] メニューの [ツールバー (T)] で表示 / 非表示の切り替えができます。またバーをドラッグすることにより画面の上下左右の好きな位置に移動することもできます。ツールバーには以下の種類があります。
MEMO
• ツールバーは使用頻度などにあわせてカスタマイズすることもできます。[表示 (V)] メニューの [オプション設定 (O)] で [ツールバー] を選択し、[ツールバー設定] をクリックすると、ツールバー設定ウィンドウが表示されます。アイコンの追加や削除ができます。ツールバー設定ウィンドウは、ツールバー上のアイコンを右クリックしても表示できます。</td></tr>
<tr><td rowspan="10">ツールバー</td><td>標準</td><td> </td></tr>
<tr><td>編集</td><td> </td></tr>
<tr><td>表示</td><td> </td></tr>
<tr><td>描画</td><td> </td></tr>
<tr><td>部品</td><td> </td></tr>
<tr><td>命令</td><td>  </td></tr>
<tr><td>パッケージ</td><td> </td></tr>
<tr><td>共通設定</td><td> </td></tr>
<tr><td>画面ブロック</td><td> </td></tr>
<tr><td>部品ステート切替</td><td> </td></tr>
</table>

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
ワークスペース		ウィンドウを表示します。ウィンドウをドラッグすることにより好きな位置に移動し、自由に配置することもできます。表示されるウィンドウには以下の種類があります。
	システム設定ウィンドウ・アドレス設定ウィンドウ・共通設定ウィンドウ・画面一覧ウィンドウ・検索ウィンドウ	[システム設定ウィンドウ]、[アドレス設定ウィンドウ]、[共通設定ウィンドウ]、[画面一覧ウィンドウ]、[検索ウィンドウ] を表示します。 • **システム設定ウィンドウ** ☞**「■ システム設定ウィンドウ」**(5-123 **ページ**) • **アドレス設定ウィンドウ** ☞**「■ アドレス設定ウィンドウ」**(5-125 **ページ**) • **共通設定ウィンドウ** ☞**「■ 共通設定ウィンドウ」**(5-127 **ページ**) • **画面一覧ウィンドウ** ☞**「■ 画面一覧ウィンドウ」**(5-130 **ページ**) • **検索ウィンドウ** ☞**「■ 検索ウィンドウ」**(5-135 **ページ**)
	プロパティウィンドウ	選択された部品や画面の持つ属性を表示し、属性の確認や編集をするためのウィンドウです。 ☞**「■ プロパティウィンドウ」**(5-132 **ページ**) **MEMO** • GP 初回起動時にはポップアップで表示されます。
	パーツツールボックス	部品の形状を一覧表示するウィンドウです。使用したい部品の形状を選択し、ドラッグ&ドロップで画面に配置できます。 ☞**「■ パーツツールボックス」**(5-138 **ページ**)
	パッケージ	[パッケージの一覧] に登録されているパッケージ内の図形を一覧表示します。 ☞**「■ パッケージ」**(5-139 **ページ**)
	カラー設定	機種設定で選択した機種で使用できるカラーパレットを表示します。選択したカラーを部品のカラー属性にドラッグ&ドロップするとカラーの変更ができます。 ☞**「■ カラー設定」**(5-140 **ページ**)
	画面データー覧ウィンドウ	画面編集、キーボード編集において画面上に配置された描画、部品を一覧表示します。 ☞**「■ 画面データー覧ウィンドウ」**(5-133 **ページ**)
	コメント一覧ウィンドウ	☞**「**5.17.5 [**ワークスペース**] **の設定ガイド ■ コメント一覧ウィンドウ」**(5-141 **ページ**)
	現在値一覧ウィンドウ	☞**「**29.14.2 **ロジック機能用[ワークスペース]の設定ガイド ■ 現在値一覧ウィンドウ」**(29-150 **ページ**)
	エラーチェックウィンドウ	作成した画面のエラー内容を一覧表示します。ウィンドウに表示されたアイコンからエラーチェックを実行することができます。 ☞**「■ エラーチェック」**(5-184 **ページ**)
	PID **モニタウィンドウ**	☞**「**29.14.2 **ロジック機能用[ワークスペース]の設定ガイド ■** PID **モニタウィンドウ」**(29-146 **ページ**)

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
編集領域	画面を編集する領域です。編集領域に表示される画面の種類は、主にベース画面、ウィンドウ画面、または [共通設定] の各機能の登録、設定画面などです。編集領域は [表示 (V)] メニューの [画面ブロック (B)] で表示方法を変更できます。またベース画面、ウィンドウ画面を表示している場合は、[表示 (V)] メニューの [ズーム (Z)] や [言語切替 (L)] などを使用して表示状態を切り替えできます。
ステータスバー	設定している本体機種や編集領域上にあるマウスポインタの座標位置が表示されます。
ズームボックス	カーソル周辺の画像がこのウィンドウに拡大表示されます。 [表示 (V)] メニューの [ズームボックス] で表示 / 非表示を切り替えたり拡大倍率を指定できます。 **MEMO** • ウィンドウ内でマウスの右クリックをするとメニューが表示されます。このメニューから表示 / 非表示の切り替えや拡大倍率の指定ができます。
ファンクションバー	ファンクションキーに割り当てた操作を一覧で表示します。ファンクションバーをクリックすると、割り当てられた操作を直接起動できます。 ☞「■ ファンクションバー」(5-182 ページ)

5.17.2 [新規作成] の設定ガイド

[プロジェクト (F)] メニューの [新規作成 (N)] を選択するか をクリックすると、次のダイアログボックスが表示されます。表示器の機種を設定します。

■ 表示器の機種設定

設定項目		設定内容
シリーズ選択		使用する表示器を [GP2000 Series]、[GP3000 Series]、[IPC Series (PC/AT)]、[LT3000 Series]、[ST3000 Series] から選択します。 **MEMO** • [GP2000 Series] を選択した場合は次のダイアログボックスが表示されます。アイコンをクリックすると GP-Pro EX を終了し、GP-PRO/PB3 を起動します。ただし、GP-PRO/PB 3 がインストールされていない場合は起動しません。
表示器タイプ		表示器タイプを設定します。
	シリーズ	シリーズを選択します。
	機種	選択した [シリーズ] で設定できる表示器の機種を設定します。

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
	設置方法	表示器の設置方法を [横型]、[縦型] から選択します。[IPC Series (PC/AT)]、[LT3000 Series] を選択している場合は表示されません。
	画面サイズ	[IPC Series (PC/AT)] を選択している場合は、画面データの表示サイズを設定します。
仕様		[表示器タイプ] で選択した表示器の仕様が表示されます。

■ 接続機器ドライバ設定

表示器の機種設定で [次へ] をクリックすると次のダイアログボックスが表示されます。接続機器を選択します。

設定項目		設定内容
接続機器		接続機器を設定します。
	メーカー	接続機器のメーカー名を選択します。
	シリーズ	[メーカー] で選択した接続機器のシリーズを選択します。
	最近使った接続機器	[プロジェクトファイルの新規作成] ダイアログボックスで設定されたことのある、接続機器のメーカー名とシリーズ名を新しい順番に最大 3 件表示します。各表示をクリックすると、[メーカー]、[シリーズ] に設定されます。
	システムエリアを使用する	接続機器に GP 内部のシステムデータエリアを割り付けるかどうかを指定します。 ☞「5.17.6 [**システム設定ウィンドウ**] **の設定ガイド ◆ システムエリア設定**」(5-168 **ページ**)
	この接続機器のマニュアルを見る	選択した接続機器について記載されている「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」のページを表示します。
接続方法		GP と接続機器の接続方法を設定します。
	ポート	接続機器に割り当てるポートを [COM1]、[COM2]、[イーサネット (UDP)]、[イーサネット (TCP)] から選択します。
機器接続マニュアルへ		GP-Pro EX 機器接続マニュアルのトップページを表示します。

5.17.3 [プロパティ] の設定ガイド

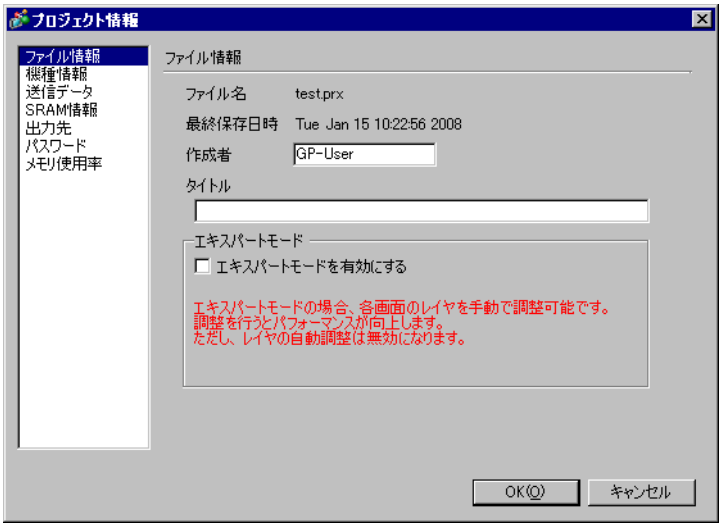
[プロジェクト (F)] メニューから [プロパティ (I)] を選択して表示される各項目についてご説明します。

■ プロジェクト情報

プロジェクトファイルを GP に送信しても問題がないか確認するために画面の情報を表示します。

◆ファイル情報

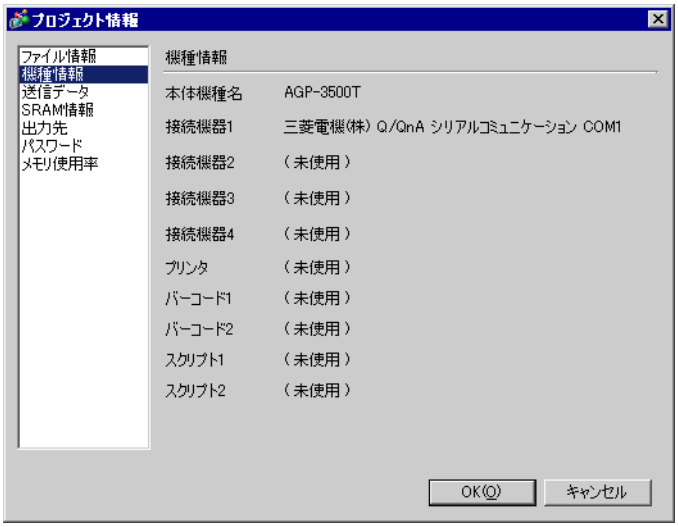
プロジェクトファイル自身に関する情報を表示します。



設定項目	設定内容
ファイル名	プロジェクトファイル名を表示します。
最終保存日時	最後にプロジェクトファイルを保存した年月日と曜日、時刻を表示します。 フォーマットは [曜日（省略英語表記）]、[月（省略英語表記）]、[日]、[時刻（hh:mm:ss）]、[年] です。
作成者	プロジェクトファイルの作成者の名前を設定します。最大 30 文字まで入力できます。
タイトル	プロジェクトファイルに対するコメントを設定します。最大 60 文字まで入力できます。
エキスパートモードを有効にする	エキスパートモードを有効にするかどうかを設定します。 ☞「20.7.2 [**プロジェクト情報**]－[**ファイル情報**]－[**エキスパートモード**]**の設定ガイド**」(20-47 **ページ**)

◆機種情報

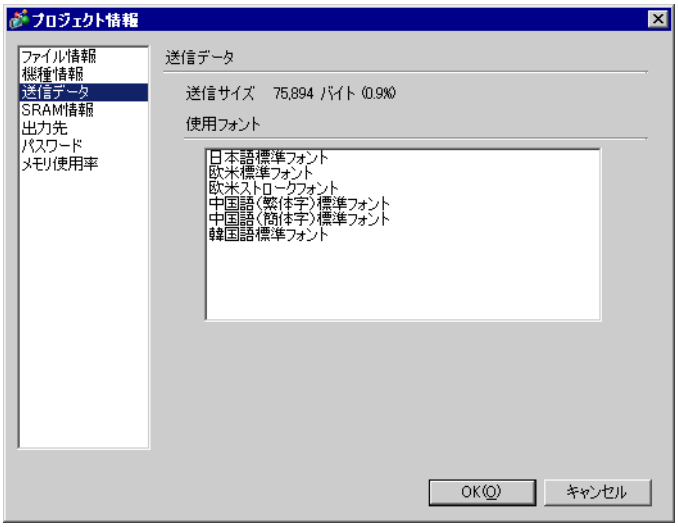
設定されている接続機器、周辺機器のタイプまたは名称を表示します。使用していない場合は [未使用] と表示されます。



設定項目	設定内容
本体機種名	表示器の機種名を表示します。
接続機器 1	設定している接続機器のドライバ（タイプ）を表示します。 ☞「5.17.6 [**システム設定ウィンドウ**]**の設定ガイド** ■ [**接続機器設定**]**の設定ガイド**」（5-174 **ページ**）
接続機器 2	
接続機器 3	
接続機器 4	
プリンタ	設定しているプリンタタイプを表示します。 ☞「34.6.2 **システム設定** [**プリンタ設定**] **の設定ガイド**」（34-63 **ページ**）
バーコード 1	設定しているバーコードタイプを表示します。 ☞「16.4.1 [**入力機器設定**] **の設定ガイド**」（16-22 **ページ**）
バーコード 2	
スクリプト 1	設定しているスクリプトタイプを表示します。 ☞「5.17.6 [**システム設定ウィンドウ**]**の設定ガイド** ■ [**スクリプト設定**]**の設定ガイド**」（5-178 **ページ**）
スクリプト 2	

◆送信データ

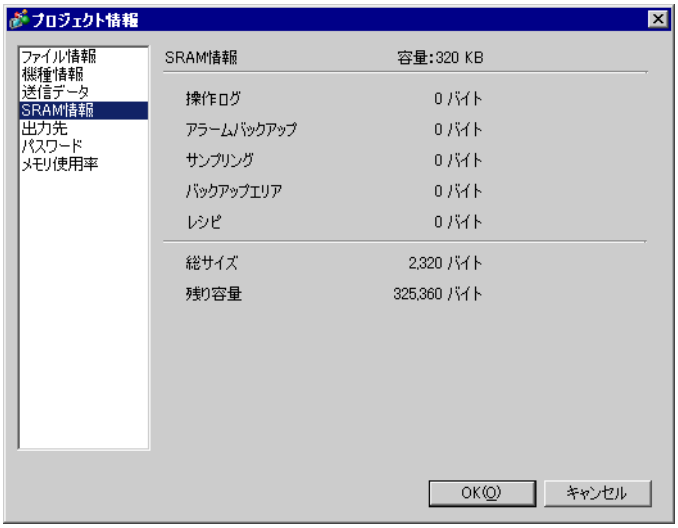
表示器に転送するデータに関する情報を表示します。



設定項目	設定内容
送信サイズ	送信するプロジェクトデータのサイズの総数を表示します。送信可能なサイズを超えている場合は赤色で表示されます。
使用フォント	送信するフォントの一覧を表示します。プロジェクトで使用するフォントは、[システム設定] の [フォント設定] で指定します。 ☞「6.4 [**フォント設定**] **の設定ガイド**」(6-18 **ページ**)

◆SRAM 情報

GP のバックアップ SRAM の使用量に関する情報を表示します。



設定項目	設定内容
容量	設定している表示器のバックアップ SRAM の容量を K バイト単位で表示します。
操作ログ	操作ログで使用する SRAM サイズを表示します。
アラームバックアップ	アラーム履歴で使用する SRAM サイズを表示します。
サンプリング	サンプリングで使用する SRAM サイズを表示します。
バックアップエリア	GP 内部デバイスのバックアップで使用する SRAM のサイズを表示します。
レシピ	レシピで使用する SRAM サイズを表示します。
総サイズ	SRAM を使用するサイズの合計をバイト単位で表示します。
残り容量	残りの容量をバイト単位で表示します。使用可能な容量を超えている場合はマイナスで表示されます。

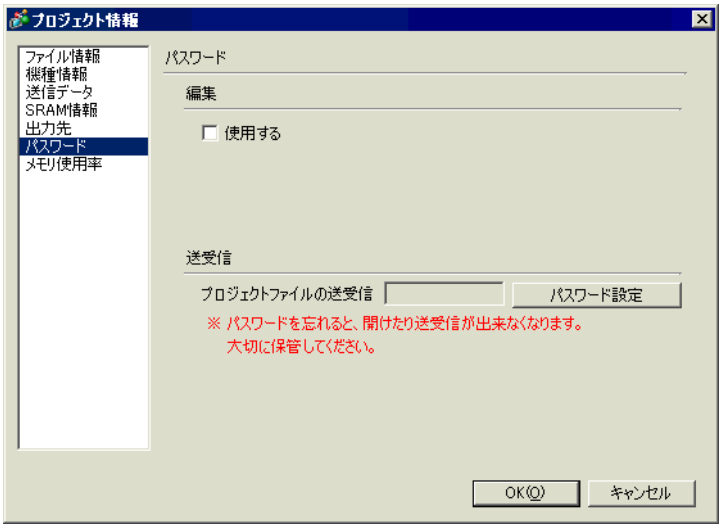
◆出力先

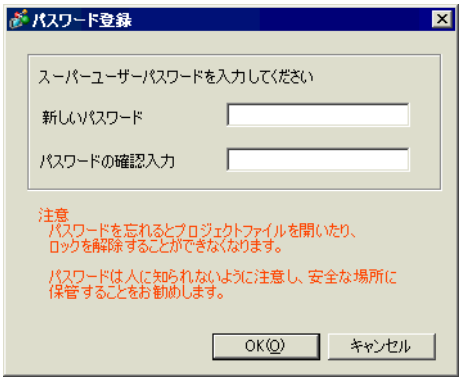
GP に装着している CF カードや USB ストレージへ転送するデータの保存場所を設定します。

設定項目	設定内容
CF **カードを使用する**	プロジェクトで CF カードを使用するかどうかを設定します。
CF **カード出力先フォルダ**	CF カードに保存するデータの格納場所を設定します。[参照] をクリックすると、ディレクトリを指定するダイアログボックスが表示されます。初期設定では ¥Program Files¥Pro-face¥GP-Pro EX *.**（*.** はバージョン）¥Database¥（プロジェクトファイル名と同じ名前のフォルダ）が指定されています。
USB **ストレージを使用する**	プロジェクトで USB ストレージを使用するかどうかを設定します。
USB **ストレージ出力先フォルダ**	USB ストレージに保存するデータの格納場所を設定します。[参照] をクリックすると、ディレクトリを指定するダイアログボックスが表示されます。初期設定では ¥Program Files¥Pro-face¥GP-Pro EX *.**（*.** はバージョン）¥Database¥USB が指定されています。

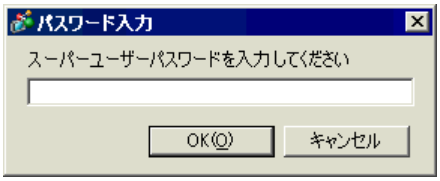
◆パスワード

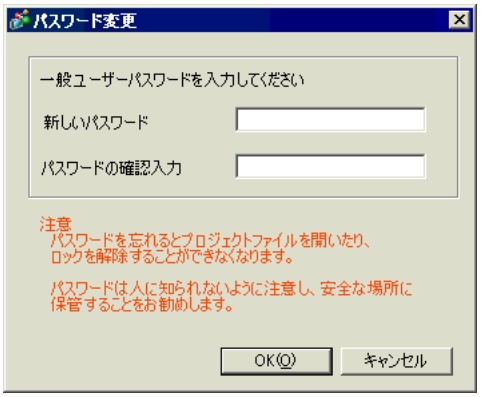
プロジェクトファイルの編集や転送にパスワードを設定します。



設定項目	設定内容
編集	プロジェクトファイルの編集を許可したり、部品操作をロックしたりするためのパスワードを設定します。
使用する	チェックを入れると次のダイアログボックスが表示されます。  • **新しいパスワード** 設定するパスワードを半角英数 10 文字以内で設定します。 • **パスワードの確認入力** 確認のためにパスワードを再度入力します。 **MEMO** • パスワードの設定にはスーパーユーザーの権限が必要です。 • チェックを外すと、パスワード設定が解除されます。解除するにはスーパーユーザーパスワードの入力が必要です。
現在のユーザーレベル	パスワード入力なしで操作できるユーザーレベルを表示します。 [パスワード設定] の [起動ユーザー設定] でユーザーレベルを設定すると、次回起動時より設定したユーザーレベルが現在のユーザーレベルとなります。

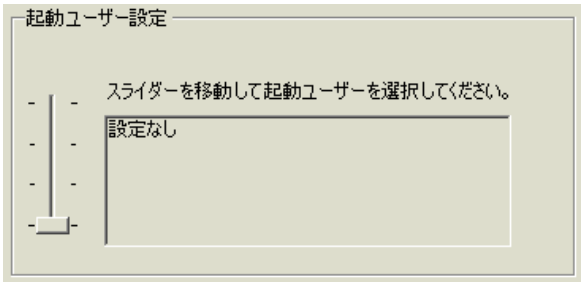
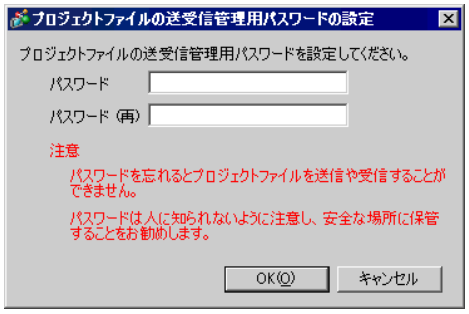
次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="2">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="2">編集</td><td>パスワード設定</td><td>[パスワード設定] をクリックすると、次のダイアログボックスが表示されます。
 

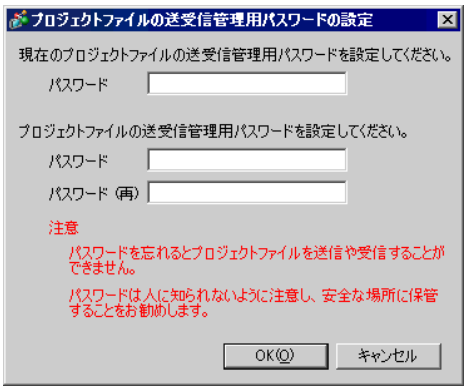
スーパーユーザーパスワードを入力して [OK] をクリックし、ユーザーレベルごとのパスワード設定を行います。
</td></tr>
<tr><td>オペレーションレベル</td><td>各ユーザーレベルのパスワードを設定 / 変更します。
 

• 新しいパスワード
設定するパスワードを半角英数 10 文字以内で設定します。
• パスワードの確認入力
確認のためにパスワードを再度入力します。</td></tr>
</table>

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
編集	起動ユーザー設定	設定したユーザーレベル以下のパスワード入力は省略することができます。  MEMO • スライダーをユーザーレベルに合わせると、そのユーザーレベルの説明が表示されます。
	パスワード記憶のクリア	[パスワードロック] で表示されるダイアログボックス内の [パスワードを記憶する] 設定で一時的に保存されているパスワードを削除します。
	プロジェクトファイルのプロテクトを使用する（一般ユーザー）	プロジェクトファイルを開くときに、パスワード入力のダイアログボックスが表示されます。 MEMO • [起動ユーザー設定] を設定なしにしていると、ここで入力したパスワードが全ユーザのパスワードとして設定されます。 • [起動ユーザー設定] を [一般ユーザー] 以上にしていると、パスワード入力なしでプロジェクトファイルが開きます。
送受信		プロジェクトの転送を許可するためのパスワードを設定します。
	プロジェクトファイルの送受信	送受信用パスワードが設定されている場合は「*****」で表示します
	パスワード設定	クリックすると次のダイアログボックスが表示されます。 

次のページに続きます。

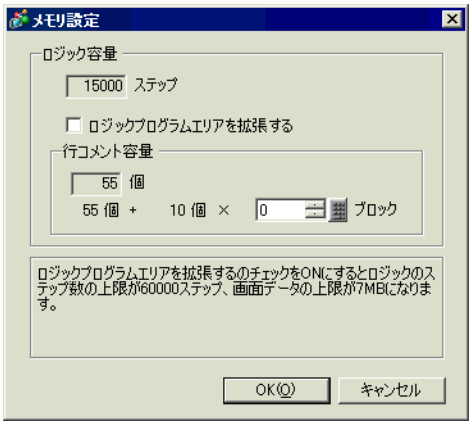
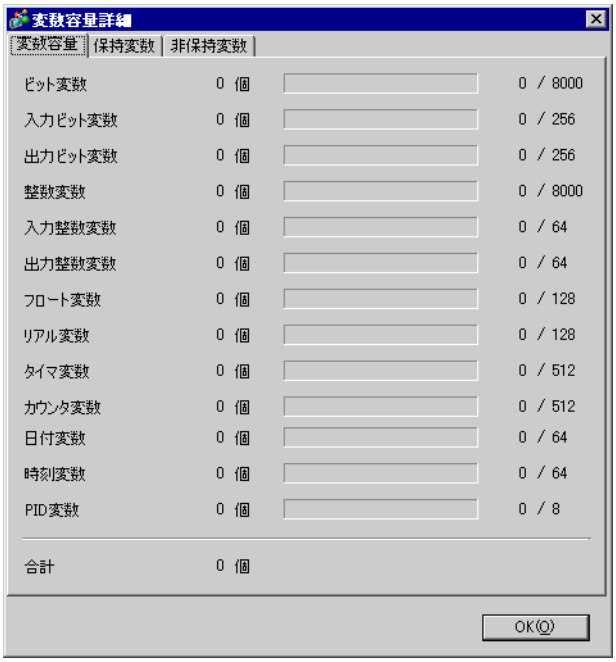
設定項目		設定内容
送受信	パスワード設定	1 度パスワードを設定した後に [パスワード設定] をクリックすると、次のダイアログボックスが表示されます。パスワードの変更や解除を行います。 
	パスワード	設定するパスワードを半角英数 24 文字以内で設定します。
	パスワード（再）	確認のためにパスワードを再度入力します。 MEMO • 空白状態で [OK] をクリックすると、パスワードが解除されます。

◆メモリ使用率

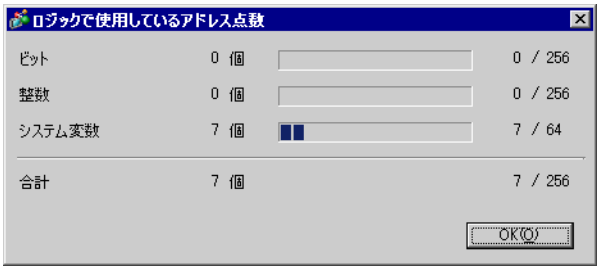
画面番号別のメモリ使用容量やロジックプログラムの現在のロジック容量やシンボル変数容量、アドレス点数、コメント容量を確認できます。また、用途に合わせてロジック容量とコメント容量の割合を変更することができます。

設定項目		設定内容
画面		画面番号と各画面が使用しているメモリ容量を一覧で表示します。
	画面番号	使用されている画面番号を表示します。
	使用容量（バイト）	画面番号の画面で使用しているメモリ容量を表示します。
ロジック		ロジックプログラムが使用しているメモリ容量を項目別に表示します。

次のページに続きます。

設定項目			設定内容
ロジック	メモリ設定		クリックすると、次のダイアログボックスが表示されます。 
		ロジック容量	作成可能ステップ数が表示されます。
		ロジックプログラムエリアを拡張する	ステップ数の上限を拡張することができます。ただし、この拡張には画面データエリアが使用されるため、画面データエリアの上限が減少します。
		変数コメント容量	シンボル変数のコメント容量の上限を 0 ～ 15 の範囲で設定します。
		行コメント容量	行コメント容量の上限を 0 ～ 15 の範囲で設定します。
	変数容量		シンボル変数の現在の個数と設定可能個数が表示されます。
		詳細	クリックすると、次のダイアログボックスが表示されます。各シンボル変数の現在の個数と設定可能個数、および現在の合計個数を確認できます。 

次のページに続きます。

設定項目			設定内容
ロジック	ロジックで使用しているアドレス点数		ロジックプログラムで使用しているアドレスの個数と設定可能個数が表示されます。
		詳細	クリックすると、次のダイアログボックスが表示されます。[ビット変数]、[整数]、[システム変数] の現在の個数と設定可能個数、および合計が表示されます。 
	コメント容量		シンボル変数のコメントと行コメントの現在の個数と設定可能個数が表示されます。

■ 出力先フォルダ

CF カードおよび USB ストレージの出力先フォルダを設定します。

☞「◆ 出力先」(5-105 ページ)

■ データのプロテクト

プロジェクトファイルの編集や転送操作にパスワードを設定します。

☞「◆ パスワード」(5-106 ページ)

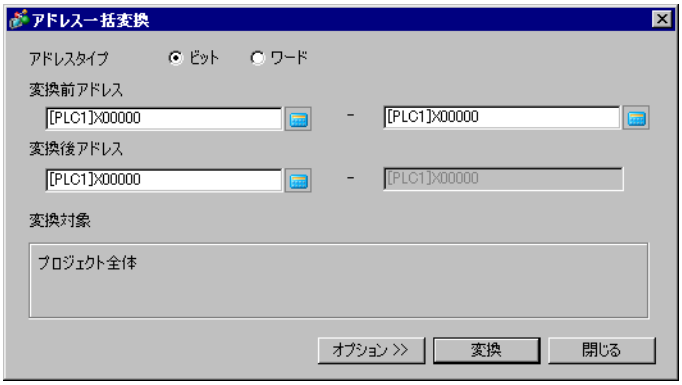
5.17.4 [ユーティリティ] の設定ガイド

[プロジェクト (F)] メニューから [ユーティリティ (T)] を選択して表示される各項目についてご説明します。

■ アドレス一括変換

プロジェクトで設定した連続するアドレスを一括変換します。変換方法にはプロジェクト全体のアドレスを一括変換する [プロジェクト全体] と、変換対象となる画面や機能を指定して変換する [個別設定] の 2 つの方法があります。

◆プロジェクト全体



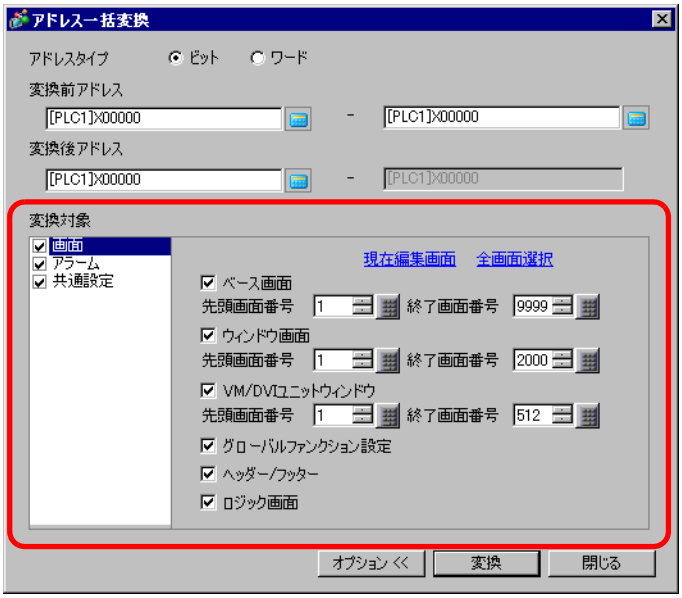
設定項目		設定内容
アドレスタイプ		変換するアドレスタイプを [ビット]、[ワード] で選択します。
変換前アドレス		変換する連続アドレスの範囲として、左側に先頭アドレス、右側に終了アドレスを設定します。
変換後アドレス		変換後アドレスの先頭となるアドレスを設定します。
変換対象		変換対象を表示します。
	プロジェクト全体	プロジェクトファイルに含まれるすべてのアドレスを対象にして変換を行う場合に表示します。
	オプション	変換対象を個別に設定するモードへ移行します。 ☞**「◆ オプション」**(5-114 **ページ**)

MEMO

- [変換前アドレス] の左側 (先頭) と右側 (終了) に異なるデバイスアドレスは設定できません。
- アドレス変換前の総アドレス数（終了アドレス－先頭アドレス）が、アドレス変換後の総アドレス数（終了アドレス－先頭アドレス）より大きくなる場合、あふれたアドレスにはすべてそのデバイスの最終アドレスが割り付けられます。

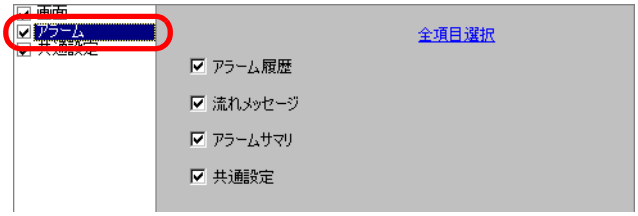
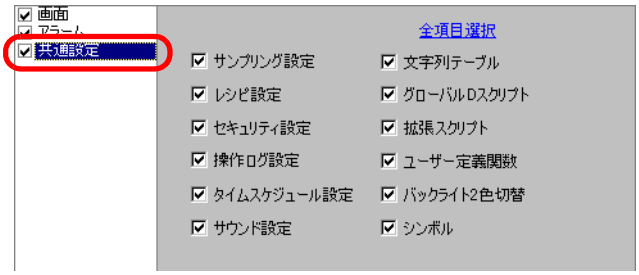
◆オプション

アドレス変換対象となる画面などを個別に設定して変換します。



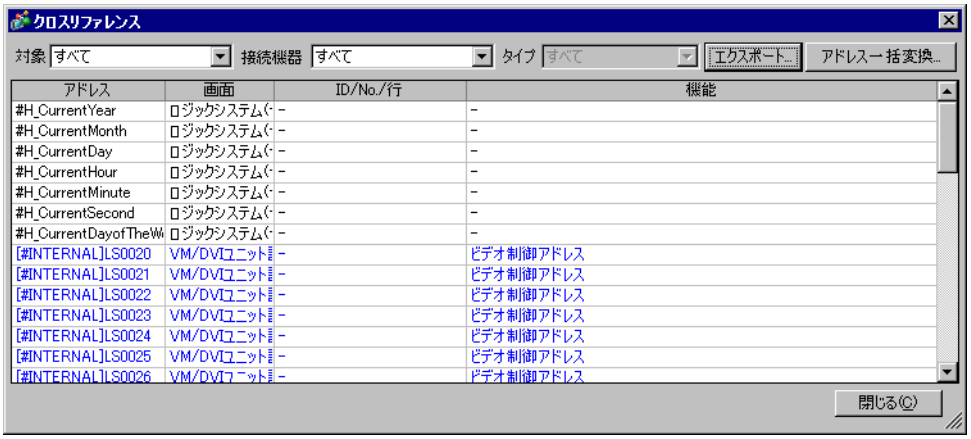
設定項目			設定内容
画面			一括変換の対象とする画面を選択します。
	現在編集画面		現在編集している画面に対してのみ一括変換を行います。
	全画面選択		すべての画面に対して一括変換を行います。[画面] を選択すると有効になるすべてのチェックボックスが ON になります。
	ベース画面		ベース画面をアドレス一括変換の対象とするかどうかを設定します。
		先頭画面番号	変換の対象とするベース画面先頭番号を 1 ～ 9999 で設定します。
		終了画面番号	変換の対象とするベース画面終了番号を 1 ～ 9999 で設定します。
	ウィンドウ画面		ウィンドウ画面をアドレス一括変換の対象とするかどうかを設定します。
		先頭画面番号	変換の対象とするウィンドウ画面先頭番号を 1 ～ 2000 で設定します。
		終了画面番号	変換の対象とするウィンドウ画面終了番号を 1 ～ 2000 で設定します。
	VM/DVI **ユニットウィンドウ**		VM/DVI ユニットウィンドウをアドレス一括変換の対象とするかどうかを設定します。
		先頭画面番号	変換の対象となる VM/DVI ユニットウィンドウ先頭番号を 1 ～ 512 で設定します。
		終了画面番号	変換の対象となる VM/DVI ユニットウィンドウ終了番号を 1 ～ 512 で設定します。
	グローバルファンクション設定		グローバルファンクションで設定しているアドレスを一括変換の対象とするかどうかを設定します。
	ヘッダー / フッター		ヘッダー / フッターに設定しているアドレスを一括変換の対象とするかどうかを設定します。
	ロジック画面		ロジック画面をアドレス一括変換の対象とするかどうかを設定します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
アラーム	一括変換の対象とするアラームの機能を [アラーム履歴]、[流れメッセージ]、[アラームサマリ]、[共通設定] から選択します。 
全項目選択	すべてのアラーム機能に対して一括変換を行います。[アラーム] を選択すると有効になるすべてのチェックボックスが ON になります。
共通設定	[共通設定] のうち、[アラーム設定] 以外で一括変換の対象とする機能を [サンプリング設定]、[レシピ設定]、[セキュリティ設定]、[操作ログ設定]、[タイムスケジュール設定]、[サウンド設定]、[文字列テーブル]、[グローバル D スクリプト]、[拡張スクリプト]、[ユーザ定義関数]、[バックライト 2 色切替]、[シンボル] から選択します。 
全項目選択	アラーム以外のすべての共通設定に対して一括変換を行います。[共通設定] を選択すると有効になるすべてのチェックボックスが ON になります。

■ クロスリファレンス

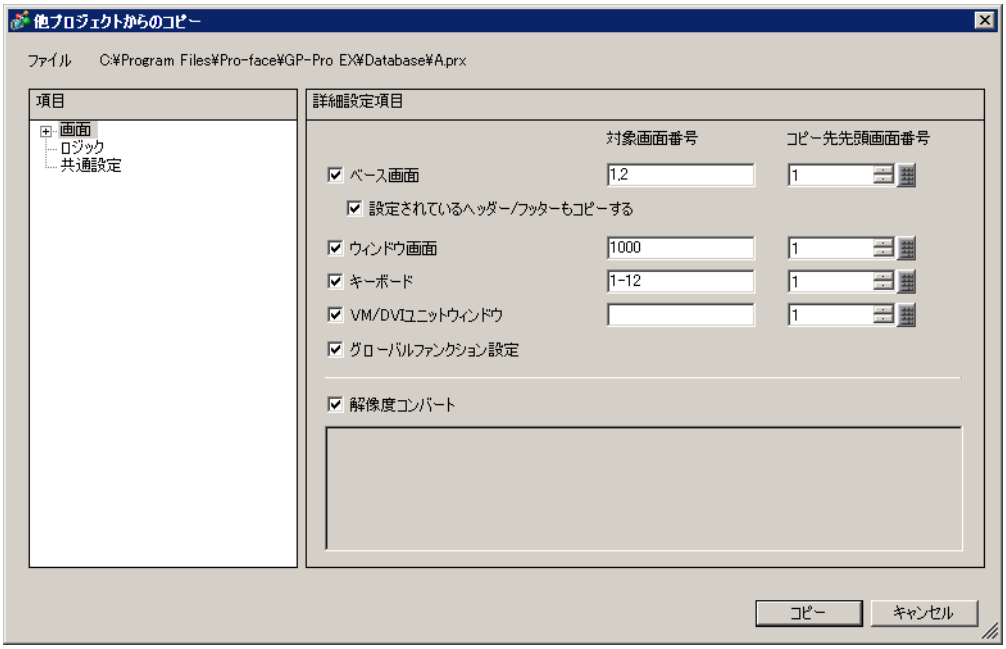
プロジェクト内の画面や配置された部品によるアドレスの使用状況を表示します。

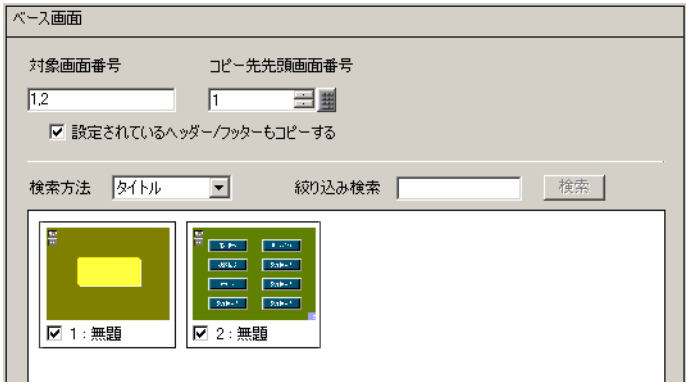


設定項目	設定内容
対象	クロスリファレンスに表示する内容を [すべて]、[現在の画面]、[ベース画面]、[ウィンドウ画面]、[ヘッダー / フッター]、[ロジック画面]、[I/O 画面]、[アラーム]、[サンプリング設定]、[レシピ設定]、[セキュリティ設定]、[タイムスケジュール設定]、[サウンド設定]、[文字列テーブル]、[グローバル D スクリプト]、[拡張スクリプト]、[ユーザ定義関数]、[操作ログ]、[バックライト 2 色切替設定]、[VM/DVI ユニットウィンドウ設定]、[システム設定] から選択します。
接続機器	クロスリファレンスに表示する内容を [すべて]、[シンボル変数]、[PLC1]（接続機器）、[#INTERNAL]（内部デバイスアドレス）、[#MEMLINK]（メモリリンク使用時のみ）から選択します。
タイプ	表示するアドレスのタイプを [すべて]、[ビットアドレス]、[ワードアドレス]、[ビット変数]、[整数変数]、[フロート変数]、[リアル変数]、[タイマ変数]、[カウンタ変数]、[日付変数]、[時刻変数]、[PID 変数]、[システム変数 (ビット)]、[システム変数 (整数)] から選択します。
エクスポート	表示されているアドレスの一覧を CSV 形式またはテキスト形式のファイルに出力します。
アドレス一括変換	[アドレス一括変換] ダイアログボックスを表示します。プロジェクトで設定したアドレスを一括変換します。変換方法にはプロジェクト全体のアドレスを一括変換する [プロジェクト全体] と、変換対象となる画面などを個別に設定して変換する [個別設定] の 2 つの方法があります。 ☞「■ アドレス一括変換」(5-113 ページ)
アドレス	使用されているアドレスやシンボル名を表示します。
画面	使用されている画面の番号やアラーム、共通設定の種類などを表示します。
ID/No./ **行**	使用されている部品の ID、アドレスが属するグループ、ブロック番号や行番号を表示します。
機能	各アドレスの使用用途を表示します。

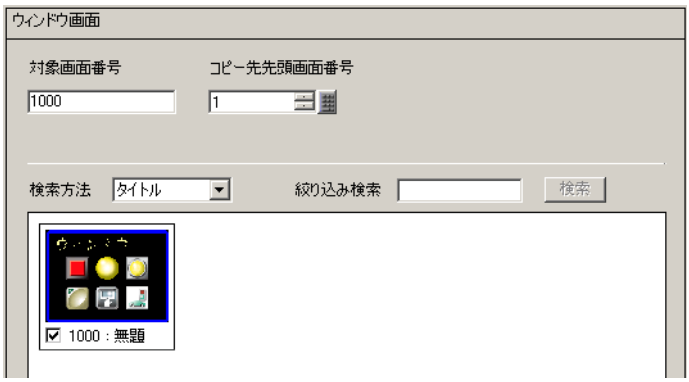
■ 他プロジェクトファイルからのコピー

別のプロジェクトファイルを指定し、必要な画面をコピーします。

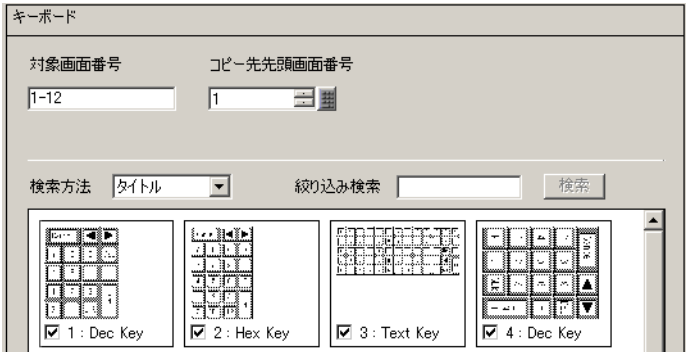
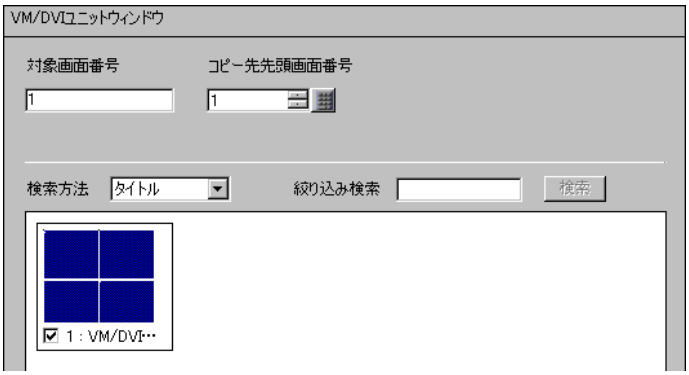


設定項目	設定内容
ファイル	コピー元のファイルを表示します。
画面	コピーの対象となる画面を設定します。[画面] 項目を展開して詳細項目を表示します。
ベース画面	他プロジェクトファイルのベース画面をコピーします。 
対象画面番号	コピー元のベース画面番号を設定します。各プレビュー画面に付属のチェックボックスと連動しているので、画面を確認しながらチェックを入れると画面番号が追加されます。 **MEMO** • ダイアログボックス表示時には、コピー元として指定したプロジェクトファイルに登録されているすべてのベース画面番号が入力されています。
コピー先先頭画面番号	コピー先のベース画面先頭番号を 1 ～ 9999 で設定します。

次のページに続きます。

設定項目			設定内容
画面		設定されているヘッダー / フッターもコピーする	他プロジェクトファイルのヘッダー / フッターも含めてコピーするかどうかを設定します。
		検索方法 / 絞り込み検索	画面検索の方法を [タイトル]、[画面番号] から選択します。 [絞り込み検索] に検索対象となる文字列を全角 / 半角合わせて 128 文字以内で設定します。
	ウィンドウ画面		他プロジェクトファイルのウィンドウ画面をコピーします。 
		対象画面番号	コピー元のウィンドウ画面番号を設定します。各プレビュー画面に付属のチェックボックスと連動しているので、画面を確認しながらチェックを入れると画面番号が追加されます。 **MEMO** • ダイアログボックス表示時には、コピー元として指定したプロジェクトファイルに登録されているすべてのウィンドウ画面番号が入力されています。
		コピー先先頭画面番号	コピー先のウィンドウ画面先頭番号を 1 ～ 2000 で設定します。
		検索方法 / 絞り込み検索	画面検索の方法を [タイトル]、[画面番号] から選択します。 [絞り込み検索] に検索対象となる文字列を全角 / 半角合わせて 128 文字以内で設定します。

次のページに続きます。

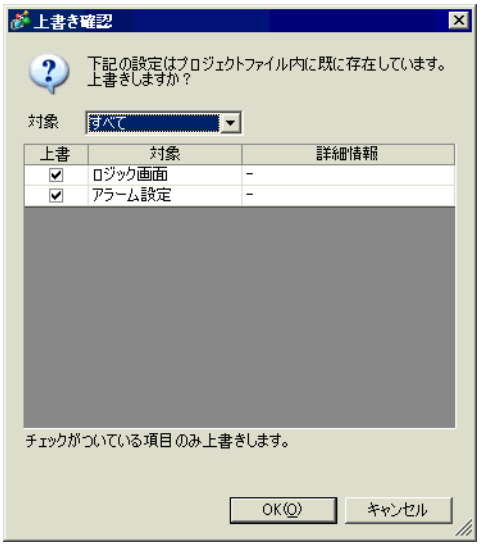
設定項目			設定内容
画面	キーボード		他プロジェクトファイルのキーボード画面をコピーします。 
		対象画面番号	コピー元のキーボード画面番号を設定します。各プレビュー画面に付属のチェックボックスと連動しているので、画面を確認しながらチェックを入れると画面番号が追加されます。 **MEMO** • ダイアログボックス表示時には、コピー元として指定したプロジェクトファイルに登録されているすべてのキーボード画面番号が入力されています。
		コピー先先頭画面番号	コピー元のキーボード画面先頭番号を 1 ～ 8999 で設定します。
		検索方法 / 絞り込み検索	画面検索の方法を [タイトル]、[画面番号] から選択します。 検索対象となる文字列を全角 / 半角合わせて 128 文字以内で設定します。
	VM/DVI ユニットウィンドウ		他プロジェクトファイルの VM/DVI ユニットウィンドウをコピーします。 
		対象画面番号	コピー元の VM/DVI ユニットウィンドウ番号を設定します。各プレビュー画面に付属のチェックボックスと連動しているので、画面を確認しながらチェックを入れると画面番号が追加されます。 **MEMO** • ダイアログボックス表示時には、コピー元として指定したプロジェクトファイルに登録されているすべての VM/DVI ユニットウィンドウ番号が入力されています。
		コピー先先頭画面番号	コピー先の VM/DVI ユニットウィンドウ先頭番号を 1 ～ 512 で設定します。
		検索方法 / 絞り込み検索	画面検索の方法を [タイトル]、[画面番号] から選択します。 検索対象となる文字列を全角 / 半角合わせて 128 文字以内で設定します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
ロジック	他プロジェクトファイルの [ロジック画面]、[I/O 画面] をコピーします。
共通設定	他プロジェクトファイルの [アラーム設定]、[サンプリング設定]、[グローバル D スクリプト設定]、[拡張スクリプト設定]、[ユーザ定義関数]、[テキスト] をコピーします。

◆上書き確認

他プロジェクトからのコピー対象となる設定が、すでにコピー先のプロジェクトファイルに存在している場合に上書きの確認を行います。

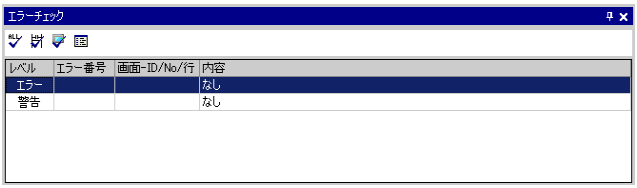


設定項目	設定内容
対象	一覧に表示する対象を [すべて]、[ベース画面]、[ウィンドウ画面]、[キーボード]、[VM/DVI ユニットウィンドウ]、[ロジック画面]、[I/O 画面]、[アラーム設定]、[サンプリング設定]、[テキスト]、[グローバル D スクリプト]、[拡張スクリプト]、[ユーザ定義関数] から選択します。
上書	上書きするかどうかを設定します。
対象	上書きの対象となる項目を表示します。
詳細情報	上書き対象の画面番号や画面タイトルなどを表示します。

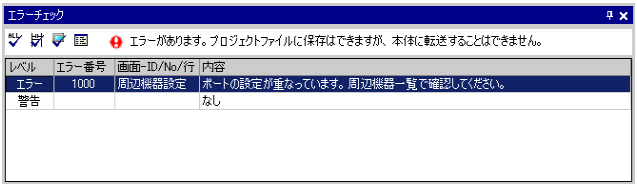
■ エラーチェック

プロジェクトで設定した内容にエラーがあるかどうかをチェックします。

＜エラーなし＞



＜エラーあり＞



設定項目		設定内容
操作用アイコン	すべて	設定した内容すべてのエラーチェックを実行します。
	ロジックのみ	ロジック画面で設定した内容のエラーチェックを実行します。
	画面のみ	画面作成で設定した内容のエラーチェックを実行します。
	設定	[オプション設定] の [エラーチェック] 画面を表示します。
レベル		エラー内容のレベルを [エラー]、[警告] で表示します。
エラー番号		エラー番号が表示されます。エラー番号の詳細は「保守 / トラブル解決ガイド」を参照してください。
画面 -ID/No./ 行		エラーが発生した画面番号、部品番号や行番号を表示します。
内容		エラー内容詳細を表示します。

MEMO

- プロジェクトの保存時には自動的にエラーチェックが行われます。
- [エラーチェック] ウィンドウの をクリックするとウィンドウの表示固定が外れ、[ファンクションバー] の上に [エラーチェック] タブで表示されます。タブにカーソルを合わせると [エラーチェック] ウィンドウが表示できるので、作画中もウィンドウを気にすることなくエラーチェックが実行できます。

■ 文字列テーブルコンバート

プロジェクト内の文字列を検索し、文字列テーブルに格納します。

設定項目		設定内容
変換設定	テーブル番号	格納先の文字列テーブルのテーブル番号をテーブル 1 ～テーブル 16 から選択します。
	言語設定	文字列テーブルに表示する言語を [日本語]、[欧米]、[中国語 (繁体字)]、[中国語 (簡体字)]、[韓国語]、[キリル文字]、[タイ語] から選択します。
変換対象	全て	すべての画面を変換対象とします。
	個別	[画面の種類] で選択した画面を変換対象とします。
	画面の種類	変換対象の画面を [ベース画面]、[ウィンドウ画面]、[キーボード]、[ヘッダー / フッター]、[テキスト画面]、[アラーム] から選択します。
	先頭 / 終了	変換する画面の [先頭番号] と [終了番号] を 1 ～ 9999 で指定します。 MEMO • 画面の種類に [アラームメッセージ] を選択した場合は設定しません。

MEMO

• 次の部品で設定した文字列が文字列テーブルに格納されます。
[アラームメッセージ]、[文字列]、[スイッチ / ランプ] の銘板、[メッセージ表示器] の直接入力で登録したメッセージ、[アラーム] 部品で表示設定した項目名

5.17.5 [ワークスペース] の設定ガイド

[表示 (V)] メニューから [ワークスペース (W)] を選択して表示される各ウィンドウについてご説明します。

■ システム設定ウィンドウ

プロジェクトファイルごとのシステム設定を行うためのウィンドウです。

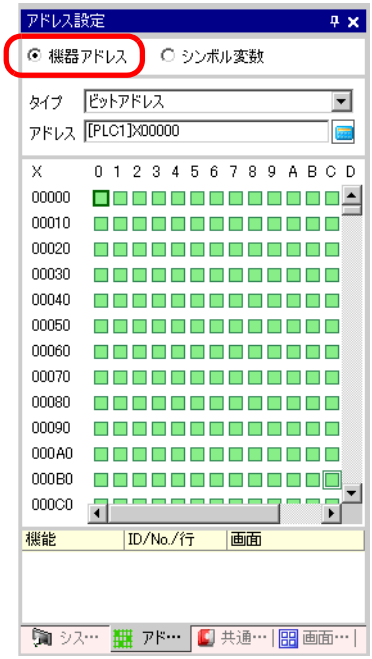
設定項目		設定内容
表示器設定		表示器の設定を行います。
	機種設定	表示器の機種設定、仕様の内容を表示します。 ☞「■ [**機種設定**] **の設定ガイド**」(5-142 **ページ**)
	本体設定	表示器本体の詳細の設定を行います。 ☞「■ [**本体設定**] **の設定ガイド**」(5-144 **ページ**)
	ロジック プログラム設定	ロジック機能の設定を行います。 ☞「29.14.1 [**ロジックプログラム設定**] **の設定ガイド**」(29-144 **ページ**)
	ビデオ／動画設定	ビデオ表示や動画録画の設定を行います。 ☞「27.9.1 [**ビデオ／動画設定**] **の設定ガイド**」(27-72 **ページ**)
	フォント設定	表示器本体で表示するフォントの設定を行います。 ☞「6.4 [**フォント設定**] **の設定ガイド**」(6-18 **ページ**)

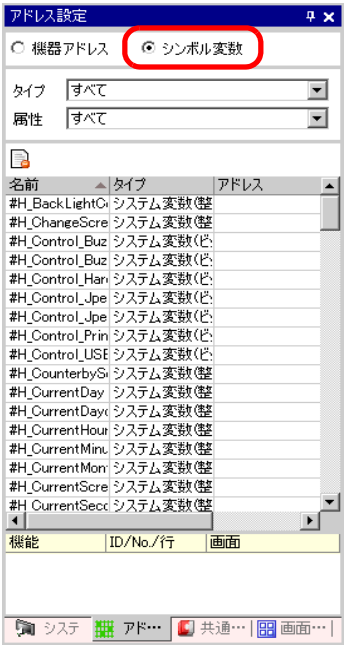
次のページに続きます。

設定項目		設定内容
周辺機器設定		各周辺機器の設定を行います。
	周辺機器一覧	設定されている周辺機器を一覧で表示します。 ☞**「■ [周辺機器一覧] の設定ガイド」**(5-171 **ページ**)
	接続機器設定	接続機器の設定を行います。 ☞**「■ [接続機器設定] の設定ガイド」**(5-174 **ページ**)
	プリンタ設定	プリンタと通信するための設定を行います。 ☞**「**34.6.2 **システム設定 [プリンタ設定] の設定ガイド」**(34-63 **ページ**)
	入力機器設定	入力機器と通信するための設定を行います。 ☞**「**16.4.1 [**入力機器設定**] **の設定ガイド」**(16-22 **ページ**)
	スクリプト設定	スクリプトの設定を行います。 ☞**「**21.9.1 D **スクリプト / 共通設定** [**グローバル** D **スクリプト設定**] **の設定ガイド」**(21-51 **ページ**)
	I/O **ドライバ設定**	I/O ドライバの設定を行います。 ☞**「**30.2.1 I/O **画面の設定ガイド」**(30-8 **ページ**)
	FTP **サーバ設定**	FTP サーバの登録を行います。 ☞**「**27.9.2 [FTP **サーバ設定**] **の設定ガイド」**(27-89 **ページ**)
	モデム設定	表示器に接続するモデムの設定を行います。 ☞**「**33.10.2 [**モデム設定**] **の設定ガイド」**(33-67 **ページ**)
	VM/DVI **ユニット ウィンドウ設定**	VM/DVI ユニットの設定を行います。 ☞**「**27.9.6 [VM/DVI **ユニット設定**] **の設定ガイド」**(27-121 **ページ**)

■ アドレス設定ウィンドウ

使用している接続機器アドレスをマップ表示したり、シンボル変数をリスト表示します。





設定項目		設定内容
機種選択		一覧表示する対象を [機器アドレス]、[シンボル変数] から選択します。
機器アドレス		プロジェクト内で使用されている接続機器アドレスをマップ表示します。
	タイプ	一覧表示するアドレスのタイプを選択します。システム設定ウィンドウ [ロジックプログラム設定] で指定されている [登録方式] によって、選択肢が異なります。 [登録方式] が [変数方式] のときは、[ビットアドレス]、[ワードアドレス] から選択します。 [登録方式] が [アドレス方式] のときは、[ビットアドレス (ビット変数)]、[ワードアドレス (整数変数)]、[フロート変数]、[リアル変数]、[タイマ変数]、[カウンタ変数]、[日付変数]、[時刻変数]、[PID 変数] から選択します。
	アドレス	マップエリアに表示する対象のアドレスを設定します。
	マップエリア	アドレスの使用状況をマップ表示します。

次のページに続きます。

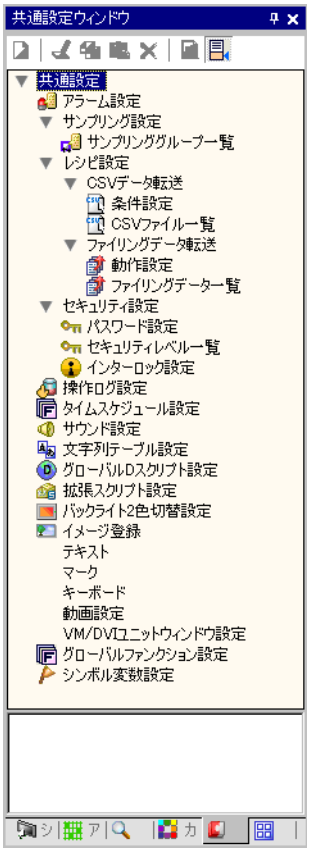
設定項目		設定内容
シンボル変数		プロジェクト内で使用されているシンボル変数をリストで表示します。
	タイプ	リスト表示するアドレスのタイプを選択します。システム設定ウィンドウ [ロジックプログラム設定] で指定されている [登録方式] によって、選択肢が異なります。 [登録方式] が [変数方式] のときは、[すべて]、[ビットアドレス]、[ワードアドレス]、[ビット変数]、[整数変数]、[フロート変数]、[リアル変数]、[タイマ変数]、[カウンタ変数]、[日付変数]、[時刻変数]、[PID 変数]、[システム変数 (ビット)]、[システム変数 (整数)] から選択します。 [登録方式] が [アドレス方式] のときは、[すべて]、[ビットアドレス]、[ワードアドレス]、[システム変数 (ビット)]、[システム変数 (整数)] から選択します。
	属性	シンボル変数の使用状況を [すべて]、[使用中]、[未使用] から選択します。
	未使用シンボル変数表示	プロジェクト内で使用されていないシンボル変数を [未使用シンボル変数一覧] ダイアログボックスに表示し、一括で削除します。 ☞「29.13.7 **未使用のシンボル変数を一括で削除したい**」(29-131 **ページ**)
	表示エリア	シンボル変数をリストで表示します。
	アドレス	設定されているアドレスが表示されます。
	ステータス	[アドレス] で表示されているアドレスの状態をアルファベットで表示します。 各アルファベットの意味は次のとおりです。 H：画面で使用、L：ロジックで使用、K：保持型、I：入力、Q：出力
機能		各アドレスの使用用途を表示します。
ID/No./ **行**		使用されている部品の ID、アドレスが属するグループ、ブロック番号や行番号を表示します。
画面		画面番号や共通設定の種類などが表示されます。

MEMO

- 機能、ID/No./ 行、画面のいずれかをクリック / ダブルクリックすると、その部品が選択された状態の画面が一番手前に表示されます。

■ 共通設定ウィンドウ

プロジェクトファイルごとの共有機能を呼び出します。



設定項目			設定内容
アラーム設定			アラームメッセージを登録する設定画面を表示します。 ☞「19.10.1 **共通設定（アラーム設定）の設定ガイド**」(19-67 **ページ**)
サンプリング設定	**サンプリンググループ一覧**		サンプリンググループの各設定内容の一覧を表示します。 ☞「24.8.1 **共通設定（サンプリング設定）の設定ガイド**」(24-36 **ページ**)
レシピ設定	CSV **データ転送**	**条件設定**	CSV データの転送のための条件設定をする画面を表示します。 ☞「25.10.1 **共通設定（レシピ設定）の設定ガイド** ■ CSV **データ転送（条件設定）**」(25-53 **ページ**)
		CSV **ファイル一覧**	CSV データの登録をする画面を表示します。 ☞「25.10.1 **共通設定（レシピ設定）の設定ガイド** ■ CSV **データ転送（CSV ファイル一覧）**」(25-58 **ページ**)
	ファイリングデータ転送	**動作設定**	ファイリングデータの転送動作を設定する画面を表示します。 ☞「25.10.1 **共通設定（レシピ設定）の設定ガイド** ■ **ファイリングデータ転送（動作設定）**」(25-60 **ページ**)
		ファイリングデーター一覧	ファイリングデータの登録をする画面を表示します。 ☞「25.10.1 **共通設定（レシピ設定）の設定ガイド** ■ **ファイリングデータ転送（ファイリングデーター一覧）**」(25-64 **ページ**)

次のページに続きます。

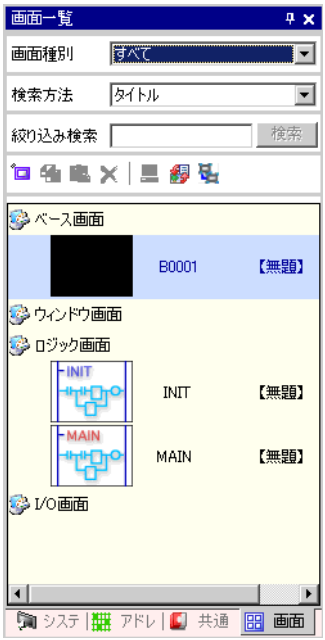
設定項目		設定内容
セキュリティ設定	パスワード設定	セキュリティのレベルとパスワードを設定する画面を表示します。 ☞「22.10.1 共通設定（セキュリティ設定）の設定ガイド ■ セキュリティレベル一覧」（22-41 ページ）
	セキュリティレベル一覧	セキュリティを設定している画面とレベルの一覧を表示します。 ☞「22.10.1 共通設定（セキュリティ設定）の設定ガイド ■ パスワード設定」（22-37 ページ）
	インターロック設定	グローバルインターロックを設定する画面を表示します。 ☞「22.10.1 共通設定（セキュリティ設定）の設定ガイド ■ インターロック設定」（22-42 ページ）
操作ログ設定		操作ログを保存する動作条件の設定を行います。 ☞「22.10.2 共通設定（操作ログ設定）の設定ガイド」（22-46 ページ）
タイムスケジュール設定		タイムスケジュールを設定している動作の一覧を表示します。 ☞「23.4 共通設定（タイムスケジュール設定）の設定ガイド」（23-10 ページ）
サウンド設定		サウンドを登録する画面を表示します。 ☞「26.5.1 共通設定（サウンド設定）の設定ガイド」（26-13 ページ）
文字列テーブル設定		文字列を登録する文字列テーブルを表示します。 ☞「17.9.3 文字列テーブル設定の設定ガイド」（17-59 ページ）
グローバル D スクリプト設定		作成したグローバル D スクリプトの一覧を表示します。 ☞「21.9.1 Dスクリプト/共通設定[グローバルDスクリプト設定]の設定ガイド」（21-51 ページ）
拡張スクリプト設定		拡張スクリプトをプログラミングする画面を表示します。 ☞「21.9.1 Dスクリプト/共通設定[グローバルDスクリプト設定]の設定ガイド」（21-51 ページ）
バックライト 2 色切替設定		バックライトを赤色に切り替える動作条件の設定を行います。 ☞「5.17.8 [共通設定] の設定ガイド ■ バックライト 2 色切替設定」（5-192 ページ）
イメージ登録		イメージを登録する [イメージ] 画面を表示します。 ☞「9.5.1 共通設定（イメージ登録）の設定ガイド」（9-23 ページ）
テキスト		テキストを登録する画面を表示します。 ☞「17.9.2 共通設定（テキスト登録）の設定ガイド」（17-58 ページ）
マーク		マークを作成する画面を表示します。 ☞「8.13.4 共通設定（マーク登録）の設定ガイド」（8-97 ページ） MEMO • リストから使用したいマークを選択し、ドラッグ＆ドロップで作画画面（ベース画面、ウィンドウ画面、キーボード画面）に配置できます。変更したいマークを選択し、すでに配置しているマークの上にドラッグ＆ドロップすればマークの変更ができます。

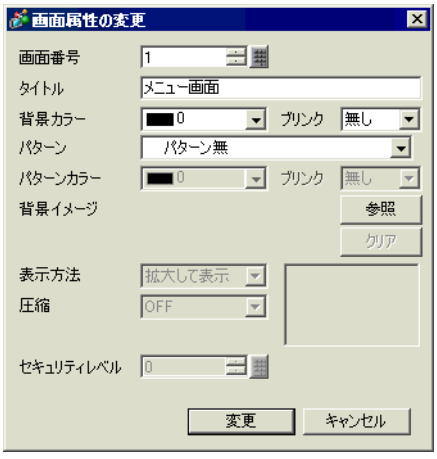
次のページに続きます。

設定項目	設定内容
キーボード	キーボードを編集する画面を表示します。 ☞「15.7.2 **共通設定（キーボード登録）の設定ガイド」**（15-42 **ページ**） **MEMO** • リストから使用したいキーボードを選択し、ドラッグ＆ドロップで作画画面（ベース画面、ウィンドウ画面）に配置できます。変更したいキーボードを選択し、すでに配置しているキーボードの上にドラッグ＆ドロップすればキーボードの変更ができます。
動画設定	動画再生リストファイルを作成する [動画設定] 画面を表示します。 ☞「27.9.3 **共通設定** [**動画設定**] **の設定ガイド」**（27-91 **ページ**）
VM/DVI **ユニットウィンドウ設定**	VM/DVI ユニットウィンドウを作成する画面を表示します。 ☞「27.9.5 **共通設定** [VM/DVI **ユニットウィンドウ設定**] **の設定ガイド」**（27-112 **ページ**） **MEMO** • リストから使用したい VM/DVI ユニットウィンドウを選択し、ドラッグ＆ドロップでベース画面に配置できます。変更したい VM/DVI ユニットウィンドウを選択し、すでに配置している VM/DVI ユニットウィンドウの上にドラッグ＆ドロップすれば VM/DVI ユニットウィンドウの変更ができます。
シンボル変数設定	シンボルを登録する画面を表示します。 ☞「5.9.2 **設定手順** ■ [**シンボル変数設定**] **の登録」**（5-58 **ページ**） ☞「29.3 **ロジックプログラムで使用できるアドレスとは」**（29-8 **ページ**）

■ 画面一覧ウィンドウ

作成したベース画面またはウィンドウ画面を一覧表示します。



設定項目		設定内容
画面種別		リスト表示する画面を [すべて]、[ベース画面]、[ウィンドウ画面]、[ロジック画面]、[I/O 画面] から選択します。
検索方法		画面検索の方法を [画面番号]、[タイトル] から選択します。
絞り込み検索		検索対象となる文字列を半角 128 文字以内で設定します。
操作用アイコン	新規画面作成	[画面の新規作成] ダイアログボックスを表示します。
	コピー	選択した画面をコピーします。
	貼り付け	コピーした画面を画面リストに貼り付けます。
	削除	選択した画面をプロジェクトから削除します。
	属性変更	次のダイアログボックスが表示され、画面番号やタイトル、カラーが変更できます。 

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
操作用アイコン	表示モード切替	[画面リスト] の表示モードを切り替えます。 <縮小画面表示> <一覧表示>
	階層表示	画面を階層表示します。
画面リスト		プロジェクトに登録されている画面を一覧表示します。開きたい画面の行をダブルクリックすると、右の編集領域に画面が表示されます。 また、画面を選択してコピーしたり削除するなど、操作を簡単に行うことができます。

MEMO

- 一覧に表示されているベース画面は、ドラッグ＆ドロップで作画画面（ベース画面、ウィンドウ画面、キーボード画面）に配置できます。変更したいベース画面を選択し、すでに配置しているベース画面の上にドラッグ＆ドロップすればベース画面が変更できます。ウィンドウ画面はベース画面にのみドラッグ＆ドロップできます。

■ プロパティウィンドウ

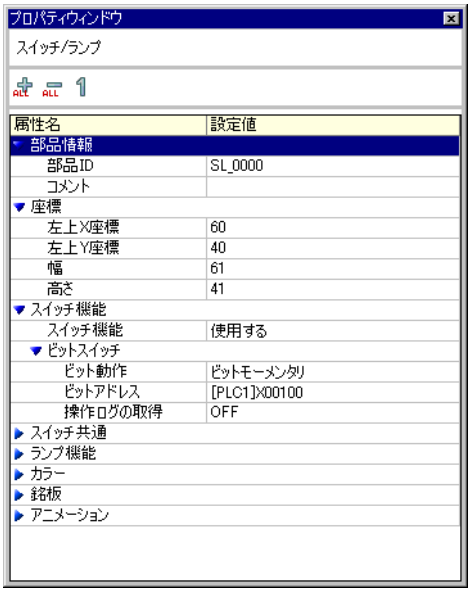
選択した部品や画面の属性・設定内容が表示されます。属性の確認や設定変更を簡単にするためのウィンドウです。

MEMO

- 選択した部品のすべての設定内容がこのウィンドウに表示されるわけではありません。
- 固定ピン によって配置位置・設定内容が固定された部品の属性や設定内容は表示されません。固定ピンについては以下を参照してください。

☞「8.4.13 編集したくない（オブジェクトの固定）」（8-34 ページ）

画面作成の場合



ロジック作成の場合

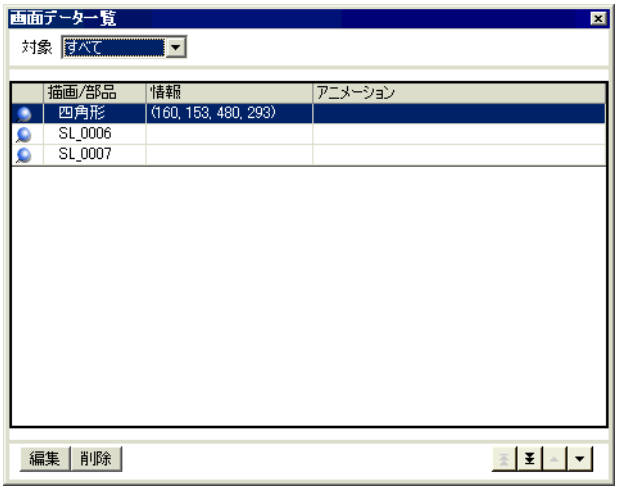
設定項目		設定内容
部品名表示エリア（画面作成の場合）		選択した部品または画面の名称が表示されます。複数の部品を選択している場合は、選択された部品の個数が表示されます。
部品名表示エリア（ロジック作成の場合）		ロジック作成時の [プログラムウィンドウ] の操作方法は「29.13.5 リファレンス機能でロジックプログラム内を検索したい」（29-119 ページ）を参照してください。
	ロジック画面	表示するロジック画面を [MAIN]、[INIT]、サブルーチン画面を作成している場合は、[SUB-01] ～ [SUB-32] から選択します。
	総行数	ロジックプログラムの総行数を表示します。
	総ステップ数	ロジックプログラムの総ステップ数を表示します。
	ラベル一覧	ロジックプログラム内のラベルが一覧表示されます。
ボタンエリア		ウィンドウ上のカテゴリ表示に対する開閉ボタンです。
	すべて開く	すべてのカテゴリを展開し、表示します。
	すべて閉じる	すべてのカテゴリを縮小し、非表示にします。
	第１レベルのみ開く	トップレベルのカテゴリのみを展開し、表示します。
属性表示・設定エリア		属性ごとに設定内容が表示されます。このエリア上で設定を変更できます。

■ 画面データー覧ウィンドウ

画面上に配置された部品、描画を一覧表示します。

MEMO

- 配置された部品の処理順序と、[画面データー覧ウィンドウ] の表示順序との関係は以下の通りです。
  - 配置された部品の処理順序は、[画面データー覧ウィンドウ] の表示画面で対象を [部品] としたときに表示される順番と同じです。複数の機能が割り付けられたスイッチを押した場合も同様です。
  - スイッチを押した場合の処理と、表示画面に設定されている部品の処理は、タイミングがずれる場合がありますので、スイッチを ON したことを 部品処理で検出する場合、検出タイミングがずれることがあります。
  - 画面切替直後の一回目のみ、[画面データー覧ウィンドウ] で対象を [すべて] としたときの表示順に処理します。
  - 配置された描画は、[画面データー覧ウィンドウ] の表示画面で対象を [描画] としたとき、画面切替後 1 回だけ処理します。2 回目以降処理されるのは部品のみです。
    このため、部品が動作して絵が変わったような場合、その部品のみ更新され、描画よりも手前に表示されます。



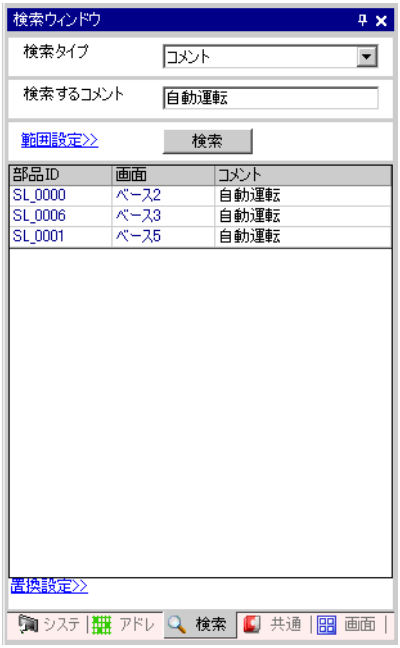
設定項目	設定内容
対象	表示リストに表示する対象を [すべて]、[描画]、[部品] から選択します。
対象補助	[対象] で [描画] または [部品] を選択した場合、表示リストに表示する対象を選択します。
表示リスト	画面上に配置された部品、描画を一覧表示します。行をダブルクリックすると、各設定ダイアログボックスが開き編集できます。表示ナビゲータの操作で非表示 (グレー) にしている行は、クリックすると表示できます。表示ナビゲータについては以下を参照してください。 ☞「8.13.3 **オプション設定（画面編集）の設定ガイド ■ 表示**」(8-95 **ページ**)

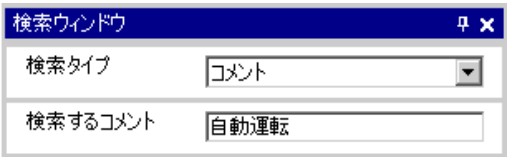
次のページに続きます。

設定項目		設定内容
表示リスト	描画 / 部品	[対象] で [描画] が選択されている場合は描画の種類、[部品] が選択されている場合は部品の ID 番号を表示します。対象がグループ化されている場合は “ グループオブジェクト ” と表示します。また [D スクリプト] を選択している場合は “D スクリプト ” と表示します。
	情報	[対象] で [描画] が選択されている場合は座標、[部品] 選択の場合は部品の全アドレスを表示します。また [D スクリプト] が選択されている場合は ID 番号とコメント、グループオブジェクトを選択している場合は座標と、グループ内の全アドレスを表示します。
	アニメーション	設定されているアニメーション機能のアイコンが表示されます。アニメーション機能については以下を参照してください。 ☞「20.7.1 [**アニメーション設定**] **の設定ガイド**」(20-23 **ページ**)
	固定ピンの表示	部品や描画が固定されているかどうかを確認できます。固定ピン については以下を参照してください。 ☞「8.4.13 **編集したくない（オブジェクトの固定）**」(8-34 **ページ**)
編集		表示リストで選択した部品・描画の設定ダイアログボックスを表示します。
削除		表示リストで選択した部品・描画を削除します。
一番上へ /1 階層上へ		表示リストで選択している項目を一番上 /1 階層上に移動します。
一番下へ /1 階層下へ		表示リストで選択している項目を一番下 /1 階層下に移動します。

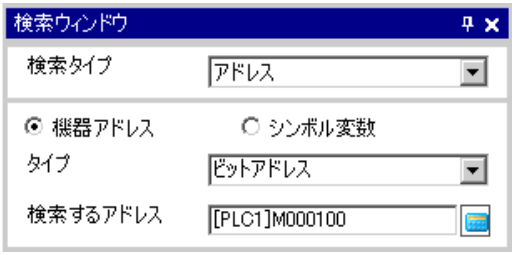
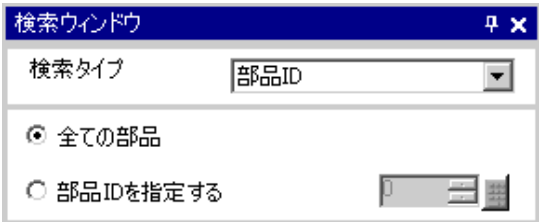
■ 検索ウィンドウ

プロジェクトファイル上の全画面の中から、指定した条件と一致する部品を検索します。検索結果から、属性の変更ができます。

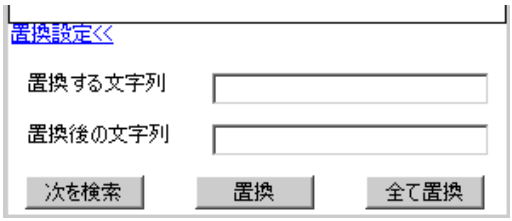


設定項目		設定内容
検索タイプ		検索の方法を [コメント]、[銘板 / 文字列]、[アドレス]、[部品 ID] から選択します。
	コメント	部品の [コメント] に入力された文字列を検索します。[検索するコメント] に検索したい文字列を入力します。 
	銘板 / 文字列	部品の [銘板] および描画の文字列を検索します。[検索する文字列] に検索したい文字列を入力します。

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="2">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="2">検索タイプ</td><td>アドレス</td><td>部品で使用されているアドレスを検索します。[機器アドレス] または [シンボル変数] を選択します。[機器アドレス] を選択した場合は [タイプ] および [検索するアドレス] を入力します。[シンボル変数] を選択した場合は [検索するアドレス] のみを入力します。
 
</td></tr>
<tr><td>部品 ID</td><td>部品 ID を検索します。[全ての部品] または [部品 ID を指定する（番号のみ）] を選択します。
 
</td></tr>
<tr><td colspan="2">範囲設定</td><td>クリックすると、検索範囲を設定するダイアログボックスが表示されます。
☞「◆ 範囲設定ダイアログボックス」(5-137 ページ)</td></tr>
<tr><td colspan="2">検索ボタン</td><td>クリックすると検索を開始します。検索中は [中止] ボタンになります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">検索結果</td><td>検索結果をクリックすると、該当する部品が使われている画面が呼び出されます。該当部品が選択された状態になっています。検索結果をダブルクリックすると、その部品の設定ダイアログボックスが表示されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>部品 ID</td><td>検索された部品の番号が表示されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>画面</td><td>検索された部品が配置されている画面番号が表示されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>コメント / 銘板 / 文字列 / アドレス</td><td>指定した検索タイプによって、コメント、銘板 / 文字列、アドレスのどれかが表示されます。コメント、銘板 / 文字列、アドレスは、この画面から直接変更できます。
</td></tr>
</table>

次のページに続きます。

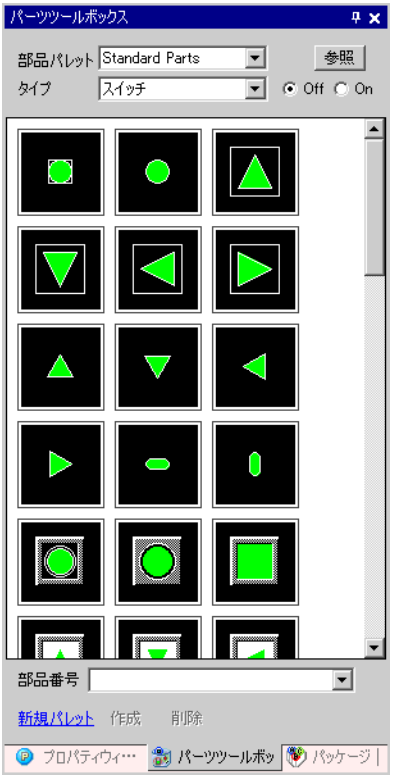
設定項目		設定内容
置換設定		クリックすると次の項目が表示されます。指定したコメント、銘板 / 文字列、アドレスを置換できます。 
	置換する文字列	置換したい文字列を入力します。
	置換後の文字列	新たに設定したい文字列を入力します。
	次を検索	現在の検索結果から置換対象を検索します。
	置換	検索結果の中で選択されている項目の置換を行います。
	すべて置換	現在の検索結果の中から、該当するすべての項目を置換します。

◆範囲設定ダイアログボックス

設定項目	設定内容
ベース画面	ベース画面を検索対象とするかどうかを指定し、検索範囲を 1 ～ 9999 で指定します。
ウィンドウ	ウィンドウ画面を検索対象とするかどうかを指定し、検索範囲を 1 ～ 2000 で指定します。
キーボード	登録しているキーボードを検索対象とするかどうかを指定し、検索範囲を 1 ～ 8999 で指定します。
VM/DVI ユニットウィンドウ	VM/DVI ユニットウィンドウを検索対象とするかどうかを指定し、検索範囲を 1 ～ 512 で指定します。
ヘッダー / フッター	ヘッダー / フッターを検索対象とするかどうかを指定します。
部品の指定	検索対象とする部品にチェックを入れます。
全て選択	すべての部品を選択対象にします。
全てクリア	選択している部品をすべて選択対象から外します。

■ パーツツールボックス

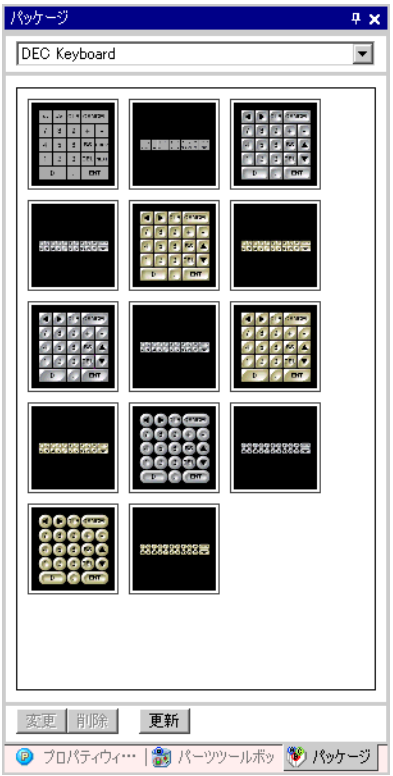
登録されている部品の形状を一覧表示します。使用したい部品の形状を選択し、ドラッグ＆ドロップで作画画面に配置できます。マウスの右クリックメニューから [部品形状コピー] を選択すれば、コピーした形状を作画画面上の部品に貼り付けることができます。



設定項目	設定内容
部品パレット	右側の▼または [参照] をクリックすると、部品パレットを切り替えて表示できます。65536 色、256 色、64 色の部品があります。 ご使用の機種が対応している色数に合わせて、部品パレットを選択してください。 **MEMO** • 形状によっては、色を変更できないものがあります。
タイプ	部品のタイプを選択します。[部品パレット] で選択したパレットにより表示されるタイプは異なります。 **MEMO** • [スイッチ]、[ランプ] または [キー] を選択した場合は、[On]（状態 1）と [Off]（状態 0）の切り替えスイッチが表示されます。
部品番号	部品に登録されている部品番号を表示します。▼をクリックして一覧から部品番号を選択すると、表示画面の部品が選択表示されます。
新規パレット	新規パレットを作成して部品のイメージを登録します。 ☞「8.6.2 **オリジナルの部品を作りたい**」(8-48 **ページ**)
作成	[部品登録] ダイアログボックスに、状態別で部品のイメージを登録します。 ☞「8.6.2 **オリジナルの部品を作りたい**」(8-48 **ページ**)
削除	作成したパレットに登録している部品のイメージを削除します。

■ パッケージ

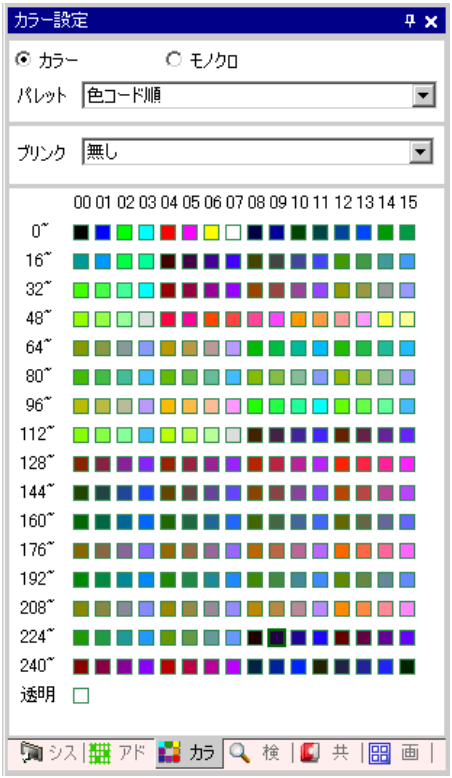
登録されているパッケージの図形を一覧表示します。使用したい図形を選択し、ドラッグ＆ドロップで作画画面に配置できます。



設定項目	設定内容
パッケージの選択	をクリックすると、[パッケージの一覧] に登録されているパッケージを切り替えて表示できます。 [パッケージの一覧] については、「8.13.2 パッケージの一覧の設定ガイド」（8-91 ページ）を参照してください。 **MEMO** • 表示画面上の図形にカーソルを合わせると、選択した図形の拡大表示と部品名称がポップアップウィンドウで表示されます。
変更 / 削除	選択している部品の名称変更、削除を行います。 表示しているパッケージが、ユーザパッケージまたは外部パッケージの場合のみ変更できます。

■ カラー設定

作画画面上の部品にカラーパレットから直接カラーをドラッグ＆ドロップしてカラー属性を変更することができます。



設定項目	設定内容
カラー / モノクロ	カラーのパレットを使用するか、モノクロのパレットを使用するかを選択します。 機種設定でモノクロ機種を選択した場合、[カラー] は選択できません。
パレット	表示するパレットの種類を [色コード順] または [色相順] で選択します。
ブリンク	ブリンクの種類を [無し]、[中速]、[高速]、[低速] から選択します。 **MEMO** • [本体設定] の「表示設定」でブリンクが無効になっている場合は、ブリンク選択が非表示になります。
カラー選択	選択した [パレット] の種類により、表示されるカラーの一覧が異なります。 ☞「8.5.1 **カラーを設定する ■ パレットの種類**」(8-39 **ページ**)

■ コメント一覧ウィンドウ

☞「29.14.2 ロジック機能用 [ワークスペース] の設定ガイド ■ コメント一覧ウィンドウ」(29-145 ページ)

■ 現在値一覧ウィンドウ

☞「29.14.2 ロジック機能用 [ワークスペース] の設定ガイド ■ 現在値一覧ウィンドウ」(29-150 ページ)

■ PID モニタウィンドウ

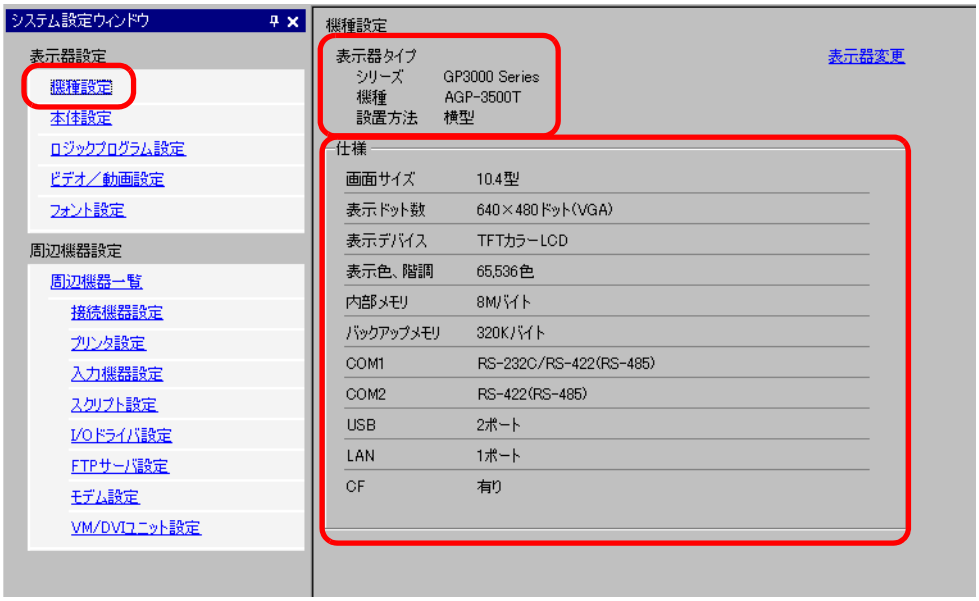
☞「29.14.2 ロジック機能用 [ワークスペース] の設定ガイド ■ PID モニタウィンドウ」(29-146 ページ)

5.17.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド

[システム設定ウィンドウ] に表示されている各項目から呼び出す画面についてご説明します。

■ [機種設定] の設定ガイド

設定している表示器の仕様を表示します。



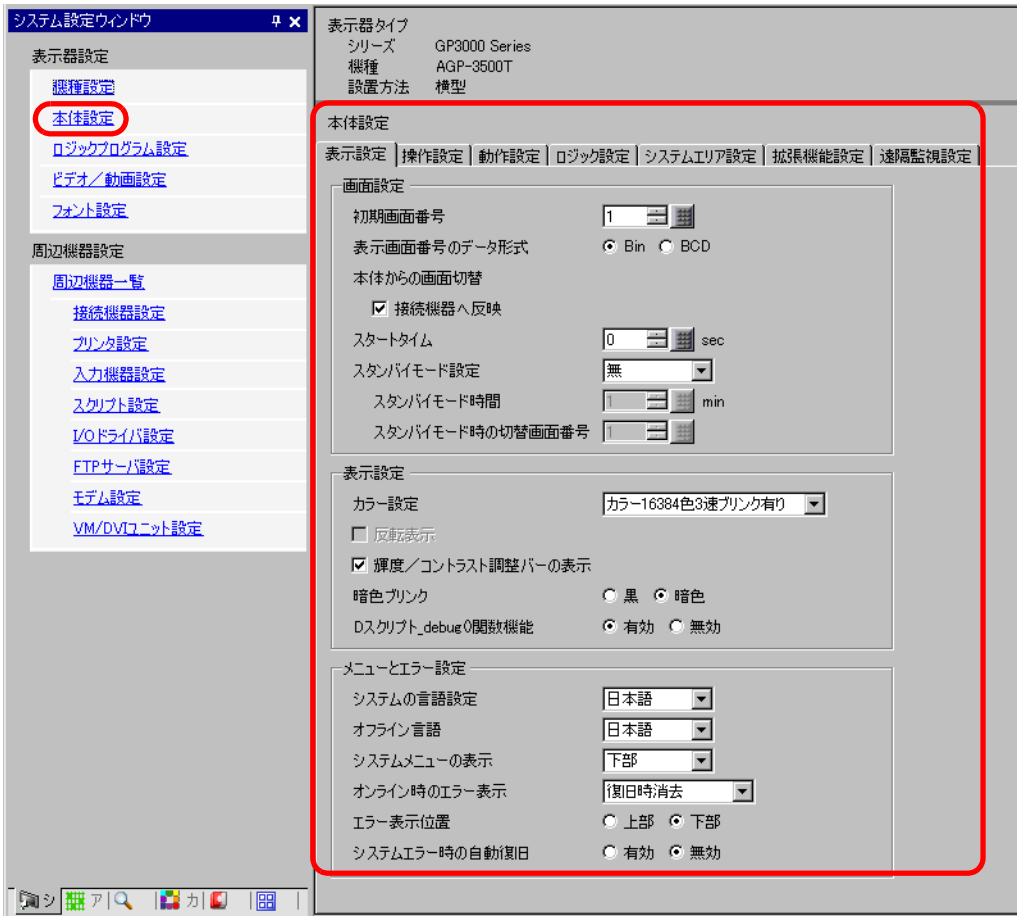
設定項目		設定内容
表示器タイプ		表示器の機種を表示します。 **MEMO** • システム設定ウィンドウで呼び出す全画面に共通で表示されます。
	シリーズ	表示器のシリーズ名を表示します。
	機種	表示器のシリーズに対応した機種名を表示します。
	設置方法	表示器の設置方法を [横型] または [縦型] で表示します。
仕様		[表示器タイプ] で設定された表示器の仕様を表示します。

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
表示器変更		[表示器変更] ダイアログボックスが表示されます。プロジェクトファイルで使用する表示器の機種を変更します。
	現在の表示器	現在設定されている表示器のシリーズ名、機種名、設置方法が表示されます。
	変換先の表示器	変更する表示器の [シリーズ]、[機種]、[設置方法] を設定します。[IPC Series (PC/AT)] を選択した場合は [設置方法] の代わりに [画面サイズ] を選択します。
	解像度コンバート	変換前と変換後で解像度が異なる場合、解像度を自動変換するかどうかを指定します。指定した場合、解像度にあわせて画面上の部品サイズや位置、文字サイズが自動調整されます。ただし文字サイズや表示ドット数などの制限により、一部拡大 / 縮小の倍率が正しく変換できないものがあります。

■ [本体設定] の設定ガイド

◆表示設定



- **画面設定**

設定項目	設定内容
初期画面番号	表示器が起動時に表示する画面の番号を設定します。 ☞「11.3 GP **起動時の表示画面を決めたい**」(11-7 **ページ**) **MEMO** • 画面番号は [表示画面番号のデータ形式] が [Bin] の場合 1 ～ 9999、[BCD] の場合は 1 ～ 7999 で設定します。
表示画面番号のデータ形式	画面切り替え時に指定する画面番号のデータ形式を [Bin]、[BCD] から選択します。
本体からの画面切替	本体からの画面切り替え時に接続機器への反映を行うかどうか設定します。
接続機器へ反映	タッチによって変更された画面番号（現在表示している画面番号）が接続機器の [システムデータエリア先頭アドレス]+8 のアドレスに書き込まれます。画面切替スイッチと接続機器からの画面切り替えを併用して行う際に設定が必要です。 ☞「11.5 **タッチと** PLC **（接続機器）の両方から画面を切り替えたい**」(11-13 **ページ**)
スタートタイム	電源を投入してから表示器が立ち上がるまでの時間を 0 ～ 255 秒で設定します。
スタンバイモード設定	スタンバイモードを [無]、[画面 OFF]、[画面切替] から選択します。 • **無** スタンバイモードには切り替わりません。 • **画面** OFF [スタンバイモード時間] で設定した時間が経過しても画面のタッチや、画面切替、アラームメッセージ表示などの動作がない場合、画面を消去します。 • **画面切替** [スタンバイモード時間] で設定した時間が経過しても画面のタッチや、画面切替、アラームメッセージ表示などの動作がない場合 [スタンバイモード時の切替画面番号] で設定した画面に切り替えます。 **MEMO** • [画面切替] を選択した場合、[前画面に戻る] を設定した画面切替スイッチは正しく動作しない場合があります。
スタンバイモード時間	表示器保護のために自動画面消去の時間を 1 ～ 255 分で設定します。表示器を何も操作せずに、設定時間が経過すると自動的に画面の表示を消したり、設定した画面に切り替えます。

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
	スタンバイモード時の切替画面番号	[スタンバイモード設定] が [画面切替] の場合、[スタンバイモード時間] の経過後に切り替えるベース画面の番号を設定します。 **MEMO** • 画面番号は [表示画面番号のデータ形式] が [Bin] の場合 1 ～ 9999、[BCD] の場合は 1 ～ 7999 で設定します。 • グローバルウィンドウを表示している場合は、ベース画面が切り替わってもウィンドウは表示されたままです。

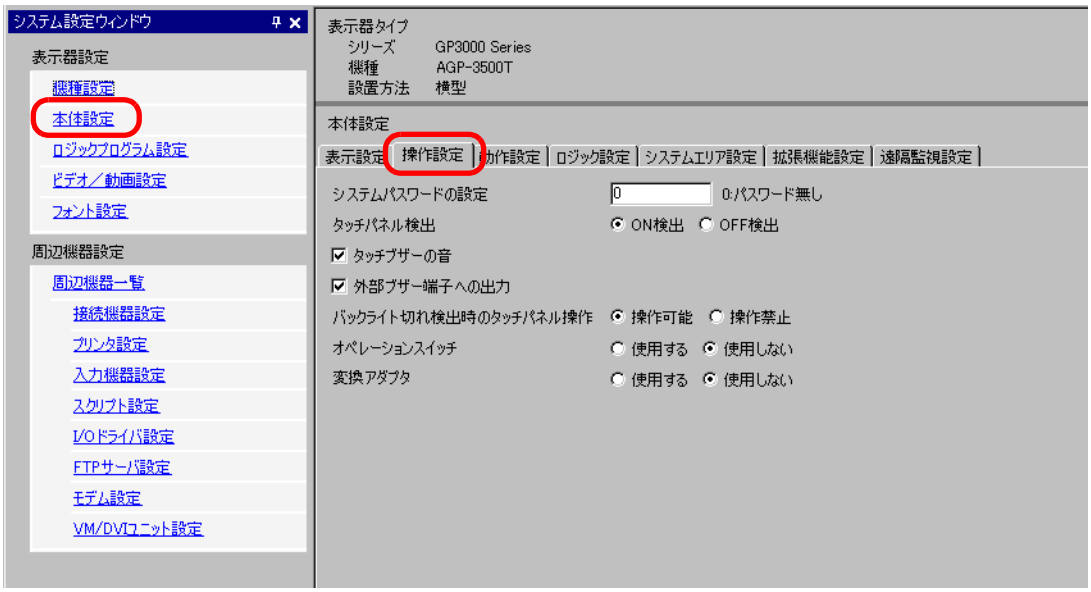
- **表示設定**

設定項目	設定内容
カラー設定	表示器で利用するカラーの設定を行います。 種類 / カラー設定範囲 TFT 表示器 / カラー 65536 色ブリンクなし、カラー 16384 色 3 速ブリンクあり STN 表示器 / カラー 4096 色 3 速ブリンク モノクロ表示器 / モノクロ 16 階調 3 速ブリンク
反転表示	画面の白黒反転表示を行うかどうかを設定します。 **MEMO** • モノクロの表示器が選択されている場合のみ設定できます。
輝度 / コントラスト調整バーの表示	タッチ入力による輝度やコントラストを調整する [輝度 / コントラスト調整バー] を表示するかどうかを設定します。
暗色ブリンク	ブリンクを設定した部品、図形などの反転先のカラーを [黒]、[暗色] から選択します。[暗色] は部品や図形に設定されているカラーの暗色をブリンクの反転先とします。
D **スクリプト** _debug() **関数機能**	D スクリプトに記述された _debug() 関数のデータを実行するかを設定します。 ☞「21.11.7 **その他 ■ デバッグ関数**」(21-127 **ページ**)

- **メニューとエラー設定**

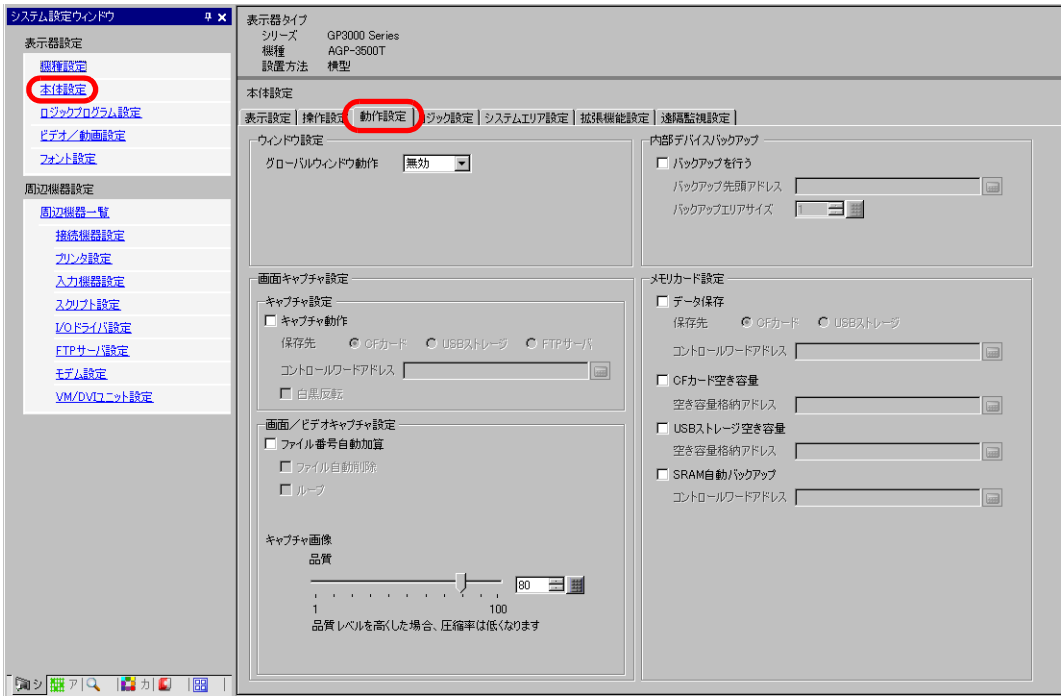
設定項目	設定内容
システムの言語設定	GP 上で表示される「システムメニュー」、「輝度、コントラストの調整」、「エラーメッセージ」（1 行メッセージ、詳細メッセージ両方）の言語を [日本語]、[英語] から設定します。
オフライン言語	オフラインのメニューで表示する言語を [日本語]、[英語] から設定します。
システムメニューの表示	システムメニューを表示する位置を [表示しない]、[上部]、[下部] から選択します。
オンライン時のエラー表示	オンライン時のエラー表示を消去するタイミングを [無]、[復旧時消去]、[画面切替時消去] から選択します。 **重　要** • **通信エラーなどにより接続機器 (PLC など) への書き込みができなかった場合のエラーメッセージは、[復旧時消去] を設定していても GP 画面上から消去されません。このエラーメッセージは画面切り替えを行うと消去できます。**
エラー表示位置	エラーを表示する位置を [上部]、[下部] から選択します。
システムエラー時の自動復旧	システムエラー時に自動復旧を行うかどうかを設定します。

◆操作設定



設定項目	設定内容
システムパスワードの設定	初期設定時やオフラインモードに入る際のシステムパスワードを 0 ～ 99999999 で設定します。システムパスワードが不要な場合は「0」を設定します。
タッチパネル検出	タッチパネルの検出を、タッチで反応する [ON 検出] か、離したときに反応する [OFF 検出] から選択します。
タッチブザーの音	画面にタッチしたときに内蔵のブザー音を鳴らすかどうかを設定します。
外部ブザー端子への出力	タッチパネルブザーを外部ブザー端子へ出力するかどうかを設定します。
バックライト切れ検出時のタッチパネル操作	バックライト切れを検出した際にタッチパネルの操作を可能にするかどうか [操作可能]、[操作禁止] から設定します。

◆動作設定

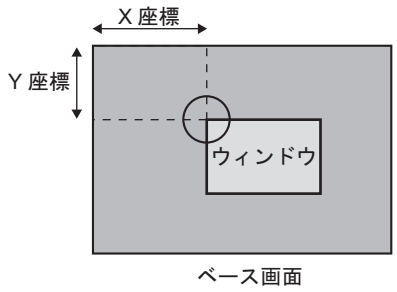

システム設定ウィンドウ
表示器設定
機種設定
本体設定
ロジックプログラム設定
ビデオ／動画設定
フォント設定
周辺機器設定
周辺機器一覧
接続機器設定
プリンタ設定
入力機器設定
スクリプト設定
I/Oドライバ設定
FTPサーバ設定
モデム設定
VM/DVIユニット設定
表示器タイプ
シリーズ GP3000 Series
機種 AGP-3500T
設置方法 横型
本体設定
表示設定
操作設定
動作設定
ロジック設定
システムエリア設定
拡張機能設定
遠隔監視設定
ウィンドウ設定
グローバルウィンドウ動作
無効
内部デバイスバックアップ
バックアップを行う
バックアップ先頭アドレス
バックアップエリアサイズ
画面キャプチャ設定
キャプチャ設定
キャプチャ動作
保存先
CFカード
USBストレージ
FTPサーバ
コントロールワードアドレス
白黒反転
画面／ビデオキャプチャ設定
ファイル番号自動加算
ファイル自動削除
ループ
キャプチャ画像
品質
80
1
100
品質レベルを高くした場合、圧縮率は低くなります
メモリカード設定
データ保存
保存先
CFカード
USBストレージ
コントロールワードアドレス
CFカード空き容量
空き容量格納アドレス
USBストレージ空き容量
空き容量格納アドレス
SRAM自動バックアップ
コントロールワードアドレス

- **ウィンドウ設定**

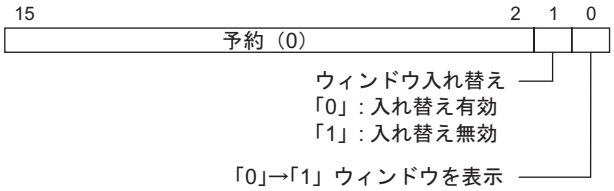
  グローバルウィンドウの表示設定を行います。

設定項目			設定内容
グローバルウィンドウ動作			すべての画面に共通で表示するグローバルウィンドウの動作を [無効]、[直接]、[間接] から選択します。
	無効		グローバルウィンドウを設定しません。
	直接		表示するウィンドウ画面番号や表示位置を固定で表示します。 表示のコントロールは GP 内部デバイスのアドレス（LS16）を操作するか、システムデータエリアを割り付けた接続機器から行います。 **＜設定画面＞** **＜使用する内部デバイスアドレス＞** グローバルウィンドウ動作 直接 ウィンドウ画面番号 1 表示位置X座標 320 表示位置Y座標 240 LS0016 コントロールアドレス LS0017 （予約） LS0018 （予約） LS0019 （予約） • **コントロールアドレス** グローバルウィンドウの表示をコントロールするアドレスです。ビット 0 を ON するとウィンドウが表示されます。 15 … 2 1 0 予約（0） ウィンドウ入れ替え 「0」：入れ替え有効 「1」：入れ替え無効 「0」→「1」ウィンドウを表示 **MEMO** • 接続機器でシステムデータエリアを使用する場合は、割り付けたアドレスの連続 4 ワードを使用して設定します。 ☞**「◆ システムエリア設定」（5-168 ページ）**
		ウィンドウ画面番号	グローバルウィンドウの画面番号を 1 ～ 2000 で設定します。

次のページに続きます。

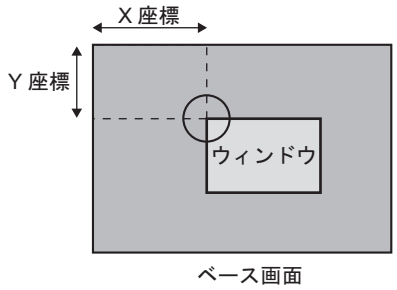
<table>
<tr><th colspan="3">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="2">グローバルウィンドウ動作</td><td>直接</td><td>表示位置
X 座標 /Y 座標</td><td>グローバルウィンドウの表示位置を設定します。画面を切り替えても同じ位置にウィンドウが表示されます。ここで指定した座標がウィンドウの左上隅の位置になります。
 

MEMO
• X 座標は 4 ドット単位で設定します。4 ドット単位からずれていた場合は、指定した座標の左側 4 ドット単位の位置に自動修正され表示されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">間接</td><td>表示するウィンドウ画面番号、表示位置は GP 内部デバイスのアドレス（LS16 ～ LS19）にデータを格納することで設定します。システムデータエリアを接続機器に割り付けると、接続機器からウィンドウ画面を切り替えたり表示位置を変更できます。
＜設定画面＞

＜使用する内部デバイスアドレス＞
<table>
<tr><td>LS0016</td><td>コントロールアドレス</td></tr>
<tr><td>LS0017</td><td>ウィンドウ画面番号</td></tr>
<tr><td>LS0018</td><td>表示位置（X 座標）</td></tr>
<tr><td>LS0019</td><td>表示位置（Y 座標）</td></tr>
</table>
• コントロールアドレス
グローバルウィンドウの表示をコントロールするアドレスです。ビット 0 を ON するとウィンドウが表示されます。
 

• ウィンドウ画面番号
表示したいウィンドウ画面の番号を 1 ～ 2000 で指定します。</td></tr>
</table>

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="3">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="4">グローバルウィンドウ動作</td><td colspan="2">間接</td><td>• 表示位置 X 座標 /Y 座標
グローバルウィンドウの表示位置を指定します。アドレスに格納する値を変更するとウィンドウを移動できます。ここで指定した座標はウィンドウの左上隅の位置になります。
 

MEMO
• 接続機器でシステムデータエリアを使用する場合は、割り付けたアドレスの連続 4 ワードを使用して設定します。
☞「◆ システムエリア設定」(5-168 ページ)</td></tr>
<tr><td></td><td>データ形式</td><td>アドレスに格納するデータの形式を [Bin]、[BCD] から選択します。</td></tr>
<tr><td></td><td>回覧メッセージを使用する</td><td>メッセージ表示器の回覧メッセージ機能を使用するかどうかを設定します。
MEMO
• GP-3300 シリーズは、Rev4 以上の機種のみ回覧メッセージ機能が使用できます。
回覧メッセージの詳細については以下を参照してください。
☞「17.8 複数の GP 画面上で回覧メッセージを表示したい」(17-42 ページ)</td></tr>
<tr><td></td><td>先頭ワードアドレス</td><td>メッセージを表示するトリガとなる先頭の内部アドレス (LS エリア、USER エリア、メモリリンク専用システムエリア) を設定します。
指定された内部アドレスは、次のフォーマットに従って値を使用します。
<table><tr><th>アドレス</th><th>内容</th></tr><tr><td>指定アドレス +0</td><td>表示トリガ</td></tr><tr><td>指定アドレス +1</td><td>ウィンドウ番号</td></tr><tr><td>指定アドレス +2</td><td>ウィンドウ表示位置の X 座標</td></tr><tr><td>指定アドレス +3</td><td>ウィンドウ表示位置の Y 座標</td></tr></table>
指定アドレスの加算はデバイスサイズに準じます。
• 16 ビットデバイスであれば、ワード単位の加算となります。
• 32 ビットデバイスであれば、ダブルワード単位の加算となります。

• 指定アドレス +0：表示トリガ
ウィンドウ画面の表示 / 消去を設定します。
<table><tr><td>...</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td colspan="2">予約</td><td>表示／消去</td></tr></table>
ビット 0 をメッセージの表示・消去トリガとして設定してください。
指定デバイスのサイズ (16 ビット /32 ビットデバイス) に関係なく、同じビットを使用します。</td></tr>
</table>

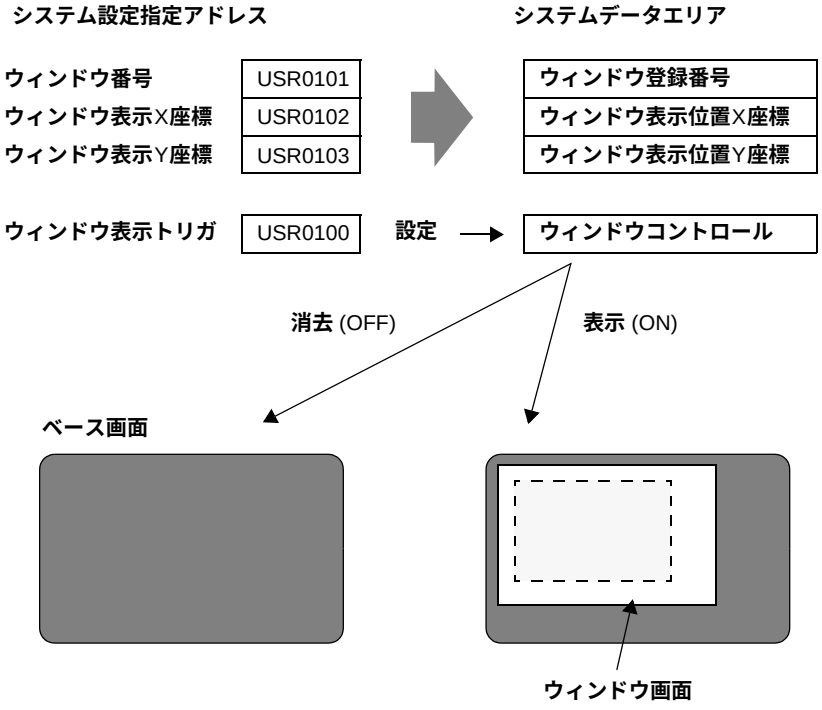
次のページに続きます。

設定項目			設定内容
グロ―バルウィンドウ動作	間接	先頭ワードアドレス	

状態	消去 / 表示ビット ビット 0
消去	OFF
表示	ON

- 表示 / 消去ビット以外のビットが設定されていても無視されます。
- システムデータエリアのウィンドウ番号・ウィンドウ表示位置 (X 座標)・ウィンドウ表示位置 (Y 座標) と連動します。
- 各状態の動作は次のようになります。
  - **消去**
    システムデータエリアのウィンドウコントロールを OFF にします。
  - **表示**
    指定アドレスのウィンドウ番号・ウィンドウ表示位置 (X 座標・Y 座標) の値を、システムデータエリアのウィンドウ番号・ウィンドウ表示位置 (X 座標・Y 座標) に設定します。
    ウィンドウコントロールのウィンドウ表示を ON にします。
    ウィンドウコントロールのウィンドウ入れ替えを入れ替え有効にします。

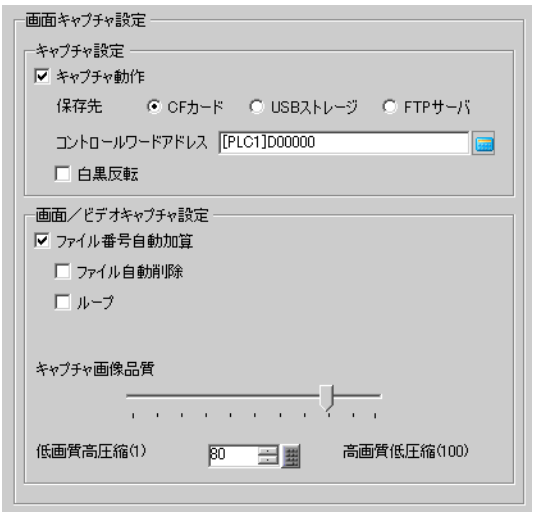
例) 指定された内部アドレスが USR0100 とした場合



- **指定アドレス** +1：**ウィンドウ番号**
  ウィンドウ画面の番号を設定します。
- **指定アドレス** +2：**ウィンドウ表示位置の** X **座標**
  ウィンドウ画面の表示位置 X 座標を設定します。
- **指定アドレス** +3：**ウィンドウ表示位置の** Y **座標**
  ウィンドウ画面の表示位置 Y 座標を設定します。

- **画面キャプチャ設定**

  GP 画面やビデオ画面のハードコピーを行います。



設定項目		設定内容
キャプチャ設定	**キャプチャ動作**	画面キャプチャ動作を行うかどうかを設定します。
	保存先	キャプチャした画面の保存先を [CF カード]、[USB ストレージ]、[FTP サーバ] から選択します。
	コントロールワードアドレス	画面キャプチャのトリガとなるコントロールワードアドレスを設定します。設定した [コントロールワードアドレス] から 3 ワード分を使用してファイル番号や、ファイル出力の実行、保存処理結果（ステータス）の確認を行います。 **• アドレスについて** アドレス +0 | コントロール アドレス +1 | ステータス アドレス +2 | ハードコピーファイル番号 ※ [**ハードコピーファイル番号**]**は**CF、USB**ストレージ選択時のみ有効です。** **〈コントロール〉** 15 … 0 ビット 予約 ビット 0: ファイル出力開始ビット [0]→[1] の変化時にファイル出力を開始 **〈ステータス〉** 15 … 12 … 1 0 ビット 予約 JPEG エラーコード ビット 1: ファイル出力完了 [0]: 未出力 [1]: 出力完了 ビット 0: ファイル出力中 [0]: 未出力 [1]: 出力中

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
キャプチャ設定	コントロールワードアドレス	〈JPEGエラーコードの詳細〉

ビット 12 ～ 15	内容	詳細
0000	正常終了	処理が正常に終了したとき
0001	予約	
0010	予約	
0011	予約	
0100	CF カード、USB ストレージなし	キャプチャ時、または JPEG データの表示時に CF カード（USB ストレージ）が挿入されていないか、CF カードのハッチが開いている場合
0101	ライトエラー	キャプチャ時に CF カード /USB ストレージの容量がないか、書き込み中に CF カード / USB ストレージが抜かれたとき
0110	予約	
0111	CF カード、USB ストレージエラー	CF カード /USB ストレージが未フォーマットのとき
1000	予約	
1001	自動インクリメントファイル数オーバー	自動インクリメント機能でファイル番号が 65535 を超えたとき
1010	FTP サーバ接続エラー	FTP サーバにアクセスできないとき
1011	FTP ログオン失敗エラー	FTP サーバへのログオンに失敗したとき
1100	書き込み失敗エラー	FTP サーバへのデータの書き込みに失敗したとき

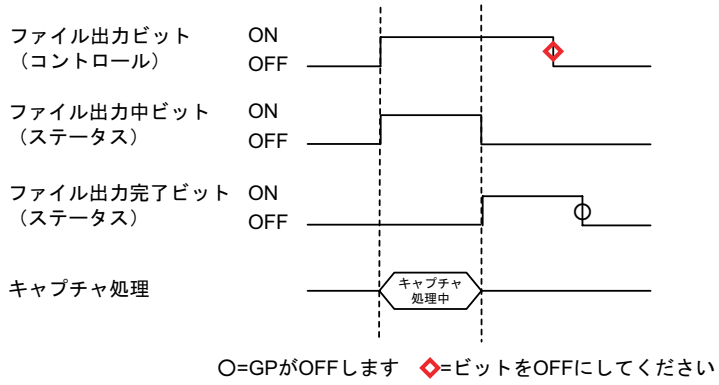
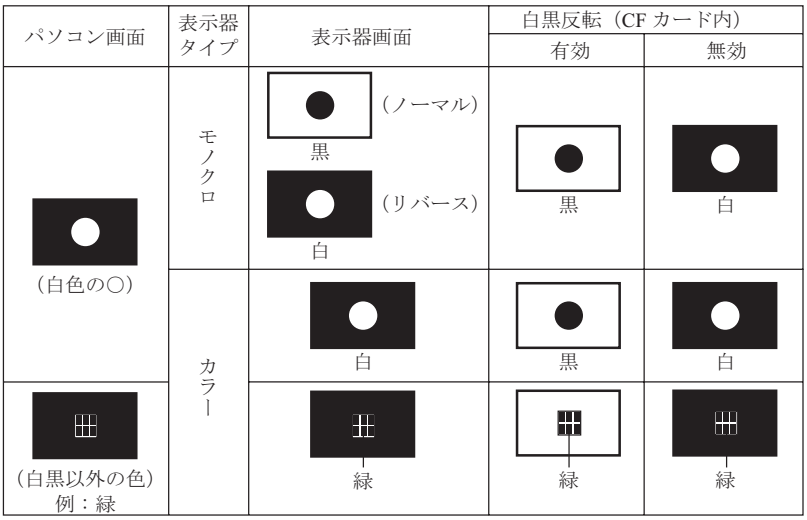
MEMO

- FTP サーバのタイムアウトは 75 秒です。タイムアウト時間内に FTP サーバに接続できないときはエラーとなります。
  ファイル名はタイムスタンプとなります。
  例) 06 年 05 月 27 日 15 時 23 分 46 秒に保存を行った場合のファイル名は CP060527_152346.jpg となります。

（ハードコピーファイル番号）

- **保存先が CF カード、USB ストレージの場合**
  画面キャプチャしたファイルのファイル名「CP*****.jpg」の ***** 部分を 0 ～ 65535 で指定します。[ファイル番号自動加算] を使用する場合は、このアドレスに自動的にファイル番号が格納されます。
- **保存先が FTP サーバの場合**
  画面キャプチャしたファイルのファイル番号には、タイムスタンプを使用するため、[コントロールアドレス]+2 の値は参照しません。

次のページに続きます。

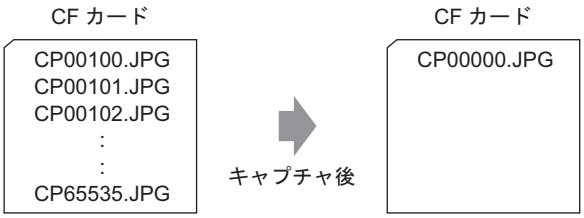
設定項目		設定内容
キャプチャ設定	コントロールワードアドレス	• **キャプチャ動作の詳細について** ファイル出力完了ビットは、キャプチャ処理が完了するとステータスアドレスの 1 ビットめが ON します。キャプチャ処理終了後、ファイル出力完了ビットが ON していることを確認して、接続機器にてファイル出力ビットを OFF してください。ファイル出力ビットが OFF されると、GP がファイル出力完了ビットを OFF します。キャプチャ時のコントロールとステータスのタイミングは以下のとおりです。  **MEMO** • ファイル出力完了ビットが ON する前にファイル出力ビット（コントロール）を OFF した場合でもファイル出力完了ビットは自動的に OFF されます。 • 画面キャプチャを処理中にエラーが発生した場合はコントロールアドレスのトリガビットが OFF されてもステータスエリアはクリアされません。次回正常に処理を完了したときにクリアされます。
	白黒反転	キャプチャした画面を保存する際、画面を白黒反転して保存するかどうかを設定します。 **MEMO** • モノクロ機種またはカラー機種では白黒反転状態は次のように表示されます。  • 白または黒のみを反転させることができます。 • カラーは反転しません。

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="3">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="3">画面／ビデオキャプチャ設定</td><td colspan="2">ファイル番号自動加算</td><td>画面キャプチャ時に、既存するファイルのうちの最大ファイル番号 +1 の番号を自動的に割り付け（ナンバリング）して、新規ファイルを作成する機能です。保存先が [CF カード] または [USB ストレージ] の場合に指定できます。
自動ナンバリングしたファイル番号は、指定した [コントロールワードアドレス] +2 のアドレスに書き込まれます。
最大ファイル番号（65535）までナンバリングを行うと、それ以降は画面キャプチャができません。継続したい場合には [ファイル自動削除] 機能または [ループ] 機能を使用します。

MEMO
• 最大ファイル番号の検索は GP の電源投入時や CF カードカバーの開閉時、CF カード /USB ストレージの挿抜時に行われます。
• この機能を使用する場合、指定した [コントロールアドレス]+2 のアドレスに任意のファイル番号を設定しても無効となります。</td></tr>
<tr><td></td><td>ファイル自動削除</td><td>ファイル番号が最大ファイル番号（65535）になった場合や CF カード /USB ストレージに空き容量がない場合に、既存のファイルを削除して新規ファイルを保存します。

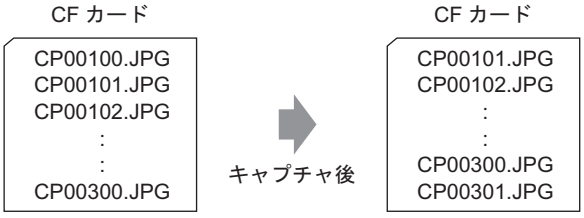
〈最大ファイル番号が存在する場合〉
CF カード /USB ストレージ内に最大ファイル番号（65535）のファイルが存在する場合は、既存のファイルをすべて削除し、ファイル番号 0 から新たにファイル作成します。

例） CF カード内に「CP65535.JPG」が存在しているとき
 

CF カード内のすべての画面キャプチャファイル「CP*****.JPG」を削除して、「CP00000.JPG」で保存します。

MEMO
• すべてのファイルを削除するのに、数十秒から数分かかる場合があります。

〈CF カード /USB ストレージに空き容量がない場合〉
最小ファイル番号のファイルを削除して最大ファイル番号 +1 のファイルを追加します。

例） CF カード内に「CP00100.JPG」～「CP00300.JPG」まで存在しているとき
 

最小番号のファイル「CP00100.JPG」を削除して、新しいファイル「CP00301.JPG」を追加します。</td></tr>
</table>

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="3">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="3">画面／ビデオキャプチャ設定</td><td rowspan="2">ファイル番号自動加算</td><td>ループ</td><td>画面キャプチャ時に、CF カード /USB ストレージに既存するファイルのうち最新のファイル（タイムスタンプが最新のファイル）のファイル番号 +1 の番号で新規ファイルを作成します。最大ファイル番号（65535）まで保存すると、次はファイル番号 0 から順に上書き保存して画面キャプチャを継続します。

MEMO
• ファイルのタイムスタンプは、ファイル作成時に毎回チェックが行われます。

〈最新ファイルが最大ファイル番号の場合〉
最新ファイルのファイル番号が 65535 の場合、次はファイル番号 0 でファイルが作成されます。

例） CF カード内に「CP65531.JPG」～「CP65535.JPG」まで存在しているとき

CF カード
CP65531.JPG 9:00
CP65532.JPG 10:00
CP65533.JPG 11:00
CP65534.JPG 12:00
CP65535.JPG 13:00

CF カード
CP00000.JPG 14:00
CP65531.JPG 9:00
CP65532.JPG 10:00
CP65533.JPG 11:00
CP65534.JPG 12:00
CP65535.JPG 13:00

「CP00000.JPG」のファイルを作成します。

〈CF カード /USB ストレージに空き容量がない場合〉
画面キャプチャ時に一番古いファイルを削除して、最新ファイルのファイル番号 +1 で新しいファイルを追加します。

例） 最新ファイルが「CP00000.JPG」のとき

CF カード
CP00000.JPG 14:00
CP65531.JPG 9:00
CP65532.JPG 10:00
CP65533.JPG 11:00
CP65534.JPG 12:00
CP65535.JPG 13:00

CF カード
CP00000.JPG 14:00
CP00001.JPG 15:00
CP65532.JPG 10:00
CP65533.JPG 11:00
CP65534.JPG 12:00
CP65535.JPG 13:00

一番古いファイル「CP65531.JPG」を削除して「CP00001.JPG」を追加します。

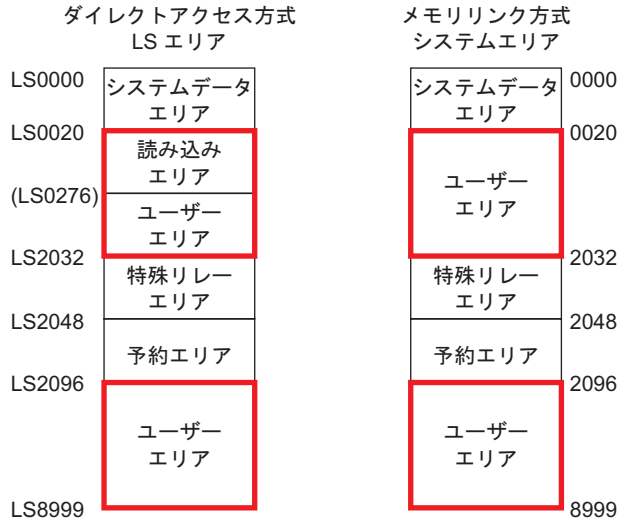
MEMO
• CF カード /USB ストレージに空き容量がない場合は古いファイルを削除してから新しいファイルを作成するため、空き容量がある場合に比べて画面キャプチャ処理にかかる時間が 2 倍近くかかることがあります。
• FTP に保存時は、ファイル番号自動換算機能は使用できません。</td></tr>
<tr><td colspan="2">FTP サーバ</td><td>保存先に [FTP サーバ] を選択したときのみ表示されます。使用する FTP サーバ No. を選択します。（FTP サーバ No. はシステム設定 [FTP サーバ設定] で設定した登録 No. です。）

MEMO
• ファイル名はタイムスタンプとなります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">キャプチャ画像品質</td><td>キャプチャ画像の品質を 1 ～ 100 で設定します。直接数値を入力して設定することもできます。
1 ：低画質、高圧縮
100：高画質、低圧縮</td></tr>
</table>

- **内部デバイスバックアップ**
  内部デバイスアドレスのユーザーエリアに格納されているデータをバックアップ SRAM にコピーします。内部デバイスバックアップを設定しておくと、GP の電源を再度投入した際に内部デバイスアドレスに格納していたデータを保持した状態で起動します。

重 要

- **GP の内部デバイスに格納されたデータは、GP の電源を OFF したときや、転送などで GP がオフライン状態になったタイミングに消去されます。この機能を使用すれば、ユーザーエリア内のデータのバックアップが可能です。**

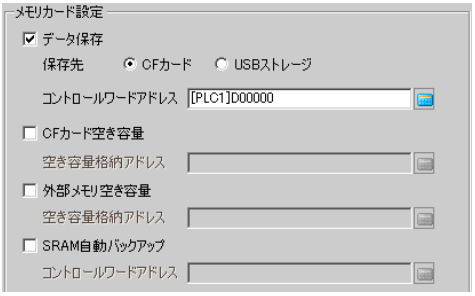
設定項目	設定内容
バックアップを行う	GP 内部デバイスのバックアップを行うかどうかを設定します。 **MEMO** • ユーザーエリア内の、連続したアドレス内に格納されたデータをバックアップします。範囲となるユーザーエリアは LS または USR から選択します。（メモリリンク方式ではシステムエリアか USR。）複数の範囲をバックアップすることはできません。例えば、ダイレクトアクセス方式の LS エリアを選択した場合、ユーザーエリアは 2 箇所あります（赤枠部分）が、どちらかのみをバックアップします。メモリリンク方式でシステムエリアを選択した場合も同様です。 

次のページに続きます。

<table>
<tr><th>設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td>バックアップ
先頭アドレス</td><td>バックアップする内部デバイスの先頭アドレスを設定します。[バックアップエリアサイズ] が確保できる範囲の先頭アドレスを設定してください。
ダイレクトアクセス方式の場合、先頭アドレスは LS20 ～ LS2031、または LS2096 ～ 8999、もしくは USR0 ～ USR29999 の範囲内で設定します。
メモリリンク方式で通信する場合、先頭アドレスは 20 ～ 2031、または 2096 ～ 8999、もしくは USR0 ～ USR29999 の範囲内で設定します。</td></tr>
<tr><td>バックアップ
エリアサイズ</td><td>バックアップする内部デバイスサイズを設定します。
重 要
• [バックアップ先頭アドレス]+[バックアップエリアサイズ] が、内部デバイスのバックアップ有効範囲を超えている場合は、バックアップ動作が行われません。
MEMO
• LS エリアまたは MtoM デバイス（メモリリンク）使用の場合は 1 ～ 6096 で設定します。USR エリア使用の場合は 1 ～ 30000 で設定します。
• 内部デバイスのバックアップサイズは、バックアップエリアサイズによって変化します。
< 計算式 >
16 + (4 ※1 × バックアップエリアサイズ)
例）<table><tr><td>設定</td><td>内容</td></tr><tr><td>バックアップ先頭アドレス</td><td>LS2096</td></tr><tr><td>バックアップエリア</td><td>6096</td></tr></table>< 計算結果 >
(16) ＋ (4 × 6096) = 24400 バイト（約 24K バイト）
※1 LS デバイスアドレス、メモリリンクの場合は 4 となります。
USR デバイスアドレスの場合は 2 となります。ただし、バックアップエリアサイズが奇数の場合は、＋ 1 した値となります。</td></tr>
</table>

- **メモリカード設定**

  各種メモリカードにデータを保存する設定を行います。

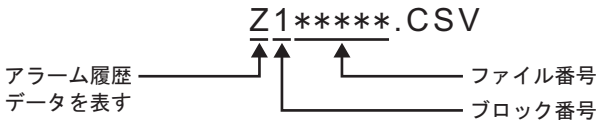


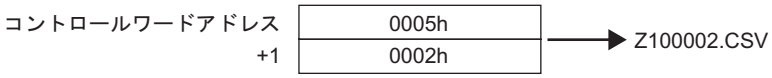
<table>
<tr><th>設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td>データ保存</td><td>ファイリングデータ、CSV ファイル（アラーム、サンプリングなど）など GP 運転時にバックアップ SRAM 内に格納されたデータを [CF カード] または [USB ストレージ] に保存するかどうか設定します。
☞「5.18.2 データ保存の制限事項」(5-204 ページ）</td></tr>
<tr><td>コントロール
ワードアドレス</td><td>データの書き出しをコントロールするアドレスです。ファイル番号を指定してから、アドレスにコマンドを書き込みます。

コントロールワードアドレス | コマンド / ステータス
+1 | ファイル番号

〈コマンドとステータス〉
コマンドを書き込むと、データを CF カードまたは USB ストレージへ書き出します。処理を行った結果（ステータス）がアドレスに反映されます。
<table>
<tr><th>モード</th><th>データ</th><th>内容</th></tr>
<tr><td rowspan="17">コマンド</td><td>0001h</td><td>ファイリングデータ</td></tr>
<tr><td>0002h</td><td>GP-PRO/PB III for Windows 専用ロギングデータ（互換用）</td></tr>
<tr><td>0003h</td><td>GP-PRO/PB III for Windows 専用折れ線グラフデータ（互換用）</td></tr>
<tr><td>0004h</td><td>GP-PRO/PB III for Windows 専用データサンプリングのデータ（互換用）</td></tr>
<tr><td>0005h</td><td>ブロック 1 のアラーム履歴データ</td></tr>
<tr><td>0006h</td><td>ブロック 2 のアラーム履歴データ</td></tr>
<tr><td>0007h</td><td>ブロック 3 のアラーム履歴データ</td></tr>
<tr><td>0008h</td><td>ブロック 4 のアラーム履歴データ</td></tr>
<tr><td>0009h</td><td>ブロック 5 のアラーム履歴データ</td></tr>
<tr><td>000ah</td><td>ブロック 6 のアラーム履歴データ</td></tr>
<tr><td>000bh</td><td>ブロック 7 のアラーム履歴データ</td></tr>
<tr><td>000ch</td><td>ブロック 8 のアラーム履歴データ</td></tr>
<tr><td>0020h</td><td>GP-PRO/PB III for Windows 専用ロギングループの自動保存開始（互換用）</td></tr>
<tr><td>0021h</td><td>GP-PRO/PB III for Windows 専用ロギングループの自動保存終了（互換用）</td></tr>
<tr><td rowspan="9">ステータス</td><td>0000h</td><td>正常終了</td></tr>
<tr><td>0100h</td><td>書き込みエラー</td></tr>
<tr><td>0200h</td><td>CF カードが挿入されていない、または CF カードカバーが開いている</td></tr>
<tr><td>0300h</td><td>書き込みデータが存在しない（データが設定されていない）</td></tr>
<tr><td>0400h</td><td>ファイル番号エラー（ファイルの番号が指定範囲を超えている）</td></tr>
<tr><td>0500h</td><td>Pro-Server 要求との競合エラー</td></tr>
<tr><td>2000h</td><td>GP-PRO/PB III for Windows 専用ロギングループ（互換用）の自動保存に対する正常応答
コントロールアドレスの値がこの値の間、自動保存モードが継続されます。値が変更されると自動保存を終了します。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

次のページに続きます。

<table>
<tr><th>設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td>コントロール
ワードアドレス</td><td>
〈ファイル名と保存場所〉
ファイリングデータで [複数フォルダを利用する] を設定している場合は 1 ～ 8999 の範囲で設定します。設定していない場合はファイル番号「1」固定です。例えば、コマンドを書き込むとアラーム履歴データは CF カードまたは USB ストレージの [ALARM] フォルダに以下のファイル名で保存されます。


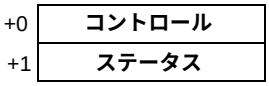
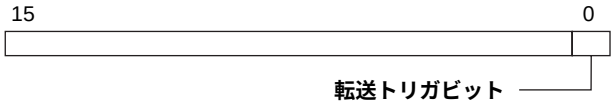
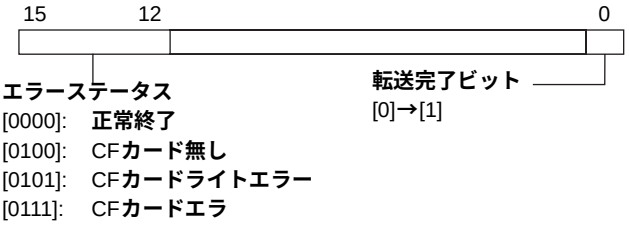
例）


MEMO
• CF カードを GP で初期化すると、自動的にフォルダが作成されます。
<table>
<tr><th>フォルダ</th><th>保存されるデータ</th><th>ファイル名</th></tr>
<tr><td rowspan="2">¥FILE</td><td>ファイリングデータ</td><td>F*****.BIN</td></tr>
<tr><td>CSV データ転送機能データ</td><td>ZR*****.CSV</td></tr>
<tr><td>¥LOG</td><td>GP-PRO/PB III for Windows 専用ロギングデータ（互換用）</td><td>ZL*****.CSV</td></tr>
<tr><td rowspan="2">¥DATA</td><td>イメージ画面</td><td>I*****.BIN</td></tr>
<tr><td>サウンドデータ</td><td>O*****.BIN</td></tr>
<tr><td>¥CAPTURE</td><td>画面キャプチャ
ビデオキャプチャ</td><td>CP*****.JPG</td></tr>
<tr><td>¥MOVIE</td><td>動画ファイル</td><td>*.SDX</td></tr>
<tr><td rowspan="2">¥TREND</td><td>GP-PRO/PB III for Windows 専用折れ線グラフデータ（互換用）</td><td>ZT*****.CSV</td></tr>
<tr><td>GP-PRO/PB III for Windows 専用データサンプリングのデータ（互換用）</td><td>ZS*****.CSV</td></tr>
<tr><td rowspan="8">¥ALARM</td><td>ブロック 1 のアラーム履歴データ</td><td>Z1*****.CSV</td></tr>
<tr><td>ブロック 2 のアラーム履歴データ</td><td>Z2*****.CSV</td></tr>
<tr><td>ブロック 3 のアラーム履歴データ</td><td>Z3*****.CSV</td></tr>
<tr><td>ブロック 4 のアラーム履歴データ</td><td>Z4*****.CSV</td></tr>
<tr><td>ブロック 5 のアラーム履歴データ</td><td>Z5*****.CSV</td></tr>
<tr><td>ブロック 6 のアラーム履歴データ</td><td>Z6*****.CSV</td></tr>
<tr><td>ブロック 7 のアラーム履歴データ</td><td>Z7*****.CSV</td></tr>
<tr><td>ブロック 8 のアラーム履歴データ</td><td>Z8*****.CSV</td></tr>
<tr><td>¥SRAM</td><td>バックアップ SRAM データ</td><td>ZD*****.BIN</td></tr>
<tr><td>\SAMP01</td><td>サンプリンググループ 1 のデータ</td><td>SA*****.CSV</td></tr>
<tr><td>・
・
・</td><td>・
・
・</td><td>・
・
・</td></tr>
<tr><td>¥SAMP64</td><td>サンプリンググループ 64 のデータ</td><td>SA*****.CSV</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>CF カード空き容量</td><td>CF カードの空き容量を内部デバイスに格納するかどうかを設定します。CF カード空き容量の目安がわかります。</td></tr>
</table>

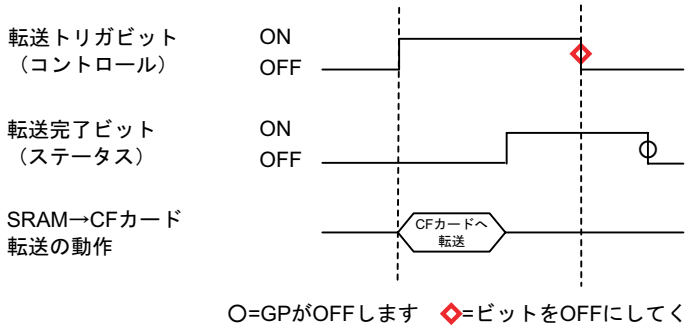
次のページに続きます。

設定項目	設定内容
空き容量格納アドレス	CF カード空き容量を格納するアドレスを設定します。 ダイレクトアクセス方式の場合、先頭アドレスは LS20 ～ LS2031、または LS2096 ～ 8999、もしくは USR0 ～ USR29999 の範囲内で 1 つ設定します。 メモリリンク方式の場合、先頭アドレスは 20 ～ 2031、または 2096 ～ 8999、もしくは USR0 ～ USR29999 の範囲内で 1 つ設定します。 設定されたアドレスに 0 ～ 65535（FFFFh）の範囲で値を格納します。格納される値の単位は K バイトです。 **MEMO** • CF カードが挿入されていない場合は正常に空き容量を確認できず、0K バイトとして表示されますのでご注意ください。 • 格納される CF カードの空き容量はあくまでも目安としてください。空き容量分のデータを保存できない場合もあります。 • 空き容量が 65535（FFFFh）K バイトを超える場合は、LS エリアの値は 65535（FFFFh）となります。
外部メモリ空き容量	外部メモリ（USB ストレージ）の空き容量を内部デバイスに格納するかどうかを設定します。外部メモリの空き容量の目安がわかります。
空き容量格納アドレス	外部メモリ（USB ストレージ）の空き容量を格納するアドレスを設定します。 ダイレクトアクセス方式の場合、先頭アドレスは LS20 ～ LS2031、または LS2096 ～ 8999、もしくは USR0 ～ USR29999 の範囲内で 1 つ設定します。 メモリリンク方式の場合、先頭アドレスは 20 ～ 2031、または 2096 ～ 8999、もしくは USR0 ～ USR29999 の範囲内で 1 つ設定します。 設定されたアドレスに 0 ～ 65535（FFFFh）の範囲で値を格納します。格納される値の単位は K バイトです。 **MEMO** • USB ストレージが装着されていない場合は正常に空き容量を確認できず、0K バイトとして表示されますのでご注意ください。 • 格納される外部メモリの空き容量はあくまでも目安としてください。空き容量分のデータを保存できない場合もあります。 • 空き容量が 65535（FFFFh）K バイトを超える場合は、LS エリアの値は 65535（FFFFh）となります。
SRAM 自動バックアップ	バックアップ SRAM のすべてのデータを CF カードに自動で転送するかどうかを設定します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
コントロール ワードアドレス	運転モード中に SRAM のデータを CF カードにバックアップします。バックアップのトリガとなるコントロールアドレスを設定します。設定したコントロールアドレス +1 のアドレスには、処理状況が格納されます。  • **コントロール** ビット 0 を ON すると、バックアップを開始します。  • **ステータス** 転送が正常に完了すると、ビット 0（転送完了ビット）が ON します。このビット ON を確認して、コントロールアドレスのビット 0 を OFF してください。転送完了ビットが自動的に OFF されます。  エラーコードの詳細は次のとおりです。 エラーコード / エラー名 / 詳細 0000 / 正常終了 / バックアップ処理が正常に終了したとき 0100 / CF カード無し / バックアップ時に CF カードが挿入されていないか、CF カードのハッチが開いているとき 0101 / CF カードライトエラー / バックアップ時に CF カードの容量が足りないか、書き込み中に CF カードが抜かれたとき 0111 / CF カードエラー / CF カードが未フォーマットのとき

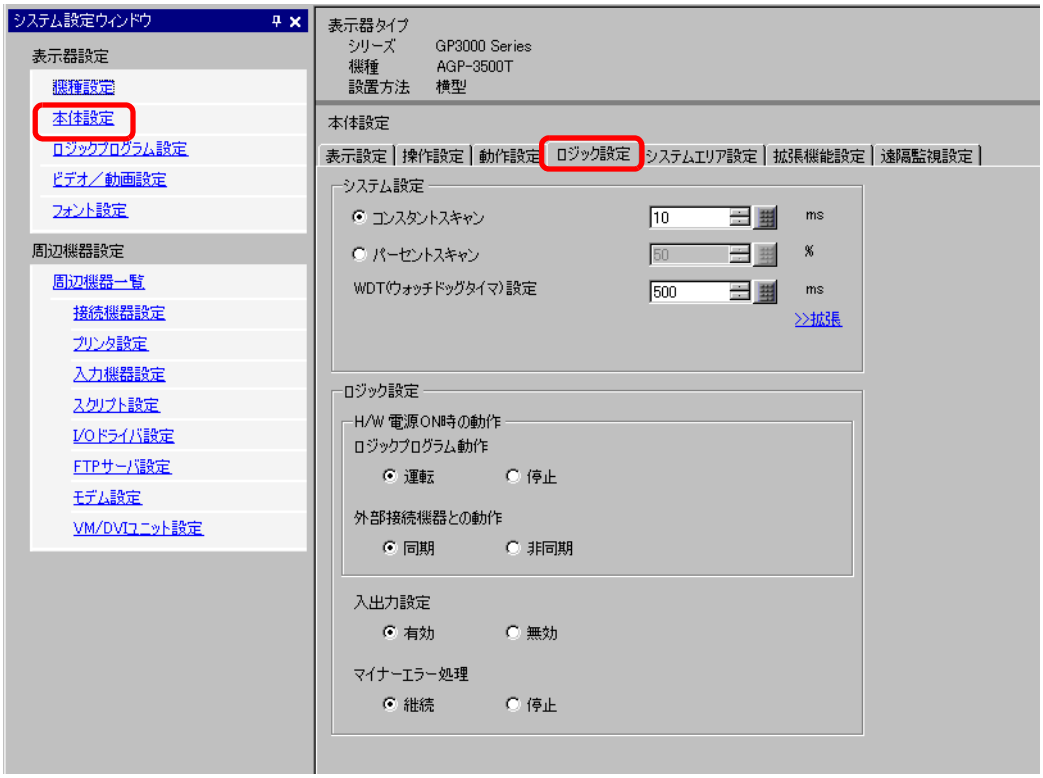
次のページに続きます。

設定項目	設定内容
コントロール ワードアドレス	転送時のタイミングは以下のとおりです。  **MEMO** • SRAM データを CF カードへ転送を行う際、ほかの機能が CF カードへの保存を実行中でないこと、[転送完了ビット] が OFF であることを確認してから行ってください。 • SRAM データを CF カードへ転送を行う際、途中で電源が OFF される場合を考慮して運転開始時には [転送トリガビット]、[転送完了ビット] は OFF にしておく必要があります。 • [転送トリガビット] の ON または OFF の時間は [通信サイクルタイム][※1] か [表示スキャンタイム][※2] いずれかより長い時間で保持してください。

※1 通信サイクルタイムとは、GP から接続機器にデータを要求して取り込むまでの時間です。内部デバイスの LS2037 にバイナリデータで格納されます。単位は 10ms です。

※2 表示スキャンタイムとは、1 画面の表示・演算処理にかかる時間です。内部デバイスの LS2036 にバイナリデータで格納されます。単位は ms です。

◆ロジック設定

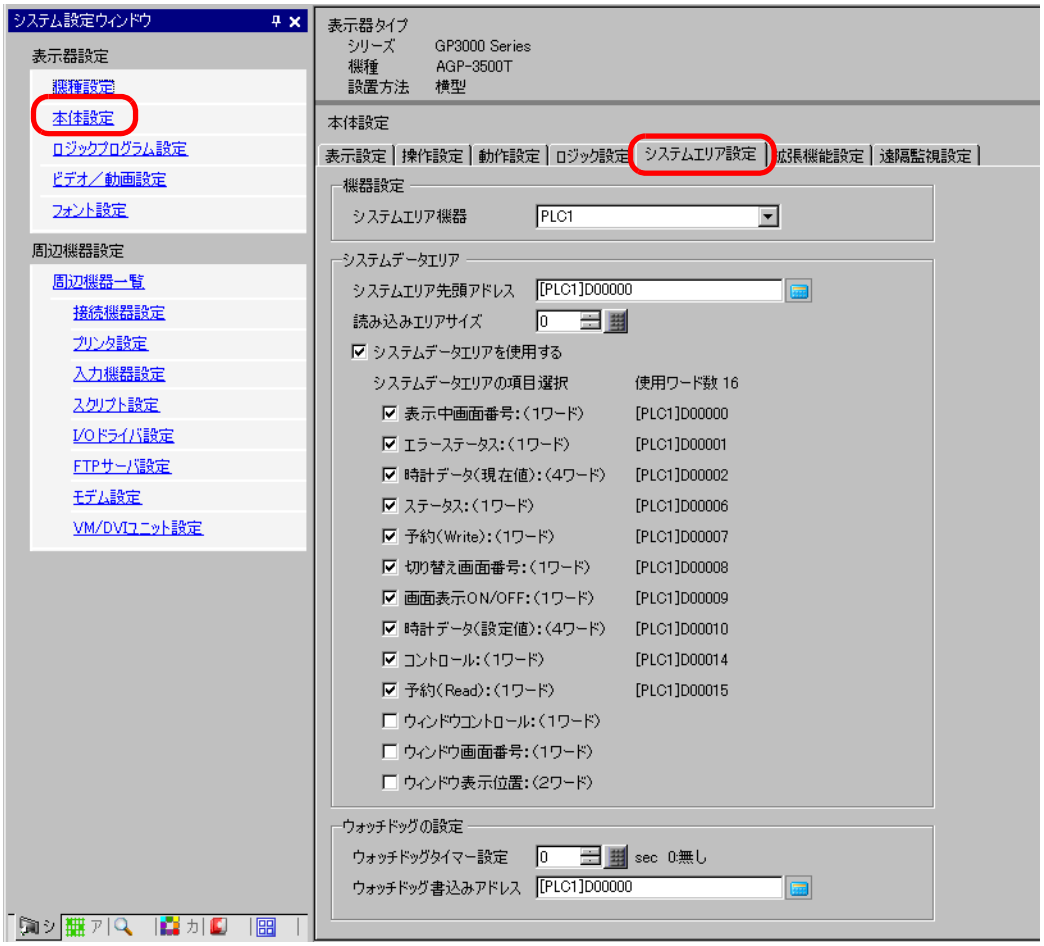


設定項目	設定内容
システム設定	ロジック機能使用時のシステム設定を行います。
コンスタントスキャン / パーセントスキャン	ロジックスキャンタイムのモードを選択します。 • [コンスタントスキャン] を選択した場合は、ロジックタイムの周期を設定できます。範囲は 10ms ～ 2000ms（単位：ms）です。 ☞「29.13.3 **ロジックスキャンタイムの調整をしたい ◆ コンスタントスキャン**」(29-111 **ページ**) • [パーセントスキャン] を選択した場合は、ロジックタイムの占有率を設定できます。設定範囲は 10% ～ 50%（単位：%）です。 ☞「29.13.3 **ロジックスキャンタイムの調整をしたい ◆ パーセントスキャン**」(29-112 **ページ**)
WDT（**ウォッチドッグタイマー**）**設定**	ロジックスキャンタイムの監視時間を設定します。ロジックスキャンタイムが WDT（ウォッチドッグタイム）を超えた場合はエラーになります。設定範囲は 100ms ～ 3000ms（単位：ms）です。
>> 拡張 /<< 基本	[>> 拡張] をクリックすると [アドレスリフレッシュ] の速度を設定できます。
アドレスリフレッシュ	アドレスリフレッシュの速度を [低速]、[中速]、[高速] から選択します。 ☞「29.13.3 **ロジックスキャンタイムの調整をしたい ■ アドレスリフレッシュ**」(29-114 **ページ**)

次のページに続きます。

設定項目			設定内容
ロジック設定			[保持エリア設定] クリックすると、[保持設定] ダイアログボックスが表示されます。 [変数方式] の場合は各シンボル変数の保持・非保持点数、[アドレス方式] 時は各シンボル変数の保持・非保持の範囲を設定します。 ☞「29.14 設定ガイド」（29-144 ページ）
	H/W 電源 ON 時の動作		表示器の電源を入れて立ち上げたときの動作を指定します。
		ロジックプログラム動作	ロジックプログラムの動作状態を [運転]、[停止] から選択します。
		外部接続機器との動作	外部接続機器との動作状態を [同期]、[非同期] から選択します。
	入出力設定		I/O ユニットからの入力および I/O ユニットへの出力を [有効]、[無効] から選択します。
	マイナーエラー処理		マイナー異常が発生したときに、ロジックプログラムの動作を [継続]、[停止] から選択します。

◆システムエリア設定



設定項目	設定内容
機器設定	接続機器を指定します。
システムエリア機器	システムデータエリアを設定する接続機器を選択します。
システムデータエリア	システムデータエリアの設定を行います。
システムエリア先頭アドレス	システムエリアに使用する先頭アドレスを指定します。
読み込みエリアサイズ	全画面共通で使用するデータや折れ線グラフの一括表示データなどを格納する [読み込みエリア] のワード数を 0 ～ 256 で設定します。 **MEMO** • メモリリンク方式で接続している場合は設定できません。
システムデータエリアを使用する	システムデータエリアを使用するかどうかを設定します。
システムデータエリアの項目選択	システムデータエリアの使用する項目を設定します。各項目の詳細については、ダイレクトアクセス方式の場合「付録 1.4.2 システムデータエリア」(A-9 ページ)、メモリリンク方式の場合「付録 1.5.2 システムデータエリア」(A-27 ページ) 参照してください。
使用ワード数	システムデータエリアに設定される項目の総ワード数を表示します。

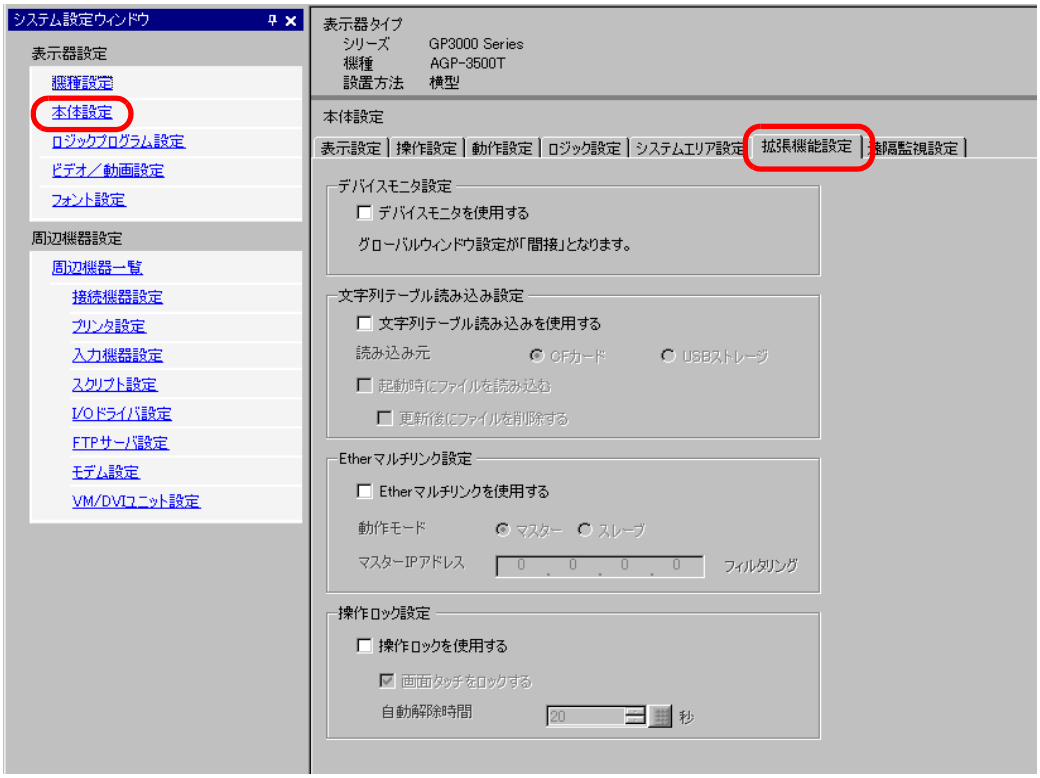
次のページに続きます。

設定項目		設定内容
ウォッチドッグの設定		GP と接続機器 (PLC) の通信状態を監視します。 GP は設定した時間ごとに接続機器 (PLC) のワードアドレスに「00FF」を書き込みます。接続機器 (PLC) は設定した時間ごとに「00FF」が書き込まれていることを確認し、通信が行われていることを確認します。
	ウォッチドッグタイマー設定	ウォッチドッグの監視サイクル時間を 0 ～ 65535 秒で設定します。
	ウォッチドッグ書込みアドレス	ウォッチドッグで使用する書き込みアドレスを設定します。

◆拡張機能設定

使用できる拡張機能は機種により異なります。ご使用の機種がサポートしている機能かどうかあらかじめご確認ください。

☞「1.3 機種別サポート機能一覧」(1-6 ページ)



設定項目	設定内容
デバイスモニタを使用する	デバイスモニタ機能を使用するかどうかを指定します。 MEMO • デバイスモニタ設定については以下を参照してください。 ☞「付録 2 接続機器デバイスの現在値を一覧で確認したい（デバイスモニタ）」(A-42 ページ)
文字列テーブル読み込みを使用する	文字列テーブル読み込みを使用するかどうかを指定します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
読み込み元	文字列テーブルファイル (CSV ファイル) の読み込み元を [CF カード]、[USB ストレージ] から選択します。
起動時にファイルを読み込む	本体起動時に文字列テーブルファイルを読み込むかどうかを指定します。 MEMO • チェックをつけても、表示器の電源を一度 OFF しないと動作しません。
更新後にファイルを削除する	文字列テーブルの更新後にファイルを削除するかどうかを指定します。[起動時にファイルを読み込む] の設定が有効な場合に設定します。
Ether **マルチリンクを使用する**	Ether マルチリンクを使用するかどうかを指定します。 MEMO • Ether マルチリンク設定については以下を参照してください。 ☞「7.7.3 **システム設定ウィンドウ**[**本体設定**]－[**拡張機能設定**]－[Ether **マルチリンク設定**] **の設定ガイド**」(7-42 **ページ**)
操作ロックを使用する	操作ロックを使用するかどうかを指定します。 MEMO • 操作ロック設定については以下を参照してください。 ☞「7.7.4 **システム設定ウィンドウ**[**本体設定**]－[**拡張機能設定**]－[**操作ロック設定**] **の設定ガイド**」(7-44 **ページ**)

◆遠隔監視設定

遠隔監視設定については以下を参照してください。

☞「37.15.2 **システム設定ウィンドウ** [**本体設定**] － [**遠隔監視設定**] **の設定ガイド**」(37-79 **ページ**)

◆IPC **設定**

表示器タイプで [IPC Series (PC/AT)] を選択している場合のみ、本設定項目が表示されます。

☞「38.10.1 **システム設定ウィンドウ** [**本体設定**] － [IPC **設定**] **の設定ガイド**」(38-145 **ページ**)

■ [ロジックプログラム設定] の設定ガイド

☞「29.14.1 [**ロジックプログラム設定**] **の設定ガイド**」(29-144 **ページ**)

■ [ビデオ / 動画設定] の設定ガイド

☞「27.9.1 [**ビデオ／動画設定**] **の設定ガイド**」(27-72 **ページ**)

■ [フォント設定] の設定ガイド

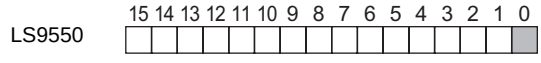
☞「6.4 [**フォント設定**] **の設定ガイド**」(6-18 **ページ**)

■ [周辺機器一覧] の設定ガイド

現在設定されている周辺機器の一覧を表示します。

設定項目	設定内容
接続機器管理アドレス一覧	現在設定されている接続機器の管理アドレス一覧を表示します。
接続機器	設定されている接続機器ドライバの番号を表示します。
機器	設定されている接続機器の名称を表示します。

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="2">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="2">接続機器管理アドレス一覧</td><td>通信サイクルタイム</td><td>設定されている接続機器の通信サイクルタイム (単位 :ms) を格納する内部デバイスアドレスを表示します。
通信サイクルタイムとは、GP から接続機器にデータを要求して取り込むまでの時間です。複数台の接続機器と通信する際の、それぞれの接続機器との通信サイクルタイムは、ここに表示されるアドレスを先頭に以下のとおり格納されます。
LS エリア
LS9400 ドライバ 1 の 1 台目の機器
: :
LS9431 ドライバ 1 の 32 台目の機器
LS9432 ドライバ 2 の 1 台目の機器
: :
LS9463 ドライバ 2 の 32 台目の機器
LS9464 ドライバ 3 の 1 台目の機器
: :
LS9495 ドライバ 3 の 32 台目の機器
LS9496 ドライバ 4 の 1 台目の機器
: :
LS9527 ドライバ 4 の 32 台目の機器
MEMO
• システム設定ウィンドウの [本体設定] － [システムエリア設定] で [システムエリア機器] に指定されている機器の通信サイクルタイムは、内部デバイスの LS2037 にもバイナリデータ（単位 10ms）で格納されます。
• LS エリアが 32 ビットの場合でも、下位 16 ビットに値が格納されます。</td></tr>
<tr><td>SCAN ON/OFF</td><td>設定されている接続機器の通信スキャンを実行するか、停止するかをコントロールする内部デバイスアドレスを表示します。
表示されるビットアドレスを先頭に、各接続機器のコントロールを行います。
LS エリア
LS9550 ドライバ 1 の 1 ～ 16 台分
LS9551 ドライバ 1 の 17 ～ 32 台分
LS9552 ドライバ 2 の 1 ～ 16 台分
LS9553 ドライバ 2 の 17 ～ 32 台分
LS9554 ドライバ 3 の 1 ～ 16 台分
LS9555 ドライバ 3 の 17 ～ 32 台分
LS9556 ドライバ 4 の 1 ～ 16 台分
LS9557 ドライバ 4 の 17 ～ 32 台分
LS9558 予約
LS9559 予約
ドライバ 1 の 1 台目の接続機器との通信を停止する場合、LS9550 のビット 0 を ON します。再開する場合はこのビットを OFF に戻します。
 

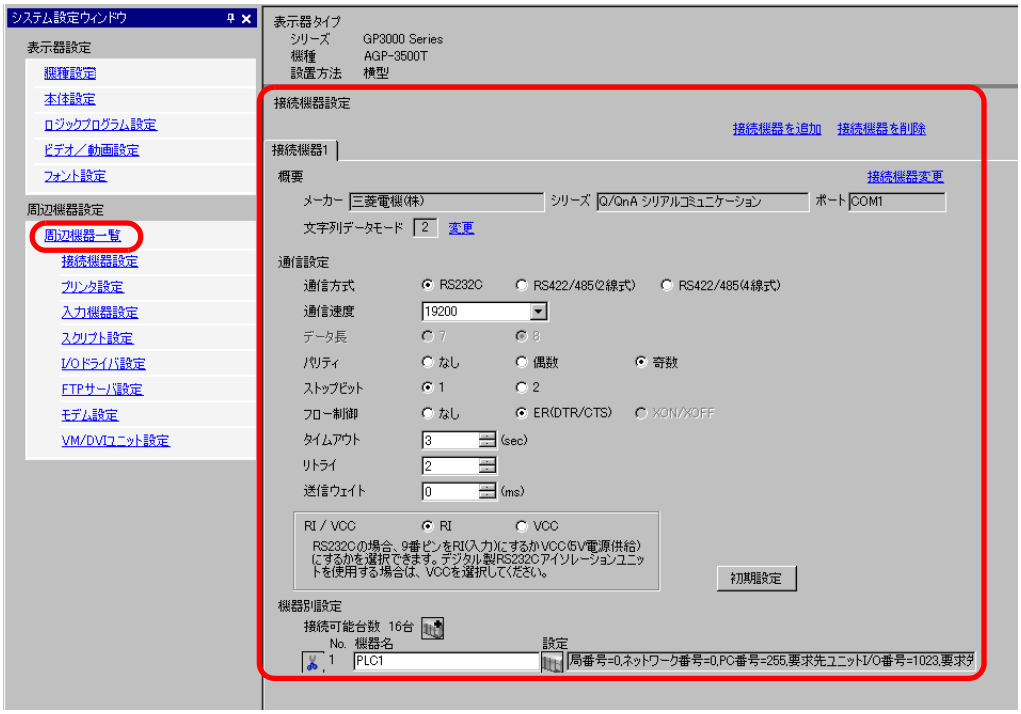
MEMO
• [システムデータエリアを使用する] を設定している接続機器の通信スキャンを OFF することはできません。
• LS エリアが 32 ビットの場合でも、下位 16 ビット分を使用します。</td></tr>
</table>

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
接続機器 1 ～ 4		ユーザ画面エリアで使用中のフォントのメモリサイズを表示します。表示器の機種によってユーザ画面エリア容量は異なります。 ☞「1.3 **機種別サポート機能一覧**」(1-6 **ページ**)
	メーカー	現在設定されている接続機器のメーカー名を表示します。
	シリーズ	現在設定されている接続機器のシリーズを表示します。
	バージョン	接続機器ドライバのバージョンを表示します。
	ポート	接続機器をつなげるポートを表示します。 **MEMO** • ポートがほかの接続機器と重複して使用されている場合は、[ポート] の右横に、が表示されます。
プリンタ、**バーコード** 1、**バーコード** 2、**スクリプト** 1、**スクリプト** 2		現在設定されている [プリンタ]、[バーコード 1]、[バーコード 2]、[スクリプト 1]、[スクリプト 2] の設定の表示、編集を行います。
	タイプ	現在設定されている周辺機器のタイプを表示します。
	ポート	現在設定されている周辺機器の接続ポートを表示します。 **MEMO** • ポートがほかの接続機器と重複して使用されている場合は、[ポート] の右横に、が表示されます。

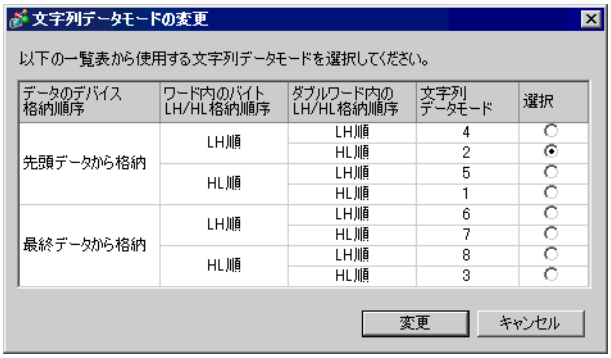
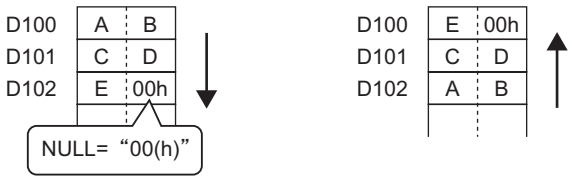
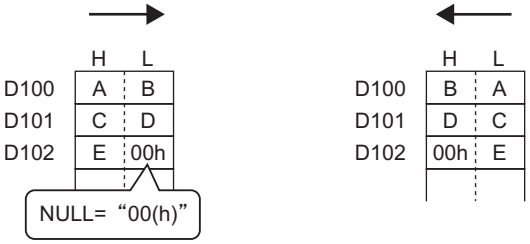
■ [接続機器設定] の設定ガイド

接続機器の詳細を設定します。

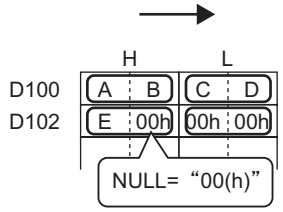
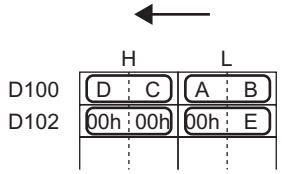


設定項目	設定内容
接続機器を追加	接続機器を追加設定します。表示器 1 台で複数の接続機器と通信させる場合に設定します。 **MEMO** • GP の機種により、同時に通信できる接続機器ドライバの数は異なります。 ☞「1.3 機種別サポート機能一覧」(1-6 ページ)
接続機器を削除	設定した接続機器を削除します。
接続機器変更	接続機器の設定を変更します。
概要	現在設定されている接続機器の設定内容を表示します。 **MEMO** • 機種を LT シリーズに設定している場合、メーカー、シリーズ、ポートは固定で次のようになります。 概要 接続機器変更 メーカー (株)デジタル シリーズ LT ドライバ ポート --- 文字列データモード 1 変更 [LT ドライバ] は、[メモリリンク] と同じです。
メーカー	現在設定されている接続機器のメーカー名を表示します。
シリーズ	現在設定されている接続機器のシリーズ名を表示します。

次のページに続きます。

設定項目			設定内容
概要	ポート		現在設定されている接続機器の接続ポートを表示します。 MEMO • ポートがほかの接続機器と重複して使用されている場合は、[ポート] の右横に、が表示されます。
	文字列データモード		現在設定されている接続機器の文字列データモードを表示します。
	変更		[文字列データモードの変更] ダイアログボックスが表示され、文字列データモードの変更ができます。通常各接続機器に合わせた文字列データモードが設定されています。 
		データのデバイス格納順序	データのデバイスを格納する順序を [先頭データから格納]、[最終データから格納] から選択します。 < 例 > 文字列「ABCDE」を格納 • 先頭データから格納（[文字列データモード]「5」の場合） • 最終データから格納（[文字列データモード]「8」の場合） 
		ワード内のバイト LH/HL 格納順序	1 ワード内（16 ビット）に設定されるデータの格納順序を [LH 順][HL 順] から選択します。 < 例 > 文字列「ABCDE」を格納 • HL 順（[文字列データモード]「5」の場合） • LH 順（[文字列データモード]「4」の場合） 

次のページに続きます。

設定項目			設定内容
概要	変更	ダブルワード内の LH/HL 格納順序	2 ワード内（32 ビット）に設定されるデータの格納順序を [LH 順][HL 順] から選択します。 < 例 > 文字列「ABCDE」を格納 • HL 順（[文字列データモード]「1」の場合）  • LH 順（[文字列データモード]「4」の場合） 
		文字列データモード	文字列データモード格納順序の組み合わせに対する番号を表示します。
		選択	使用する文字列データモードを選択します。
通信設定			各接続機器に合わせて設定します。設定内容は各接続機器シリーズにより異なります。「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。ただし、[タイムアウト]、[リトライ]、[送信ウェイト] は初期設定の状態でご使用になることをおすすめします。
機器別設定			各接続機器に応じて設定します。
	接続可能台数		選択した接続機器のタイプに接続可能台数を表示します。
	[機能追加ボタン]		[機器追加ボタン] をクリックするたびに 1 台ずつ接続機器が追加されます。[設定可能台数] が 1 台の場合は追加できません。
	[機器削除ボタン]		接続機器の設定を削除します。
	No.		設定された接続機器の番号を表示します。
	機器名		接続機器の名称を半角 20 文字以内で設定します。 MEMO • [機器名] で任意の名前を付ける場合は重複しないようにご注意ください。
	[機器設定ボタン]		接続機器に応じて必要な設定を行います。[個別機器設定] ダイアログボックスが開きます。 MEMO • [個別機器設定] ダイアログボックスの設定内容は接続機器により異なります。各接続機器の設定内容詳細は「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」をご確認ください。
拡張機能	プログラム転送機能を使用する		接続機器に（株）安川電機の MP シリーズイーサネット（拡張）を選択した場合表示されます。チェックを入れると GP から接続機器へのラダー転送が可能になります。 MEMO • ラダー転送画面へ移行するには接続機器データ転送用の特殊スイッチを作成してください。 ☞「10.15.4 特殊スイッチ」（10-66 ページ） • 転送設定の詳細についてはドライバの機器接続マニュアルを参照してください。

■ [プリンタ設定] の設定ガイド

☞「34.6.2 システム設定 [プリンタ設定] の設定ガイド」（34-63 ページ）

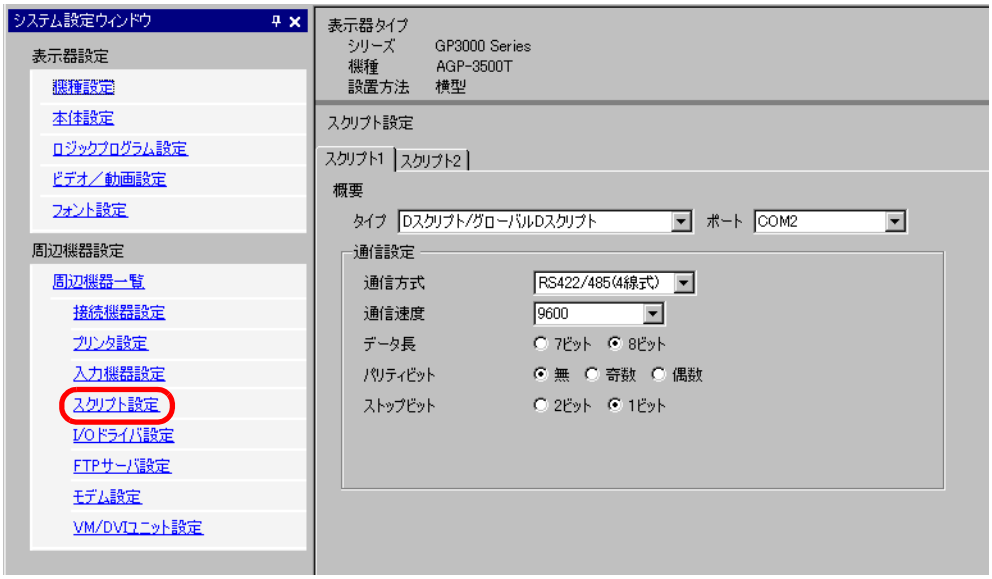
■ [入力機器設定] の設定ガイド

☞「16.4.1 [入力機器設定] の設定ガイド」（16-22 ページ）

☞「36.4.2 システム設定ウィンドウ [入力機器設定] － [RPA 入力] の設定ガイド」（36-27 ページ）

■ [スクリプト設定] の設定ガイド

スクリプトで接続機器と通信する設定を行います。



設定項目	設定内容
タイプ	D スクリプトもしくはグローバル D スクリプトでシリアルポートを利用して通信を行う“SIO ポート操作”関数を使用する際は [D スクリプト / グローバル D スクリプト] を選択します。拡張スクリプトを使用する際は [拡張スクリプト] を選択します。
ポート	スクリプトで使用するポートを [COM1]、[COM2]、[USB/SIO] から選択します。 **MEMO** • ポートがほかの接続機器と重複して使用されている場合は、[ポート] の右横に、が表示されます。
通信設定	通信設定を行います。 **MEMO** • [タイプ] で [使用しない] を選択している場合は表示されません。 • [通信設定] の内容は設定している接続機器により異なります。各接続機器の設定内容詳細は「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」をご確認ください。
通信方式	通信方式を [RS232C]、[RS422/485（4 線式）]、[RS422/485（2 線式）] から選択します。
通信速度	通信速度を [2400]、[4800]、[9600]、[19200]、[38400]、[57600]、[115200] から選択します。
データ長	通信データ長を [7 ビット]、[8 ビット] から選択します。
パリティビット	通信パリティビットを [無]、[奇数]、[偶数] から選択します。
ストップビット	通信ストップビット長を [2 ビット]、[1 ビット] から選択します。
フロー制御	通信方式が [RS232C] の場合のみ、通信制御方式を [無]、[RTS/CTS 制御]、[ER（DTR/CTS）制御] から選択します。 [ポート] に [USB/SIO] を選択した場合は、[しない] に設定されます。

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
通信設定	5V 電源供給	通信方式が [RS232C] の場合のみ、5V 電源供給の設定をするかどうかを設定します。接続機器が電源供給を必要とするときのみ [する] に設定してください。5V 電源供給を必要としないのに「する」を設定した場合、接続機器や GP の故障の原因になります。設定する際は接続機器や接続ケーブルの仕様をよくご確認ください。

■ [I/O ドライバ設定] の設定ガイド

☞「30.2.1 I/O 画面の設定ガイド」(30-8 ページ)

■ [FTP サーバ設定] の設定ガイド

☞「27.9.2 [FTP サーバ設定] の設定ガイド」(27-89 ページ)

■ [モデム設定] の設定ガイド

☞「33.10.2 [モデム設定] の設定ガイド」(33-67 ページ)

■ [VM/DVI ユニット設定] の設定ガイド

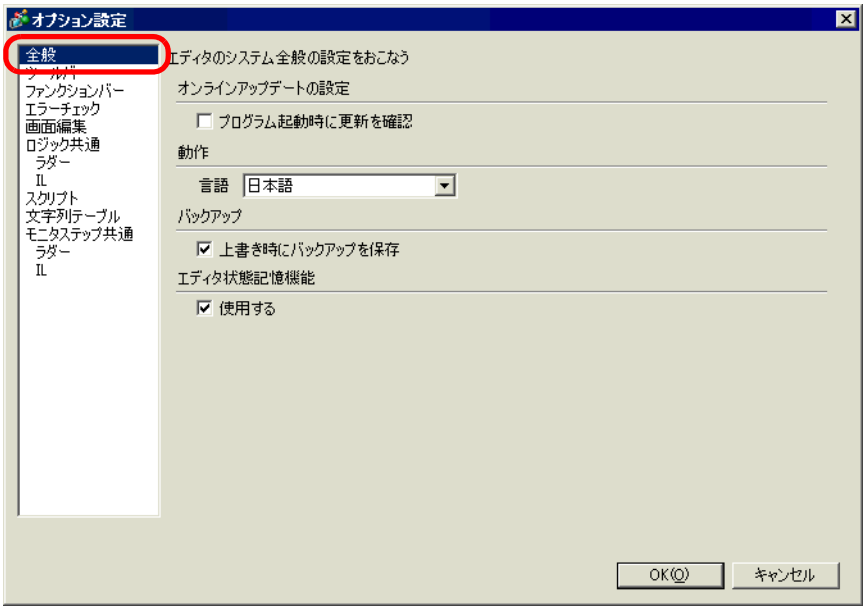
☞「27.9.6 [VM/DVI ユニット設定] の設定ガイド」(27-121 ページ)

5.17.7 [オプション設定] の設定ガイド

[表示 (V)] メニューから [オプション設定 (O)] を選択して表示される [オプション設定] ダイアログボックスの各項目についてご説明します。

■ 全般

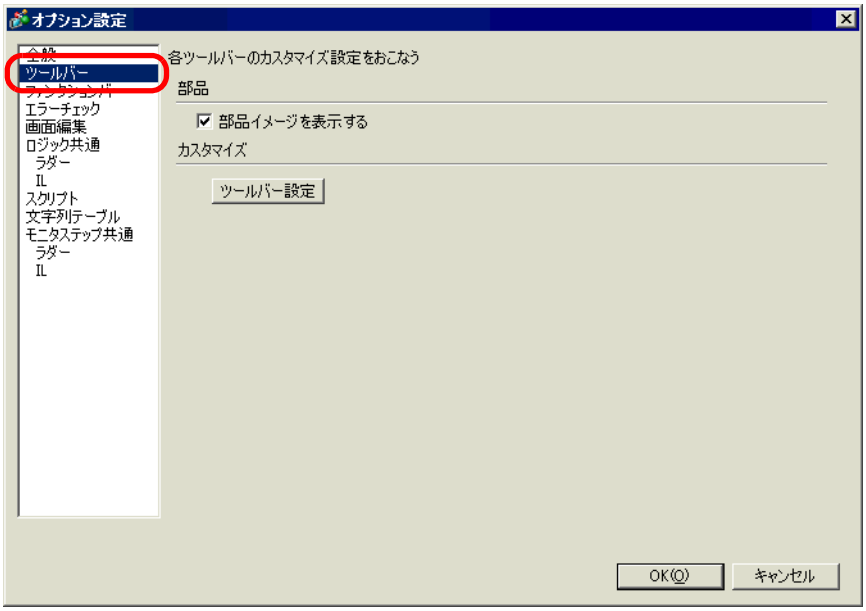
エディタシステム全般の設定を行います。



設定項目		設定内容
オンラインアップデートの設定	**プログラム起動時に更新を確認**	起動時にオンラインアップデートを行うかどうかを設定します。
動作	**言語**	GP-Pro EX 上で表示するメニューなどの言語を [日本語]、[英語] から選択します。 **MEMO** • 設定後は GP-Pro EX を再起動する必要があります。
バックアップ	**上書き時にバックアップを保存**	プロジェクトファイルの上書き時に上書き前の内容のファイルを自動でバックアップするかどうかを設定します。 ☞**「5.3.2 設定手順 ■ 履歴としてのバックアップ手順」(5-22 ページ)**
エディタ状態記憶機能	**使用する**	次回同じ画面環境を使用するかどうかを設定します。 記憶されるのは、終了時に開かれている画面・アクティブになっている画面・画面ブロックの方法・システム設定ウィンドウで開かれている項目です。 最新の 5 プロジェクトの環境が記憶できます。

■ ツールバー

ツールバーのカスタマイズ設定を行います。



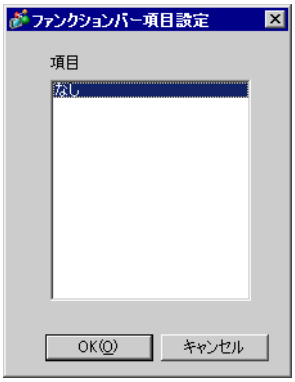
設定項目		設定内容
部品	**部品イメージを表示する**	ツールバーの各部品にマウスのカーソルを合わせたときに、部品イメージを表示するかどうかを設定します。
カスタマイズ		ツールバーに表示するアイコンを選択します。
	ツールバー設定	[ツールバー設定] ダイアログボックスを開きます。 **MEMO** • ツールバーの設定方法は次を参照してください。 ☞「29.13.8 **ツールバーのカスタマイズ**」(29-133 **ページ**)

■ ファンクションバー

ファンクションバーのカスタマイズ設定を行います。

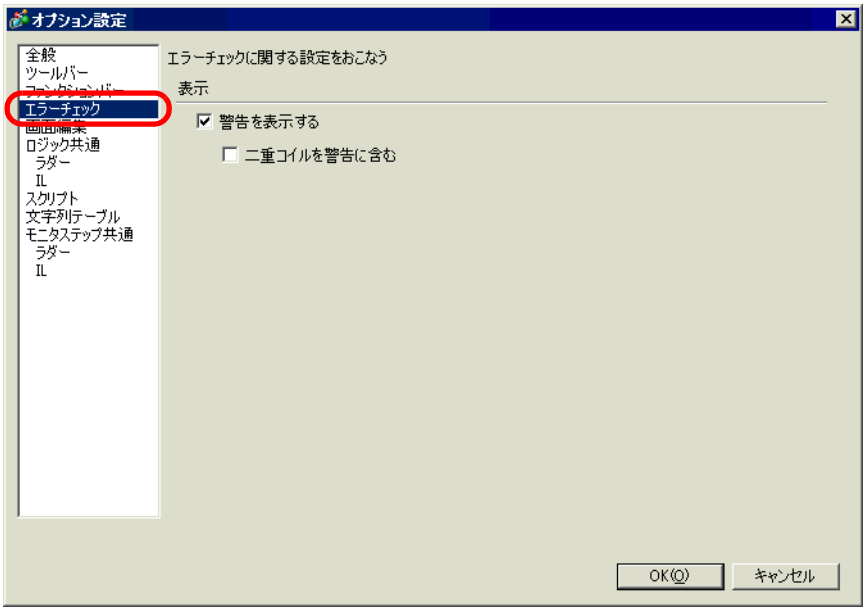
設定項目		設定内容
カスタマイズ		表内の選択した機能をファンクションバーに割り当てます。 **MEMO** • F1 ～ F4 と F9 ～ F12 の設定は固定です。 F5 ～ F8 とキーの組み合わせに機能を割り当てます。割り当てたいマス（ファンクションキー + キーボードキー）をダブルクリックして [ファンクションバー項目設定] ウィンドウを表示します。
	アクティブウィンドウ	ファンクションバーを設定する画面を次から選択します。 • HMI **画面** • **ロジック画面** • I/O **ドライバ画面** • **シンボル変数設定画面** • **モニタリング中** モニタリング中の F5 ～ F8 はオンラインエディット時のみ実行できます。 • **それ以外がアクティブ**

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
ファンクションバー項目設定	すでに割り当ててある機能をマス（F5 ～ F8 ＋キーボードキー）から外して、別のマスに登録します。  **MEMO** • 項目欄に表示されている [なし] を選択すると、マス（F5 ～ F8 ＋キーボードキー）から機能を外してダイアログボックスに登録することができます。
デフォルト	表示している [アクティブウィンドウ] のファンクションバーを初期設定に戻します。

■ エラーチェック

エラーチェックに関する設定を行います。



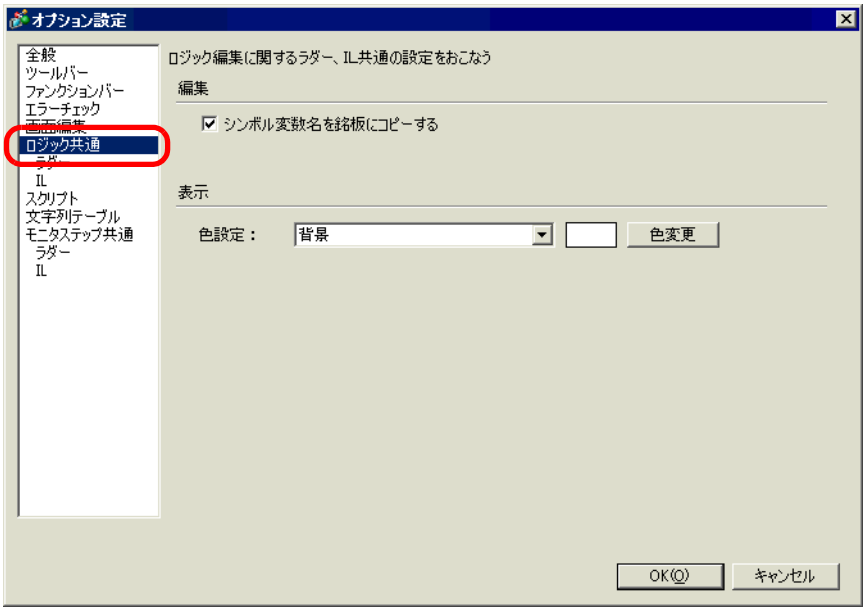
設定項目	設定内容
警告を表示する	エラーチェック後エラーウィンドウに警告を表示するかどうかを指定します。 **チェックなしの場合：**エラーのみ表示 **チェックありの場合：**エラーと警告を表示 （エラーチェックウィンドウタブが数回点滅した後、青く光ります。エラー表示後は元に戻ります。）
二重コイルを警告に含む	同じアドレスを複数個使用していた場合に、エラーチェック後エラーウィンドウに警告を表示します。 **チェックなしの場合：**警告がある場合、また二重コイル外の警告がある場合は、エラーチェックウィンドウタブが点滅します。 **チェックありの場合：**警告があれば、エラーチェックウィンドウタブが点滅します。

■ [画面編集] の設定ガイド

☞「8.13.3 **オプション設定（画面編集）の設定ガイド」**(8-93 **ページ**)

■ ロジック共通

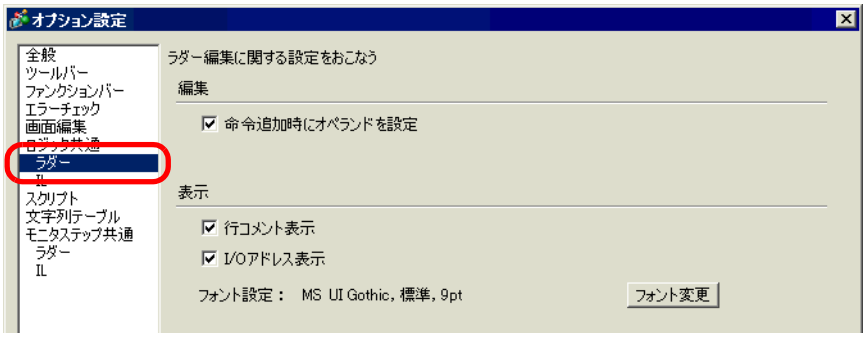
ロジック編集に関するラダー、IL 共通の設定を行います。



設定項目		設定内容
編集	シンボル変数名を銘板にコピーする	シンボル変数が割り当てられている命令を編集画面にドラッグ＆ドロップし、銘板の設定ができる部品（ランプ、スイッチなど）を作成すると、銘板にシンボル変数名が登録されます。
表示	色設定	色変更する項目を [背景]、[行コメント]、[オペランド]、[I/O アドレス (ラダー)]、[命令・母線・行 (ラダー)]、[罫線 (IL)]、[SOR (IL)]、[命令 (IL)]、[分岐命令 (IL)]、[ラベル (IL)]、[未設定表示文字 (IL)] から選択します。[色変更] をクリックして表示されたダイアログボックスで色を設定します。

◆ラダー

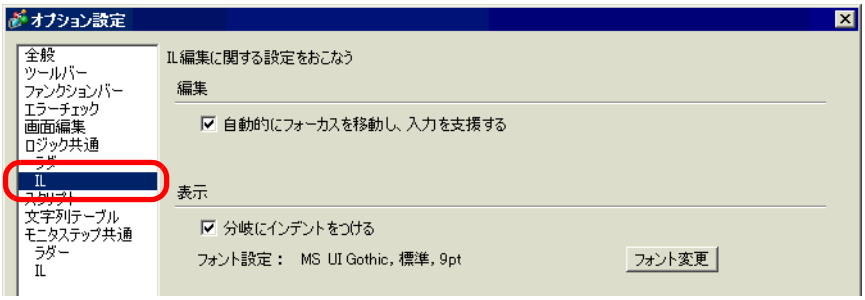
ラダー編集に関する設定を行います。



設定項目		設定内容
編集	命令追加時にオペランドを設定	ロジックプログラム作成で命令を挿入したときに、同時にオペランドを設定します。
表示	行コメント表示	ラダー画面に行コメントを表示します。
	I/O アドレス表示	I/O 端子にシンボル変数を割り付けた場合に、I/O アドレスを表示します。
	フォント変更	ラダー画面で使用するフォントを設定します。

◆IL

IL 編集に関する設定を行います。



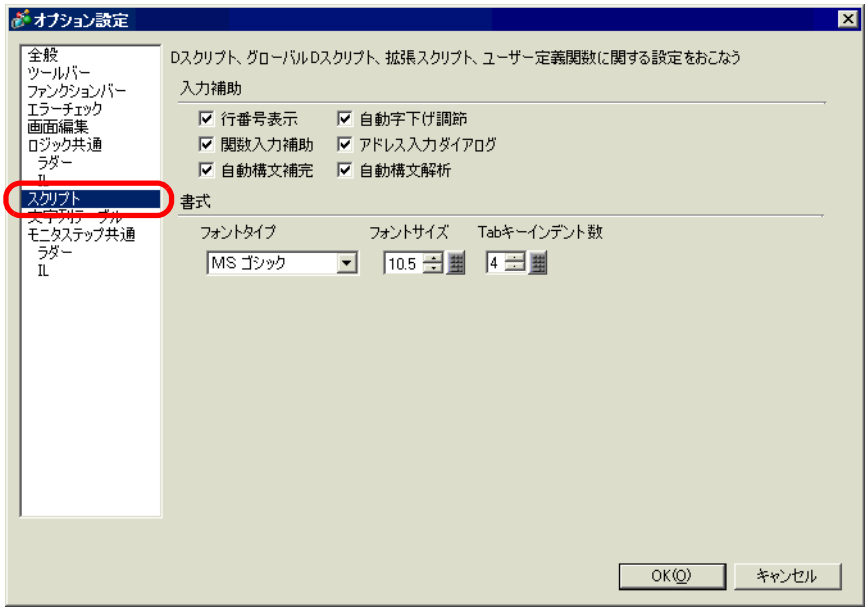
設定項目		設定内容
編集	**自動的にフォーカスを移動し、入力を支援する**	自動的にフォーカスを移動して、編集時の入力支援を行います。
表示	**分岐にインデントをつける**	分岐命令にインデントを付けて表示します。
	フォント変更	IL 画面で使用するフォントを設定します。

■ スクリプト

D スクリプト、グローバル D スクリプト、拡張スクリプト、ユーザ定義関数に関する設定を行います。

この設定は [拡張スクリプト]、[グローバル D スクリプト] ダイアログボックスでも設定できます。

☞「21.9.1 D スクリプト / 共通設定 [グローバル D スクリプト設定] の設定ガイド」(21-51 ページ)



設定項目	設定内容
入力補助	D スクリプト、グローバル D スクリプト、拡張スクリプト、ユーザ定義関数における入力補助の設定を行います。
行番号表示	実行式右側の行番号を表示します。
自動字下げ調節	下記のように改行すると自動的に階層に合わせタブが挿入されます。 実行式　実行式を広く見せる 0001 if(b:[PLC1]D000000]==1) 0002 { 0003 if(b:[PLC1]D000100] 0004 [0005 b:[PLC1]D000200]==1 0006] 0007 endif 0008 } 0009 endif 0010
関数入力補助	下記のように関数と（ を入力すると、その関数の書式が表示されます。 実行式　実行式を広く見せる 0001 memcpy(0002 memcpy(コピー先アドレス，コピー元アドレス，ワード数) 0003 0004 0005 0006 0007

次のページに続きます。

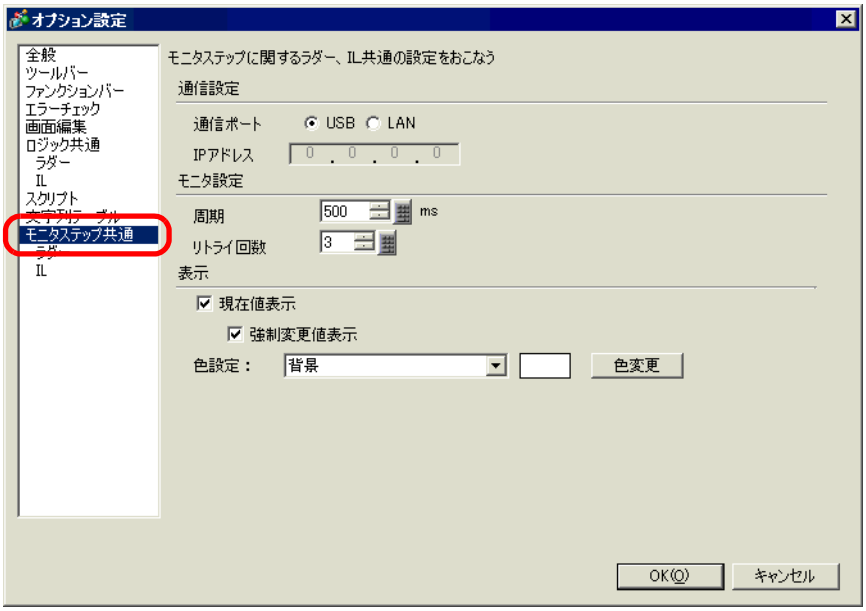
設定項目		設定内容
	アドレス入力ダイアログ	スクリプト作成時、キーボードからアドレスの左側の括弧（[）を入力すると、自動で [アドレス入力] のダイアログボックスを表示し、このダイアログボックスからアドレスが入力できます。
	自動構文補完	キーボードから “if” もしくは “loop” と入力した際、それに続く構文が自動で配置されます。
	自動構文解析	スクリプト作成時に入力中の実行式を自動的にチェックし、誤った実行式を入力した場合、[メッセージエリア] に通知します。 （例）「1 行目：式が正しくありません」
書式		スクリプトで使用する書式の設定を行います。
	フォントタイプ	使用するフォントの種類を選択します。
	フォントサイズ	使用するフォントのサイズを 0.5 単位ずつ、8 ～ 72 で設定します。
	Tab **キーインデント数**	使用する Tab キーインデント数を 1 ～ 8 で設定します。

■ [文字列テーブル] の設定ガイド

☞「17.9.3 **文字列テーブル設定の設定ガイド**」（17-59 **ページ**）

■ モニタステップ共通

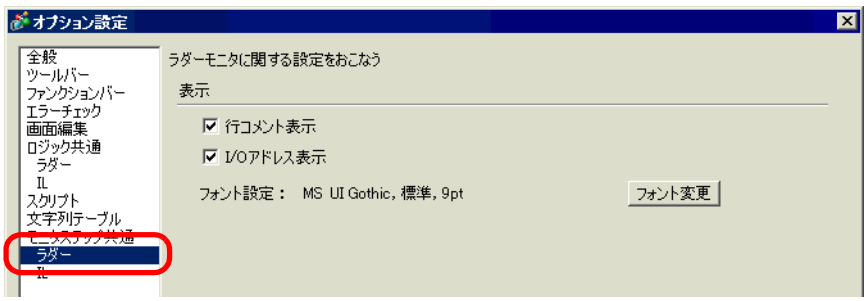
ロジックプログラムをオンラインモニタするときの設定を行います。



設定項目		設定内容
通信設定	通信ポート	オンラインモニタ時に使用する通信ポートを [USB]、[LAN] から選択します。
	IP アドレス	[通信ポート] で [LAN] を選択したときに、IP アドレスを設定します。
モニタ設定	周期	通信周期を 200 ～ 3000 の範囲で設定します。
	リトライ回数	通信のリトライ回数を 0 ～ 10 の範囲で設定します。
表示	現在値表示	オンラインモニタ時に各シンボル変数の現在値を表示します。
	強制変更値表示	オンラインモニタ時に強制変更された値を表示します。
	色設定	色変更する項目を [背景]、[行コメント]、[命令・母線・行]、[オペランド]、[I/O アドレス]、[現在値]、[強制変更値]、[パワーフロー] から選択します。 [色変更] をクリックして表示されたダイアログボックスで色を設定します。

◆ラダー

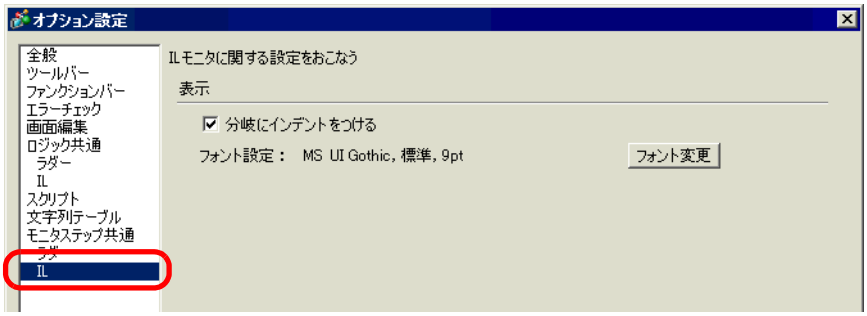
ラダーモニタに関する設定を行います。



設定項目		設定内容
表示	行コメント表示	ラダー画面に行コメントを表示します。
	I/O アドレス表示	I/O 端子にシンボル変数を割り付けた場合に、I/O アドレスを表示します。
	フォント変更	ラダー画面で使用するフォントを設定します。

◆IL

IL モニタに関する設定を行います。



設定項目		設定内容
表示	**分岐にインデントをつける**	分岐命令にインデントを付けて表示します。
	フォント変更	IL モニタ画面で使用するフォントを設定します。

5.17.8 [共通設定] の設定ガイド

■ アラーム設定

☞「19.10.1 共通設定（アラーム設定）の設定ガイド」（19-67 ページ）

■ サンプリング設定

☞「24.8.1 共通設定（サンプリング設定）の設定ガイド」（24-36 ページ）

■ レシピ設定

☞「25.10.1 共通設定（レシピ設定）の設定ガイド」（25-53 ページ）

■ セキュリティ設定

☞「22.10.1 共通設定（セキュリティ設定）の設定ガイド」（22-37 ページ）

■ 操作ログ設定

☞「22.10.2 共通設定（操作ログ設定）の設定ガイド」（22-46 ページ）

■ タイムスケジュール設定

☞「23.4 共通設定（タイムスケジュール設定）の設定ガイド」（23-10 ページ）

■ サウンド設定

☞「26.5.1 共通設定（サウンド設定）の設定ガイド」（26-13 ページ）

■ 文字列テーブル設定

☞「17.9.3 文字列テーブル設定の設定ガイド」（17-59 ページ）

■ グローバル D スクリプト設定

☞「21.9.1 D スクリプト / 共通設定 [グローバル D スクリプト設定] の設定ガイド」（21-51 ページ）

■ 拡張スクリプト設定

☞「21.9.1 D スクリプト / 共通設定 [グローバル D スクリプト設定] の設定ガイド」（21-51 ページ）

■ イメージ登録

☞「9.5.1 共通設定（イメージ登録）の設定ガイド」（9-23 ページ）

■ テキスト登録

☞「17.9.2 共通設定（テキスト登録）の設定ガイド」（17-58 ページ）

■ マーク登録

☞「8.13.4 共通設定（マーク登録）の設定ガイド」（8-97 ページ）

■ キーボード登録

☞「15.7.2 共通設定（キーボード登録）の設定ガイド」（15-42 ページ）

■ 動画設定

☞「27.9.3 共通設定 [動画設定] の設定ガイド」（27-91 ページ）

■ VM/DVI ユニットウィンドウ設定

☞「27.9.5 共通設定 [VM/DVI ユニットウィンドウ設定] の設定ガイド」（27-112 ページ）

■ バックライト 2 色切替設定

バックライトを赤色に切り替えます。警報表示を行うなどの用途で使用できます。
16 通りの条件が設定できます。

MEMO

- この機能を使用できる機種には制限があります。

☞「1.3 機種別サポート機能一覧」(1-6 ページ)

設定項目	設定内容
動作モード	行をダブルクリックすると [バックライト 2 色切替] 設定ダイアログボックスが表示されます。そこで設定した内容が一覧表示されます。
動作アドレス	
条件	
コメント	

＜[ビット動作] を選択した場合＞

＜[ワード動作] を選択した場合＞

設定項目	設定内容
動作モード	[ビット動作]、[ワード動作] から選択します。
コメント	任意のコメントを最大 20 文字までで入力します。
赤色への切替条件	バックライトを赤色に切り替えるための条件を設定します。 • [動作モード] で [ビット動作] を選択した場合 指定した [ビットアドレス] が ON したときに赤色切り替えを行うか、OFF したときに切り替えるかを指定します。 • [動作モード] で [ワード動作] を選択した場合 指定した [ワードアドレス] に、設定した範囲外の値（[上限値] 以上または [下限値] 以下の値）が格納されたときに赤色切り替えを行います。[上限値]、[下限値] の設定範囲は 0 ～ 65535 です。

■ シンボル変数設定

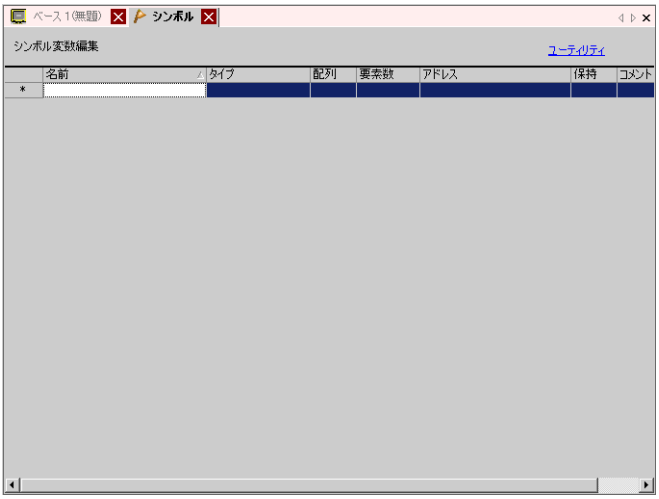
シンボル変数を登録する画面を表示します。

MEMO

- シンボル変数の登録方法の詳細は次を参照してください。

☞「29.3.2 フレキシブルな名前のアドレス（変数方式）を使用したい」（29-10 ページ）

☞「29.3.3 あらかじめ用意されたアドレス（アドレス方式）を使用したい」（29-16 ページ）



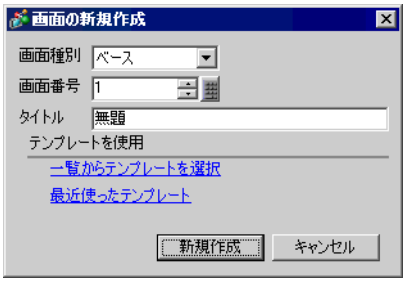
設定項目	設定内容
名前	シンボル変数の名前を設定します。
タイプ	シンボル変数のタイプを設定します。 [登録方式] が [変数方式] のときは、[ビットアドレス]、[ワードアドレス]、[ビット変数]、[整数変数]、[フロート変数]、[リアル変数]、[タイマ変数]、[カウンタ変数]、[日付変数]、[時刻変数]、[PID 変数] から選択します。 [登録方式] が [アドレス方式] のときは、[ビットアドレス]、[ワードアドレス] から選択します。
配列	配列を設定するかどうかを設定します。
要素数	[配列] に要素数を設定します。
アドレス	[タイプ] を [ビットアドレス] または [ワードアドレス] に設定した場合に、接続機器アドレスを設定します。
保持	保持・非保持を設定します。
コメント	コメントを入力します。
ユーティリティ	• **インポート** CSV ファイル形式で保存されているシンボル変数を取り込みます。 • **エクスポート** シンボル変数を CSV ファイル形式で書き出します。

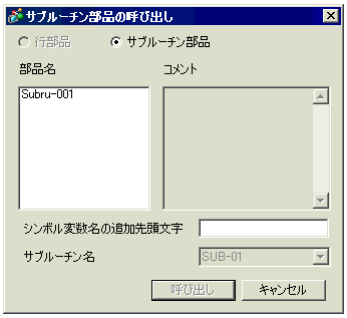
5.17.9 [画面] の設定ガイド

[画面 (S)] メニューを選択して表示される各項目についてご説明します。

■ 画面の新規作成

画面を新規作成します。



設定項目		設定内容
画面種別		作成する画面または使用するテンプレートの種別を [ベース]、[ウィンドウ]、[ロジック] から設定します。
画面番号		作成する画面の番号を [画面種別] が [ベース] の場合は 1 ～ 9999、[ウィンドウ] の場合は 1 ～ 2000、[ロジック] の場合は SUB-01 ～ SUB-32 で設定します。
タイトル		作画する画面のタイトルを 30 文字以内で設定します。
テンプレートを使用		テンプレートを選択します。
	一覧からテンプレートを選択	[テンプレートの選択] ダイアログボックスを表示し、テンプレートの選択を行います。
	最近使ったテンプレート	最近使ったテンプレートの名称がポップアップで表示されます。
サブルーチン部品を使用		[画面種別] で [ロジック] を選択すると表示されます。 サブルーチンのロジック画面を新規作成する際、ロジック部品として登録したサブルーチン部品を呼び出すことができます。
	サブルーチン部品を選択	登録されているサブルーチン部品を選択し、サブルーチンプログラムを作成します。  [サブルーチン部品の呼び出し] については以下を参照してください。 ☞「29.13.6 **作成済みのロジックプログラムを利用したい ■ ロジック部品の呼び出し**」(29-124 **ページ**)

■ 画面を開く

画面を開きます。

設定項目		設定内容
画面種別		開く画面の種別を [ベース]、[ウィンドウ]、[ロジック]、[I/O] から選択します。
画面情報		開く画面の情報とプレビューを表示するかどうかを設定します。
	画面番号	表示リストで選択されている画面番号を表示します。番号を書き換えるとプレビューが切り替わります。
	タイトル	プレビューで表示している画面のタイトルを表示します。
表示リスト		プロジェクトファイル内のすべての画面を一覧表示します。
	番号	画面に設定されている番号を表示します。
	タイトル	画面に設定されているタイトルを表示します。
	ヘッダー	ヘッダーが設定されている場合、ヘッダーの [タイトル] が表示されます。
	フッター	フッダーが設定されている場合、フッダーの [タイトル] が表示されます。

■ 画面を閉じる

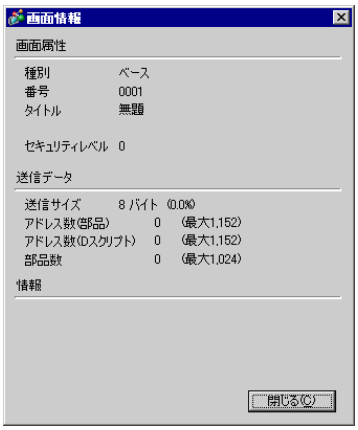
作画画面を閉じます。

MEMO

- 作画画面タブ右端の ✕ をクリックするか、作画画面タブにカーソルを合わせてマウスの右クリックメニューから [(画面タイトル) を閉じる] を選択するか、またはショートカットキーを使って画面を閉じることもできます。

■ 画面情報

設定されている画面情報を表示します。



設定項目		設定内容
画面属性		画面に設定されている情報を表示します。
	種別	設定されている画面の種別を [ベース]、[ウィンドウ]、[ロジック]、[I/O] で表示します。また、画面のヘッダー / フッターの編集が可能な状態で [画面情報] を開くと、種別は [ヘッダー] または [フッター] で表示されます。
	番号	画面に設定されている番号を表示します。
	タイトル	画面に設定されているタイトルを表示します。
	セキュリティレベル	画面に設定されているセキュリティレベルを表示します。
送信データ		GP に送信するデータの概要を表示します。
	送信サイズ	1 画面に使用しているデータサイズをバイト単位で表示します。( ) は画面の総サイズに対する使用率を % で表示します。
	アドレス数 (部品 /D スクリプト)	部品と D スクリプトで使用しているアドレスの総数を [設定アドレス数（最大アドレス数）] で表示します。最大アドレス数を超えている場合は、赤色で表示します。
	部品数	画面で使用している部品の総数を [設定部品数（最大部品数）] で表示します。
情報		設定している画面に対する補足情報を表示します。

■ 前画面を開く / 次画面を開く

現在表示されている画面の 1 つ前 /1 つ後の番号の画面を表示させます。

MEMO

- 前画面 / 次画面機能は、動画設定画面では使用できません。

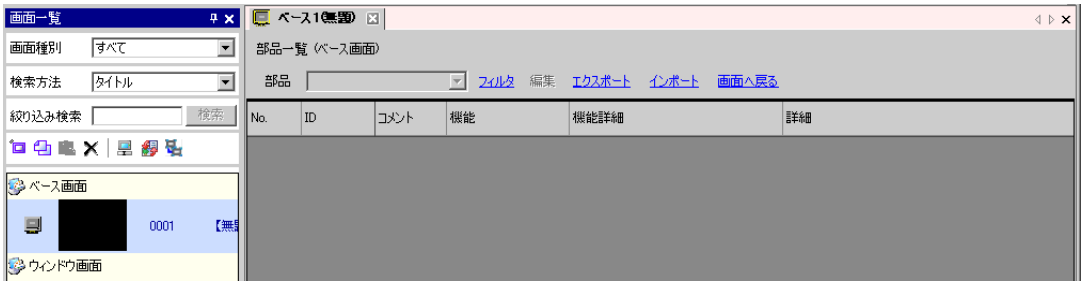
■ 画面表示切替

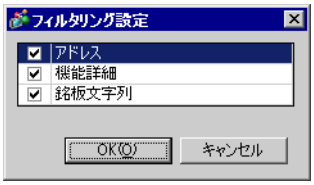
◆画面編集

作画画面に表示を切り替えます。

◆部品一覧

選択している画面内で使用されている部品の属性を一覧表示します。ただし、[描画]、[トリガアクション]、[D スクリプト] は一覧表示しません。



設定項目		設定内容
部品		画面上に配置されているすべての部品から一覧表示する部品の種類を選択します。
フィルタ		[フィルタリング設定] ダイアログボックスが表示されます。[アドレス]、[機能詳細]、[銘板文字列] の項目を部品一覧に表示するかどうかを設定します。 
編集		一覧から選択された部品の設定ダイアログボックスを表示します。
エクスポート		[部品一覧エクスポート] ダイアログボックスが表示され、[部品一覧] を CSV(*.csv) またはテキスト (*.txt) ファイルで保存する先を設定します。
インポート		[部品一覧インポート] ダイアログボックスが表示され、プロジェクトに取り込む CSV(*.csv) またはテキスト (*.txt) 形式のファイルを設定します。
画面へ戻る		作画画面に表示を切り替えます。
表示リスト		部品の詳細を一覧表示します。
	No.	部品が配置された順番に 1 から番号が割り当てられます。
	ID	部品の ID を表示します。
	コメント	部品に設定されているコメントを表示します。
	機能	部品の持つ機能の名称を部品ごとに表示します。 例）ビット一比較
	機能詳細	部品の持つ機能ごとの詳細文字列を表示します。
	アドレス / アドレス 1	部品に設定されているアドレスの種類とアドレスを表示します。

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
	銘板 / 状態 0	部品に設定されている銘板を表示します。それぞれの状態により銘板が複数設定されている場合は状態ごとに銘板を表示します。
	詳細	部品が配置されている座標などその他の詳細情報を表示します。表示内容は部品により異なります。

◆ ラダー (ロジック画面表示時のみ)

ロジック編集ビューをラダー方式で表示します。

◆IL(**ロジック画面表示時のみ**)

ロジック編集ビューを IL 方式で表示します。

■ テンプレートとして登録

ヘッダー・フッター以外の作画画面に配置された部品をテンプレートとして登録します。

設定項目	設定内容
テンプレートの名称入力	作成するテンプレートの名称を半角 30 文字以内で入力します。

5.18 制限事項

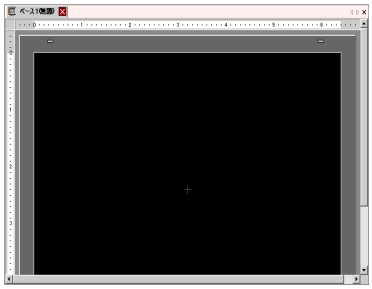
5.18.1 画面作成の制限事項

■ 画面の種類

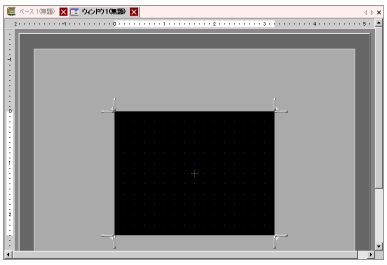
プロジェクトファイルで作成する画面の種類をご案内します。
プロジェクトファイルを構成する画面は主にベース画面、ウィンドウ画面の 2 つの画面があります。
ベース画面は GP 上に表示される画面のことです。GP に画面を表示するには必ずベース画面を使用します。ウィンドウ画面はベース画面に呼び出して表示する画面です。キーボード入力など、重ねて表示する場合にウィンドウ画面を使用します。

☞「12.3 ウィンドウを表示したい」(12-7 ページ)

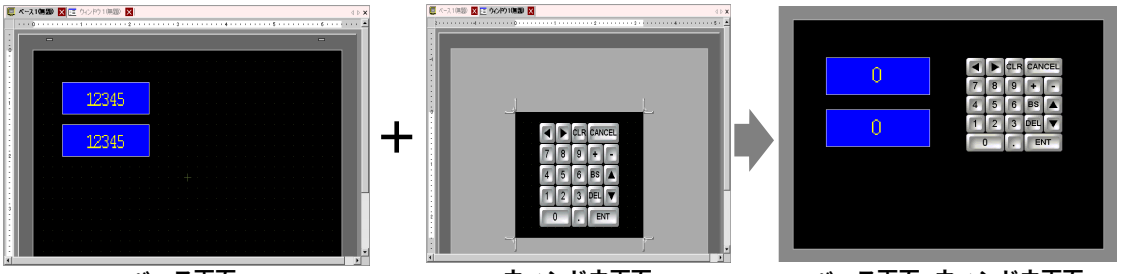
◆ベース画面



◆ウィンドウ画面



例)



ベース画面　　ウィンドウ画面　　ベース画面+ウィンドウ画面

MEMO

- ロジック画面および I/O 画面はロジックプログラム作成時に使用します。

☞「29.2.3 ロジック画面の各部名称」(29-7 ページ)
☞「30.1.2 設定した各 I/O 端子にアドレス (変数) を割り付ける方法」(30-3 ページ)

■ 作成できる画面数

画面の種類	画面設定可能 No の範囲
ベース画面	1 ～ 9999
ウィンドウ画面	1 ～ 2000
ロジック画面	MAIN, INIT SUB-01 ～ SUB32

■ 1 画面のデータ容量

1 画面の最大容量は約 1M バイトです。最大容量を超える画面は作成できません。
作成した画面データを GP 内で保持できるエリア（[ユーザー画面エリア]）の最大容量は、GP の機種により異なります。

☞「1.3 機種別サポート機能一覧」（1-6 ページ）

■ 画面に配置できる機能数

1 画面上に配置できる、各部品や機能の最大設定可能数を以下に示します。新規に画面を作成した場合でほかに何の設定も行っていない画面上で、その部品を何個まで設定できるかを表す数です。

MEMO

- 1 画面上に配置できる部品の合計は以下のとおりです。
  表示器タイプで GP-3400、3500、3600、3700 シリーズを選択している場合：最大 1,024 個まで
  表示器タイプで [IPC Series(PC/AT)] を選択している場合：最大 1,280 個まで
  上記以外の機種：最大 384 個まで
- 1 画面に設定できるアドレス数の合計は、D スクリプトのアドレス数を除いて最大 1,152 個までです。（D スクリプトは別途、最大 1,152 個までアドレスを設定できます。）
  ただし表示器タイプで [IPC Series(PC/AT)] を選択している場合は、最大 3,000 個まで設定できます。

部品	機能の種類	ベース画面	ウィンドウ画面※1
アラーム	サマリ表示	1	1
	履歴表示	384	
テキストアラーム	—	1	1
グラフ	ノーマルグラフ	384	
	統計グラフ		
	メータグラフ		
キー部品	—	384	
データ表示器	数値表示※2	384	
	文字列表示※2	384	
	日付 / 時間表示	384	
	統計値表示	384	
	制限値表示	384	
図形表示器	ON/OFF 表示	384	
	ステート表示		
	CF ファイル表示		
	移動表示 (マーク選択時のみ)	30	
スイッチ / ランプ	ビットスイッチ	384	
	ワードスイッチ		
	画面切替		
	特殊スイッチ		
	セレクタスイッチ		
	ランプ		

次のページに続きます。

部品	機能の種類	ベース画面	ウィンドウ画面※1
ウィンドウ	ウィンドウ※3	384	0
	グローバルウィンドウ※4		
動画表示器	—	1	
VM/DVI ユニット表示器	—	512※5	0
メッセージ表示器	直接入力	384	
	テキスト表示		
D スクリプト	—	—※6	
サンプリングデータ表示器※2	—	1	1
ヒストリカルトレンドグラフ※7	—	8	
データ一括表示グラフ※7	—		
特殊データ表示器	データ転送	1	1
	ファイリング	384	
	CSV 表示※2	1	1
	ファイルマネージャ	1	0
トリガアクション	ビット動作	384	
	ワード動作		
	画面切替		
	描画動作		
RPA ウィンドウ表示器	—	1※8	—

※1 表示器の画面上に同時に表示できるウィンドウ画面は最大 3 枚までです。ウィンドウ表示の詳細については、以下を参照してください。

「12.8.2 ウィンドウ表示の制限事項 ■ 1 画面に同時に表示できるウィンドウ枚数について」(12-30 ページ)

※2 サンプリングデータ表示器と、特殊データ表示器（CSV 表示）は同時には配置できません。特殊データ表示器（CSV 表示）と [入力許可] 設定をしているデータ表示器も同時に配置できません。

※3 [常時読込] を設定したウィンドウ部品は、1 画面に最大 3 個まで（グローバルウィンドウ使用時は 2 個まで）配置できます。画面上に、[常時読込] 指定のウィンドウ部品を 3 個配置した場合、それ以外に配置されたウィンドウ部品はすべて動作しません。

※4 デバイスモニタ画面を表示している場合は、グローバルウィンドウは表示できません。

※5 表示器の画面上に同時に表示できる VM/DVI ユニットウィンドウは 1 つのみです。

※6 D スクリプトの設定数は、1 画面の設定アドレス数（合計 1152 個まで）と画面データ容量（1M バイトまで）に依存します。

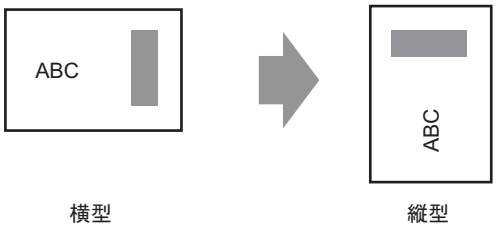
※7 [ヒストリカルトレンドグラフ]と[データ一括表示グラフ]は合わせて8個まで設定できます。ただし過去データ表示機能を使用したヒストリカルトレンドグラフは 1 画面に 1 個しか表示できません。

※8 すでにウィンドウが 3 個（グローバルウィンドウ使用時は 2 個）表示している場合は、表示できません。

■ 画面表示

- 設置方法を縦型から横型、横型から縦型に変更した場合、作画内容は 90 度回転して表示されます。[編集] メニューから [回転 / 反転] を選択して編集してください。また必ず変更後の画面を確認してください。

例）



- 解像度の大きい表示器タイプから解像度の小さい表示器タイプに変更した場合、変更によりはみ出したデータは表示されません。再度解像度の大きい表示器タイプに変更すると、範囲外にはみ出していたデータは表示されます。
  解像度の小さい表示器タイプと、解像度の大きい表示器タイプでは、運転中部品の最大表示文字数が異なります。解像度の大きい表示器タイプで作成したアラームメッセージを解像度の小さい表示器タイプに変換した場合、メッセージの画面上に収まりきらない部分は表示されません。
- 解像度コンバートを行うと、画面上の部品サイズや位置、文字サイズが自動調整されます。ただし文字サイズや表示ドット数などの制限により、一部拡大 / 縮小の倍率が正しく変換できないものがあります。
- 画面編集領域をズーム機能を使用して縮小表示すると、倍率によっては描画が正しく表示されない（表示が欠ける）場合があります。

5.18.2 データ保存の制限事項

■ CF カード /USB ストレージ保存の注意事項

- CF カード /USB ストレージにデータ書き込み中は部品や画面切り替えの動作が遅くなります。
- データ量により、書き込みに数秒以上かかる場合があります。
- GP からステータス（処理結果）が書き込まれた後、次のコマンド（操作内容）を書き込むまでには、通信サイクルタイム※1 もしくは表示スキャンタイム※2 のいずれか長い方の時間以上の間隔をあけてください。
- CF カード /USB ストレージを GP に装着していない状態で CF カード /USB ストレージを使用した画面を動作させないでください。正しく動作しません。
- 書き込みエラーが発生した場合、書き込み途中のファイルが CF カード /USB ストレージ内に残る場合があります。
- CF カード /USB ストレージに既存のデータを上書きして保存する場合は、上書きしようとしているデータの容量以上の空き容量が CF カード /USB ストレージに必要となります。データが容量以上の場合に保存を実行すると書き込みエラーが発生します。
- CF カード /USB ストレージ保存時、所定のフォルダ（\ALARM など）が存在しない場合は、自動的にフォルダを作成して保存します。ただし、CF カード /USB ストレージが初期化されていないなど、フォルダを作成できない場合は書き込みエラーとなります。
- CF カードにはデータの書き込み回数に制限があります。（500K バイトのデータ書き換えで約 10 万回）
- パソコンで CF カード /USB ストレージをフォーマットする場合は、FAT または FAT32 を選択してください。NTFS でフォーマットした場合には、GP が正しく認識されません。

■ CF カード取り扱い上の注意事項

- CF カードの抜き差しの際は、必ず CF カードアクセス LED ランプが消灯していることを確認してください。CF カード内のデータが破壊される恐れがあります。
- CF カードにアクセス中は、絶対に GP 本体の電源 OFF、GP のリセット、CF カードの抜き差しは行わないでください。CF カードへのアクセスが行えないようなアプリケーション画面を作成するなどし、その画面にて電源 OFF、リセット、CF カードカバーの開閉、CF カードの抜き差しを行うようにしてください。
- CF カードを挿入する際は、CF カードの裏表と CF カードのコネクタ位置を確認してください。取り付け向きを間違えると、データの破壊、CF カード・GP の破損の恐れがあります。
- 使用する CF カードは、（株）デジタル製の CF カードをお使いください。他社の CF カードを使用した場合、CF カードの内容が破壊される恐れがあります。
- CF カード内のデータは、必ずバックアップを取ってください。
- データの破壊や機器の故障の原因になりますので、CF カードを以下のように取り扱わないでください。
    - 無理に曲げる
    - 落としたり強い衝撃を与える
    - 水に濡らす
    - CF カードの接続部を直接手で触れる
    - 分解や改造を行う

※1 通信サイクルタイムとは、GP から接続機器にデータを要求して取り込むまでの時間です。内部デバイスの LS2037 にバイナリデータで格納されます。単位は 10ms です。

※2 表示スキャンタイムとは、1 画面の表示・演算処理にかかる時間です。内部デバイスの LS2036 にバイナリデータで格納されます。単位は ms です。

■ USB ストレージ取り扱い上の注意事項

- USB ストレージにアクセス中は、本体のリセット、USB ストレージの抜き差しを行わないでください。USB ストレージ内のデータが破壊される恐れがあります。
  USB ストレージを安全に取り外すために、システム変数「#H_Control_USBDetachTrigger」を ON し、「#H_Status_USBUsing」が OFF になるのを確認してから取り外すようシステムを設計してください。
  ☞「付録 6.2 HMI システム変数（#H システム変数）■ ビット型」（A-102 ページ）
- USB ストレージ内のデータは、必ずバックアップを取ってください。
- USB ストレージを接続するのは 1 つのみにしてください。複数接続した場合には、正しく認識されない場合があります。

■ データ保存に使用できる外部メモリ一覧

データの保存先（または参照先）として使用できる外部メモリは以下のとおりです。

MEMO

- 機種により保存先として使用できるメモリは異なります。
  ☞「1.3 機種別サポート機能一覧」（1-6 ページ）

機能	CF カード	USB ストレージ	FTP サーバ
画面キャプチャ	○	○	○
図形表示器へのイメージ画像表示	○	×	×
アラーム履歴データ（CSV ファイル）の保存	○	○	×
サンプリングデータ（CSV ファイル）の保存	○	○	×
サンプリングデータのバックアップ	○	○	×
レシピ（CSV データ）の転送	○	○	×
レシピ（ファイリングデータ）の保存	○	○	×
ファイルマネージャへのファイル表示	○	×	×
ファイルマネージャの CF カード / 外部メモリ間コピー機能	○	○	×
CSV データ表示器への表示	○	○	×
サウンドデータ保存	○	×	×
動画ファイルの保存 / 再生	○	×	○
ビデオ画面のキャプチャ（VM ユニット使用）	○	○	○
VM ユニットウィンドウへの JPEG 表示	○	○	○
画面転送（メモリローダ）	○	○	×
空き容量確認	○	○	×
バックアップ SRAM 内データの保存	○	×	×
オフラインモードでのメモリ初期化	○	×	−
D スクリプトのファイル操作関数使用	○	○	×
操作ログの保存	○	○	×

■ GP 画面キャプチャ時の注意事項

- キャプチャには 5 ～ 6 秒程度かかり、ファイルサイズは約 200K バイトになります。（画像品質が 80 の場合）
- ファイルサイズと、キャプチャ時間は画像品質と画面サイズによって差があります。
- キャプチャ中は部品の表示が更新されません。
- ブリンクが設定されている画面をキャプチャした場合、キャプチャ画像はブリンク設定無しの状態の画像と同じになります。
- CF カード /USB ストレージを挿入したままで、画面キャプチャ以外の動作でファイルを作成した場合、次に [ファイル番号自動加算] されるとファイルが上書きされてしまいます。
- [ファイル自動削除] を行う場合、ファイル数が多いほど削除に時間がかかります。すべてのファイルを削除するのに、数十秒から数分かかる場合があります。

■ SRAM 自動バックアップの注意事項

- CF カードの空き容量は、必ずバックアップ SRAM のサイズより大きくしてください。空き容量のチェックは、処理を実行する前に行いますので、CF カードの空き容量がない場合 CF カードに保存しません。
- CF カード保存機能を使用する場合は CF カード保存のコントロールアドレスにデータが入っていないことを確認してください。CF カード保存機能には以下のデータが保存できます。
  ファイリングデータ、ロギングデータ、折れ線グラフデータ、サンプリングデータ（データサンプリングのデータ）、アラームデータ
- CF カード保存機能の実行中にバックアップ SRAM のバックアップを実行すると、CF カード保存機能が終了するまでバックアップしません。この間は CF カードへの書き込み処理が中断されます。
- 逆にバックアップ SRAM バックアップを実行している間は、CF カード保存機能の処理が中断されることになります。ロギング機能のループ動作で自動で CF カードに書き出す際など、CF カードへの書き込み処理が始まるまで、ロギング動作も中断します。
- バックアップファイルは、CF カードに 1 つしか保存できません。
- GP のオフラインモードで「メモリの初期化」の「CF カードの初期化」を実行すると、SRAM フォルダを作成します。
- GP のオフラインモードで CF カード → SRAM（リストア）を実行すると、それまで保存していたデータ（例えばサンプリングデータなど）がすべて書き換わります。
- GP のオフラインモードで CF カード → SRAM（リストア）を実行しても、輝度、コントラスト、サウンドボリュームの調整値は変更されません。ただし、電源を再投入するか運転モードに移行したときにリストアしたデータで動作します。
- GP のオフラインモードで CF カード → SRAM（リストア）を実行すると、それまで記憶していた日本語 FEP の学習情報は上書きされます。このため日本語 FEP の変換候補に表示していた使用頻度順が変わる場合があります。